

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 17

第40次調査

2020

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

図版1 発掘調査区



調査区遠景(南より)



調査区全景(東より)

図版2 出土遺物



漆塗碗



油煙墨



北国船模型

## 序 文

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査事業は、昭和43年に朝倉館跡の調査に着手して以来現在に至るまで、約50年間にわたり行われてきました。これまでの調査により、戦国期の城下町の構造や当時の生活・文化の様相が徐々に明らかになってきております。

本報告書は、一乗谷を貫く一乗谷川の左岸、字奥間野で実施した第40次発掘調査(昭和55・56年)の成果をまとめたものです。隣接する字赤淵・吉野本を含むこの地区一帯は遺構が良好に残っており、これまでの全面的な発掘調査によって、一乗谷における町並みの様相が最も解明された場所のひとつとなっています。遺物も多種多様で、特に第40次発掘調査では、「金隠」の発見により石積施設が便所であることを初めて確定させました。その他、油煙墨やガラス皿、北国船の模型など、貴重な遺物が多数出土しています。

最後になりますが、事業実施から報告書刊行に至るまで、文化庁をはじめ関係各位、地元の皆様に多大なご支援とご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

令和2年3月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
館長 向出 宏二

## 例　　言

- 1 本書は福井県立・乗谷朝倉氏遺跡資料館が、特別史跡・乗谷朝倉氏遺跡における計画的な発掘調査の結果を報告するものであり、第17冊目にあたる。発掘調査事業概要はIで報告する。
- 2 本書で報告の調査は、国庫補助事業として、福井県立・乗谷朝倉氏遺跡資料館が福井県福井市城戸ノ内町字美閑野で実施したものである。
- 3 発掘期間は昭和55(1980)年7月1日～昭和56(1981)年10月13日、担当者は水野和雄、岩田隆である。概要については『特別史跡・乗谷朝倉氏遺跡 XII 昭和55年度発掘調査整備事業概要』および『特別史跡・乗谷朝倉氏遺跡 XIII 昭和56年度発掘調査整備事業概要』で報告している。
- 4 本書作成のための遺物整理作業は平成28・29・令和元年度に行った。その間、県の機構改革により事業主体は変化している。作業と事業主体は以下のとおりである。

平成28年度　出土遺物の接合・復元・実測・トレース　　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

平成29・令和元年度　出土遺物の実測・トレース・本書刊行　福井県立・乗谷朝倉氏遺跡資料館

- 5 本書の編集・執筆は田中祐二(当館主任)が行い、館員全員がこれを補佐した。なお、内容の多くについては上記概報およびその後の研究成果に依拠する。
- 6 遺構写真は発掘担当者が撮影した。遺物写真については片輪泰(当館副館長)が撮影し、その他、過去に当館調査員が撮影したものも一部使用した。遺構・遺物実測図の作成は当館調査員と整理作業員が行った。
- 7 本書の調査区全体図・遺構詳細図は概報掲載の図を一部改変して使用した。なお、原図はアジア航測株式会社に委託して作成したものである。また、写真図版には、航空測量の際に撮影した上空写真も含まれる。
- 8 遺物観察表・巻末図・巻末写真的遺物番号は符合する。写真是縮尺不同である。
- 9 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。X・Y座標値は国土方眼座標系第VI系(日本測地系)に基づく。

- 10 本書で用いた遺構の略記号は次のとおりである。

SA：土壘・塹・堀　SB：建物　SD：溝・濠　SE：井戸　SF：石積施設　SJ：石段　SK：土坑

SS：道路・通路　SV：石垣　SX：その他

- 11 遺物の色画は、小山正忠・竹原秀雄著　新版「標準土色鉛」農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修による。

- 12 本書に掲載した遺物と調査の際に作成した図面・写真是、福井県立・乗谷朝倉氏遺跡資料館に保管してある。

- 13 本書の作成にあたり、次の方々からのご助言・ご指導を頂いた。(敬称略・五十音順)

岩田隆、小野正敏、久保智康、内藤直子、橋本久和、水野和雄

- 14 発掘調査には地元の方々の参加・協力を得た。また、遺物整理作業は福井県立・乗谷朝倉氏遺跡資料館および福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理作業員があたった。

## 目 次

I 事業概要 .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査の経過 .....	1
3 調査の方法および組織 .....	5
II 調査の概要と経過 .....	7
1 調査の概要 .....	7
2 調査の経過 .....	8
3 調査区の設定 .....	8
日誌抄 .....	9
III 遺構 .....	11
IV 遺物 .....	21
V まとめ .....	53

## 図 版 目 次

### 口 絵

口絵1 発掘調査区 【上】 調査区遠景(南より) 【下】 調査区全景(東より)	口絵2 出土遺物 【上】 バンドコと一括収納された陶磁器 【中】 左：漆塗椀 右：油煙墨 【下】 北国船模型
---	---

### 挿 図

挿図1 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地略図 .....	4	挿図6 区画割図 .....	11
挿図2 第40次調査区周辺地形図 .....	7	挿図7 SF1617東壁 .....	20
挿図3 床土出土遺物の取り上げ区画 .....	8	挿図8 鉛瓶696出土状況 .....	30
挿図4 作業風景写真 .....	9	挿図9 折敷938出土状況 .....	33
挿図5 グリッド設定図 .....	10	挿図10 遺構概念図 .....	54

## 卷末図

第1図	上層遺構面全体図		
第2図	下層遺構面全体図		
第3図	遺構詳細図 A区		
第4図	遺構詳細図 B 1区		
第5図	遺構詳細図 C区		
第6図	遺構詳細図 B 2区		
第7図	遺構詳細図 D 1区		
第8図	遺構詳細図 D 2区		
第9図	溝立面図		
第10図	土層断面図		
第11図	出土遺物 A区 I 遺構面(1)		
第12図	出土遺物 A区 I 遺構面(2)		
第13図	出土遺物 A区 I 遺構面(3)、 A区 II 遺構面(1)		
第14図	出土遺物 A区 II 遺構面(2)		
第15図	出土遺物 B区 I 遺構面(1)		
第16図	出土遺物 B区 I 遺構面(2)		
第17図	出土遺物 B区 I 遺構面(3)		
第18図	出土遺物 B区 I 遺構面(4)、 B区 II 遺構面(1)		
第19図	出土遺物 B区 II 遺構面(2)		
第20図	出土遺物 B区 II 遺構面(3)		
第21図	出土遺物 B区 II 遺構面(4)		
第22図	出土遺物 B区 II 遺構面(5)		
第23図	出土遺物 B区 II 遺構面(6)		
第24図	出土遺物 B区 II 遺構面(7)		
第25図	出土遺物 B区 II 遺構面(8)		
第26図	出土遺物 B区 II 遺構面(9)		
第27図	出土遺物 B区 II 遺構面(10)		
第28図	出土遺物 C区 I 遺構面(1)		
第29図	出土遺物 C区 I 遺構面(2)、 C区 II 遺構面(1)		
第30図	出土遺物 C区 II 遺構面(2)		
第31図	出土遺物 C区 II 遺構面(3)		
第32図	出土遺物 C区 II 遺構面(4)		
第33図	出土遺物 C区 II 遺構面(5)		
第34図	出土遺物 C区 II 遺構面(6)		
第35図	出土遺物 C区 II 遺構面(7)		
第36図	出土遺物 D区 I 遺構面(1)		
第37図	出土遺物 D区 I 遺構面(2)		
第38図	出土遺物 D区 I 遺構面(3)		
第39図	出土遺物 D区 I 遺構面(4)、 D区 II 遺構面(1)		
第40図	出土遺物 D区 II 遺構面(2)		
第41図	出土遺物 D区 II 遺構面(3)		
第42図	出土遺物 D区 II 遺構面(4)		
第43図	出土遺物 D区 II 遺構面(5)		
第44図	出土遺物 D区 II 遺構面(6)		
第45図	出土遺物 D区 II 遺構面(7)		
第46図	出土遺物 D区 II 遺構面(8)		
第47図	出土遺物 D区 II 遺構面(9)、 E区 I 遺構面(1)		
第48図	出土遺物 E区 I 遺構面(2)、 E区 II 遺構面		
第49図	出土遺物 その他 I 遺構面(1)		
第50図	出土遺物 その他 I 遺構面(2)		
第51図	出土遺物 その他 II 遺構面(1)		
第52図	出土遺物 その他 II 遺構面(2)		
第53図	出土遺物 その他 II 遺構面(3)		
第54図	出土遺物 その他 II 遺構面(4)		
第55図	出土遺物 その他 II 遺構面(5)、 III 遺構面(1)		
第56図	出土遺物 III 遺構面(2)、 床土・表採・不明(1)		
第57図	出土遺物 床土・表採・不明(2)		
第58図	出土遺物 床土・表採・不明(3)		
第59図	出土遺物 床土・表採・不明(4)		
第60図	出土遺物 錢貨 A区 I 遺構面、 A区 II 遺構面、 B区 I 遺構面、 B区 II 遺構面(1)		
第61図	出土遺物 錢貨 B区 II 遺構面(2)		
第62図	出土遺物 錢貨 B区 II 遺構面(3)		
第63図	出土遺物 錢貨 B区 II 遺構面(4)		

	B区Ⅲ遺構面、 C区I遺構面	第68図 出土遺物 錢貨	D区Ⅱ遺構面(2)、 E区I遺構面、 E区II遺構面
第64図 出土遺物 錢貨	C区II遺構面(I)		
第65図 出土遺物 錢貨	C区II遺構面(2)、 C区III遺構面、 D区I遺構面(1)	第69図 出土遺物 錢貨	その他I遺構面、 その他II遺構面(1)
第66図 出土遺物 錢貨	D区I遺構面(2)	第70図 出土遺物 錢貨	その他II遺構面(2)、 その他III遺構面、 床土・表探・不明
第67図 出土遺物 錢貨	D区I遺構面(3)、 D区II遺構面(1)		

### 卷末写真

PL.1 調査区 (1)調査区遠景	(38)SF1742 (39)SX1840
PL.2 調査区 (2)上層遺構面全景 (3)下層遺構面全景	(40)SS1728
PL.3 調査区 (4)上層遺構面近景 (5)下層遺構面近景	PL.14 B区遺構 (41)SS1729, SA1748, SX1808・1809 (42)SD1576・1736・1738, SF1743 (43)SD1737
PL.4 可剖遺構 (6)SS493 (7)SS493・SJ1619 (8)SS1564, SX1623 (9)SS1564	PL.15 C区遺構 (44)上層遺構面 (45)SX1838
PL.5 河湖遺構 (10)SS1565 (11)SS1567 (12)SS1565, SD501・1574北半	PL.16 C区遺構 (46)SX1838根太 (47)SB1722・1723
PL.6 A区遺構 (13)A区上層遺構面北半 (14)A区上層遺構面南半	PL.17 C区遺構 (48)SB1722 (49)SB1723 (50)SE1594 (51)SF1608 (52)SF1609 (53)SF1610
PL.7 A区遺構 (15)SB1550, SX1635, SD1568 (16)SB1714・1715	PL.18 D区遺構 (54)上層遺構面 (55)下層遺構面
PL.8 A区遺構 (17)SF1604 (18)SE1594 (19)SB1714 (20)SF1741 (21)SB1553・1554	PL.19 D区遺構 (56)SX1672～1675, SE1599 (57)SA1572, SB1725
PL.9 B区遺構 (22)SB1555 (23)SF1742, SX1784・1785	PL.20 D区遺構 (58)SB1558 (59)SB1559
PL.10 B区遺構 (24)SB1721 (25)SB1556, SF1606	PL.21 D区遺構 (60)SE1599 (61)SE1600 (62)SE1601 (63)SF1611 (64)SF1612 (65)SX1674 (66)SX1822
PL.11 B区遺構 (26)SB1556 (27)SB1720	PL.22 D区遺構 (67)SB1560 (68)SB1562
PL.12 B区遺構 (28)SE1596 (29)SF1605 (30)陶磁器を収めたバンドコ	PL.23 D区遺構 (69)SE1602 (70)SE1603 (71)SX1703 (72)SD1584・1586
(31)SF1607 (32)SF1606	
(33)SE1598 (34)SX1663・1664	PL.24 E区遺構 (73)SF1617 (74)SF1745 (75)SF1746 (76)SF1614
(35)SX1787	
PL.13 B区遺構 (36)SX1662 (37)SD1730	PL.25 出土遺物 A区I遺構面
	PL.26 出土遺物 A区I遺構面

PL27	出土遺物	A区 I・II 遺構面	PL54	出土遺物	D区 I 遺構面
PL28	出土遺物	A区 II 遺構面	PL55	出土遺物	D区 II 遺構面
PL29	出土遺物	B区 I 遺構面	PL56	出土遺物	D区 II 遺構面
PL30	出土遺物	B区 I 遺構面	PL57	出土遺物	D区 II 遺構面
PL31	出土遺物	B区 I 遺構面	PL58	出土遺物	D区 II 遺構面
PL32	出土遺物	B区 I・II 遺構面	PL59	出土遺物	D区 II 遺構面
PL33	出土遺物	B区 II 遺構面	PL60	出土遺物	D区 II 遺構面
PL34	出土遺物	B区 II 遺構面	PL61	出土遺物	E区 I 遺構面
PL35	出土遺物	B区 II 遺構面	PL62	出土遺物	E区 I・II 遺構面
PL36	出土遺物	B区 II 遺構面	PL63	出土遺物	その他 I 遺構面
PL37	出土遺物	B区 II 遺構面	PL64	出土遺物	その他 I 遺構面
PL38	出土遺物	B区 II 遺構面	PL65	出土遺物	その他 II 遺構面
PL39	出土遺物	B区 II 遺構面	PL66	出土遺物	その他 II 遺構面
PL40	出土遺物	B区 II 遺構面	PL67	出土遺物	その他 II 遺構面
PL41	出土遺物	B区 II 遺構面	PL68	出土遺物	その他 II 遺構面
PL42	出土遺物	C区 I 遺構面	PL69	出土遺物	その他 II 遺構面
PL43	出土遺物	C区 I 遺構面	PL70	出土遺物	III 遺構面
PL44	出土遺物	C区 II 遺構面	PL71	出土遺物	III 遺構面、床土・表探・不明
PL45	出土遺物	C区 II 遺構面	PL72	出土遺物	床土・表探・不明
PL46	出土遺物	C区 II 遺構面	PL73	出土遺物	床土・表探・不明
PL47	出土遺物	C区 II 遺構面	PL74	出土遺物	錢貨
PL48	出土遺物	C区 II 遺構面	PL75	出土遺物	錢貨
PL49	出土遺物	C区 II 遺構面	PL76	出土遺物	錢貨
PL50	出土遺物	C区 II 遺構面	PL77	出土遺物	錢貨
PL51	出土遺物	D区 I 遺構面	PL78	出土遺物	錢貨
PL52	出土遺物	D区 I 遺構面	PL79	出土遺物	錢貨、その他
PL53	出土遺物	D区 I 遺構面	PL80	出土遺物	その他

## 表 目 次

表1	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査一覧	2
表2	出土遺物一覧表	21
表3	土器・陶磁器観察表	35
表4	金属製品観察表(錢貨を除く)	44
表5	漆塗椀・皿観察表	45
表6	木製品観察表(漆塗椀・皿を除く)	45
表7	石・骨・角・墨・ガラス製品観察表	46
表8	錢貨観察表	48
表9	遺物観察表備遺	PL80

## I 事業概要

### 1 調査の目的

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、戦国大名越前朝倉氏が領国支配の拠点とした所で、当主の館を中心として山城、城戸、一族・家臣の屋敷、町屋、寺院などの遺構が一体となって残されており、我が国の歴史を知るうえで欠くことのできない国民の共有の文化遺産として、永久に保存するため特別史跡に指定され、公有化が進められている。

遺跡保護の目的は、単に遺構を保存するだけにとどまらず、遺跡を調査してその成果を広く公表し、一般の歴史認識に役立てて活用することにある。その方策として、遺跡の中に身を置いて「自ら歴史と生きた対話」のできる史跡公園の完成を目指している。こうした理念のもとに一乗谷朝倉氏遺跡の調査と整備が進められており、中でも発掘調査は当時の一乗谷の規模や構造、人々の暮らしづくりの実態などを直接的に明らかにする最も有力な方法と位置付けられる。計画的かつ連続的に行った発掘調査の成果に基づいて着実な環境整備が施され、適切な維持・管理のもと遺跡を公開する、その前提条件のひとつとしてこれまで調査を続けてきた。

本報告書は、一乗谷朝倉氏遺跡の計画的な発掘調査の結果を報告したものであり、その第17冊目にあたる。その他、道路・河川の整備事業や中山間事業などの現状変更に伴う発掘調査の報告は別途に行われている。なお、各年次の発掘・環境整備事業の概要是、当該年次の概報として公刊されているが、本書で正式に調査所見を報告するものとし、内容については本報告書が優先する。

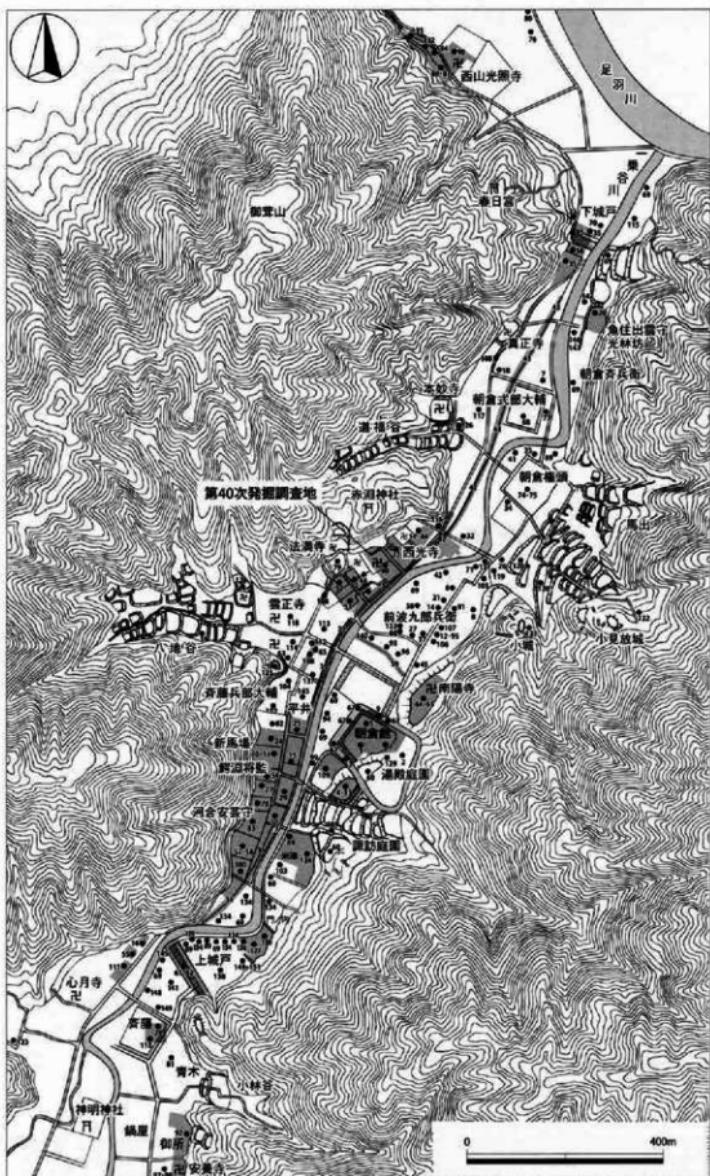
### 2 調査の経過

一乗谷朝倉氏遺跡の計画的な発掘調査は、昭和42年度から足羽町教育委員会を事業主体として始められた。昭和46年度から福井県教育委員会がこれを引き継いで発掘調査と環境整備事業を実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当するという機能分担で事業を進めている。同年7月に278haという広大な地域が国の特別史跡に格上げ指定され、福井県は、昭和47年3月に策定された「朝倉氏史跡公園基本構想」のもと、同年4月に福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後5ヵ年計画により継続して発掘調査と環境整備を実施した。これ以前の旧足羽町と福井県教育委員会による調査を、第1次5ヵ年計画とし、以後昭和61年度まで4次にわたりて5ヵ年計画を進めた。第1次5ヵ年計画では朝倉氏最後の当主である朝倉義景の館跡を中心に調査を行った。この間、昭和45年には土地改良事業に伴い御所・安養寺や小林谷で緊急確認調査を行い、遺構の保存状態が良好であることを確認して、特別史跡指定の機運を高めた。第2次5ヵ年計画では、それに引き続いて平井地係の武家屋敷跡や朝倉義景館跡に隣接する中の御殿跡、赤瀬地係に所在するサイゴー寺跡、指定地内の北部に位置する瓢町地係や出雲谷地係など、武家屋敷、寺院、町屋等とみられるいくつかの地点を選択して一乗谷の概況の把握を試みた。第3次5ヵ年計画では、一乗谷川の西側に敷設されることになった県道鶴江・美山線の改良工事に関連して、その両側の平地部分を計画的に調査した。引き続き第4次5ヵ年計画では、その最初の4年で指定地の中央に位置する赤瀬・奥間野・吉野本地係を集中的に発掘調査し、この地区的道路、武家屋敷、寺院、町屋等の極めて良好な遺構を検出、大量の遺物が出土して大きな成果をあげた。なお、本書で報告するのはその成果の一部である。最後の5年目は再び平井地係の武家屋敷を調査し、さらに一乗谷の内

表1 特別史跡・飛谷朝倉氏遺跡発掘調査一覧

年度	西暦	調査範囲	主要発見成果	調査次数	調査場所・住所	戻数	報告書	面積
昭和42年	1967	第1次5ヵ年	「飛谷」の沿用地名が施用される時代に伴う古墳群が明らかとなる。町内に飛谷塚跡での発見は日本の中核古墳時代のものとみられる。	1回	飛谷駅前、市原地区の原野	1	1	1,200
昭和43年	1968		物販館	城戸ノ内町字新御前(現名義原御前)等	1	1	2,065	
昭和44年	1969		研究館	城戸ノ内町字新御前(現名義原御前)等	1	1	1,953	
昭和45年	1970		御所・安寄寺	城戸町字高木、安寄寺口	1	1	769	
昭和46年	1971		港、水路	城戸ノ内町字赤坂	1	1	34	
昭和47年	1972	第2次5ヵ年	昭和46年調査の結果が終了し、成文化度や町域群の調査を開始する。	第1回	城戸ノ内町字赤坂	1	1	675
昭和48年	1973		町域群では艦の上工作が確認される。	第2回	城戸ノ内町字赤坂	1	1	392
昭和49年	1976			第3回	城戸ノ内町字新御前	1	1	2,000
昭和50年	1975			第4回	城戸ノ内町字赤坂(現名義原御前北端)	IV	1	340
昭和51年	1976			第5回	城戸ノ内町字新御前(現名義原御前北端)	V	1	305
				第6回	城戸ノ内町字赤坂	V	14	172
				第7回	城戸ノ内町字赤坂	V	14	246
				第8回	城戸ノ内町字瓜削製	V	14	50
				第9回	城戸ノ内町字新御前(現名義原御前北端)	V	1	70
				第10回	城戸ノ内町字赤坂	V	11	2425
昭和52年	1977	第3次5ヵ年	子供、田舎、本郷、奥間野地名を中心的に更正実施。	第11回	城戸ノ内町字牛井	V	11	1,240
昭和53年	1978		武家名敷や町屋の様子が明らかとなってくる。	第12回	飛谷市城ノ内町字三氣波	V	14	108
			道路の整備状況が明確になり、約30m=100尺を基準とした町割り状況が判明する。	第13回	城戸ノ内町字赤坂(現名義原御前北端)	V	11	2,250
				第14回	城戸ノ内町字牛井	V	14	42
				第15回	城戸ノ内町字平井、田合、平津、直藤	VI	11	2,400
				第16回	吉野町字牛井寺	VI	1	350
				第17回	吉野町字牛井寺	VII	1	2,050
				第18回	城戸ノ内町字鶴見	III		2,500
				第19回	城戸ノ内町字鶴見	VI	14	396
				第20回	城戸ノ内町字牛山鶴見	III		2,200
				第21回	城戸ノ内町字牛山鶴見	IX	14	100
				第22回	城戸ノ内町字牛山鶴見	IX	14	100
				第23回	城戸ノ内町字牛山鶴見	IX	14	20
				第24回	城戸ノ内町字牛山鶴見	IX	1	2,200
				第25回	城戸ノ内町字牛山鶴見	IX	1	2,400
				第26回	城戸ノ内町字牛山鶴見	IX	14	36
				第27回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	14	33
				第28回	更新町字牛山鶴見	X	14	800
				第29回	城戸ノ内町字川合鍬、平丘	X	V-VI	3,200
				第30回	城戸ノ内町字川合鍬	X	VII	220
				第31回	城戸ノ内町字豊川川口、日合鍬	X	VII	1,700
				第32回	城戸ノ内町字豊川川口久保	X	VII	1,74
				第33回	宮代賀町字下丁	X	14	30
				第34回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	14	120
				第35回	城戸ノ内町字下城戸	X	VII	1,630
				第36回	城戸ノ内町字下城戸、馬鹿野	X	VII	2,800
				第37回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	14	105
				第38回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	14	102
				第39回	城戸ノ内町字牛山鶴見、本郷	X	VII	800
				第40回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	VII	3,000
				第41回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	14	18
				第42回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	VII	4,800
昭和57年	1982	第4次5ヵ年	赤浜、奥間野、古寺本地名を中心とする。	第43回	城戸ノ内町字牛山鶴見、轟野、下城戸	X	VII	4,750
昭和58年	1983		市中寺町や衣笠町、赤浜、町屋等を認めた施設名や船の出土した区域は、古墳の歴史と同様、主に、城戸の外に位置する武家道筋等では火葬場が復元された。	第44回	城戸ノ内町字牛山鶴見	X	VII	2,030
昭和59年	1984			第45回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV	14	63
昭和60年	1985			第46回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV		3,000
昭和61年	1986			第47回	安賀賀町字牛山鶴見	XV		130
				第48回	安賀賀町字牛山鶴見	XV		270
				第49回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV		1,300
				第50回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV		1,300
				第51回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV		1,720
				第52回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV		1,930
				第53回	安賀賀町字牛山鶴見	XV		200
				第54回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV	VII	1,800
				第55回	西町字牛山鶴見	XV	1	580
				第56回	西町字牛山鶴見	XV	VII	1,200
				第57回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV	VII	2,560
				第58回	城戸ノ内町字牛山鶴見	XV	VII	1,300
昭和62年	1987	中期 第1次5ヵ年 前半	麻防跡、湯殿跡、湯殿跡周辺の移動跡と認定される。	第59回	城戸ノ内町字牛山川原			1,200
昭和63年	1988		月合合跡地で土上式武家道筋、中野地区では土上式武家道筋、赤浜地区では土上式武家道筋と考えられる施設を確認。	第60回	西町字牛山鶴見、城戸ノ内町字牛山川原	XV	18	70
平成元年	1989		施設等は武家道筋と同様を確認。	第61回	東町字牛山鶴見、城戸ノ内町字牛山川原	XV	VII	4,000
平成2年	1990		衛生寺跡を調査し、梵鐘の傳出出土。	第62回	東町字牛山鶴見、城戸ノ内町字牛山川原	XV		4,000
			水辺空間・歩道では、赤谷川の移動跡や氾濫範囲を確認した。	第63回	城戸ノ内町字牛山川原	XV		200
				第64回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	12	1,600
				第65回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	12	1,600
				第66回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	14	180
				第67回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	18	230
				第68回	城戸ノ内町字牛山川原	'999		3,800
				第69回	城戸ノ内町字牛山川原	'999		775
				第70回	安賀賀町字牛山川原	'999	14	100
				第71回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	14	200
				第72回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	14	2,0
				第73回	城戸ノ内町字牛山川原	'999	14	70
				第74回	城戸ノ内町字牛山川原	'999		2,600
				第75回	城戸ノ内町字牛山川原	'999		500
				第76回	安賀賀町字牛山川原			

年度	西暦	測定計画	主要測定箇所	測定回数		測定場所・住居	面積	報告書	面積		
				回数	測定回数						
平成4年	1992	中規 第1次:10年 後半	古森、川合地区の主要な では、大水害時の河原郡 を構成。また、上戸戸、 下戸戸の外にあら山麓を 中心に開拓。 環境整備事業では町立 体育館。	第77次	城戸ノ内町宇治田原	1992	V	2,600			
				第78次		1992		500			
				第79次	城戸ノ内町宇治田原	1992	14	130			
				第80次	安波賀字六ノ木	1992	延所、山麓	466			
				第81次	東新町字小林井	1992		330			
				第82次	城戸ノ内町宇治田原	1993		1,520			
				第83次	城戸ノ内町宇治田原	1993	尾	1,300			
				第84次	東新町字青木、五所、安知寺仁	1993		500			
				第85次	城戸ノ内町宇治田原	1994	尾	400			
				第86次	安波賀中島町宇治山、上戸戸	1994	11	2,400			
平成5年	1993			第87次	城戸ノ内町宇治田原	1994		500			
				第88次	東新町	1994		500			
				第89次	城戸ノ内町宇治田原	1994		100			
				第90次	安波賀中島町宇治山	1995	11	800			
				第91次	城戸ノ内町宇治田原	1995	14	100			
				第92次	東新町字五所	1995	13	2,600			
				第93次	城戸ノ内町宇治田原	1995	14	200			
				第94次	城戸ノ内町宇治新駒	1995		1,400			
				第95次	城戸ノ内町宇治新駒	1996	14	400			
				第96次	城戸ノ内町宇治田原	1996	13	820			
平成6年	1994			第97次	東新町宇治安知仁	1996		2,400			
				第98次	城戸ノ内町宇治田原	1996	13	1,000			
				第99次	城戸ノ内町宇治新駒	1997	18	2,600			
				第100次	城戸ノ内町宇治今般、黒兵衛川原	1997		400			
				第101次	城戸ノ内町宇治社	1998		2,300			
				第102次	城戸ノ内町宇治新	1998		100			
				第103次	城戸ノ内町宇治津	1999		2,000			
				第104次	城戸ノ内町宇治	1999		2,000			
				第105次	城戸ノ内町宇治	1999	14	120			
				第106次	城戸ノ内町宇治新駒	1999	18	220			
平成7年	1995			第107次	城戸ノ内町宇治新駒	32	14	98			
				第108次	城戸ノ内町宇治、吉野本、阿智	32		中山駅	1,400		
				第109次	城戸ノ内町宇治新駒	32	18	2,000			
				第110次	北新町宇治青			中山駅	1,000		
				第111次	東新町宇治心月			中山駅	150		
				第112次	城戸ノ内町宇治新駒寺	33		2,000			
				第113次	城戸ノ内町宇治新駒、岩三寺	34		1,700			
				第114次	城戸ノ内町宇治正寺	35		1,700			
				第115次	安波賀町宇治寺			540			
				第116次	城戸ノ内町宇治久保、久保			318			
平成8年	1996			第117次	城戸ノ内町宇治中曾根	35	14	26			
				第118次	城戸ノ内町宇治新	34	14	114			
				第119次	城戸ノ内町宇治寺	35		3,000			
				第120次	城戸ノ内町宇治新駒	37		500			
				第121次	城戸ノ内町大内田			100			
				第122次	城戸ノ内町(城戸川原)			850			
				第123次	西新町字大木(佐野川)			350			
				第124次	城戸ノ内町宇治木	38	15	2,500			
				第125次	城戸ノ内町八幡谷、聖正寺、齊舟	38		337			
				第126次	城戸ノ内町宇治	32	14	44			
平成9年	1997			第127次	城戸ノ内町宇治門	39	16	2,000			
				第128次	城戸ノ内町宇治久保	39		120			
				第129次	城戸ノ内町宇治木	39		30			
				第130次	城戸ノ内町宇治ノ内	40	16	2,500			
				第131次	城戸ノ内町字舟舟	40	14	42			
				第132次	安波賀町宇治山田駒ヶ瀬ノ森	41	11	1,650			
				第133次	城戸ノ内町宇治木	41	14	40			
				第134次	城戸ノ内町長南町川原、上越ヶ池			222			
				第135次	安波賀町宇治山田駒ヶ瀬	42	11	800			
				第136次	城戸ノ内町宇治山田駒ヶ瀬	42	16	1,200			
平成10年	1998			第137次	城戸ノ内町木、舟	43		300			
				第138次	城戸ノ内町宇治	43		900			
				第139次	城戸ノ内町宇治城戸			660			
				第140次	城戸ノ内町宇治川原	43	14	120			
				第141次	東新町字アメノ木	44		800			
				第142次	城戸ノ内町宇治木、舟	44		245			
				第143次	城戸ノ内町宇治木、舟	44		30			
				第144次	安波賀町宇治木、舟	44	11	60			
				第145次	東新町字アメノ木	44		300			
				第146次	城戸ノ内町宇治木、舟	45		1,250			
平成11年	1999			第147次	城戸ノ内町宇治舟谷、舟	46		33			
				第148次	城戸ノ内町宇治舟谷	47		200			
				第149次	城戸ノ内町宇治舟谷、舟	47		300			
				第150次	安波賀町宇治木、舟			5,500			
				第151次	城戸ノ内町宇治木、舟	48		180			
				第152次	城戸ノ内町宇治川原、上戸戸、未津			60			
				第153次	城戸ノ内町宇治川原			2,000			
				第154次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第155次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第156次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
平成12年	2000			第157次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第158次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第159次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第160次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第161次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第162次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第163次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第164次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第165次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第166次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
平成13年	2001			第167次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第168次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第169次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第170次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第171次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第172次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第173次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第174次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第175次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第176次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
平成14年	2002			第177次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第178次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第179次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第180次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第181次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第182次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第183次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第184次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第185次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第186次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
平成15年	2003			第187次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第188次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第189次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第190次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第191次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第192次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第193次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第194次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第195次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第196次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
平成16年	2004			第197次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第198次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第199次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第200次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第201次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第202次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第203次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第204次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第205次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第206次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
平成17年	2005			第207次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第208次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			
				第209次	城戸ノ内町宇治川原			1,200			



※数字は発掘次第、網掛けは正規各刊行(小規模調査区は除く)を示す

図1 特別史跡—乘谷朝倉氏遺跡調査地略図 (縮尺 1/10,000)

外を区切る下城戸跡の本体の調査にも入った。

昭和62年度から中期第1次10ヵ年計画として上城戸跡や南陽寺跡、西山光昭寺跡、御所・安養寺跡などの大規模寺院、そして小摠・権殿・河合殿などの武家屋敷・町屋跡を計画的に調査し、遺跡内の各地に所在する人規模かつ特徴的な遺構を発明した。

平成9年度から中期第2次10ヵ年計画として、町並立体復原地区の北に位置する八地谷川両岸を連続的に発掘調査し、この地区的街路や武家屋敷の構造を明らかにした。また、遊歩道設置に伴う事前調査も実施した。途中、平成16年度は福井豪雨により遺跡や資料館が被災したため、雲正寺地盤内の発掘調査を中断し、災害復旧に全力を注ぐこととなった。

平成17年度から改めて中期第3次10ヵ年計画を実行し、中断した調査を再開した。平成19年度からは、朝倉館跡から上城戸跡に至る遊歩道沿いの整備を進めるため、連続的に字米津や字門ノ内を発掘調査し、刀装具製作工房跡やガラス玉工房跡の存在が明らかとなった。平成22年度からは、西山光昭寺跡の平地部北半を調査して、大規模な石垣や建物の存在を確認した。

平成24年度からは、前年度に改定した「特別史跡・乘谷朝倉氏遺跡発掘・整備基本計画」に基づき、城下町の防御の要である上城戸跡の一帯において、城戸内外をつなぐ道路跡と城戸入口の構造および城戸周辺を面的に解明する目的でトレンチ調査を行い、屋敷地や道路跡の一部分を確認して現在に至る。

### 3 調査の方法および組織

発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として福井県が直接実施している。その実施機関として福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年4月1日～同56年8月19日)、およびこれを改組した福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～。平成4年4月1日に一乗谷朝倉氏遺跡資料館と名称変更。)が設置され、その任にあたってきた。平成24年度からは、県の機構改革で同資料館が教育庁から知事部局に移管となったことに伴い、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが朝倉氏遺跡グループを設けて引き継いだが、平成29年度の機構改革で、朝倉氏遺跡に関する全業務を知事部局が担うことになった。また当初から、「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づき特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会(平成8年度に福井県朝倉氏遺跡研究協議会と名称変更。)が設置され、その指導と助言を受けている。

本報告書に關係する年度における組織、および経費を以下に記した。

#### ○昭和55・56年度(第40次発掘調査)

朝倉氏遺跡調査研究協議会 ※50音順。役職は昭和55年1月当時。

委員 青園謙三郎(福井テレビ放送社長・郷土史)	委員 石井 進(東京大学教授・歴史)
委員 伊藤 澄(東京大学助教授・都市工学)	委員 岸谷孝一(東京大学教授・建築)
委員 木原啓吉(朝日新聞社編集員・都市環境)	委員 木村竹次郎(朝倉氏遺跡保存協会会長)
委員 近藤公大(奈良女子大学教授・造園)	委員 重松明久(福井大学教授・歴史)
委員 清水英夫(青山学院大学教授・哲学)	委員 田畠貞寿(千葉大学教授・造園)
委員 坪井清足(奈良国立文化財研究所所長・考古)	委員 戸塚文子(評論家)
委員 水上 勉(作家)	委員 城戸ノ内町内会長

朝倉氏遺跡調査研究所(～昭和56年8月)・朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月～)

所長・館長	藤原武二(造園)	次長	中谷 賢(事務)	文化財調査員	水野和雄(考古)
文化財調査員	小野正敏(考古)	文化財調査員	岩田 隆(考古)	文化財調査員	吉岡泰英(建築)
文化財調査員	南洋一郎(考古)	文化財調査員	伊藤正敏(歴史)	事務補助員	吉越 強・
調査補助員	加藤吉則*	非常勤嘱託	青木研吾*(学芸)	非常勤嘱託	西村 広*(事務)

(\*吉越・加藤は昭和55年度、青木・西村は同56年度)

経費 昭和55年度 発掘調査経費 34,000千円(第37・38次調査費含む)

経費 昭和56年度 発掘調査経費 35,000千円(第42次調査費他含む)

○平成28～令和元年度(本報告書作成)

朝倉氏遺跡研究協議会 ※50音順。役職は平成31年1月現在。

委員	網谷克彦(元福井県陶芸館長・考古)	委員	池上裕子(成蹊大学名誉教授・歴史)
委員	小野健吉(和歌山大学教授・遺跡整備)	委員	小野正敏(国立歴史民俗博物館名誉教授・考古)
委員	神吉紀世子*(京都大学大学院教授・環境計画)	委員	岸田 清(朝倉氏遺跡保存協会会长)
委員	久保智康(京都国立博物館名誉館員・美術工芸)	委員	高妻洋成(独立行政法人近畿文化センター長・情報部)
委員	小浦久子(神戸芸術工科大学教授・都市計画)	委員	杉本 宏*(京都造形芸術大学教授・庭園整備)
委員	富島義幸(京都大学大学院教授・建築)	委員	吉田 智(福井教育博物館館長・歴史)

(\*祥吉委員の任期は平成30年1月24日まで、杉本委員の任期は同1月27日から。)

埋蔵文化財調査センター

所長	工藤俊樹*(考古)	次長	赤澤徳明*(考古)	主任	鈴木篤英*(考古)
主査	木村孝一郎*(考古)	非常勤嘱託	蟻塚美佐子*(事務)	非常勤嘱託	富坂昌代*(事務)

(\*工藤は平成28・29年度、赤澤は同30年度から所長。木村は平成28・29年度、鈴木は令和元年度から資料館併任地勤務。蟻塚は平成28年度、富坂は平成29年度から資料館併任地勤務。)

一乗谷朝倉氏遺跡資料館

館長	向出宏二(事務)	副館長	月輪 泰(考古)	次長	井上順子*(事務)
次長	下山淳子*(事務)	主任	川越光洋*(考古)	主任	宮永一美(歴史)
主任	宮崎 認*(考古)	主任	田中祐二*(考古)	主任	有馬香織*(歴史)
主査	松本泰典*(考古)	主査	熊谷 遼*(建築)	主査	藤田若菜*(庭園)
学芸員	石川美咲(歴史)	学芸員	渡邊英明*(保存科学)	学芸員	大竹桃子*(史跡整備)
文献調査専門員	佐藤 主*(歴史)	非常勤嘱託	眞保弘恵*(事務)	非常勤嘱託	松村良行*(事務)
非常勤嘱託	花川洋介*(事務)				

(\*井上・松村・佐藤は平成28年度。松本は同28～30年度。下山・渡邊・大竹・花川は同29年度から、有馬は同30年度から配属。熊谷・同28年度は文化財調査員。川越・田中・松本・熊谷・眞保は同28年度、藤田は同28・29年度、埋蔵文化財調査センターに併任。)

経費 平成28年度 発掘調査費 4,875千円(報告書遺物整理)

平成29年度 発掘調査費 2,928千円(報告書遺物整理)

令和元年度 発掘調査費 843千円(報告書刊行)

## II 調査の概要と経過

### 1 調査の概要

今回報告する第40次調査地は、福井市城戸ノ内町字奥間野地係に所在し、調査面積は約3,000m<sup>2</sup>を測る。当地区は、上城戸・下城戸に区切られた「城戸ノ内」の中央部に位置し、南から東側を足羽川の支流である一乗谷川が流れ、西から北側には福井平野と画する御嵩山がそびえている。なお、一乗谷川を挟んだ南方にある朝倉館跡からは約400m離れている。

当地区ならびに隣接する赤瀬・吉野本地区は武家屋敷・寺院・町屋等の遺構が良好に残り、全面的な発掘調査の結果、一乗谷の町並の様相が最も解明された地区の一つとなっている。第40次調査以前には北東側で第17次調査、南東側で第36次調査が実施されており、西側の山裾に比較的大区画の寺院、東側の一乗谷川沿いに南北の幹線道路を基準に展開する小区画の屋敷群の存在が判明していた。これらの調査結果を受け、第40次調査では南北道路の行方や、町屋と考えられる小規模な屋敷跡の構造ならびに町割の変遷の追究に主眼を置いた。

調査の結果、少なくとも4期にわたる遺構面を検出し、比較的大規模な区画が小規模の区画に分割、蚕食されていく町割の変遷過程をとらえることができた。遺物では、石積施設から金隠が出土し、それ

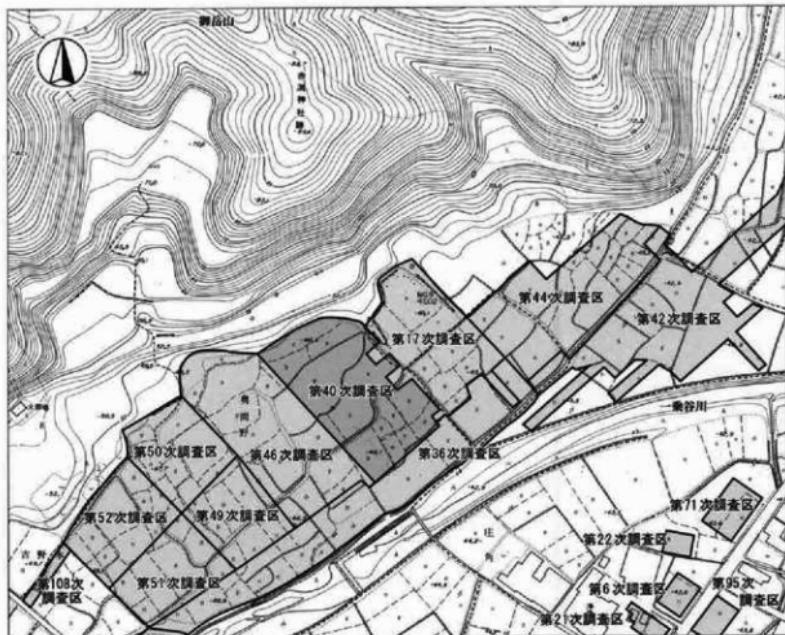


図2 第40次調査区周辺地形図(縮尺1/2,000)

が便所であるとの確証に至った。その他、油煙墨やガラス皿、北国船の模型など、それまで出土例のない、あるいは極めて少ない遺物が出土した。

## 2 調査の経過

調査は昭和55年(1980)7月1日に着手した。調査対象地は山裾から一乗谷川に向かって下る4段の旧水田であり、最上段と下段では約1.4mの比高差があった。作業は人力による耕作土・床土の除去から行ったが、先行して実施された第36次調査の排土があったことと、天候不順により2ヶ月もの期間を要した。なお、その際の遺物の取り上げは旧水田の地割を基準に1~28区に分けて行っている(挿図3)。その後、山裾側より上層遺構の検出に着手し、同年11月まで調査を行った。その間、陶磁器を収納したバンドコや油煙墨、ガラス皿、そして金鏡など重要な発見が相次いだ。

11月11日に上層遺構面の航空測量を実施した後、引き続き下層遺構の調査に着手した。下層の掘り下げは、上層遺構を島状に残した状態で可能な限り遺構の検出を試みた。年内はA・B区を調査し、B区の広い範囲で焼土面や敷物の跡を検出した。T66グリッドでは四角い木枠の中に埋置された擂鉢が出土した(SX1786)。冬季は現場作業を中心断し、上層遺構面の概報を作成、刊行した(概報 XII)。下層の調査は昭和56年(1981)4月から再開した。D区から着手し、新たに礎石建物などの遺構を検出するとともに、概報で上層遺構として報告した遺構の一部が下層の遺構面に属することも判明した。次いでC区の掘り下げに着手した。この地区では炭化した床材と整地土が互層をなしており、何度も床面を嵩上げしていた様子が明らかとなつた。また、それらに混じて多数の木製品が出土した。その後、A・B区についても再度掘り下げを行い、多くの下層遺構を検出した。これら下層遺構の航空測量は、隣接地で行った第42次調査の終了を待つて同時に実施し、調査を完了した。



挿図3 床土出土遺物の取り上げ区画

## 3 調査区の設定

第40次調査区は、先行する第17・36次調査区に接して東西約72m、南北約43mの不整形な長方形で設定した。調査区内は第17次調査で設定した3mグリッドを南へ延長し、南北にI~U・A~C列、東西に49~74列とした。遺物取り上げの区画名としては、グリッド南東の交点を読んだ。なお、本文における方位の記述は、これまでと同様に町割の方向を基準とし、地図上のものとは異なる。つまり、一乗谷川側を東、御菴山側を西とし、北は実際より約45度東へ振れた方向で用いている。

## 日 誌 抄

昭和55年(1980)

- 7・1 発掘調査を開始する。耕作土除去を開始。
- 8・28 耕作土除去終了。
- 8・29 東西道路SS493の西端を検出。笏谷石が階段状に並ぶ。
- 9・1 A区の遺構検出に着手。
- 9・2 石軒SX1635検出。
- 9・3 南北道路SS1564検出。B区北側の遺構検出に着手。
- 9・4 SB1555、SF1605、SE1596等掘削。
- 9・12 SB1556、SE1598、SF1607・1608等掘削。
- 9・16 SD1571・1573、SF1609等掘削。  
陶器を含めたバンドコ検出。
- 9・17 C区の遺構検出。SD1572等掘削。
- 9・18 SF1610等掘削。
- 9・19 D区の遺構検出に着手。SD574、SX1674等掘削。
- 9・22 SD1583・1584等掘削。SA1618検出。
- 9・24 SD1579・1591等掘削。
- 9・25 SD1580・1590、SF1612等掘削。
- 10・1 SF1614・1615・1617等掘削。SF1617より金器出土。
- 10・6 SD1576、SX1675等掘削。
- 10・17 B区南側の遺構検出に着手。
- 10・21 SB1556検出。

11・11 航空測量。

(以上、上層調査)

- 11・14 下層の掘り下げ開始。A区の遺構検出に着手。
- 11・17 SB1553等検出。
- 11・20 B区の遺構検出に着手。
- 11・25 SD1732・1733等掘削。
- 12・2 SD1731等掘削。SS1728検出。SX1786検出。
- 12・9 T68グリッドで敷ききの面を検出。

昭和56年(1981)

- 4・21 D区の遺構検出に着手。
- 5・11 SB1560北辺、SA1750等検出。SK1763・1764等掘削。
- 5・14 SB1725、SA1749等検出。
- 5・21 C区の遺構検出に着手。SS493の下層に属SD502確認。
- 5・26 SB1721～1723等検出。SD1735等掘削。
- 5・27 B区の遺構検出に着手。SD1731等掘削。
- 6・5 A区の遺構検出。SB1714・1715等検出。SF1741等掘削。
- 6・8 A・B区の遺構検出。SF1742等掘削。
- 9・12 遺構写真撮影
- 9・13 遺構写真撮影
- 10・13 航空測量(第42次調査と同時に実施)



上層遺構面検出作業



上層遺構掘削作業



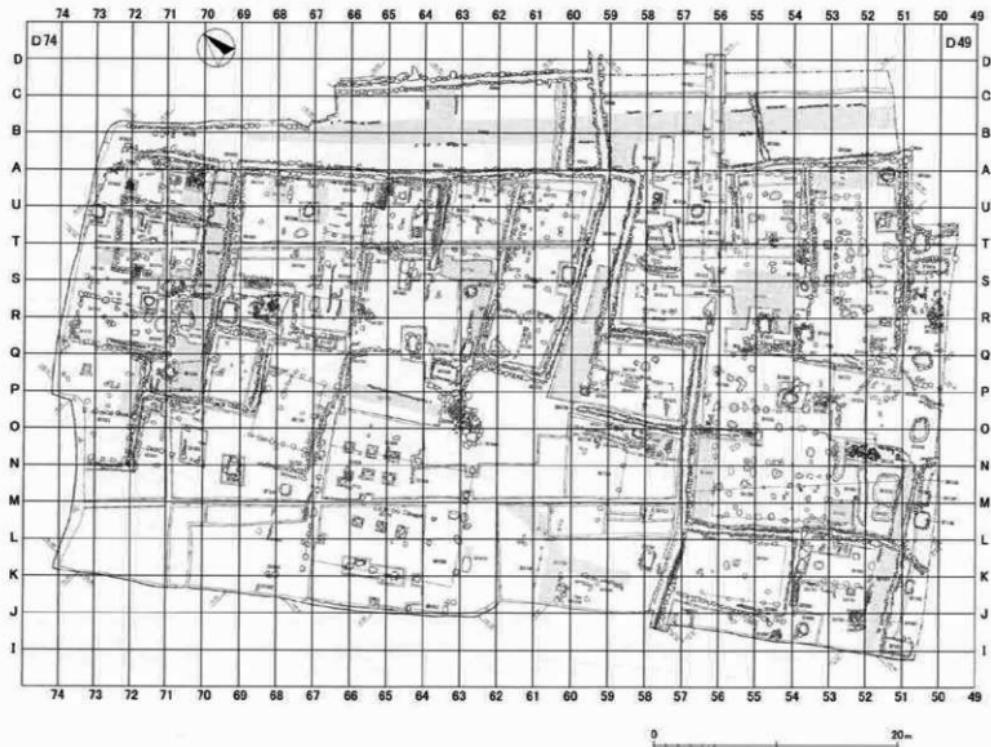
下層遺構面検出作業



下層遺構掘削作業

図4 作業風景写真

図5 アリックド設施図(縮尺1/400)



### III 遺構

検出した主な遺構は上層の調査において道路4、石組溝18、礎石建物9、井戸10、石積施設14、炉4等、下層の調査においては礎石建物8、石積施設4、溝3、通路2、炉3等である。

当調査区は東西道路SS493を基軸に、道路や溝によって大きく以下の地区に分けられる(挿図6)。

A区：SS1564より西の小区画群の地区。

B区：SS1564・SD1695以東、SS1565・SD1574以西の広い区画のうち、SD1571とSD1572で区画された地区(C区)を除く範囲。さらに本区は下層の遺構面で検出したSD1730・1733の東西方向部分を結んだライン以北をB1区、残りをB2区とする。

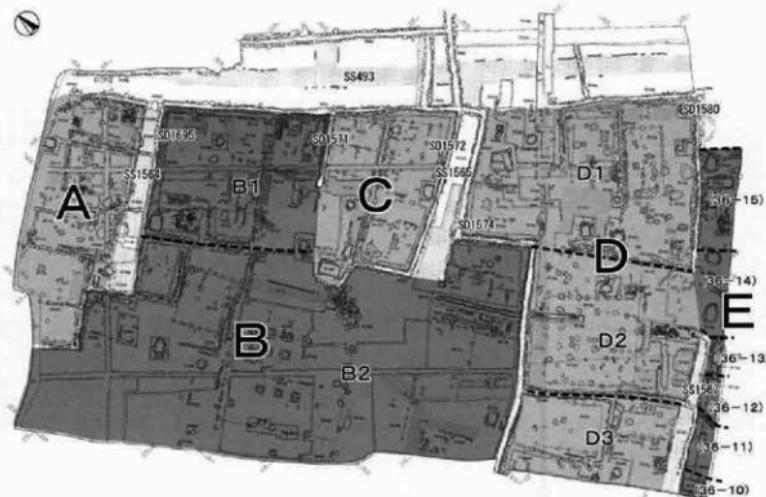
C区：SD1571とSD1572で区画された地区。上層の遺構面においてB区より約0.5m低い。

D区：SD1574以東、SD1580・SS1567以西の小区画群の地区。東西道路SS493に面し、南をSD1574・1581・1582で区画された範囲をD1区、SD1581・1582以南、SD1584以北の範囲をD2区、SD1584以南をD3区とする。

E区：SD1580・SS1567以東の小区画群の地区。第36次発掘調査において、一乗谷川沿いの幹線道路SS495に面して検出した小区画群の一部にある。

層序について、当調査区は面積が広い上、各区画が溝で分断されているため全体を貫く土層はないものの、分断している溝が新旧でわずかにずれているため、それを利用して両隣の共通土層を決定し、それを繰り返すことによって全体の時期を把握することに努めた(第10図)。

水田の床土を除去した段階で検出した上層の遺構面は、一部を除いて基本的に最終遺構面と捉えられ、この遺構面を含め大きく4期、一部は5期にわたっていることを確認した。



挿図6 区画割図(縮尺1/500)

時期決定の基準となった溝はB 1 区とC 区を分けるSD1571で、新旧2時期ある。(新)に対応する遺構は2面あり、占い方はSX1838とSB1721、新しい方にはSB1557とSX1663がそれぞれ対応している。(旧)にはSB1722がある。SD1695以西(△区)については溝が浅い上に整地層が全く異なっているため、直接対応する遺構面は把握できなかった。SD1574以東(D区)はトレンチ内で4時期の遺構面を確認しているが、面的に発掘したのは2時期のみである。

以下、遺構の記述は上述した地区割りの基準となる遺構からはじめ、つづいてA～D区の順に行う。各区では上層をI 遺構面とし、下層へ向かってII、III、IV 遺構面とした。また、遺構でも主に礎石建物では、一乗谷の基準寸法に従い、1間を6尺2寸=約1.879mで記述、検討した。井戸や石積施設等の平面規模は特に断らない限り内径・内法である。なお、井戸については作業の安全性を考慮して上部のみの掘削にとどめたため、深さや下部の構造は不明である。

#### 町割に係る遺構(第1・2図、PL. 4・5)

**SS493** 調査区の北緑を東西に走る道路である。東方は第36次調査区で南北の幹線道路SS495とT字に接続し、西方は山裾の屋敷地(本調査)へ登っていく。本来的には「サイゴー寺」(第17次調査区17-1区画)前のように幅約7m、両側に幅約0.5mの石組溝SD499・501がつき、あわせて約8m幅で計画されたとみられるが、かなり早い時期にSD500以東は遺幅5m前後に狭められ、北側の側溝SD499も廃止される。また、西側の登っていく部分約15mも幅が2～3mと狭くなっている。この登り坂の一部で階段状になった4枚の笏谷石SJ1619を検出した。また、登り坂の部分を除いて、道路の中ほどに幅2m前後で砂利が敷かれていた。なお、道路面を断ち割って下層を確認したところ、詳細は不明だが道路とは考えられない遺構SX1824～1826を確認した。計画的な町割以前の遺構とみられる。

**SD501** SS493の南側の側溝である。山裾から約42mの所で南へ直角に折れており、そこからはSD1574とした。途中、B・C区を区画するSD1695・1571・1572が南から、SS493を横断するSD500が北から合流する。SD501はIII・IV 遺構面の段階にはすでに敷設されていたとみられるが、SD1695との合流点以西はのちに付け足されたようであり、軸もややずれている。

**SD1590** 同じくSS493の南側の側溝だが、SD501とはつながらない。SD501東端から約7m離れた地点から認められ、SS493に沿って東へ延び第36次調査区で南北の幹線道路SS495の側溝SD518に合流する。途中、SS493を横断するSD1591が北から、D区を区画するSD1579・1580が南から合流する。

**SA1752** SS493に面する土壘で、下層の調査で確認した。外側には一部に長さ0.7～0.8mの巨石を配しているが、内側では小さい石を用いている。III・IV 遺構面の段階にはすでに存在し、D 1 区の北辺全体を区画していたようであるが、I 遺構面の段階までには廃されたとみられる。

**SS1564・SD1695** SS493の西側に取り付く南北道路とその側溝で、A区とB区の境となる。側溝を含む道路幅は1.8m、長さは19.2mの袋小路であり、全面に砂利を敷いて敲き締めている。SS493との接続部、SD501を渡る部分には、自然石3枚からなる石橋SX1623がかかっている。SD1695の北側には、I 遺構面の段階でA区内の屋敷地となる石組溝SD1568が合流する。また、同じく中央部には、A区の井戸SE1594とそれに付随する洗場SX1640から延びる石組溝SD1569が合流する。さらにII 遺構面の段階には東からSD1730が合流していたようである。なお、SS1564およびSD1695は段階的に南方へ延長されたものとみられる。

**SS1565** B区と東西道路SS493をつなぐ道路で、幅2.1m、長さ17.7mを測る。I 遺構面の段階には黄色

上を貼って整地している。下層では一部砂利敷面も認められた。

**SD1574** B・C区とD区を区画する南北方向の石組溝で、北端はSD501の東端に取り付き、途中、クラシクして南へ延びる。当調査区での検出延長は44.7mだが、第46次調査区でさらに約14m南へ延び、東西に分岐(SD2699・2703)して同調査区内を大きく区画する。Ⅲ・Ⅳ遺構面の段階にはすでに敷設されていたとみられ、南側でSD1584と合流する。I遺構面の段階にはさらにSD1576・1583が取り付く。

#### A区の遺構(第1～3図、PL. 6～8)

##### I 遺構面

石組溝SD1568および石列SX1642により、南北に連なる3つの小区画に分かれる。

北側の区画は間口4.7m、奥行約9mを測り、道路SS1564より一段高くなっている。区画内には礎石建物SB1550が間口一杯に建つ。井戸や石積施設は認められない。

中央の区画は間口11m、奥行約10mを測る。区画内では礎石列SB1551・1552を検出したが、削平のため建物規模は不明である。区画の中央部東寄りに井戸SE1594、同じく南寄りに炉SX1713が、北西隅に石積施設SF1604がある。

南側の区画は西側斜面の南半が未調査であるが、南端を石列SX1647とみなし間口9.5m、奥行約8mと推定できる。加えて北東に井戸SE1595と洗場SX1644が突出して取り付く。区画内にこの段階の建物跡は確認できない。なお、中央部やや南寄りに東西方向の石列SX1646があり、ここで南北に2分される可能性がある。

**SB1550** 北側の区画に建つ礎石建物である。西辺の礎石が失われているが、南北3.8m(2間)×東西7.1m(4間)と推定した。建物内の北東隅付近に洗場と推定される石敷遺構SX1635があり、その西に近接して円形の筋谷石製盤を利用した炉SX1634が置かれていた。炉内には灰が詰まり、底部中央は火を受けて黒くなっていた。

**SF1604** 中央の区画の北西隅に位置する石積施設である。山裾の岩盤を掘り込んでおり、西側には石を積んでいない。内部は西から崩れ落ちてきた山土で埋まっていた。

**SE1594** 中央の区画の中央部東寄りに位置する石積井戸で、径0.7～0.8mを測る。東側に洗場とみられる石敷遺構SX1640が付随し、さらに排水用の石組溝SD1569が取り付く。

**SX1713** SE1594の西に位置する炉である。径0.8mの浅い土坑で、底に粘土を敷き詰め、周囲を越前焼の甕の破片で固い、内部に灰を入れる構造となっている。

**SE1595** 南端の区画の北東、SS1564の脇に位置する石積井戸で、径0.6～0.7mを測る。南側に洗場とみられるSX1644が付隨する。

**SX1644** 石列による約1m四方の区画内に砂利を敷いた施設で、SE1595に付隨する洗場とみられる。南接するSD1695に排水されたようである。

##### II 遺構面

A区を分割するような遺構は認められない。中央部にSB1715、南端にSB1553の2棟の礎石建物がある。また、SB1715の東に接して石積施設SF1741がある。

**SB1715** 東西7.8m(4.5間)、南北3.8間(2間)と東西に細長い礎石建物である。東端を除いて全体が焼上で覆われていた。良好に遺存している西・南辺の礎石列をみると、半間隔間に柱が立っていたようであ

る。建物内に特別な施設はなかったが、礎石を覆っていた焼上中に床材と考えられる板とそれを受ける根太の一部が炭化した状態で残っていた。また、北東に接して石積施設SF1741がある。検出面は一段低いが、位置や方向から当建物と関連する遺構で、同時に存在していたと考える。

なお、I 遺構面で検出した石列SX1642は、このSB1715を覆う焼土層の上に据えられている。  
SF1741 SB1715の北東に接する石積施設である。東西0.8m、南北0.9mを測り、ほぼ正方形を呈す。東側はI 遺構面の道路SS1564下で検出した。天端には踏石状に大振りの石を配している。また、北西隅に石敷SX1776が接しており、付属する施設の可能性がある。

SB1553 南北3.8m(2間)を測る礎石建物である。東西方向は西側が山裾の発掘区外へ広がるため不明であるが、6mを越えることはないと考えられる。

なお、このSB1553とSB1715の間に炉と考えられるSX1773を検出したが、これを覆う建物は確認できず、原位置を保っているか否かは不明である。

### III 遺構面

北側に礎石建物SB1714がある。

SB1714 南北5.6m(3間)を測る礎石建物である。東西方向は西側の3.5m分を確認した。外周の礎石は比較的良好残っているが、内部は残りが悪い。SX1769等に礎石が認められるが、位置が少しずれており、検出面も低いため、時期が異なるのかもしれない。また、西辺の外側にある石列SX1835とは構造上関連する可能性がある。

## B区の遺構(第1・2・4・6図、PL. 9~14)

### I 遺構面

この段階においてはB 1区とB 2区に分ける遺構は認められない。北西隅と中央部に方位軸をほぼ同じくする2棟の礎石建物SB1555・1556が存在する。どちらもかなり削平されているが、残存している礎石やその抜き跡から規模を推定した。北東部には道路SS1565が北へ向かって延び、東西道路SS493に対してやや西に振る形で接続する。また、SS1565南端付近からは石組溝SD1576が東へ向かって延び、SD1574に合流している。その結果、東西8m、南北6mの小区画が形成されるが、区画内では性格不明の集石遺構SX1680を検出したのみであった。

SB1555 B区の北西隅に位置する礎石建物である。東西10.4m(5.5間)、南北9.5m(5間)を測る。建物内中央北寄りに井戸SE1596があり、その北西側は小砂利敷になっていた。その他、関連する施設として、建物の南西に石積施設SF1605が、その東に接して石敷SX1652がある。

SF1605 SB1555の南西隅の礎石から約1m離れた位置にある石積施設である。東西1m、南北1.5m、深さ1mを測る。約半分は使用中に埋まったものとみられ、黒い有機質土の中に角材や荒く面取りをした材に混じってウリ、ウメ、クルミ等植物の種子が多く含まれていた。

SX1652 SF1605の東辺から約1m離れた位置にある石敷である。3m×3m程の範囲に大小不揃いの石を敷いており、北縁はSB1555に接する。なお、SX1652の南東(Q67グリッド)で完形の陶磁器を収納したバンドコ(口絵2)を検出したが、周辺の遺構との関係は不明である。

SB1556 B区の南側中央部に位置する礎石建物である。礎石の遺存状況は悪く、中でも東辺については全く残っていなかった。そのため、抜き跡等も手掛かりに規模を東西12.4m、南北9.5mと推定した。礎

石が比較的良く残っている西から3列目の柱間寸法は一間1.89mと測定され、一間6尺2寸5分を基準寸法としているらしい。建物の方向はSB1555と同じで道路SS1564に規制されている。この礎石建物は位置や規模からみて、この区画の中心的な建物と考えられる。付属の施設としては、西辺沿いに南落ち溝SD1570がある。溝石はほとんど抜かれており、溝内には焼土が入っていた。その他、建物の北東側に井戸SE1598、南東側に庭園の可能性も考えられるSX1670がある。なお、この建物は、Ⅱ遺構面に帰属するSS1728とほとんどレベル差がないことや、同じくⅡ遺構面の建物SB1720との間にある石組溝SD1570が何度も作り変えられていることから、Ⅱ遺構面の段階にすでに存在した可能性がある。

**SE1598** SB1556の北東隅から約1.5m離れた所にある石積井戸である。径0.8~0.9mを測り、上部には径約0.5mと比較的大振りの石を配している。井戸の北西側には石敷SX1668を取り付いており、石組溝SD1572に排水されたものとみられる。

**SX1670** SB1556の東辺から約0.5m離れた所にあり、長さ1.2mの伏石とその北側に同程度の範囲に広がる小砂利敷からなる。第24次調査で検出された平庭SG829等との類似性がうかがわれるが、削平により石が失われているため明確でない。

## Ⅱ遺構面

SD1695の東側に取り付く石組溝SD1730が認められ、その東西延長線より北をB1区、南をB2区とする。B1区でこの段階の建物跡は確認できない。Ⅰ遺構面のSB1555の直下層では、B1区の南端で性格不明の溝状遺構SX1784を検出した。また、北端東寄りで検出した石敷遺構SX1662も同様の層位にあり、この段階とみる。B2区ではⅠ遺構面で検出した礎石建物SB1556がすでにこの段階に存在した可能性があり、その北辺に並行して通路SS1728が走る。さらに石組溝SD1570・1733を挟んで西側に礎石建物SB1720がある。その他、SS1565南端東側、SD1574とSD1576に埋まれた部分で横列SA1749等の遺構を検出した。

**SX1662** 井戸枠の転用品を含む笏谷石製の板石で囲んだ中に石を敷き詰めた施設である。SD501に接する1.2m四方の正方形区画の南側に1.2m×0.7mの長方形区画が取り付く。洗場とみられる。

**SX1784** 平面し字形の溝状遺構で、内部には灰と炭が詰まっていた。層位的にはⅠ遺構面のSB1555の整地層である黄褐色土層と下の焼土層との間にあり、レベル的には南側のSB1720と対応する。

**SB1720** B2区の北西部に位置する礎石建物で、東西5.65m(3間)、南北4.7m(2.5間)を測る。北東隅に半間×半間の突出部があり、粒の揃った小砂利を敷き詰めている。石組溝SD1733を挟んで東側の通路SS1728とおよそ対応することから、建物の入口とも考えられる。なお、建物の南側を走る石組溝SD1732との間でも幅約1.5mの砂利敷を検出している。建物内は南北に二分され、南半分は焼土を敷いた上間、北半分は土を敷き詰めた上間敷になっていた。

**SS1728** SB1556の北辺に並行する東西方向の砂利敷通路である。SB1556からは約4.5m離れている。幅約0.9m、長さ約6m分を検出した。両側にやや大振りの石を並べ、中に砂利を敷き詰めたものだが、南の側石は遺存しない。

**SD1733** SB1720とSS1728の間を南北に走る石組溝である。南の延長方向にはⅠ遺構面で検出したSD1570が溝幅分食い違って存在し、作り変えられたものと考える。一方、北方向の延長についてはⅡ遺構面の段階において明らかでないが、ⅢないしⅣ遺構面の段階には東へ折れ曲がり、SD1734を経てSD1735につながっていたと推定する。

**SA1749** 東西方向に12m間隔で5m分杭が並んでおり、柵列と判断した。これに沿って石列SX1814があり、その南側に石列SX1813やSX1815が認められる。いずれも礎石とは考え難く、性格は判然としない。なお、SD1574とSD1576に囲まれたこの部分は、SD1576を越えた南側とは整地状態が異なり、B2区の中でもやや性格の異なる地区であろう。

### III遺構面

B1区で礎石建物SB1716～1719・1721等を、B2区で礎石建物SB1726や砂利敷通路SS1729等を検出した。いずれも断片的な確認にとどまる。

**SB1716～1719** I遺構面で検出したSB1555の真下に位置する礎石建物である。SB1555の礎石を残した状態であることもあり、検出できた各建物の礎石は少ない。同一面に据えられたこれらの礎石は、火災により炭化した床材とみられる藁や竹、板に覆わっていた。礎石列のわずかなズレ等から遺構番号を分けたが、全てが別々の建物とは考えられず、根太SX1785の存在等から少なくともSB1717とSB1718は同一の建物の可能性が強い。SX1785は自然木を利用した転根太で、0.85～0.9m間隔で浅い溝を掘って据えられている。その他、SB1716付近に石敷SX1780、SB1719付近に砂利敷SX1783、SB1717・1718付近に四角い木枠の中に捕獲(第20図154)を埋設したSX1786等を検出したが、建物との関係は不明である。

**SB1721** SB1719の東に隣接する礎石建物である。II遺構面に属すSX1662の下層で検出した。規模は東西4.7m(2.5間)、南北5.6m(3間)を測る。建物内には転根太の一部が遺存していた。

**SD1731** L字をなす石組溝で、礎石建物SB1717とSB1721の雨落溝を兼ねる。SB1721側は溝石が乱れており不明な部分もあるが、SD1571に流れ込んでいたものと考えられる。なお、溝の南端には越前焼の甕の破片を敷き詰めたSX1787がある。

**SB1726** SB1556の下層に位置する礎石建物で、規模は不明である。南側には遺構が認めらない一方、北側には砂利敷SX1805や灰層があることから、建物は北側へ広がっていたと推定している。軸方向は上層のSB1556と同様とみられる。

**SS1729** B2区の南東部で検出した幅約1.3mの砂利敷通路である。三叉路になっており、東と北西方に向は交差部から6m程で途切れている。南方向は調査区外へ延びているが、第46次調査では確認できなかった。調査区境付近では砂利が薄くなっていることから、その付近でやはり途切れるのかもしれない。南方向と東方向とは直角に交差しており、囲まれた所には礎石らしい石が認められる。また、交差部西側に南方向の通路に沿って柵列SA1748がある。

**SD1736** B2区の東部、上層のSD1576と同じ方向に流れる石組溝で、東半分は壊れているがSD1738に流れ込んでいる形跡がある。付近には石敷SX1810・1811、石積施設SF1743等があり、南側には礎石らしい石も認められる(SB1724)。なお、SD1738とその南の延長方向で検出したSD1737とは、方向が一致するものの、構造が異なっており、同一の溝かどうかは不明である。また、これらはIII遺構面に属するとしたが、直接的には証明できない。特にSD1737・1738はIV遺構面に属す可能性がある。

### C区の遺構(第1・2・5、PL.15～17)

#### I 遺構面

石組溝SD1573により、東西2つの小区画に分けることができる。

西側の区画は間口5m、奥行17.5mを測る。東西道路SS493に面する北半部に礎石建物SB1557が、南

半部に井戸SE1597や石積施設SF1608・1609等がある。

東側の区画は間口7m、奥行16mを測る。区画の東側中程に石積施設SF1610がある。建物は不明である。

**SD1573** C区を東西に分かつ溝としたが、検出できたのは南端の約5m分のみである。南端ではSD1572に合流する。北側の延長方向は下層遺構面で石組溝SD1735を検出しており、同一位置で溝を嵩上げして両区画が維持されたものと判断した。

**SB1557** 西側区画の間口一杯に建っていたと考えられる礎石建物である。北辺はSD501、西辺はSD1571の溝石を兼ねている。東・南辺の礎石は遺存していない。建物の奥行としては、南にある井戸SE1597を屋内とみるか屋外とみるかで異なるが、この井戸とさらに南にある石積施設SF1609が砂利敷通路SS1629で結ばれていることを考えると、屋外とみるのが妥当であろう。だとすれば、建物の奥行は遺存している西辺の礎石列7.5mを大きく越えることはない。

**SF1608** 西側区画の南端に位置する石積施設である。東壁の上部の石積は大きく崩れていた。規模は東西1.9m、南北1m、深さ1.7mを測る。

**SF1609** 西側区画の南東部に位置する石積施設である。東西0.5m、南北0.9m、深さ0.6mを測る。北壁から約0.3mの所に縦で編んだ丸竹を立て、内部を仕切っている。

**SF1610** 東側区画の東側中程、SD1572に近接して位置する石積施設である。東と南の石積を欠き、内部は黄色土で埋められていた。規模は東西1m、南北1.2m、深さ0.4mを測る。

## II 遺構面

石組溝SD1735により、I 遺構面と同様の小区画に分かれる。西側の区画には建物の床材が一部焼け残っており(SX1838)、その南に砂利敷SX1794がある。東側の区画で遺構は確認できなかった。

**SX1838** 西側の区画に建っていた建物の床材が抜け残ったものである(PL.15・16)。その状況から、床は桁行・梁行方向とも約0.85m間隔に木太を置き、その上に板を張っていたようである。礎石は一石しか確認できなかったが、これまでの例から建物は間口一杯に建っていたと推定できる。そして、東寄りの半間は床が存在した痕跡がなく、堅く叩き締まっていることから、通路であったと考えられる。また、建物の奥行を床の痕跡がある所までとし、砂利敷SX1794を屋外に想定すると、間口2.5間、奥行3間で東に半間の通り抜けの通路が付いた建物が復元できる。

## IV 遺構面

I・II 遺構面と同様、東西2つの区画に分かれるが、南端が石組溝SD1734で区画されることから、西側の区画の奥行は15mと若干短くなる。西側の区画では礎石建物SB1722、東側の区画では礎石建物SB1723を検出した。

**SB1722** SX1838の下層に位置する礎石建物で、間口4.7m(2.5間)、奥行5.6m(3間)を測る。建物北辺とその前を走る石組溝SD501とが平行でないため、建物の北西隅は溝際にあるが、北東隅では溝との間隔が1m程度じている。敷地の奥では新たな遺構は確認していないが、他の例から推定すると、井戸SE1597はこの段階には既に存在し、敷地の嵩上げに伴い石が積み足されてI 遺構面の段階まで存続した可能性がある。なお、敷地の西を区画する石組溝SD1571は途中までしかなく、それより奥は石列SX1790によって区画されている。

**SB1723** 間口5.6mを測る礎石建物である。奥行は判然としないが、7.5m(4間)と推定する。間口は前の溝SD501に方向を揃えており、渠行方向とは直角にならない。床は全体に藁を敷き詰めている。東側半間分は粘質土を叩き締めた跡があり、SX1838と同様に通り土間の可能性がある。敷地の奥はSX1799付近に礎石らしき石があり、砂利や土が互層になっている所も認められることから、建物が存在したのかもしれない。

#### D 1 区の遺構(第1・2・5、PL.18～21)

##### I 遺構面

石組溝SD1578およびSD1579により、東西道路SS493に面して並ぶ3つの小区画に分かれる。

西側の区画は間口7m、奥行13.5mを測る。奥(南辺)が約10mと間口(北辺)より広く、台形の区画となっている。建物は不明だが、北半部に井戸SE1599、炉SX1674を有し、他に石積施設を破壊したものとみられるSX1675がある。中央部に石組溝SD1577が東西方向に延びており、その南側は粗い小砂利敷SX1678になっている。なお、北半部の遺構面は溝以南の遺構面よりも低く、時期を異にする可能性がある。また、この区画の北辺には道路側溝が延びてこず、石列SX1672・1673が構築されている。

中央の区画は間口6m、奥行14mを測る。北半部に礎石建物SB1558、南半部に井戸SE1600、石積施設SF1611・1612がある。SE1600とSF1612の間には砂利敷SX1684が認められる。奥(南)側に隣接する区画との間には障壁SA1618がある。

東側の区画は間口8m、奥行16.5mを測り、北半部に井戸SE1601と石積施設SF581を有す。建物は不明である。

**SX1674** 西側区画の北西部で検出した炉跡である。三方を笏谷石、一方を河原石で囲んだ長さ1.4m、幅0.75mの長方形をなす。底は二段になっており、深さは高い部分が0.2m、低い方が0.3mを測る。高い部分には笏谷石を敷いており、中には焼土と灰が詰まっていた。

**SB1558** 中央区画の北半部に建つ間口5.6m(3間)の礎石建物である。西辺の礎石はSD1578、東辺の礎石はSD1579の溝石を兼ねているが、前者は遺存状況が悪く判然としない。北辺は道路側溝SD1590から1.7m程奥にあったと想定される。建物の奥行も明らかでないが、井戸SE1600を屋外とみると約6.6m(3.5間)、屋内とみると9m以上になる。

**SE1600** SB1558の南東、SD1579に接した位置にある石積井戸である。口径0.6m弱で非常に小さい。

**SF1611** 中央区画の南端付近に位置する石積施設である。平面規模は0.9m四方の正方形をなし、深さは0.5mを測る。西側に踏石とみられる四角い石を配している。なお、SF1611は小砂利で覆われていたことから、これを廃棄した後、東側のSF1612を使用したと推定する。

**SF1612** 中央区画の南東隅に位置する石積施設である。東西1m、南北0.8m、深さ0.6mを測る。西壁に横木を組み込んでおり特異である。

**SE1601** 東側区画の東辺中程に位置する石積井戸である。方形に近い形状で口径0.5mを測る。東側に洗場とみられる石敷SX1706が付属する。

##### II 遺構面

D 1 区および後述のD 2 区は一つの大きな区画として把握できる。北半にあたるD 1 区では西側に礎石建物SB1725、東側にSB1559がある。区画の北辺、東西道路SS493との境には土塁SA1752が走る。

**SB1725** I 遺構面においてD 1区を分割する石組溝SD1578の下層で検出した礎石建物である。東西・南北とも約5mの範囲を確認したが、本米の規模は不明である。

**SB1559** 東西3.8m(2間)、南北7.4m(4間)を測る礎石建物である。建物の西辺はI 遺構面のSD1579の側石と重複しており、当初は溝石と礎石を兼用したI 遺構面の建物と考えていたが、下層の調査において溝石の下で礎石列を検出したため、認識を改めた。この建物は礎石の周りに黄色粘土を帯状に敷いて固定しており、この付近が焼土による整地で地盤が緩かったためとも推測できる。

#### D 2区の遺構(第1・2・8図、PL.22・23)

##### I 遺構面

石組溝SD1583および道路SS1566を結ぶラインにより、南北2つの小区画に分かれる。北側区画の東端は明確ではないが、両区画とも東西約17m、南北約6.5mとほぼ同規模である。この時期の遺構としては北側区画の中央に位置する井戸SE1602が唯一である。

##### II 遺構面

前述のように、D 1区と合わせて一つの大きな区画として把握できる。その南半にあたるD 2区では南に寄せて礎石建物SB1560があり、それに対応する遺構群が周囲に認められる。

**SB1560** 東西9.4m(5間)、南北8.8m(4.7間)を測る正方形に近い礎石建物である。細かい粘質土で整地した上に礎石を据えている。南を除く三方の端の柱間は1.5mと狭く、この部分は広縁と推測される。建物の南東隅に2m四方の張り出し部SX1692があり、砂利敷となっている。SX1692はSB1560と接する部分の礎石を別に設置していることから、後に増築されたのかもしれない。SB1560は火災で焼失したらしく、柱の跡がはっきりと残っている礎石がある。また、SX1692の東にある溝SD1593からは屋根材と思しき炭化した板や葦の束が出土した。さらにその東の土坑SK1627・1628は黒い焼土で埋まっており、土師質皿を中心に多量の遺物が出土している。中でも特筆すべき遺物として紫色をしたガラス小皿(第39図575)がある。なお、I 遺構面とした井戸SE1602はこの段階で既に存在した可能性がある。

#### D 3区の遺構(第1・2図、PL.22・23)

##### I 遺構面

南に接する第46次調査区も含め、20~100m程度の小規模区画群を形成する。当調査区内では、南北の石組溝SD1586の西側に2区画、東側に1区画が認められるが、西側2区画の内の南側については、ほとんどが当調査区外である。いずれの区画内でもこの段階の建物は不明だが、東側区画の南西隅に井戸SE1603が認められる。

##### II 遺構面

石組溝SD1586の東側の区画はI 遺構面と同様だが、西側は一つの区画と把握できる。西側の区画には礎石建物SB1561が、東側の区画にはSB1562がある。

**SB1561** 西側区画の北端に位置する礎石建物である。東・西辺の礎石が不明だが、東西6~8m、南北約5mの規模と想定される。

**SB1562** 東側区画の中央部に並ぶ4個の礎石以外は明確でない。区画一杯に建っていたとすれば東西約

6 mの規模となる。南西部に井戸SE1603があり、これを屋外とみると南北も7 mを越えることはない。中央部礎石列の南側には笏谷石製の炉SX1701(第46図707)があり、その付近は礎と粘土が何層も互層になっていることから、薬敷きの土間であったと考えられる。

#### E区の遺構(第1・2図、PL24)

##### I 遺構面

本章の冒頭で述べたように第36次調査で検出した小区画群の一部にあたり、6区画分が当調査区にかかっている。各区画の全体については既に報告されているため(『鯖江・美山線』)、ここでは当調査区で検出した遺構についてのみ個別に取り上げる。なお、各区画の呼称については第36次調査の報告にしたがい、南から36-10~15とする。

SF1617 36-10の北西隅で検出した石積施設である。東西1.8m、南北1.0m、深さ1.0mを測り、6段

程度の石積をもつ。西側短辺の石積は大きく崩れていたが、東側では石積上部に横木をかませた様子がうかがえ(挿図7)、さらに長辺の両側に径15cmほどの杭を3、4本ずつ底に打ち込んでいた。埋土は有機質の泥土であり、多数の板材に混じって便器の一部である「金隠」(第48図738)が出土した。このことから、石積施設に床板を渡して金隠をはめ込み、上に簡素な小屋をかけた便所が復元される。

SF1745 36-11の北西隅で検出した石積施設である。東西0.8m、南北1.0m、深さ0.6mを測る。石積は3段程度である。

SF1746 36-12の北西隅で検出した石積施設である。東西0.9m、南北1.2mを測る。深さと石積の段数は損壊のため不明確だが、深さ0.4mで3段程度と推定される。

SF1747 36-13の西端で検出した石積施設である。東西0.6m、南北0.8mを測る。深さと石積の段数は損壊のため不明確だが、深さ0.4mで2段程度と推定される。

SF1616 36-14の南西隅で検出した石積施設である。損壊により不明確だが、東西0.7m、南北1.4m、深さ0.5mで3段程度の石積と推定される。

SF1615 36-14の北西隅で検出した石積施設である。東西1.1m、南北1.0mを測る。深さと石積の段数は損壊のため不明確だが、深さ0.3mで1段と推定される。

SF1614 36-15の北西部で検出した石積施設である。東西2.8m、南北0.8m、深さ0.6mを測る。石積は4段程度で、南辺中央部に杭が1本残存していた。

SF1613 36-15の北西隅、SF1614の北に位置する石積施設である。東西0.9m、南北1.4m、深さ0.45mを測る。SF1614とは長軸が直交し、L字の配置となっている。石積は3段程度である。



挿図7 SF1617(東壁)

## IV 遺物

第40次発掘調査出土遺物は総数88,466点で、その内訳は表2に示したとおりである

表2 出土遺物一覧表

器種	枚片数	%	器種	枚片数	%	器種	枚片数	%
鉢 盆 碗 杯 碟 瓶 壺 甌 其他	914		碗	407		鉢	154	
	6146		皿	644		毛鉢	1	
	1,037		杯	25		縁	12	
	48,8		甌	14		蓋	1	
	6		壺	2		蓋	1	
	3		瓶	6		門	1	
	3		甌	40		漏斗	1	
	3		瓶	1		釣鐘	1	
	3		甌	115		引金具	2	
	21,190	23.88	其他・不明	115		環付金具	1	
皿 丸 圓 方 盤 深 浅 碗 盆 其他	53,675		小鉢	254	14.2	輪付金具	1	
	丸		碗	7		輪	10	
	圓		皿	2723		豆	4	
	方		杯	36		鉢	1	
	盤		甌	1		馬口	2	
	深		瓶	2		口金	2	
	浅		甌	1		手斧	1	
	碗		瓶	2		鑿	1	
	盆		甌	1		鑿	1	
	其他		其他・不明	2		鑿	1	
中 田 田 深 浅 碗 盆 其他	54,059	61.11	小鉢	2781	3.4	鉢	74	
	碗		碗	667		金口クロ	1	
	盆		皿	1,622		刀子輪	2	
	深		杯	3		刀子柄	2	
	浅		甌	1		付ね	1	
	碗		瓶	5		羽子板	1	
	盆		甌	3		持杖柄	3	
	其他		其他	18		刀形	1	
	不明		皿	5		舟形	1	
	其他		其他	6		船型	1	
金 屬 類	1,024		其他	1		丁男柄	1	
	皿		小鉢	1		繩網型	1	
	深		皿	4		刀柄	1	
	浅		小鉢	2		刀身	2	
	碗		甌	5		手斧	1	
	盆		瓶	8		鍔	1	
	其他		甌	1		金環	1	
	不明		其他	2,330	26.3	金環	1	
	其他		小鉢	4		その他の小物	83	
	不明		瓶	3		計	350	0.40
日本 製 陶 器	1,637	1.87	甌	3		その他の小物	83	
	碗		水注	6		計	350	0.40
	盆		瓶	14		骨角製鉄石	5	
	深		皿	1		ガラス皿	1	
	浅		小鉢	15	0.02	皿割八札	1	
	碗		甌	26		鹿角製刀鋸具	1	
	盆		杯	7		鐵頭	3	
	其他		甌	4		筈	1	
	不明		其他	128		化粧紙	1	
	其他		小鉢	165	0.19	布	2	
新 羅 ・ 美 濃 族	14		針	186	0.21	綿	3	
	不明		甌	72		綿	3	
	其他		外國產	6,673	7.43	計	9	
	不明		計	936	1.05	漆	9	
	其他		甌	152		漆地片	1	
	不明		瓶	106		漆片	18	
	其他		皿	522		化粧漆	11	
	不明		杯	22		種子	4	
	其他		甌	3		その他の不明	10	
	不明		花瓶	1		計	7	0.08
瓦 質	7		炉	3		老舗	1	
	不明		粉鈍臼	26		漆地片	1	
	其他		茶臼	3		漆片	18	
	不明		サル	1		化粧漆	11	
	其他		乳棒	1		種子	4	
	不明		柳状石製品	2		その他の不明	10	
	其他		連狀石製品	6		計	7	0.08
	不明		石仏	6		老舗	1	
	其他		五種壺	4		漆地片	1	
	不明		磨谷石片	2		漆片	18	
漆 器	73	0.14	その他の 不明	1006		化粧漆	11	
	3		計	1866	2.11	種子	4	
漆器・漆漆		37	0.04			その他の不明	10	
漆漆		78,203	88.39			計	7	0.08
漆漆・その他の		476	0.54			老舗	1	

※漆器・漆漆・その他の

調査面積3,000m<sup>2</sup>に対する1mの平均出土点数は29.5点で、一乗谷ではかなり多い部類に属す。後世の削平の程度が少なかったことに加え、下層を比較的広範囲に調査したことがその理由の一つとしてあげられよう。内訳をみると、出土数の9割以上は土器・陶磁器であり、その6割を土師質皿が占めている。また、遺物量相応に、金属や木製品、石製品も数多く出土しており、北国船の模型など他地区で類例のない、あるいは極めて少ない資料も認められる。中でも石積施設の一つから「金隠」と呼ばれる板材が出土し、その多くが便所であるとの確証に至ったことは大きな成果であった。

遺物の報告にあたっては、まず、遺物台帳により出土グリッドと遺構面を参照し、A～E区(排他的に隣接する溝も含む)、I～III遺構面(各遺構面を覆う整地土および各遺構面に属す遺構埋土)に分けた。その際、グリッドが隣接区画にまたがり、いずれかの区画に帰属させなかつた遺物もある。また、特に陶磁器類において接合した破片が異なる区画にまたがる場合は、残存半のより大きい方に帰属させたが、同程度のため判断に迷ったものもあり、これらはその他として一括した。一方、遺構面をまたがつて接合したものは残存率を問わず基本的にド層の遺構面に帰属させた。なお、遺物台帳では遺構面が現地調査時の認識のまま記載されており、その後検出面相互の比較によって帰属する遺構面を決定した各遺構の情報が反映されていない。今回の報告にあたって可能な限り整合させるよう努めたが、諸種の制約により多くはかなわなかった。また、掲載資料について、越前焼の甕については整理が十分でなく、調査区全体である程度バラエティを描えるにとどめたため、各区画の様相を反映できていない。さらに膨大な量が出土している土師質皿については、石積施設など遺構から出土した完形もしくはそれに近い一括資料を中心に抽出し、バラエティの不足を整地上などからの出土資料で補うこととした。

上記の整理により、以下、はじめにA～E区ごとにI遺構面、II遺構面の順に記述する。次に特定の区画に帰属させることができなかつた遺物を同じくI遺構面、II遺構面の順に記述する。そして、III遺構面として取り上げられた遺物をまとめて記述する。最後に水田の床土から出土、あるいは排土から採取した遺物など、区画や遺構面を特定できない遺物、および写真のみ掲載した遺物をまとめて記述する。なお、錢貨については便宜上別に図版を組んだ。

遺物の分類は、越前焼人甕・擂鉢は『県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』1983、土師質皿は『一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 I』1979、瀬戸・美濃焼は『瀬戸市史 陶磁史篇 四』1993、中国製陶磁器は『国立歴史民俗博物館資料調査報告書 4 日本出土の貿易陶磁』1993に準拠する。

#### A区 I 遺構面出土遺物(第11～13・60図、PL.25～27、74)

越前焼 1は頸部が短く立ち上がる短頸甕で、口縁に水平な面をもち、肩部に突帯が巡る。2は口縁の直立する四耳甕で、口縁は玉縁状に折り返し丸く仕上げている。3は擂鉢IV群で、9条1単位の擂目を密に施す。4は鉢皿で、鉢目は8条1単位である。5は片口をもつ鉢で、体部内面に櫛状工具による同心弧を複数重ね、波状および同心円を描いている。

土師質土器 6～11は皿で、6・7がC類、8～11がD類に属す。7・9にはタール痕が認められる。瀬戸・美濃焼 12は鉄釉を施す小天目碗で、削り出し輪高台をもつ。高台周辺には比較的濃い鉄釉を施している。13は同じく水注で、注口部には鉄片が詰まっている。14～16・18は灰釉を施すものである。14は全面施釉の平碗で、底部が非常に薄く、高台を削り成形したものと考えられる。15・16は腰折皿である。見込にトテン跡が3箇所認められる。16は体部以下の器壁が厚く、腰折れも鈍い。18は大皿である。17は綠釉を施した皿で、印文花をもつ。高台内には輸ドチ跡が残る。

**中国製陶磁器** 19～27は白磁で、19は直口、20・21は端反りの皿である。23は胎土、釉、成形とも良質な輪花鉢で、内面は凸線、外面は凹線で弁間の稜を表現している。外面に「馬蝗絆」と呼ばれる、鉄の鍔による接合痕がある。24～27は小坏で、26は高台内に「福」銘をもつ。28～32は染付である。28は腰折れの碗で、外面と見込みに梅月文を描く。一乘谷では類例が少ない。29・30は端反りの皿B1群で、外面に牡丹唐草文、見込みに玉取獅子文を描く。32は見込に「福」字を書く碗で華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 33は雜釉碗である。見込と豊付にそれぞれ4箇所以上の砂目跡が残る。

**金属製品** 34は小柄、985～987は銅錢である。

**石製品** 35～38は硯で、38が隅丸の形状である他はいずれも長方形のものである。39は小形のバンドコの蓋で、平面格円形を呈し、中央部に長方形の窓をもつ。40は鍋の縁に引っ掛けで安定させるためのサルと呼ばれる道具である。下部に煤が帶状に付着している。

#### A区Ⅱ遺構面出土遺物(第13・14・60図、PL.27・28・74)

**越前焼** 41・42は大壺である。41はIV群、42はIII群に属す。43はIV群の搗鉢で、7条1単位の插目を間隔広く施す。44は鉢で、黒色の付着物を拭ったような痕跡が内外面に認められる。

**土師質土器** 45～56は皿で、55を除きSF1741から出土したものである。45はA類、46～50はC類、51～56はD類に属す。50は内外に墨書きをもち、底外面中央部は「伴衆」と読める。57は小壺である。

**瀬戸・美濃焼** 58～60は鉄釉を施すものである。58は小天日碗で、内反り高台をもつ。59は水注で、小瓶に把手と注口を付した器形である。60は壺で、底外面には糸切り痕が残る。61～64は灰釉を施すもので、61は端反皿、62～64は腰折皿である。62・63の見込には輪ドチ跡が認められる。65は綠釉を施した丸皿である。

**瓦質土器** 66は香炉である。無文で口縁は外反する。

**中国製陶磁器** 67は白磁の模花皿である。錫皿のような器形で、胴下部を丸鑿状の加工工具で菊花状に仕上げている。40次調査区ではD1区東端の区画でまとまって出土しているが、他調査区での類例は少ない。68～70は染付の碗で、68・69がB群、70がC群に属す。

**朝鮮製陶磁器** 71は雜釉碗である。

**金属製品** 988～995は銅錢である。一乘谷で希少な銭種として995の昭熙元寶がある。

**木製品** 72は歯と後緒穴のない板状の製品で、草履の鼻緒を通して一体で使用する「雪下駄」と呼ばれるものである。緒穴の周囲に足指の圧痕が、踵側裏面の両側辺に横縞が擦れたことによる摩耗が認められる。なお、後者については、横縞が切れるのを防ぐため、元々角を落としていた可能性もある。

**石製品** 73・74は砥石である。石質から仕上砥と考えられる。75は平面D形を呈すバンドコの蓋である。76は球状の石製品で、直径の1/4ほどの深さの穴がある。穴の反対側は平坦面を形成し、据わりよくなっている。用途不明だが、念珠挽きの錐の重石とも推測されている(正報II,22頁)。

#### B区Ⅰ遺構面出土遺物(第15～18・25・60図、PL.29～32・74)

**越前焼** 77～79は大壺で、78がIII群、他はIV群に属す。いずれも体部に押印が巡り、77にはヘラ記号も認められる。80・81は中壺で、いずれもヘラ記号をもつ。81には押印も認められる。82～84は壺である。82にはヘラ記号が認められる。85は鉢で、縦方向の粗いヘラ削り痕を鏽状の意匠として残したものと考えられる。86は小形の桶である。

**土師質皿** 87～94は皿で、87・88を除きSF1605から出土したものである。87～92はB類で、半数に明瞭な布目痕が認められる。93・94はC類に属す。

**瀬戸・美濃焼** 95～97は鉄釉を施すものである。97は四耳壺で、一般に「祖母懐茶壺」と呼ばれ、底部にヘラで「祖母懐」と刻んでいる。素地は灰色の祖母懐上で薄手に挽き上げる。黒褐色の鉄釉をハケ塗りしているが、釉層は薄く、釉むらが著しい。98は黄瀬戸釉を施す平碗である。削り出し輪高台で、高台周辺には筋釉を施す。同様のものは調査区全体で8個体分出土しており、II遺構面にもみられる。99～103は灰釉を施すものである。99は部体内面に丸鑿状の工具で刻文(ソギ)を入れた丸皿で、破断面に漆による接着痕が残る。100は腰折皿で、見込みにトチン跡が残る。101は140のバンドコ内に収納されていた端反皿で、印花文をもつ。102は丸皿、103は筒形香炉である。

**中国製陶器** 104～110は青磁である。104は龍泉窯系B4類の蓮弁文碗で、蓮弁は劍先を波状に、弁間を線刻で無造作に表現する。見込みには「富」字の周囲に蓮弁を配した印花文をもつ。107・108は140のバンドコ内に収納されていた皿である。非常に良質な胎土を用い、端正な作りである。ロクロは逆時計方向で、釉は淡く、見込みと外面下部は露胎のままとしている。広東・福建省方面産と考えられ、類例は少ない。110はいわゆる青磁下蕪瓶で、宋代の作と考えられる。破断面に漆による接着痕が認められる。111～115は白磁の皿、116～118は小杯である。111～114は端反りの皿で、111は140のバンドコ内に収納されていた。113は見込みの釉を蛇の目状に剥いで露胎となった部分を赤く塗っている。119～122は染付である。119は140のバンドコ内に収納されていたE群の碗で「宣徳年製」銘をもつ。外面四方に牡丹と雲文を幾何学的に配している。121・122は染付の壺とその蓋で、簡略化された文様をもつ。123は黒釉を施した禾目の天目茶碗である。立ち上がりが深く、口縁のひねり返しは弱い。口縁には覆輪の痕跡が残る。胎土は灰白色の磁質に近く、釉は厚い。高台はわずかに凹面を呈し、ヘラでおこしている。ロクロの回転は逆時計方向である。124は褐釉を施した肩衝茶人、125は壺である。

**朝鮮製陶器** 126・127は白磁碗、128・129は雜釉碗である。128には5箇所、129には8箇所の目跡がそれぞれ見込みと疊付にみられる。130は口縁を玉縁状に肥厚させた鉢である。

**金属製品** 131は鉄の刃先、132は鉄鍋、133・134は鉄鎌、135は弾丸である。273(第25回)は手斧で、柄上部に鉄製の楔が残り、柄内には木製柄の断片も遺存していた。大きさや形状から石工用と推測される。996～1011は銅鏡である。

**石製品** 136は砥石で、仕上砥とみられる。137・138は茶臼の上臼で、挽木孔の周囲に菱形の台座文様をもつ。臼目は8分画である。139・140はバンドコの蓋と身である。蓋が被さった状態で出土し、内部から灰釉皿(101)、青磁皿(107・108)、白磁皿(111)、染付碗(119)の完形陶磁器5点がみつかった。141は花瓶、142は石仏、143は用途不明の台座状製品である。

#### B区 II 遺構面出土遺物(第18～27・60～63回、Pl.32～41・74・75)

**越前焼** 144～146はIV群の大壺である。いずれも押印をもち、146にはヘラ記号も認められる。147は中壺である。148・149は肩部下に突帯が巡る短頸壺である。ヘラ記号をもつ149には鉄片の塊が入っていた。150～153は壺で、いずれにもヘラ記号が認められる。大形の150は片口をもつ。小形の151～153はいわゆるお歯黒壺で、152の底には厚い付着物が認められる。155～159は壺鉢で、いずれもIV群に属す。155には扇形の同心弧文が認められる。160は破片の周囲を打ち欠いて成形した円盤である。

**土師質土器** 161～183は皿である。161・162はB類で、162には布目痕がよく残る。163はA類、164

～181はC類に属し、半数以上にタール痕が認められる。なお、口径6～7cm前後の皿については、I造構面ではB類、II造構面ではC類が目立つ。182・183はD類に属す。182の底外面には墨書きが認められ、一部は「せた」と読める。184は土釜、185・186は小壺、187・188は灯芯押えである。

**瀬戸・美濃焼** 189～201は鉄釉を施すものである。189～192は天目茶碗で、189・192は削り出し輪高台、他は内反り高台をもつ。高台周辺の鋳輪は189・191がやや濃く、他は薄い。193・194は丸皿で、194は見込にトチン、高台内に輪ドチの痕跡が認められる。195・196は徳利、197は小瓶、198は水滴、199は片口鉢、200・201は達水である。197の底面は糸切り痕未調整で、塗もしくは膠様の付着物が認められる。202～227は灰釉を施すものである。202～204は平碗で、203・204はヘラ彫りで蓮弁文を描く。202の高台内には輪ドチ跡が残る。205～209は丸碗で、207・208の高台内には輪ドチ跡が残る。210～216は端反皿で、多くは見込に印花、高台内に輪ドチ跡が認められる。217～221は丸皿で、218・219は内面に丸彫りの刻文(ソギ)を施すものである。222～224は反皿で、いずれも印花文をもつ。225は稜花皿で、高台内に輪ドチ跡が残る。226は口縁下に波状の櫛描文を配す無頭壺で、底部に糸切り痕が残る。227は小壺で、算盤玉状の体部に小さなつまみが付く。鳥彫皿と考えるものである。

**瓦質土器** 228・229は香炉である。229の体部には湯状のスタンプ文が巡る。230・231は燈火具(瓦燈)の蓋と台部である。第54次調査でも同形態の蓋部と台部が出土している。蓋の頂部と台部の中央には灯明皿を載せる受け皿がつく。蓋部の皿底には蓋内に抜ける穴があり、灯明の油をためない工夫とみられる。蓋部には正面にあいた大きな窓と背面斜め上方にあいた小さな窓があり、台部の口縁から上へ延びる日隱板との兼ね合いで調光したものと考えられる。なお、231は破片2点のみで日隱板の痕跡も残っていないが、第54次調査の報告(正報Ⅱ,51頁)に倣い230とセットになるよう復元した。

**須恵器** 232・233は須恵器の坏蓋と高坏である。いずれも古墳時代、6世紀後半のものとみられる。

**中国製陶磁器** 234～239は青磁である。234は龍泉窯系B4類の碗、235・236は内面に草花文をもつ棱花皿、237は輪花皿、238は直口の皿、239は筒形香炉である。240～249は白磁である。240～243は端反りの皿、244・245は菊皿、246は大皿、247は葵筒底で体部が外反する皿、248・249は小壺である。245・247の破断面には漆継ぎ痕が認められる。250～262は染付である。250はB群、251はC群の碗で、251の破断面には漆継ぎ痕が認められる。252は見込の浅い碗で、外面上に大振りの唐草文、見込に「福」字をもつ。華南系とみられる。253～258は端反りの皿で、253～256はB1群、257・258はB2群に属す。259・260は葵筒底の皿C群で、259は華南系とみられる。261・262は大皿である。262はいわゆる鈔皿で、体部に丸彫りの溝を縱方向に施している。

**朝鮮製陶磁器** 263・264は棘釉陶器の碗である。264の疊付には目跡が残る。

**產地不明陶磁器** 265は鉢である。輪積み痕が顯著で、体部上半にのみ施釉している。

**金属製品** 266～269は建築金具である。266は門金具、267は壇金、268は鍶、269は鉢前の部品で、いずれも鉄製とみられる。270は箸としたが、頭部側が緩く湾曲しており、転用の可能性がある。271・272は鉢である。272は木製柄が取り付いた状態で出土したが、現在は失われている。274～276は容器類で、274は水滴、275は六器、276は菊皿である。276には赤色の付着物があり、紅皿として使用したものとみられる。277～281は武具類である。277は笄で、丸で囲んだ草花文を4箇所配置し、間を魚々子で埋めている。278・279は小柄で、278は紐通し孔をもつ。280は柄頭で、281の猿手金具と一緒に出土している。282は節金具とみられ、幾何学的な毛彫文様を施している。283は銅錘で、下半部のみ検出された。1012～1136は銅鏡である。皇宋通寶や元豊通寶、元祐通寶などが比較的まとまってみられる。一

乗谷で希少な錢種としては1068の至和通寶や1123の皇宋元寶、1124の至大通寶が認められる。

**木製品** 284～289は漆塗椀である。284～287は内外面黒地に赤で扇文や蓬莱文を描く。288・289は内外とも赤色で無文の類だが、289は口唇部のみ黒色である。290・291は漆塗皿で、内面は赤色で無文、外面は黒地に赤で蓬莱文を描く。292は外面黒漆塗の皿もしくは盤で、高台裏に「吉」の朱書がある。293・294は黒漆塗りの容器、295は同じく蓋である。295の頂部にはロクロ目がよく残る。296は桶類の底あるいは蓋で、合釘で接ぎ合わせて使用したものである。接合面に2個一対の合釘穴が認められる。297は箸、298～300はその他の棒状具で、断面方形の298・299は片端を鎧状に薄く仕上げている。301は露卯下駄の台部、302は雪下駄である。

**石製品** 303～305は硯である。すべて長方硯で、305の裏面には「継旭」の線刻が認められる。306・307は紙石である。306には木質と漆様の付着物が、307には文字のような線刻が認められる。308は有溝砥石で、隣接する第36次調査区で確認された水晶製数珠玉の製作跡との関連が考えられる。309は乳捲である。310～314は笏谷石製品である。310・311は前記76と同様の球状製品だが、310はやや扁平な形状を呈す。312は平面長方形の盤で、四隅に脚が付く。313は粉撲臼の上臼で、白面が著しく偏っており減っている。314は分厚い円盤の中央に孔をもつもので、用途は不明である。

**骨角製品** 315は骨あるいは鹿角製とみられる双六の駒である。両面の中央に凹形の窪みがあり、内部は黒くなっている。塗装とも回転穿孔時の摩擦による焦げともみえる。

#### C区 I 遺構面出土遺物(第28・29・31・63図、PL.42・43・75・76)

**越前焼** 316はIV群の擂鉢で、擂目は7条1単位である。

**土師質土器** 317～353は皿である。336を除きすべてSF1608から出土したものである。317～327はB類で、ほとんどにタール痕が認められる。320には布目痕がよく残る。328～341はC類で、やはり多くにタール痕が認められる。330は口縁を小さく打ち欠いてそこに灯芯を載せたようである。345～353はD類で半数にタール痕が認められる。

**瀬戸・美濃焼** 354・355は天目茶碗で、354は鉄釉、355は黄瀬戸釉を施す。いずれも内反り高台をもち、高台周辺には薄く錆釉を施している。

**中国製陶磁器** 356～360は青磁である。356・357は稜花皿で、体部内面に草花文、見込に印花をもつ。358は八角形を呈す角皿、359は菊皿、360は筒形香炉である。361～363は白磁で、361は端反りの皿、362・363は小杯である。362は見込の釉を蛇の目状に剥いでおり、露胎部に漆様の付着物が認められる。364～366・414(第31図)は染付である。364は碗の高台部で、華南系とみられる。365・414は皿B1群である。365のように見込脇に界線がなく、内面全体に唐草文を描く例は少ない。366はF群の錫皿である。

**金属製品** 367・368は箸である。367は断面八角形で頭部に鋸歯状の刻文をもつ。368は断面円形で頭部は丸みを帯びる。1140～1146は銅鏡である。一乗谷で希少な錢種として1146の大和通寶がある。

**石製品** 369は球状石製品、370は平面精円形のバンドコ蓋で、いずれも笏谷石製である。

#### C区 II 遺構面出土遺物(第29～35・64・65図、PL.44～50・76)

**越前焼** 371・372はIV群の大壺で、いずれも肩部に押印が巡る。373・374は壺で、374にはヘラ記号が認められる。375・376はIV群、377はIII群の擂鉢である。376にはヘラ記号が認められる。378・379は鉢である。擂鉢と同形の378にはヘラ記号が認められる。

**土師質土器** 380～387は皿で、主にSD501から出土したものである。380～385はC類、386はG類、387はD類に属す。385は底外面に「せた」と読める墨書きをもつ。L1縁を打ち欠いて灯芯を載せたとみられ、そこにのみタール痕が認められる。387も見込に墨書きが認められるが、文字なのかどうか明らかでない。388は灯芯押えで、タール痕が認められる。

**瀬戸・美濃焼** 389～394は鉄釉を施すものである。389・390は天目茶碗で、高台周辺の鋪釉はいずれも薄い。391は小坏で、口縁部に厚く施釉する。392は丸皿で、見込に3箇所のトチ痕、底部外面に輪ドチ痕が認められる。393は鉢、394は徳利である。395～400は灰釉を施すものである。395は丸碗で、蓮弁文風の押印文をもつ。396～399は端反皿で、底部外面に輪ドチ痕が認められる。400は丸皿である。

**瓦質土器** 401は香炉である。体部に渦状のスタンプ文が巡る。

**中国製陶磁器** 402～404は青磁で、402は龍泉窯系碗E類、403は同じくD類、404は菊皿である。405～411は白磁で、405は直口の皿、406は体部が外反する基筒底の皿、407～409は端反りの皿、410は菊皿、411は小坏である。405は骨付から高台内、408は骨付の露胎部分を墨で黒く塗っているようである。412～413・415～422は染付で、412はE群、413はB群の碗、415～417はB1群、418はD群の皿である。417には漆経痕が認められる。419は端反りの皿で、口縁部形状と文様構成はB1群と同様だが、基筒底となる。420も同類であろう。421・422は基筒底の皿C群である。423は黒褐釉を施した茶入である。

**朝鮮製陶磁器** 424は白磁の皿である。見込と骨付に各4箇所の目跡が残る。

**金属製品** 425は天井や床板を固定するための目釘釘で、赤色の付着物が認められる。426は鍍金具で、小さな目釘穴がある。427は六葉の釘頭で、中央部に直径3cmの円状に黒色漆が残っており、菊座が取り付いていたものと考えられる。428は鉄、429は菊皿である。430・431は刀装具の口金物で、430の側面には魚々子地に果実文らしき文様が認められる。432は短刀である。刃区は認められない。433・434は小柄で、434には經通し孔がある。1147～1220は鋼線で、黒寧元寶が比較的まとまって出土している。一乘谷で希少な錢種としては1175の治平通寶がある。

**木製品** 435～442は漆塗椀である。435は内面赤色、外面黒色で、外面に赤色で鶴・亀・松竹の文様を描いている。436～441は内外面黒地に赤色で蓬莱文などの文様を描く。442は端反りの椀で、内外面赤色の無文である。木胎にケヤキを用い、漆下地の上質品といえる。443は内外面黒色の漆塗皿で、口唇部に細かい刻み、体部に穿孔を施している。444は腰折れの漆塗容器で豆子とみられる。内面赤色、外面黒色(腰折部より上は赤色か)である。木胎はケヤキでやはり上質品といえる。445は粗くロクロ成形した壺である。447は刀柄で、2つ接してあいた目釘穴のひとつを木でふさいでいる。448は刀子の鞘である。446・450・451は蓋底板で、450・451には接ぎ合わせのための合釘穴・木釘が認められる。452は結構の側板で、蓋の圧痕が認められる。449は板状の部材で、対向する2側縁に釘穴が並ぶ。453～455は箸である。456～458は鍛卯下駄で、台部の平面形が長方形に近いもの(456)と長円形のもの(457・458)がある。459・460は陰卯下駄で、台部に逆台形の枘を彫り、その形状に合わせて接合部を成形した歯を横から差し込む「蟻巣ぎ」方式を探用している。歯は著しく摩耗して短くなっている割に、台前後の摩耗は少ない。461～475は雪下駄で、一部には線刻などによる模様が表面踵部に認められる。476は草履下駄の一種と考えられるもので、ヘギ板を加工した上板が一部残存しており、本体との間に植物織維の痕跡が認められる。477は舟形で、ヒノキの板目材を割り抜いている。478は棒状の部材で、断面半円形の棒に穿孔し、木釘を差し込んでいる。

**石製品** 479は長方鏡である。陸中央部は摩耗により深く窪み、穴さえあいている。480は方形盤の口縁

部破片とみられる。外面とも平滑に仕上げており、内面には媒らしき黒色の付着物が認められる。外面に「于時大文廿辛亥年」「月十六日敬(白)」と刻んでおり、出土したⅡ造構面が天文20年(1551)以降であることを示している。481は平面D形のバンドコの蓋、482は平面格円形のバンドコの身である。

**骨角製品** 483は骨製の双六駒である。484は鹿角製で、刀装具などの未製品と考えられる。

#### D区 I 造構面出土遺物(第36～39・41・65～67図、PL.51～54・76・77)

D区には帰属がI造構面からⅡ造構面に改められた造構が数多く存在する。土坑埋土のように出土場所が明白な遺物はそれに従って改めたが、整地土等については分別が困難であり、当初のままとした。よって、ここで報告する遺物にはⅡ造構面に属するものを少なからず含んでいると想定される。

**越前焼** 485は中壺で、ヘラ記号が認められる。486・487はⅢ群の大壺で、486には押印が認められる。488・489は突帯をもつ短頸壺、490はⅣ群の播鉢である。

**土師質土器** 491～510・602(第41図)は皿で、主にSD1574、SF1612から出土したものである。491～493はB類に属し、492・493には布目痕がよく残る。494・495・497～502・602はC類、496はA類、503～509はD類、510はG類に属す。496は内面のナデが粗く、板状工具によるものと考えられる。602は成形段階で口縁に抉りを作出しており、タール痕がその脇に認められる。また、焼成後に底部穿孔を施している。511は土釜、512は土鉢である。

**瀬戸・美濃焼** 513～518は鉄釉を施すものである。513・514は大日茶碗で、削り出し輪高台をもつ。高台脇の削り幅が狭く、高台内の削り込みも浅い。515は蓋である。底部は露胎で、糸切り痕を残す。516は篠利、517・518は茶入である。519～522は灰釉を施すものである。519は丸碗で、高台内に輪ドチ跡が残る。520は端反皿、521は丸皿で、印花文をもつ。520の高台内には輪ドチ跡が残る。522は茶入の蓋で、つまみ頂部と内面は露胎とする。523・524は須恵質で無釉の筒形香炉である。体部の上・中・下段に3本一組の平行沈線を巡らせ、底部には指で両側面をつまんだ三足を付す。内面と底外面には回転ヘラ削り調整の痕跡が明瞭に認められる。

**瓦質土器** 525は香炉で、体部に菊花のスタンプ文をもつ。

**中国製陶磁器** 526～532は青磁である。526は細い線描蓮弁文をもつ見込の浅い碗で、見込脇に沈線が巡る。527は小碗で、外面に2～3条単位の縱の刻線を間隔広く配す。高台以下は露胎で墨が付着している。528はやや端反りとなる皿、529は棱花皿である。530は持腰香炉で、宋～元代の優品である。531は口が大きく開く鉢で、漆緋痕が認められる。532は粘形の花瓶で、鰐をかたどった耳が付く。14世紀の南宋の製品とみられる。533は青白磁の輪花皿である。平面格円形で、口縁が菊皿状となっている。534～541は白磁の皿、542～544は同じく小杯である。534～536は胴下部が菊花様となる後花皿で、534には漆緋の痕跡が認められる。541は高台内に文字の朱書がある。545～551は染付で、545はC群、546はE群の碗、547～549はB1群、550はC群の皿、551は小杯である。550は華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 552・553は雜釉碗で、見込と疊付に各7ないし8箇所の目跡がある。554は青磁の水注で、把手や口縁部を欠く。注口部の直上と腰部に白象嵌の圖線を巡らせ、間を同じく雨滴文で埋めている。施釉は全面において、高台内には胎土目状の粘土塊が付着する。

**產地不明陶磁器** 555は竹節状の高台をもつ底部片である。疊付全体に重ね焼きの痕跡が認められる。

**金属製品** 556は鍵である。557は箸で、木柄を取り付けるための茎をもち、接着のための漆が付着している。558は熊手状の金具である。爪は2本で、基部は鉤形をなす。559は毛抜である。560は香炉とみ

られ、口縁は内面が肥厚して工縁となる。頭部外面に細い沈線が2条巡る。561～565は武具類で561・562は鉄鎌、563は弾丸、564は小柄、565は棒である。566は丁形の金具で、用途は不明。567も用途不明のもので、断面直長方形のやや湾曲する棒状部から屈曲して薄く広がった板状部に別の薄い板材を重ねてかしめている。仏具の常花などの可能性を考えている。1224～1282は銅鏡である。皇宋通寶が最も多く、熙寧元寶がそれに次ぐ。一乗谷で希少な錢種として1273の正隆元寶、1274の淳熙元寶、1281の朝鮮通寶、1282の宣德通寶がみられる。

木製品 569は雪下駄で、表面踵部に三角形の線刻をもつ。570は継手とみられる部材である。

石製品 571～574は砥石である。571・572は石質から荒砥とみられ、形状も近似する。573・574は中紙もしくは仕上砥とみられる。574は硯を転用しており、陸部であったところに文字線刻をもつ。

その他 568はSB1558の焼土面から出土した墨である。奈良の興福寺二階坊で油煙を利用して作られたもので、表には絞龍文様を、裏には「李家烟」の文字を型押しする。なお、同じ焼土面から「旨・自・入・啓」などの文字がみえる炭化紙片も出土している。

#### D区II遺構面出土遺物(第39～47・67・68図、PL55～60・77・78)

越前焼 576・577はIV群、578・579はII群の大壺で、前者には押印、ヘラ記号が認められる。580は片口をもつ小壺で、ヘラ記号が認められる。581～583・585はIV群の擂鉢で、582には漆縫ぎの痕跡が認められる。584は鉢で、脇部内面と見込に櫛状工具で描いた扇形の同心弧文をもつ。

土師質土器 586～601・603は皿で、586はG類、587・588・601はB類、589～594はC類、595～600はD類に属す。603はH類の耳皿である。B・C類の多くにはタール痕が認められる。599・600には墨書きがあり、それぞれ「かへ」、「御大」と読める。また、601には「大日山口」との線刻がある。なお、600の内面ナデは板状工具を用いているようである。604・605は土釜で、羽部以下には煤が付着する。606は小壺である。607は土鉢で、墨線を放射状に施している。608は円盤で、皿D類の底部を利用している。

瀬戸・美濃焼 609～613は天目茶碗で、612は黄瀬戸釉、他は鉄釉を施す。614～617も鉄釉を施すもので、614は丸皿、615は壺、616は水注、617は水滴である。618～630は灰釉を施すものである。618・619は丸碗で、618はヘラ彫りの連弁文、619は押印による連弁文風文様をもつ。620～624は端反皿で、620・621は印花文をもつ。622・623の高台内には輪ドチの痕跡が認められる。624の見込は施釉が及ばず露胎となっている。625は稜皿で、印花文をもつ。626・627は小形の丸皿である。628～630は稜花皿で、底部内外に輪ドチの痕跡が認められる。629・630の印花やその周りには炭化物が付着している。

瓦質土器 631～633は香炉で、脇部にスタンプ文が巡る。

中国製陶磁器 634～637は青磁碗で、634・635は龍泉窯系碗B4類、636はE類、637はD類である。638～644は青磁皿で、638は稜花皿、639・640は輪花皿、641～644は菊皿である。645～658は白磁で、645は碗、646～648は直口の皿、649～654は端反りの皿、655は稜花皿、656～658は小壺である。651の体部内面には不明瞭ながら唐草文らしき型押しの浮文が認められる。645・654には漆縫ぎの痕跡が認められる。659～671は染付で、659～662は碗C群、663は皿B1群、664～671は皿C群である。

朝鮮製陶磁器 672・673は口縁が鈎状をなす鉢である。672は口縁部付近に薄く釉がかかっている。

金属製品 674は大型の鉄釘で、先端が撲れている。上部には木質が付着している。675は箸で、持ち手部分の断面は長方形をなす。676は紡錘で、回転軸となる紡茎とその下部に取り付く皿形の紡輪からなる。紡茎は紡輪との接合部より上部がS字状に捩じれている。また、他の例からその上端には糸を引っ

掛ける鉤があったとみられる。表面全体は緑青に覆われているが、内部には鉄錆が認められ、鋼分の多い鉄製品、もしくは鉄地に青銅を張っている可能性が考えられる。677は鉈で、刃部に木質が付着している。678は菊皿で、紅皿に使用したものと考えられる。679は八双金物で、鍍金の痕跡が認められる。680は鉢のように2つの円孔をもつが、薄手の作りから飾金具とした。1283～1338は銅鏡である。皇宋通寶が最も多く、熙寧元寶がそれに次ぐ。

木製品 681・682は漆塗椀である。681は内面赤色で無文、外面は黒地に赤色で開扇文を描く。682は内外黒色の高台破片で、見込に何らかの漆絵、高台内に記号らしき痕跡が認められる。683は内外黒色の漆塗皿で、見込に蓬莱文らしき文様がある。684は蓋で、全体が炭化している。685は小形の曲物容器である。686は「中村□□」・「図四十六さし」との墨書がある付札である。687は傘ロクロで、全体が炭化している。688は全面黒色の漆塗製品である。家具類の部材と考えられる。689は刀子の鞘で、櫻を表現したとみられる細工を施している。690は羽子板、691・692は箸である。693は断面方形の棒状部材で、直交する2方向に細い木釘穴があり、一部には木釘が残る。694は片面に「金」の文字が残る将棋駒である。朝倉館外濠で出土した駒がヘギ板を利用したものであるのに対し、これは先端から尻部に向かって厚くなり、駒の体裁を整えている。695・696は釣瓶で、696は柄杓に転用したものとみられる(挿図8)。697は手桶の把手で、頂部からの亀裂を留めるため、側面から鉄釘を打ち込んでいる。698～700は連歯下駄で、歯はいずれも著しく摩耗している。700には台表面に模様とみられる線刻がある他、所々に意味不明の小さな穴が認められる。701～706は雪下駄である。701～703は表面踵部に線刻文様をもつ。704の前縫穴部分はU字の抉りとなっており、再加工かもしれない。

大きさと形状が近似する705・706は一足分であろう。

石製品 707は炉(SX1701)、708はバンドコの蓋、709・710はバンドコの身である。

その他 575(第39図)はガラス製の小皿で、透明度の高い紫色を呈す。金属製鋳型による型押成形で、型抜き痕の研磨は省略されている。科学分析の結果、材質はカリウム鉛ガラスと判明した。



挿図8 釣瓶696出土状況

#### E区I 遺構面出土遺物(第47・48図、PL.61・62・78)

土師質土器 711～727はSF1617から出土した皿である。727がD類、他はC類に属す。

中国製陶磁器 728・729は青磁である。728は青磁の稜花皿で、見込に界線と印花文をもつ。729は大型の香炉の胸部破片で、算本文を配している。730は白磁の菊皿である。高台に砂が付着している。731～733は壇反りの染付皿で、731・732がB1群、733がB2群に属す。

金属製品 1339～1345は銅鏡である。一乗谷で希少な銅種としては1345の紹熙元寶がある。

木製品 734は漆塗皿で、体部は内外赤、口唇および蓋付～高台内は黒色とする。ケヤキ製の上質品である。735は漆塗椀の高台部である。内外黒色で、見込に漆絵をもつ。736は解脚である。737は将棋の駒で、「飛車・(龍)王」で、694と同じく駒の形状を整えている。738はSF1617から出土した板部材で、便所の床にはめ込む金隠と考えられる。片面中央部には墨で描いたような円が認められ、部分的には三重線となっている。739は連歯下駄、740は露卯下駄、741は雪下駄である。739の前歯中央部は前方から後方へ向かって強く弧状に摩耗しており、特殊な使われ方をしたのかもしれない。また、表面踵部から後歯に向かって打ち込まれた鉄釘が3本遺存し、歯の補修によるものと考えられる。

## E区 II 遺構面出土遺物(第48図、PL.62・78)

**瀬戸・美濃焼** 742は鉄釉を施す天目茶碗である。内反り高台で、高台周辺にはやや薄い鋸釉を施している。743・744は灰釉を施す端反皿で、高台内に輪ドチ跡が残る。743は見込に菊の印花文をもつ。

**中国製陶磁器** 745は高台を弧状に抉る白磁皿である。

**朝鮮製陶磁器** 746は白磁碗である。

**金属製品** 1346～1350は銅錢である。

**木製品** 747は露卯下駄、748は雪下駄である。748の表面踵部には線刻が認められる。

## その他 I 遺構面出土遺物(第49・50図、PL.63・64・78)

I 遺構面の遺物の中で、区画境とした溝などから出土した遺物を一括した。中でもB区とD区を分けるSD1574の出土遺物が多い。

**越前焼** 749はⅢ群の大壺、750は壺、751は瓶である。

**土師質土器** 752～760は皿である。752はB類、753～758はC類、759～760はD類に属し、多くにタル痕が認められる。761・762は土釜である。761の羽部上面には刻み列が認められる。763は灯芯押え、764～766は管状の土錐である。

**瀬戸・美濃焼** 767は黄瀬戸釉を施す平碗である。高台周辺には比較的濃い鋸釉を施す。768は鉄釉、769は灰釉を施す丸皿である。高台内に輪ドチ跡が認められる。769は見込に印花をもつ。770は綠釉の皿である。見込に菊の印花をもつ。高台内に輪ドチ跡が認められる。771は灰釉を施す仏花瓶で、底外面に糸切り痕を残す。772は無釉で須恵質の香炉である。

**備前焼** 773は瓶である。

**中国製陶磁器** 774～776・782は青磁である。774は稜花皿で、口縁部内面に波状文を配している。見込の釉は蛇の目状に剥ぎ取る。775は輪花皿、776は香炉である。782は盤で、輪高台にさらに山形の脚を貼り付けている。見込にはうっすらと牡丹らしき文様が認められる。高台内周縁の釉は剥ぎ取っている。777～781は白磁である。777は稜花碗で、型押しにより成形している。778は端反りの皿である。779は直口の皿で、外面脚下部を露胎とする。780は葵筒底の小坏である。781は壺もしくは水差で、型押しの草花風文様をもつ。783～787は染付である。783は直口の碗で、花唐草文と芭蕉葉文風の文様をもつ。784・785は皿B群、786・787は皿C群である。786は華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 788・789は口縁が玉縁状となる鉢、790は德利の口頭部である。

**産地不明陶磁器** 791は須恵質の鉢で、鉄鉢形を呈す。11～12世紀の灰釉陶器の可能性が考えられる。

**金属製品** 792は箸である。上部に鋸歯状の刻み目を施している。1351～1365は銅錢である。一乗谷で希少な錢種としては1363の景定元寶がある。

**木製品** 793は漆塗皿である。内面は赤色で無文、外面は黒色で果実文らしき文様をもつ。794は梳櫛、795は連歛下駄である。

**石製品** 796は砥石で、淨教寺產とみられる。797は平面D形のバンドコの壺で、中央部に方形の窓が並ぶ。798は用途不明の円盤状製品で、縁に段、中央に孔をもつ。

## その他 II 遺構面出土遺物(第51～55図、PL.65～69・78・79)

II 遺構面の遺物の中で、区画境とした溝などから出土した遺物を一括した。I 遺構面と同様、B区と

D区を分けるSD1574の出土遺物が大半を占める。

**越前焼** 799はIV群の大甕である。肩部に押印が認められる。800は口縁が内湾する鉢である。

**土師質土器** 801～827は皿である。801・802はG類、807・808はB類、803～806・809～818・824～826はC類、819～822・827はD類に属す。824には「妙久」、826には「正」、825・827には「大」の墨書きが認められる。823はナデを板状工具で行ったもので、見込の周囲には工具の圧痕が巡り、中央部には焼成後に穿孔を施している。828は小甕である。見込は兜巾状に盛り上がる。829～831は土釜である。830には植物の茎で描いたような記号が認められる。832は埴堀で、器壁断面は薄い層状となっている。底外面にガラス質の付着物が認められる。833・834は管状の上鍤、835～838は上鉢である。

**瀬戸・美濃焼** 839～852は鉄釉を施したものである。839～844は天目茶碗で、内反り高台となるものが多い。高台周辺の銷釉は比較的濃い。845は丸碗で、やはり内反り高台をもつ。846・847は丸皿で、高台内に輪ドチ跡が認められる。847の見込にはトチン跡が3箇所残る。その他、848・849は茶入、850は水注、851は水滴、852は仏花瓶である。853～855は黄瀬戸釉を施したものである。853は建水で、底部内外面を除く全面に施釉している。854・855は平碗で、高台周辺には比較的濃い銷釉を施している。856～868は灰釉を施すもので、856・857は丸碗、858は反皿、859～863は端反皿、864～868は丸皿である。皿の多くは高台内に輪ドチ跡を残している。858の口縁には黒色の付着物が認められる。

**瓦質土器** 869～872は香炉である。872以外はスタンプ文を施す。無文の872は輪高台をもつ。

**備前焼** 873は德利で、ヘラ記号が認められる。

**中国製陶磁器** 874～876は青磁である。874は龍泉窯系統B4類、875は同じくE類で、875は見込脇に浅い段状の界線をもつ。876は稜花皿で、内面に草花文を描く。見込の印花は不明瞭である。877～881は白磁である。877～880は端反りの皿で、877は露胎の疊付周辺を黒く塗っている。881は直口の皿で、底部内外面に擦痕が認められる。882～885は染付である。882～884は碗で、882はD群、883はC群に属す。885は皿C群である。884・885は華南系とみられる。

**朝鮮製陶磁器** 886は雜釉、887は白磁の碗である。887の見込と疊付には目跡が4箇所認められる。

**金属製品** 888～890は建築金具で、888は鎌、889は引手金具、890は飾金具である。889の裏側には接着のための漆が残っている。表面にも黒色の付着物があり、漆を塗っていたのかもしれない。891は刀子、892は提子の把手である。893は菊皿で、鍍金したものとみられる。894は用途不明の筒形製品である。板材を曲げて接合した部分の内側に幅の狭い板を貼り付けて補強している。895は包丁のような形の鉄製品で、第54次調査出土で銚鉄と推測されている資料に断面形状や厚さがよく似ている。1366～1395は銅鏡である。一乗谷で出土例の少ないものとしては1381の至和通寶がある。

**木製品** 896・897は漆塗椀で、いずれも内面赤色、外表面黒色である。896は内面に漆が輪状に付着しており、塗装や補修の際の漆容器に利用したものとみられる。897は高台を刃物で削り取っている他、体部に横並びで2箇所の穿孔を施している。ここに柄を取り付けて杓子として利用した可能性がある。898は黒漆塗りの蓋である。内側にはロクロ目がよく残る。899は曲物等の蓋底板である。表面に刃物傷が認められる。900は将棋の「金将」駒である。ヒノキのヘギ板を利用している。901は鑿柄で、鉄製の冠が遺存する。902は栓で、ヒノキの丸木を素材としている。903は刀子の柄である。赤彩痕が所々に認められ、漆塗製品と考えられる。904は釣瓶である。各部材の接合には鉄釘を用いている。905は楔としたが、上部に方形の釘穴が認められ、何らかの部材かもしれない。906は桶類の蓋底板で、接ぎ合わせる際の合釘が遺存する。907は大型船の模型である。本体はヒノキ材をくり抜き、側面に船梁を固定する

方形の穴を3個穿つ。船べりの板を木釘で固定し、そこにも船梁の穴を設けている。帆柱の両脇には簡便な構造を示す窓も表現している。帆柱の位置が台床船梁の前にあることや、丸みを帯びた船首の形状などから「北国船」の模型と考えられる。

石製品 908は浄教寺産とみられる砥石である。端部に施溝分割の痕跡が認められる。909は平面円形の笏谷石製盤である。

### Ⅲ遺構面出土遺物(第20・55・56・65・70図、PL.34・70・71・76・79)

Ⅲ遺構面出土として取り上げられた遺物を一括する。区画としてはほぼB・C・D区に限られ、中でも主要な区画溝であるSD501・1574から出土したものが大半を占める。

越前焼 910はⅢ群の大壺である。東西道路SS493の下層から出土した。154(第20図)は四角い木枠の中に埋置されていたⅣ群の播鉢(SX1786)である。片口をもち、古い要素を残す。胴下部と見込みの播口はすり減ってほぼ消失し、内面全体に炭化物が付着している。

土師質土器 911～923は皿である。911～921はC類、922・923はD類に属す。ほとんどにタール痕が認められる。915は底部に穿孔を施している。924は土釜で、羽部上面に線刻が認められる。

瀬戸・美濃焼 925・926は鉄釉を施すものである。925は天目茶碗で、高台周辺には比較的濃い錆色を施している。926は壺で、底部付近は露胎である。927は灰釉を施す端反皿で、高台内には輪ドチ跡が認められる。

中国製陶磁器 928は青磁で、龍泉窯系碗B4類に属す。胎土は黄土色で、釉調も黄褐色を呈す。

朝鮮製陶磁器 929は雜釉徳利である。底の大きいいわゆる舟徳利で、タタキ成形により器壁を非常に薄く仕上げている。胴部には線刻が認められる。

金属製品 930は鏃とみられる鉄製品で、鍛造品らしく層状に剥離している。931は558を小型にしたような熊手状の金具で、口金が付属する。932は断面U字形の金具で、端部に目釘穴をもつ。内側には接着のための漆が残っており。何らかの縁金具と考えられる。933は小柄、934は用途不明の円盤、1221～1223・1396～1398は銅錢である。

木製品 935・936は漆塗椀である。いずれも内外黒色で、935の見込みには蓬莱文が認められる。937は内外黒色で無文の漆塗皿である。ケヤキ製の上質品である。938は折敷の底板である。正方形の四隅を切った形状で、側板を取り付け固定するための2個一対の穴が対向する2辺にあいている。同様のものと共に10枚程度重なって出土した(挿図9)。939・940は桶の側板で、縫による擦痕や摩耗が認められる。941は草履下駄、942は雪下駄である。943は組物の部材とみられる。側面には中央部の抉



挿図9 折敷938出土状況

りの他、端部に小さな穴がある。また、両面のおおよそ同じ位置に「三」の墨書きが認められる。

石製品 944・945は大きさと形状がよく似た砥石である。石質から仕上砥とみられる。

### 床土出土・表探他遺物(第56～59・70図、PL.71～73・79)

水田床土から出土したものや排土等で採取したもの、グリッドや遺構面が不明なものを一括する。

越前焼 946は短頭甕である。947は片口をもつ壺で、ヘラ記号が認められる。948は小壺で底面にシカ

のような動物を描いた線刻が認められる。

備前焼 949は慈利、950は壹である。

中国製陶器 951は青磁の稜花皿で、体部内面に草花文を配す。見込には「富」銘の印花をもつ。952～960は白磁である。952～955は碗、956～958は端反りの皿、959は高台に弧状の抉りをもつ皿である。960は皿の底部で、高台内に呂須による「大明年造」銘をもつ。961は見込に梅月文を描く染付碗、962はB1群の染付皿である。

朝鮮製陶器 963は白磁の皿である。見込に4箇所の目跡が残る。

金属製品 964は壷止である。引っ掛けた先の金具が鏽付いている。965は引手金具の縁の部分である。周囲に細かい線を刻んで菊花状に仕上げた上に鍍金したものとみられる。裏側には接着のための漆が付着している。966は周囲に刻みを施した切羽である。表面と側面に黒色漆が付着している。1399～1427は銅鏡である。一乘谷で出土例の少ない銅鏡としては1427の延寧通寶がある。

木製品 967は露卯下駄である。表面は踵部に鳥らしき線刻模様がある他、全体に点々と黒色の漆様付着物が認められる。また、後緒穴には横縞を留めるための楔が遺存している。968は雪下駄とみられるが、両側縁と後端部にも穿孔を施している。969は鍛挽きの痕跡をよく残す板材である。

骨製品 970・971は双六の駒である。971は両面に各6個の目があり、赤色顔料の付着もみられる。

石製品 972は箱形のミニチュア製品で、用途は不明である。973は球状石製品である。974は鉢で、内外面とも平滑に仕上げている。975は平面円形の盤で、三足を削り出している。976は粉挽臼の上臼、977・978は同じく下臼である。臼面はいずれも8分画で、976には鉄製の、977には木製の芯棒が遺存している。979・980は石仏である。979は如意輪觀音像で、両脇に「菩薩童子也」「庚」「月三日」の銘文を彫刻している。銘文内には赤彩色が遺存する。980は地蔵菩薩像で、赤彩色とその上の金彩色が遺存する。981は組合五輪塔の水輪である。982～984は一石五輪塔である。982は「妙法蓮華経」の題目と「永禄〇年」「妙法蓮華」「正月十四日」の銘文をもつ。983は「妙法蓮華経」の題目をもつ。984は表面の剥落が著しいが、金彩を施した「正月十三日」の銘文が認められる。

最後に写真のみ掲載(PL.79・80)した遺物について記述しておきたい。出土位置などの詳細については表9(PL.80)に記載した。

1428～1431は墨書のある土師質皿で、「高」「聖」「般」「寅」といった文字が読み取れる。1431は中央に「大般若」、周囲に「寅」など十二支の文字を配したものと推定され、般若經を守る十六善神(十二神将および四天王)を表現した可能性がある。1432～1435は金箔を施した土師質皿である。1433の外側は金箔が剥がれ、接着に利用した漆様の付着物がわずかに遺存している。1436は元様式染付の稜花皿で、体部内面に唐草文、見込に蓮の葉と思しき文様を描く。1437は朝鮮製の雜釉碗で、見込と覺付に各8箇所の目跡がある。欠失部を含めると10箇所あったものと考えられる。1438は漆塗皿の高台部である。内面と覺付は黒色、外側面は赤色で、高台内に朱書の文字をもつ。1439は皮札を縫じ合わせて漆を施した小札である。1440・1441は数珠卡で、1440は藤色のガラス製、1441は水晶製である。1442は雲母片で、香道具と想定される。1443はスサを含む壁土で、径2cmの竹小舞の圧痕が認められる。壁土はD1区SX1822付近のII造構面で多く採取されている。1444は墨表である。経糸が確認でき、その間隔は6mm程度でほぼ均等である。一目の中に2本の経糸を織り込んだ諸目表とみられる。1445は炭化糀で、表面に墨表やヘギ板が張り付いている。炭化糀はD1区東側のII造構面で集中的に出土している。

表3 土器・陶磁器観察表

注1：土器の記号は次の通り。①微細粒（径1mm以下）を少量含む、②微細粒（径1mm以下）を多量含む、③砂粒（径1~2mm）を含む、④小石（径2mm以上）を含む。

注2：色調は新編「進洋土色鉄2007年版」に基づく。

No.	種類	区域	面	地区	層/遺構	測量(cm)	地質	外観	内面	備考	部	PL
大別	細別											
1	瓦類	豊原市	A	I	T72	石垣	198	-	-	②(1) にじやき 神 11 25	神	
2	埴輪	豊原市	A	I	P73	石垣	116	-	-	②(1) にじやき 神 11 25	神	
3	埴輪	豊原市	A	I	S-T69, T70, U72	SV1622, SS1564等	428	162	190	②(2) にじやき 瓦 11 25	瓦	
4	埴輪	豊原市	A	I	S70~72, T~U72	石垣	192	32	136	③(3) にじやき 瓦 11 25	瓦	
5	埴輪	跡	A	I	U70~72	壁土, SV1622	265	68	136	③(3) にじやき 瓦 11 25	瓦	
6	土師質	瓦	A	I	P73	石垣	91	22	44	① 滑面質	滑	11 25
7	土師質	瓦	A	I	T70	石垣	98	23	45	① 滑面質	滑	11 25
8	土師質	瓦	A	I	T70	SD1668	107	21	52	① 滑面質	滑	11 25
9	土師質	瓦	A	I	S70	石垣	106	21	60	① 滑面質	滑	11 25
10	土師質	瓦	A	I	U72	SV1622	156	25	104	① 滑面質	滑	11 25
11	土師質	瓦	A	I	P73	石垣	143	26	102	① 滑面質	滑	11 25
12	窯器・湯器	天日井城	A	I	U72	石垣	88	48	32	① 黒 12 26	黑	
13	窯器・湯器	天日井城	A	I	S72	石垣	48	-	-	① 滑面質	滑	12 26
14	窯器・湯器	天日井城	A	I	T70	石垣	163	58	61	① 滑面質	滑	12 26
15	窯器・湯器	天日井城	A	I	T70~72	壁土, SV1622	110	24	37	① 滑面質	滑	12 26
16	窯器・湯器	天日井城	A	I	J72	SV1622	115	25	42	② 滑面質	滑	12 26
17	窯器・湯器	天日井城	A	I	Q72	壁土	-	-	-	② 滑面質	滑	12 26
18	窯器・湯器	天日井城	A	I	P73	石垣	298	-	-	① オリーブグリーン 12 26	绿	
19	中國	白磁器	A	I	N46, U72	SV1622	123	33	68	① 灰白	灰白	12 26
20	中國	白磁器	A	I	Q71~72	壁土, 磁土	114	25	50	① 明瞭灰 12 26	明瞭灰	
21	中國	白磁器	A	I	Q72	壁土, 磁土	110	29	58	① 灰白	灰白	12 26
22	中國	白磁器	A	I	A70	SD501	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
23	中國	白磁器	A	I	T70	石垣	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
24	中国	白磁器	A	I	P46~S70	石垣他	66	45	28	① 灰白	灰白	12 26
25	中国	白磁器	A	I	P73	石垣他	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
26	中国	白磁器	A	I	T70	石垣	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
27	中国	白磁器	A	I	T72	石垣	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
28	中国	白磁器	A	I	T70	石垣	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
29	中国	白磁器	A	I	T70	石垣, 磁土	117	29	64	① 明瞭灰 12 26	明瞭灰	
30	中国	白磁器	A	I	U72	SV1622	117	28	64	① 明瞭灰 12 26	明瞭灰	
31	中国	白磁器	A	I	R71	壁土	-	-	-	① 明瞭灰 12 26	明瞭灰	
32	中国	白磁器	A	I	P73	壁土	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
33	朝鲜	波形瓦	A	I	T~T70	石垣, 壁土	-	-	-	① 灰白	灰白	12 26
34	朝鲜	人型	A	I	Q71~72	壁土, 底土, 底土	-	-	-	② 暗灰 12 27	暗灰	
35	朝鲜	人型	A	I	P72, Q71	底土, 底土	-	-	-	③ 暗灰 12 27	暗灰	
36	越後	漆器	A	I	Q71	SIK174	336	112	26	② 暗赤 12 27	暗赤	
37	越後	漆器	A	I	S70, Q72~U68他	底土, 壁土, 壁土他	426	119	204	③ 明瞭赤 12 27	明瞭赤	
38	土師質	罐	A	I	Q70	SD1741	69	17	34	③ 灰白	灰白	12 27
39	土師質	罐	A	I	Q70	SD1741	71	18	31	① にじやき 12 27	にじやき	
40	土師質	罐	A	I	Q73	SD1741	84	21	45	⑤ 灰白 12 27	灰白	
41	土師質	罐	A	I	Q75	SD1741	85	20	48	① にじやき 12 27	にじやき	
42	土師質	罐	A	I	Q75	SD1741	86	19	53	⑤ 灰白 12 27	灰白	
43	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	86	20	45	① 灰白 12 27	灰白	
44	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	96	22	44	① 明瞭灰 12 27	明瞭灰	
45	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	109	20	55	① 灰白 12 27	灰白	
46	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	113	24	58	① にじやき 12 27	にじやき	
47	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	125	19	69	② 暗赤 12 27	暗赤	
48	土師質	罐	A	I	P71	土壌	208	27	56	② 成熟灰 12 27	成熟灰	
49	土師質	罐	A	I	Q75	SD1741	211	23	150	① 灰白 12 27	灰白	
50	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	33	54	30	① 灰白 12 27	灰白	
51	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	68	30	33	① にじやき 12 27	にじやき	
52	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	88	30	33	① にじやき 12 27	にじやき	
53	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	100	10	40	① にじやき 12 27	にじやき	
54	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	104	28	62	① 灰白 12 27	灰白	
55	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	104	22	43	① 暗赤 12 27	暗赤	
56	土師質	罐	A	I	Q76	SD1741	104	22	48	① 深墨 12 27	深墨	
57	土師質	小甕	A	I	Q73	土壌	33	54	30	① 灰白 12 27	灰白	
58	豊原・安佐	大日井槽	A	I	P73	土壌	68	30	33	① にじやき 12 27	にじやき	
59	豊原・安佐	牛頭山	A	I	R73	土壌, 石垣下層	25	58	30	① オリーブ 12 27	オリーブ	
60	豊原・安佐	物置	A	I	U70	SIK1728	-	-	-	① 暗赤 12 27	暗赤	
61	豊原・安佐	瓦	A	I	O72	壁土	104	28	62	① 成熟灰 12 27	成熟灰	
62	豊原・安佐	瓦	A	I	Q72	壁土	104	22	43	① 暗赤 12 27	暗赤	
63	豊原・安佐	瓦	A	I	S70	壁土	108	-	-	① 暗赤 12 27	暗赤	
64	豊原・安佐	瓦	A	I	Q7-	壁土	103	27	55	① オリーブ 12 27	オリーブ	
65	豊原・安佐	瓦	A	I	Q7-	瓦	123	54	83	② 灰白 12 27	灰白	
66	中空	瓦	A	I	P23, Q72	壁土, 壁土	160	-	-	① 暗赤 12 27	暗赤	
67	中空	瓦	A	I	S70	壁土	122	-	-	① 暗赤 12 27	暗赤	
68	中空	瓦	A	I	Q72	瓦	118	-	-	① 暗赤 12 27	暗赤	
69	中空	瓦	A	I	Q7-	瓦	130	70	49	① 暗赤 12 27	暗赤	
70	中空	瓦	A	I	Q7~72, S72	壁土	164	-	-	② 暗赤 12 27	暗赤	
71	瓦	寺	A	I	P72~73, S72	石垣	164	-	-	③ 暗赤 12 27	暗赤	
72	瓦	寺	A	I	T70	土壌	-	-	-	④ 暗赤 12 27	暗赤	
73	瓦	寺	A	I	Q75	土壌, 磁土	-	-	-	⑤ 暗赤 12 27	暗赤	
74	瓦	寺	A	I	K49, M71~72	土壌, 磁土	-	-	-	⑥ 暗赤 12 27	暗赤	
75	瓦	寺	A	I	T69, U68	SD1569, SD1567等	384	-	-	⑦ 暗赤 12 27	暗赤	
76	瓦	寺	A	I	M64, M71~72, P64, U68	灰土色, 灰土色	172	-	-	⑧ 暗赤 12 27	暗赤	
77	瓦	寺	A	I	S75~58, R56	SD1569	162	283	78	⑨ 暗赤 12 27	暗赤	
78	瓦	寺	B	I	S69	SD1569	62	124	90	⑩ 暗赤 12 27	暗赤	
79	瓦	寺	B	I	M65~67, P61他	SD1569, SD1572等	295	31	142	⑪ 暗赤 12 27	暗赤	
80	瓦	寺	B	I	T64	土壌	1,2	82	10	⑫ 暗赤 12 27	暗赤	
81	瓦	寺	B	I	P67	SD1569	64	20	34	⑬ 暗赤 12 27	暗赤	
82	瓦	寺	B	I	R69	SD1604名残土質	65	15	53	⑭ 暗赤 12 27	暗赤	

No.	種別	区分	固有	地区	帰/直進	生長(cm)	耐土	色調	外因		備考	固	PL	
									D地	高さ	底性			
99	1.耐震	直	H	I	E69	SE1665-6耐震土	68	7.2	22	①	じん・青緑	B緑	項目	16
99	1.耐震	直	B	I	E69	SP1665-6耐震土	74	20	51	①	じん・青緑	B緑	項目	16 30
99	1.耐震	直	H	I	E69	SE1665-6耐震土	67	6	36	①	じん・青緑	B緑	項目	16 30
99	1.耐震	直	B	I	E69	SE1665-6耐震土	75	6	53	①	じん・青緑	B緑	項目	16 30
99	土壤質	直	B	I	E69	SE1665-6耐震土	57	15	24	①	底白	C緑	タール灰	16 30
94	土壤質	直	B	I	E69	SE1665-6耐震土	85	17	46	①	にじ・青緑	C緑	タール灰	16 30
95	透水口・表面	天日差無	B	I	E69	SE1665-6耐震土	1.5	-	-	①	無色	無色	大空2	16 30
96	透水口・表面	天日差無	B	I	E69, 25%	SE1665-6耐震土	1.8	64	41	①	無色	無色	大空2	16 30
97	透水口・表面	底物内充填	B	I	N66, 67, O66他	粘土, SD1570他	1.4	39.2	151	①	暗緑	暗緑	大緑・赤外面「印丹株」路	16 30
98	透水口・表面	底物内充填	B	I	T66	観石面	126	49	41	①	底白	底白	人面2	16 30
99	透水口・表面	底物内充填	B	I	T66	SD1570	112	28	65	①	淡黄	底白	大緑2 黒ドナガ 滞留版	16 30
100	透水口・表面	底物内充填	B	I	Q57~58	SD1574他	118	26	44	①	底白	底白	古跡・復古・見込・足ナシ	16 30
101	透水口・表面	底物内充填	B	I	Q57	パンドコ内	109	24	61	①	底白	底白	高台門下子母	16 30
102	透水口・表面	底物内充填	B	I	U68	SD651	87	23	45	①	底白	底白	大空2	16 30
103	透水口・表面	底物内充填	B	I	E69, 70	SD1569~1666他	82	60	80	①	淡黄	底白	人面	16 30
104	中国	青緑葉	B	I	S64, T65	SK1786, SB1555	102	59	34	①	底白	リーフ	底物各色見込「富」印化	16 31
105	中国	青緑葉	B	I	T~67, U68, A66他	SD61, SR1596他	40	38	60	①	底白	リーフ	底物各色見込「富」印化	16 31
106	中国	青緑葉	B	I	S64, T65, U68他	SD61, SB1555他	44	-	-	①	黒・青	リーフ	底物各色見込「富」印化	16 31
107	中国	青緑葉	B	I	Q57	パンドコ内	10	27	36	①	底白	底白	内側側下部は露地	16 31
108	中国	青緑葉	B	I	Q57	パンドコ内	07	29	35	①	浅黄	浅黄	内側側下部は露地	16 31
109	中国	青緑葉	B	I	T, 71~72	-	214	-	-	①	明緑	明緑	明緑灰	16 31
110	中国	青緑葉	B	I	M68, P69他	SD1665他	-	-	89	①	黒・灰	黒・灰	下鉢板、45度出土と接合	16 31
111	中国	白葉類	B	I	Q57	パンドコ内	117	31	64	①	底白	底白	見込の月桂樹	16 31
112	中国	白葉類	B	I	Q57	-	108	26	52	①	リーフ	リーフ	見込の月桂樹	16 31
113	中国	白葉類	B	I	O58	SD1575	104	27	63	①	底白	底白	見込の月桂樹・底物各色	16 31
114	中国	白葉類	B	I	S64	SD1665	120	29	59	①	底白	底白	高台面に青花いじるよ草筋模	16 31
115	中国	白葉類	B	I	T, 71~72	-	160	-	-	①	底白	底白	1月剪詰さ 青白模	16 31
116	中国	白葉類	B	I	A66	SD61	69	23	-	①	底白	底白	底白	16 31
117	中国	白葉類	B	I	O66	SD1570	-	-	21	①	底白	底白	見込の月桂樹	16 31
118	中国	白葉類	B	I	N69, 70	-	-	-	24	①	底白	底白	見込の月桂樹	16 31
119	中国	白葉類	B	I	Q57	-	116	61	43	①	明緑	明緑	見込の月桂樹・底物各色	16 31
120	中国	白葉類	B	I	T, 69	粘土	-	-	44	①	底白	底白	底物無	16 31
121	中国	白葉類	B	I	H67他	壁上, 床上	87	37	32	①	底白	底白	120の春	16 31
122	中国	白葉類	B	I	L57他	I~C, 床上	98	65	63	①	底白	底白	12月の食	16 31
123	中国	白葉類	B	I	A68	SD61	117	79	33	①	底白	底白	黒物・底物・木目・複数面	16 31
124	中国	白葉類	B	I	D64	SD61	24	-	-	①	底白	底白	底物無	16 31
125	中国	白葉類	B	I	J63	-	78	-	-	①	底白	底白	見込の月桂樹	16 31
126	研磨	CR04	B	I	J68	-	-	-	56	①	底白	底白	底白	16 31
127	研磨	白葉類	B	I	A, U65	SB1565, SS493他	133	51	80	①	底白	底白	見込の月桂樹・底物各色	16 31
128	塑性	底物無	B	I	K~M9, L71~72	-	-	-	50	②	底白	底白	見込・蓋付に且既名5	16 31
129	塑性	底物無	B	I	M71~72, Q~999	SP1665他	-	-	54	②	底白	底白	見込・蓋付に既既名N	16 31
130	塑性	底物無	B	I	Q57	-	333	-	-	②	底白	底白	底白	16 31
144	被覆	大葉	B	I	N66, 68	粘土, 草原地色土	88.0	-	-	②	黄葉	黄葉	IV群と, 四脚	16 33
145	被覆	大葉	B	I	G65~68, R~U66~69	SD1730~1733, SA1626他	72.1	-	-	④	にじ・青緑	IV群と	神印	16 33
146	被覆	大葉	B	I	Q54, 63~65他	粘土, 土, 砂質土	83.4	-	-	②	底白	底白	見込の月桂樹	16 33
147	被覆	中葉	B	I	P56, K57, M56	SD1732~1734	382	-	-	②	底白	底白	IV群と	16 33
148	被覆	弱被覆	B	I	M64~66, 257, 156	粘土, 土	20.4	-	-	②	底白	底白	底物無	16 33
149	被覆	弱被覆	B	I	T, 67	泥炭	162	229	134	③	底白	底白	内側側面に泥炭	16 33
150	被覆	弱被覆	B	I	M53~56他	SD1570他	149	263	180	③	底白	底白	江口 ハラ記	16 33
161	被覆	弱被覆	B	I	R~S, S66	泥炭	69	20	90	③	底白	底白	暗被覆 ハラ記	16 33
152	被覆	弱被覆	B	I	S, S66	粘土	-	-	80	③	にじ・青緑	青緑	ハラ記と, 歪曲内面に付着物	16 33
153	被覆	弱被覆	B	I	M66	粘土	46	106	72	②	底白	底白	ハラ記	16 33
154	被覆	泥炭	B	I	T, 65	SD1786	34.4	112	154	②	底白	底白	カク, 口付, 蓋既付, 水目1, 花紋2	16 34
155	被覆	泥炭	B	I	J67	泥炭	22.6	91	115	②	底白	底白	明被覆, 明既付, 水目1, 口付1, 水目2, 水目3	16 34
156	被覆	泥炭	B	I	U68	泥炭	23.8	82	125	②	底白	底白	既付, 水目1	16 34
157	被覆	泥炭	B	I	M~O62他	粘土魚	37.6	139	165	②	底白	底白	既付, 水目1	16 34
158	被覆	泥炭	B	I	P, F57	ピット, 壁	32.3	106	138	②	底白	底白	既付, 水目1	16 34
159	被覆	泥炭	B	I	E, S67他	SD1692, 施肥地	41.9	182	176	②	底白	底白	既付, 水目1	16 34
160	被覆	泥炭	B	I	E, N68	泥炭地土	85.0	112	-	①	底白	底白	底白	21 35
161	1.耐震	直	B	I	E, M66	SD1570	67	22	39	①	にじ・青緑	底白	底白	21 35
162	1.耐震	直	B	I	S, S66	泥炭	70	17	38	①	青緑	底白	底白	21 35
163	1.耐震	直	B	I	E, S64	粘土	61	14	20	①	底白	底白	A緑, タール灰	21 35
164	1.耐震	直	B	I	E, M66	SD1570	63	14	30	①	底白	底白	C緑	21 35
165	1.耐震	直	B	I	E, S67	SD1570	66	15	39	①	底白	底白	C緑	21 35
166	1.耐震	直	B	I	E, S66	泥炭	65	16	24	①	底白	底白	タール灰	21 35
167	1.耐震	直	B	I	E, S67	泥炭	66	16	34	①	底白	底白	タール灰	21 35
168	1.耐震	直	B	I	E, M66	SD1570	61	15	33	①	底白	底白	C緑	21 35
169	1.耐震	直	B	I	E, M66	SD1570	66	15	37	①	底白	底白	C緑	21 35
170	上耕界	直	B	I	S, S66	泥炭	65	17	30	①	にじ・青緑	底白	底白	21 35
171	上耕界	直	B	I	E, M66	SD1570	72	17	37	①	にじ・青緑	底白	底白	21 35
172	上耕界	直	B	I	S, S66	粘土	71	15	32	①	底白	底白	タール灰	21 35
173	上耕界	直	B	I	E, S64	粘土	86	20	28	①	底白	底白	タール灰	21 35
174	上耕界	直	B	I	E, S65	泥炭	87	19	44	①	にじ・青	底白	タール灰	21 35
175	上耕界	直	B	I	E, M66	SD1570	85	19	50	①	底白	底白	タール灰	21 35
176	上耕界	直	B	I	E, S66	泥炭	90	20	46	①	にじ・青緑	底白	底白	21 35
177	上耕界	直	B	I	E, S66	泥炭	93	20	34	①	にじ・青緑	底白	底白	21 35
178	上耕界	直	B	I	E, S65	泥炭	91	22	40	①	底白	底白	タール灰	21 35
179	上耕界	直	B	I	S, S66	泥炭	92	19	48	①	にじ・青	底白	タール灰	21 35
180	上耕界	直	B	I	E, M66	SD1570	90	23	44	①	底白	底白	タール灰	21 35
181	上耕界	直	B	I	E, M66	SD1570	98	25	55	①	にじ・青緑	底白	タール灰	21 35
182	1.耐震	直	B	I	E, L65	粘土	108	24	60	①	底白	底白	D緑, 外部外層者	21 35

No.	種類	区画	面	地区	層/造形	底面積(cm)	負面		備考	面	PL
							外側	内側			
183	土砂質	Ⅲ	B	K72	粘土	165 24 90	①	厚白	D類	底部分外底付	21 35
184	上層質	上	B	K72	粘土	115 -	①	上白	中白	-	21 35
185	土砂質	小魚	B	I 1.57	粘土	26 27 10	①	厚白	灰白	-	21 35
186	土砂質	小魚	B	I 0.72	泥炭	26 24 8	①	厚白	灰白	-	21 35
187	土砂質	紅茶野	B	I 1.66	泥炭	167 20 4	①	上白	中白	-	21 35
188	土砂質	紅茶野	B	I 0.57	粘土	182 150 4	①	上白	中白	-	21 35
189	礁石	大只	B	K57	SDF1744粘 I	115 47 39	①	上白	中白	大魚 I	22 36
190	礁石	大只	B	M71	粘土	124 64 44	①	厚白	灰白	大魚 II	22 36
191	礁石	大只	B	K-M68, N70	粘土	126 62 49	①	厚白	灰白	大魚 III	22 36
192	礁石	大只	B	M68	SDF1870	112 59 46	①	厚白	灰白	大魚 IV 高台周辺露胎	22 36
193	礁石	大只	B	Q64	粘土	109 26 57	①	厚白	灰白	大魚 V	22 36
194	礁石	大只	B	Q65	土	110 26 56	①	厚白	灰白	大魚 VI トシ・崎ド子搭	22 36
195	礁石	大只	B	Q68	粘土	60 -	①	上白	中白	-	22 36
196	礁石	大只	B	K72	土	78 -	①	上白	中白	ナーフ	22 36
197	礁石	大只	B	Q57-58	SD1574礁	-	①	厚白	灰白	礁場 細切り板 塗面塗付骨物	22 36
198	礁石	大只	B	Q69	青色強化土	21 21 38	①	厚白	灰白	礁場 余り質	22 36
199	礁石	大只	B	L68	粘土	72 -	①	厚白	灰白	礁場 電動刷毛洗輪	22 36
200	礁石	大只	B	Q69	粘土	150 -	①	厚白	灰白	礁場 余り質 内面露胎	22 36
201	礁石	大只	B	U67礁	底層	118 -	①	厚白	灰白	礁場 余り質 内面露胎	22 36
202	礁石	大只	H	K57, M68, Q56	SD1574	7.6 59 5.8	①	厚白	オーリー	大魚 I 暫ド子搭	22 36
203	礁石	大只	B	M69	粘土	60 -	①	淡黄	淡黄	人魚	22 36
204	礁石	大只	B	U67-68	SX1780, 黄壁	158 -	①	淡黄	淡黄	人魚	22 36
205	礁石	大只	B	N66	SD1570	122 -	①	厚白	灰白	人魚 I	22 36
206	礁石	大只	B	L60, O59	粘土	11.4 -	①	厚白	灰白	人魚 II	22 36
207	礁石	大只	B	T67, U68	泥炭	11.0 69 54	①	淡黄	淡黄	人魚 III 暫ド子搭	22 36
208	礁石	大只	B	T67	底層	-	②	淡黄	淡黄	人魚 IV 暫ド子搭	22 36
209	礁石	大只	B	I 68	粘土	11.6 -	①	淡黄	灰白	人魚 V	22 36
210	礁石	大只	B	U67	底層	9.4 24 50	①	厚白	灰白	人魚 VI 印花	22 36
211	礁石	大只	B	U64	底土	9.0 25 50	①	淡黄	淡黄	大魚 I 白花	22 36
212	礁石	大只	B	M66	SD1570	10.5 21 62	①	淡黄	淡黄	大魚 II 印花 暫ド子搭	22 36
213	礁石	大只	B	T67	底土	9.1 25 52	①	厚白	灰白	大魚 III	22 36
214	礁石	大只	B	I 60	SD1570	8.4 19 44	①	厚白	灰白	大魚 IV 印花 暫ド子搭	22 36
215	礁石	大只	B	I 67-68	底土	11.0 26 56	①	厚白	灰白	大魚 V 印花 暫ド子搭	22 36
216	礁石	大只	B	I 67	底層	-	②	厚白	灰白	大魚 VI 印花 暫ド子搭	22 36
217	礁石	大只	B	I 66	粘土	9.8 20 56	①	厚白	淡黄	大魚 VII 印花	22 36
218	礁石	大只	B	S66	底層	10.2 29 56	①	淡黄	淡黄	大魚 VIII 印花	22 36
219	礁石	大只	B	P59	黃土	11.2 30 60	①	明透	明透	人魚 I 背面ソリ	22 36
220	礁石	大只	B	T66	底土	6.4 15 34	①	厚白	厚白	大魚 I 厚外面部中央	22 36
221	礁石	大只	B	T66	底土	52 14 36	①	厚白	淡黄	大魚 II 印花	22 36
222	礁石	大只	B	I 66	SD1570	70 15 36	①	厚白	淡黄	大魚 III 印花	22 36
223	礁石	大只	B	I 67	底土	71 17 33	①	厚白	淡黄	大魚 IV 印花	22 36
224	礁石	大只	B	I 63	底土	-	②	厚白	淡黄	大魚 V 印花	22 36
225	礁石	大只	B	I 63	底土	71 16 40	①	厚白	灰白	大魚 VI 印花	22 36
226	礁石	大只	B	I 67	底土	11.2 27 62	①	厚白	灰白	大魚 VII 印花 暫ド子搭	22 37
227	礁石	大只	B	I 67	SD1570	47 55 30	①	淡黄	淡黄	底状の脚部文 先端付	22 37
228	礁石	大只	B	I 67	底土	4.1 28 22	①	厚白	厚白	脚部	22 37
229	瓦	骨利	B	S64	粘土	52 14 36	①	厚白	淡黄	瓦 I	22 37
230	瓦	骨利	B	I 58-59	粘土	16.8 47 15.6	①	厚白	淡黄	瓦 II 湿透スタンプ文	22 37
231	瓦	骨利	B	I 60	SD1570	7.8 74 16.0	①	厚白	厚白	瓦 III 花文	22 37
232	瓦	骨利	B	I 60	粘土	12.8 -	①	厚白	厚白	瓦 IV 花文	22 37
233	瓦	骨利	B	I 65-66, Q67	SD1570, 粘土	16.2 -	①	厚白	厚白	瓦 V 湿透時	22 37
234	瓦	骨利	B	I 67-68, P58	ピット, SD1574	15.0 -	①	厚白	厚白	瓦 VI 時代	22 37
235	瓦	骨利	B	I 67	SD1570	47 55 30	①	淡黄	淡黄	底状の脚部文 先端付	22 37
236	瓦	骨利	B	I 67	底土	13.6 30 62	①	厚白	厚白	脚部	22 37
237	瓦	骨利	B	S64	粘土	13.9 34 62	①	厚白	厚白	大魚 I 厚外面部中央	22 37
238	瓦	骨利	B	T-L65	粘土	14.0 30 58	①	厚白	厚白	大魚 II 厚外面部中央	22 37
239	瓦	骨利	B	I 66-69, U69	SD1570	16.2 -	①	明透	明透	大魚 III 明透	22 37
240	瓦	骨利	B	P57	底土	10.2 29 50	①	厚白	厚白	大魚 IV 明透	22 37
241	瓦	骨利	B	N68	泥炭地土	7.5 57 75	①	厚白	厚白	瓦各部 外部に沈化 4種	22 37
242	瓦	骨利	B	I 67-68	粘土	11.3 32 64	①	厚白	厚白	瓦各部	22 37
243	瓦	骨利	B	I 69	SD1570	11.0 26 52	①	厚白	淡黄	瓦各部	22 37
244	瓦	骨利	B	I 68	底土	11.6 30 62	①	厚白	厚白	瓦各部	22 37
245	瓦	骨利	B	O-Q61	粘土, I (厚)粘土	11.5 26 62	①	厚白	厚白	瓦各部	22 37
246	瓦	骨利	B	N56-60, Q59	粘土, I (厚)粘土, SD1574	10.7 29 43	①	厚白	厚白	瓦各部	22 37
247	瓦	骨利	B	P67	粘土	-	⑥	厚白	厚白	高台内側面 深切痕	22 37
248	瓦	骨利	B	I 69	粘土	-	⑥	厚白	厚白	高台内側面 深切痕	22 37
249	瓦	骨利	B	M72	粘土	-	⑥	厚白	厚白	高台内側面 深切痕	22 37
250	瓦	骨利	B	I 64	粘土	-	⑥	厚白	厚白	高台内側面 深切痕	22 37
251	瓦	骨利	B	S-T67	粘土	7.2 33 23	①	厚白	厚白	高台内側面 深切痕	22 37
252	瓦	骨利	B	M70	粘土	14.0 -	①	厚白	厚白	明透	22 38
253	瓦	骨利	B	N57	粘土	-	③	厚白	明透	明透	22 38
254	瓦	骨利	B	I 67-72, Q72	SD1574, 厚骨利	3.4 47 56	①	厚白	厚白	骨利文 見出文 見出	22 38
255	瓦	骨利	B	K57, M66, Q57	SD1574	1.3 28 70	①	厚白	明透	明透	22 38
256	瓦	骨利	B	I 69	青色骨利地土	3.4 24 72	①	厚白	明透	明透	22 38
257	瓦	骨利	B	I 64-65	粘土, SD1570	8.7 22 57	①	厚白	明透	明透	22 38
258	瓦	骨利	B	I 66	SD1570	13.2 24 81	①	厚白	明透	明透	22 38
259	瓦	骨利	B	I 68	粘土	14.4 -	①	厚白	明透	明透	22 38
260	中型	椎付瓦	B	M71	粘土	14.0 35 81	①	厚白	明透	明透	22 38
261	中型	椎付瓦	B	Q64-U68	SD1607, 植屋	4.6 -	②	厚白	厚白	中型系	22 38
262	中型	椎付瓦	B	I 68	SD1607	12.2 31 44	①	厚白	厚白	中型系	22 38
263	中型	椎付瓦	B	E-K57-154, M66地土	SD1584-1574地土	356 67 230	①	厚白	明透	明透	22 38
264	中型	椎付瓦	B	S-T-S 764	粘土	3.8 60 18.6	①	厚白	明透	明透	22 38
265	中型	椎付瓦	B	I 67	底土	13.8 -	②	厚白	厚白	底土	22 38

No.	種類	区画	品種	地区	品種/選択	粒径(cm)	粒長	底厚	胚乳	色調		備考	測定 PL
										外観	内面		
264	穀類	穀類	R	E	T-69	SD-695	-	-	46	灰白	灰白	谷粒に目辨	25.39
265	小麥	B	E	P-Q57, P-R58等	SD-574, SS-565等	26.6	.28	130	(黑) 黑褐	灰白	穀粒底底黒	25.39	
316	穀類	C	I	O56, Q59, 61等	SD-574, SS-565等	33.0	11.0	16.0	(黑) 黑	灰白	穀粒底底黒	28.42	
317	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	57	17	28	(黑) 黄青	灰白	3種、ターレル	28.42
318	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	62	16	37	(黑) 黄	灰白	3種、ターレル	28.42
319	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	61	18	30	(黑) 黄	灰白	3種、ターレル	28.42
320	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	67	18	34	(黑) 黄	灰白	水目 ターレル	28.42
321	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	66	16	37	(黑) 黄	灰白	中種、ターレル	28.42
322	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	65	19	46	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
323	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	64	18	30	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
324	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	73	20	41	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
325	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	72	18	43	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
326	七穀豆	黒	C	I	P63	SP1606	68	23	38	(黑) 黄	灰白	中種、ターレル	28.42
327	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	82	24	47	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
328	上野豆	黒	C	I	P63	SP1606	52	15	28	(黑) 黄	灰白	中種	28.42
329	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	67	18	41	(黑) 黄	灰白	全粒に深緑	28.42
330	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	85	16	32	(黑) 黄	灰白	中種、打球丸、ターレル	28.42
331	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	89	19	36	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
332	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	81	21	42	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
333	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	89	22	43	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
334	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	88	20	40	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
335	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	85	25	46	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
336	土郎豆	黒	C	I	Q62	SP-629	92	22	50	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
337	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	82	21	40	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
338	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	89	20	46	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
339	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	87	22	48	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
340	大穀豆	黒	C	I	P63	SP1606	101	21	48	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
341	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	85	22	50	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
342	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	86	24	48	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
343	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	85	22	44	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
344	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	90	25	42	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
345	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	94	22	52	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
346	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	100	23	56	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
347	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	98	20	50	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
348	土郎豆	黒	C	I	P63	SP-628	105	22	57	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
349	土郎豆	黒	C	I	P63	SP-628	106	19	62	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
350	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	112	21	69	(黑) 黄	灰白	ターレル	28.42
351	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	108	24	63	(黑) 黄	灰白	明暎灰	28.42
352	土郎豆	黒	C	I	P63	SP1606	118	22	65	(黑) 黄	灰白	明暎灰	28.42
353	十勝黄	黒	C	I	P63	SP1606	163	23	113	(黑) 黄	灰白	明暎灰	28.42
354	穀類	黒	C	I	Q-100, U-61等	SD1972, 土郎豆	17.7	64	39	(黑) 黄	灰白	穀粒、米粒、大粒2	28.43
355	穀類	黒	C	I	N-96, PG3, Q-60等	SP1606, SD-1572等	118	62	41	(黑) 黄	灰白	人定2、青穀豆	28.43
356	中国	青穀豆	C	I	R-53, 他	SD1972, SD-1600等	23	36	65	(青) 青	青白	内面青毛先、足立山豆田作	28.43
357	中国	青穀豆	C	I	S-5976	SD1972, 土郎豆	118	33	58	(青) 青	青白	明暎灰、内面草花皮、足立山豆田作	28.43
358	中国	青穀豆	C	I	S-58, 59, T-59	SD1972	95	-	-	(青) 青	青白	角の八角形	28.43
359	中国	青穀豆	C	I	A-60, 235等	SD600, 土郎豆	95	28	43	(青) 青	明暎灰、明暎灰、内面青毛先	28.43	
360	中国	青穀豆	C	I	Q-59, 60等	SS-1565, SD-1572等	95	68	44	(青) 青	青白	筋跡青	28.43
361	中国	青穀豆	C	I	A-61	SD600等	112	28	60	(青) 青	青白	筋跡青	28.43
362	中国	青穀豆	C	I	S-66, T-59	土郎豆	-	-	36	(青) 青	青白	足立山豆田作	28.43
363	中国	青穀豆	C	I	T-60	土郎豆	68	-	-	(青) 青	青白	足立山豆田作	28.43
364	中国	青穀豆	C	I	T-59	SD1572	-	-	50	(青) 青	青白	内面青毛先、青白	28.43
365	中国	青穀豆	C	I	S-60, T-59	土郎豆	153	34	90	(青) 青	灰白	D1群	28.43
366	中国	青穀豆	C	I	P63	SP1606	155	-	-	(青) 青	灰白	F群	28.43
371	前胡	大根	C	I	R-62, R60	SD1732, 水浸	-	-	-	(前) 前	灰白	IV群、神印	29.44
372	前胡	人參	C	I	Q-65~63, P63	SD1731	-	-	-	(前) 前	灰白	IV群、神印	29.44
373	前胡	双	C	I	Q-62, R60	SD1731	117	187	127	(前) 前	灰白	ヘラ記号	29.44
374	前胡	雙	C	I	S-62, T-63	SD1572	105	-	-	(前) 前	灰白	ヘラ記号	29.44
375	前胡	根株	C	I	R-60, S-68, S-69等	SD1574等	349	132	164	(前) 前	灰白	足立山豆田作-傳ヶ付番	30.44
376	前胡	根株	C	I	Q-61, Q-62, R-62	SP1606, 土郎豆	21	76	107	(前) 前	灰白	足立山豆田作	30.44
377	前胡	根株	C	I	Q-61, G-32, R-62	SP1606, 土郎豆	141	110	130	(前) 前	灰白	足立山豆田作	30.44
378	前胡	根株	C	I	Q-60, G-62, R-63	SD1565, 土郎豆	23	86	114	(前) 前	赤	赤	30.44
379	前胡	根株	C	I	G-62	-	144	58	108	(前) 前	赤	赤	30.44
380	土郎豆	黒	C	I	A-59	SD600	57	15	27	(黑) 黄	灰白	全体的に深緑	30.45
381	土郎豆	黒	C	I	A-59	SD50	60	13	32	(黑) 黄	灰白	中種	30.45
382	土郎豆	黒	C	I	A-59	SD60	74	18	40	(黑) 黄	灰白	ターレル	30.45
383	土郎豆	黒	C	I	A-59	SD50	83	19	47	(黑) 黄	灰白	ターレル	30.45
384	土郎豆	黒	C	I	A-59	SD50	88	21	49	(黑) 黄	灰白	ターレル	30.45
385	土郎豆	黒	C	I	Q-61	脱壳	76	16	38	(黑) 黄	灰白	C群、薄壁、球形、打球丸	30.45
386	土郎豆	黒	C	I	Q-61	脱壳	-	-	-	(黑) 黄	灰白	球形、打球丸	30.45
387	土郎豆	黒	C	I	A-59	SD50	85	15	56	(黑) 黄	灰白	打球丸	30.45
388	土郎豆	黒	C	I	A-60	SD602	123	22	64	(黑) 黄	灰白	脱壳豆、D群、尾附	30.45
389	豆芽	打花等	C	I	L-62	脱壳	53	20	55	(豆) 豆	豆白	豆白	30.45
390	豆芽	天王	C	I	S-55, T-59	TB-1572等	122	25	44	(豆) 豆	豆白	豆白	30.45
391	豆芽	天王	C	I	T-60	SK1755	77	44	28	(豆) 豆	豆白	人參1	30.45
392	豆芽	高麗	C	I	S-62	脱壳	54	21	25	(豆) 豆	豆白	人參1	30.45
393	豆芽	高麗	C	I	S-61, U-62	脱壳	110	26	62	(豆) 豆	豆白	天王2~トチソウ群、ツナヅキ	30.45
394	豆芽	高麗	C	I	S-60	脱壳	161	-	-	(豆) 豆	豆白	人參1	30.45
395	豆芽	高麗	C	I	S-62, G-63	脱壳	55	-	-	(豆) 豆	豆白	ツナヅキ	30.45
396	豆芽	高麗	C	I	A-59	-	129	-	-	(豆) 豆	豆白	人參1、東京文庫	30.45
397	豆芽	高麗	C	I	T-62	脱壳	114	30	58	(豆) 豆	豆白	人參1	30.45
398	豆芽	高麗	C	I	R-60	脱壳	93	24	56	(豆) 豆	豆白	人參1、ツナヅキ	30.45
399	豆芽	高麗	C	I	T-59	SD1572	108	27	64	(豆) 豆	豆白	人參1、ツナヅキ	30.45

No.	種類		区域	固	地区	層/透構	量(cm)			色調		備考	固	PL	
	大固	小固					口径	高さ	底	外固	内固				
399	南・先端	底地塊反屈	C	II	T - U60、A59	底層、SD150	8.3	.9	4.7	①	淡青 淡白	人字 底白	印花 絞り	ドナ株	30 45
400	南・先端	底地塊反屈	C	II	R62	SD1735	6.9	1.5	3.4	①	青白 底白	底白	底白	大麻1	30 45
401	瓦	砂	C	II	T69	底層	128	42	12.2	②	灰白 底白	底白	底白	スミ	31 46
402	中國	古細端	C	II	Q - G3	粘土	107	6.9	4.3	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
403	中國	古細端	C	II	Q - 359	SD1572 - 1576	146	5.3	4.8	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈D型	31 46
404	中國	古細端	C	II	T61	底層	146	3.8	8.2	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
405	中國	古細端	C	II	R60	-	125	25	7.8	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
406	中國	古細端	C	II	K56、Q57、Q58	SD1572、粘土	118	23	6.0	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
407	中國	古細端	C	II	T61	地1	142	32	8.0	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
408	南・南	古細端	C	II	Q - 361、S60	粘土、底層	126	35	6.8	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
409	中國	古細端	C	II	R63	地1	114	27	6.6	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
410	中國	古細端	C	II	R59	SD1572	7.0	22	2.8	①	青白 底白	底白	底白	見込鉢の山側斜面	31 46
411	南・南	古細端	C	II	T60地	粘土、底層	6.4	43	28	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
412	山根	古細端	C	II	L56、P58、R60-E1	底層、SD1572地	116	6.3	4.2	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	E群	31 46
413	山根	古細端	C	II	R60	SD1572	134	-	-	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	自群	31 46
414	山根	古細端	C	I	P - 164-E5、S62	粘土、燧土、底土	138	33	7.6	①	青白 底白	底白	底白	B1群	31 46
415	山根	古細端	C	I	T66	地1	89	25	4.0	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	B1群	31 46
416	山根	古細端	C	I	Q62、S61	有機質土、SD1735	6.6	22	4.4	①	青白 底白	底白	底白	B1群	31 46
417	山根	古細端	C	I	Q66、J58	SD1572	118	25	6.2	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	B1群 深源層	31 46
418	山根	古細端	C	I	T63、J62、A65	地1、表層物	109	27	7.0	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	自群	31 46
419	中國	古細端	C	I	S6	SD1735	130	38	5.6	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	C群	31 46
420	中國	古細端	C	I	R60	-	-	-	-	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	C群	31 46
421	中國	古細端	C	I	J56	-	-	-	-	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	C群	31 46
422	中國	古細端	C	I	Q - 62	-	-	-	-	①	青白 底白	底白	底白	C群	31 46
423	中國	古細端	C	I	R59	SD1572	34	-	-	①	青白 底白	底白	底白	底地塊反屈	31 46
424	利野	古細端	C	I	Q66、Q - A61地	粘土、SD1572地	48	-	-	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	底地層に沿る4	31 46
425	利野	古細端	D	I	US2地	地1、底土	40.6	-	-	①	じわく じわく	じわく	じわく	ヘクタ号	36 51
426	利野	古細端	D	I	A58	SD1593	-	-	-	②	青白 底白	底白	底白	底地層	36 51
427	利野	古細端	D	I	S65、P54	地1	-	-	-	①	青白 底白	底白	底白	底地層	36 51
428	利野	古細端	D	I	R52 - S52	地1	20.3	-	-	②	じわく じわく	じわく	じわく	底地層	36 51
429	利野	古細端	D	I	Q51、G53	SA-518地	20.3	-	-	②	青白 底白	底白	底白	底地層	36 51
430	利野	古細端	D	I	R56-Q58、S57-58地	SD1574、幾十地	336	120	17.6	②④	青白灰 青白灰	青白灰	青白灰	底日10	36 51
431	利野	古細端	D	I	T58	SD1574	6.2	21	3.2	①	じわく じわく	じわく	じわく	タール風	36 51
432	利野	古細端	D	I	Q53	SP1612	6.7	19	3.8	①	じわく じわく	じわく	じわく	タール風	36 51
433	利野	古細端	D	I	Q53	SP1612	6.8	17	4.4	①	じわく じわく	じわく	じわく	タール風	36 51
434	利野	古細端	D	I	I52	地土	5.7	13	2.8	①	じわく じわく	じわく	じわく	タール風	36 51
435	利野	古細端	D	I	U56	SD1574	5.8	12	3.2	②	底地層 底地層	底地層	底地層	C群	36 51
436	利野	古細端	D	I	S58	SD1574	5.9	13	3.0	②	底地層 底地層	底地層	底地層	A群 タール風	36 51
437	利野	古細端	D	I	R59	SD1574	8.9	23	4.1	①	底地層 底地層	底地層	底地層	C群 タール風	36 51
438	利野	古細端	D	I	U56	SD1575	8.6	21	4.8	①	じわく じわく	じわく	じわく	底地層	36 51
439	利野	古細端	D	I	Q53	SP1612	84	21	4.6	②	底地層 底地層	底地層	底地層	C群 タール風	36 51
440	利野	古細端	D	I	P53	SP1612	8.7	19	4.1	①	じわく じわく	じわく	じわく	タール風	36 51
441	利野	古細端	D	I	J55	SD1572	10.4	22	5.6	①	じわく じわく	じわく	じわく	底地層	36 51
442	利野	古細端	D	I	T57	SX1675	13.0	27	7.0	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	D群	36 51
443	利野	古細端	D	I	Z58	SD1574	5.7	14	4.7	①	じわく じわく	じわく	じわく	C群	36 51
444	利野	古細端	D	I	T57	SD1574	9.5	21	5.2	②	底地層 底地層	底地層	底地層	タール風	36 51
445	利野	古細端	D	I	K56	地土	9.0	20	5.0	①	底地層 底地層	底地層	底地層	A群 タール風	36 51
446	利野	古細端	D	I	Q53	SP1612	9.2	19	4.9	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	タール風	36 51
447	利野	古細端	D	I	P53	地土	9.0	21	4.4	①	底地層 底地層	底地層	底地層	D群 タール風	36 51
448	利野	古細端	D	I	K52	地土	10.4	24	6.0	①	底地層 底地層	底地層	底地層	D群 タール風	36 51
449	利野	古細端	D	I	J55	-	-	-	-	②	底地層 底地層	底地層	底地層	36 51	
450	利野	古細端	D	I	T57	SX1675	10.4	22	5.6	①	じわく じわく	じわく	じわく	底地層	36 51
451	利野	古細端	D	I	Z58	SD1574	13.0	27	7.0	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	D群	36 51
452	利野	古細端	D	I	T57	SD1574	13.0	27	7.0	①	底地層 底地層	底地層	底地層	タール風	36 51
453	利野	古細端	D	I	A53	SD1590	7.5	-	-	①	底地層 底地層	底地層	底地層	36 51	
454	利野	古細端	D	I	T57	SD1574	11.0	59	4.2	①	明瞭灰 明瞭灰	明瞭灰	明瞭灰	大空1	37 52
455	利野	古細端	D	I	K55 - K56	底層、表土	11.5	69	4.2	②	底地層 底地層	底地層	底地層	大空1	37 52
456	利野	古細端	D	I	U56地	第一、底土、表土	-	80	-	①	底地層 底地層	底地層	底地層	大空2 底地層	37 52
457	利野	古細端	D	I	S58 - T58地	SD1570	10.4	22	5.6	①	じわく じわく	じわく	じわく	大空2 底地層	37 52
458	利野	古細端	D	I	N57 - T58、A56	SD1572 - 590地	6.1	61	4.8	①	底地層 底地層	底地層	底地層	大空3 底地層	37 52
459	利野	古細端	D	I	K53	SD1596	-	-	-	②	底地層 底地層	底地層	底地層	大空3 底地層	37 52
460	利野	古細端	D	I	J56 - J57	地1	-	-	-	①	底地層 底地層	底地層	底地層	大空3 底地層	37 52
461	利野	古細端	D	I	Q53	SD1574	11.0	67	5.6	②	オリーブ オリーブ	オリーブ	オリーブ	大空1 粉土	37 52
462	利野	古細端	D	I	P52	SD1592	8.6	25	4.9	②	オリーブ オリーブ	オリーブ	オリーブ	粉土	37 52
463	利野	古細端	D	I	J53	SD1592	4.6	11	3.0	①	底地層 底地層	底地層	底地層	大空2 粉土	37 52
464	利野	古細端	D	I	T57	SD1570	2.7	15	4.0	①	じわく じわく	じわく	じわく	粉土 底地層	37 52
465	利野	古細端	D	I	S58	SD1574	8.8	54	6.9	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
466	利野	古細端	D	I	R52	地土	6.0	41	4.6	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
467	利野	古細端	D	I	U55	SD1578	7.1	52	6.1	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
468	利野	古細端	D	I	P54 - P55	地1	-	-	-	②	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
469	利野	古細端	D	I	J56 - J57	地1	-	-	-	②	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
470	利野	古細端	D	I	P56	SD1595	10.0	56	5.7	①	オリーブ オリーブ	オリーブ	オリーブ	粉土	37 52
471	利野	古細端	D	I	J57 - S57	地1	-	-	-	②	オリーブ オリーブ	オリーブ	オリーブ	粉土	37 52
472	中澤	古細端	D	I	J55 - U52	SD1585	7.0	40	3.3	①	オリーブ オリーブ	オリーブ	オリーブ	粉土	37 52
473	中澤	古細端	D	I	S56地	地1	134	40	7.8	②	オリーブ オリーブ	オリーブ	オリーブ	粉土 底地層	37 52
474	中澤	古細端	D	I	T57	SD1597	4.6	11	3.0	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
475	中澤	古細端	D	I	Q - S - S - S - S	地1	126	45	10.0	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
476	中澤	古細端	D	I	Q - S - S - S - S - S	地1	154	31	7.6	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
477	中澤	古細端	D	I	R58 - S9	SD1574	1.4	26	6.2	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
478	中澤	古細端	D	I	R51	地1	9.1	20	4.8	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52
479	中澤	古細端	D	I	R51 - S2 - S5 - S5	地1	11.2	32	5.8	①	底地層 底地層	底地層	底地層	粉土 底地層	37 52

No.	種類		汎用	周	地区	層/透構	基量(重)			色調		備考	固	PL	
	大別	細別					口尺	断面	底厚	耐土	外觀	内裏			
562	中型	白足形	D	I	L-54	SD1660	84	27	32	③	灰白	灰白		37	52
563	中型	白足形	D	I	K-53	SD1667	-	-	42	③	灰白	灰白	名古屋米青	37	52
564	中型	白足形	D	I	S-58・59	SD1574, SS1563	64	-	-	③	灰白	灰白		37	52
565	中型	白足形	D	I	J-51	砂上	-	-	20	③	灰白	灰白	日光縣の日暮削	37	52
566	中型	白足形	D	I	U-35	SD1578	121	55	50	③	灰白	灰白	明神灰	38	53
567	中型	白足形	D	I	R-39, U-39a	SD201, SD1574地	161	62	40	④	明神灰	明神灰	比押	38	53
568	中型	白足形	D	I	M-58, R-58	SD1574地	142	38	78	③	灰白	灰白	B1番	38	53
569	中型	白足形	D	I	Q-53	砂上	-	-	66	③	灰白	灰白	B1番	38	53
570	中型	白足形	D	I	S-56, T-57	SD1675, 燐七	88	22	50	③	灰白	灰白	B1番	38	53
571	中型	白足形	D	I	K-53	SD1678	-	-	34	③	透青	透青	C切 千葉系	38	53
572	脚附	脚附	D	I	L-56, A-B22-53	SS1693, SD1690地	154	51	47	④	リード灰	リード灰	足付・脚附8	39	53
573	脚附	脚附	D	I	Q-51, Q-51	SD1690, SS1694	-	-	52	③	黑闇	黑闇	足付・脚附7, 脚付にB	39	53
574	脚附	脚附	D	I	A-B22-56地	SD1590, SS1693地	-	-	49	①	脚附灰	脚附灰	象嵌式油漆 扁頭形土塗付	39	53
575	不明	脚附	D	I	R-58	SD1574	-	-	56	①	灰	灰	アクリル	39	53
576	越前	人足	D	I	S-55・59, A56地	SD1574, SS1693地	680	-	-	④	脚附	脚附	アラビア記号・脚附	39	53
577	越前	人足	D	I	M-51	SK1628	-	-	②	赤	赤	赤	アラビア記号	40	55
578	越前	人足	D	I	R-50, S-53	SD1580, 燐土	-	-	④	脚附	脚附	アラビア記号	40	55	
579	越前	人足	D	I	N-54	SB1560	-	-	④	脚附	脚附	アラビア記号	40	55	
580	脚附	小當	D	I	T-54	砂土	48	112	82	③	黒闇	黒闇	片口 ハラ紀文	40	55
581	脚附	脚附	D	I	T-53	SD1673	336	114	54	③	脚附	脚附	片口・脚附	40	55
582	脚附	脚附	D	I	R-57	砂土	336	107	53	③	脚附	脚附	片口・脚附	40	55
583	脚附	脚附	D	I	Q-53	SD1580	345	103	52	③	脚附	脚附	脚附・脚附	40	55
584	脚附	脚附	D	I	R-57, A-59	尖嘴, SD1601	267	85	30	③	脚附	脚附	脚附	40	55
585	脚附	脚附	D	I	S-52	砂土	416	142	76	③	黒闇	黒闇	脚附	41	55
586	土押賣	且	D	I	X-54	SK1629	67	12	38	①	浅青	浅青	にいわ青	41	56
587	土押賣	且	D	I	L-52	SK1627	65	21	33	①	浅青	浅青	にいわ青	41	56
588	土押賣	且	D	I	L-52	SK1627	69	18	44	①	黒	黒	タール灰	41	56
589	土押賣	且	D	I	K-52	SD1584	68	16	34	①	明神灰	明神灰	C版	41	56
590	1脚賣	且	D	I	S-55	SK1766	81	19	46	①	浅青	浅青	にいわ青	41	56
591	1脚賣	且	D	I	S-55	SK1766	87	21	41	①	にいわ青	にいわ青	G版 タール灰	41	56
592	1脚賣	且	D	I	L-54	SD1585	90	20	47	①	にいわ青	にいわ青	タール灰	41	56
593	1脚賣	且	D	I	L-52	SK1627	87	20	47	①	白	白	タール灰	41	56
594	1脚賣	且	D	I	L-52	SK1627	87	22	39	①	にいわ青	にいわ青	タール灰	41	56
595	1脚賣	且	D	I	L-51	SK1627	95	22	54	①	透青	透青	にいわ青	41	56
596	1脚賣	且	D	I	L-51	SK1627	100	22	55	①	にいわ青	にいわ青	D版 タール灰	41	56
597	土押賣	且	D	I	S-51	SK1764	101	23	58	①	にいわ青	にいわ青	D版 黑沢西園	41	56
598	土押賣	且	D	I	L-54	SD1584	106	24	50	①	にいわ青	にいわ青	D版	41	56
599	土押賣	且	D	I	T-58	SD1574	126	7	40	①	灰白	灰白	透青 [カヘイ]	41	56
600	土押賣	且	D	I	L-53	砂土	127	9	35	①	にいわ青	にいわ青	D版 着物 [新大正] あナゲ	41	56
601	[脚附]	且	D	I	T-54	砂土	73	5	26	①	にいわ青	にいわ青	脚附 [大日山]	41	56
602	土押賣	且	D	I	R-59	SD1574	92	23	30	①	(透青)	(透青)	脚附	41	56
603	土押賣	耳墨	D	I	R-58	底幅	27	16	34	①	底白	底白	口版	41	56
604	土押賣	耳墨	D	I	R-51	SS1567	68	55	45	①	底白	底白	にいわ青	41	56
605	土押賣	土墨	D	I	K-56	SK1695	68	68	44	①	底白	底白	タール灰	41	56
606	土押賣	小當	D	I	R-51	砂上	22	30	65	①	底白	底白	にいわ青	41	56
607	土押賣	小當	D	I	L-53	SD1584	104	34	35	①	底白	底白	底造作 牧村状の底塗	41	56
608	一腳附	一腳附	D	I	S-56	砂上	105	52	75	①	にいわ青	にいわ青	耳Dの底塗を加工	41	56
609	脚附	脚附	D	I	S-51	SD1627	118	65	42	①	黒闇	黒闇	大奥	41	56
610	脚附	脚附	D	I	S-51	SD1601, PS2	118	65	40	①	黒闇	黒闇	大奥	41	56
611	脚附	脚附	D	I	M-57	SA1762	116	61	39	①	黒闇	黒闇	大奥	41	56
612	脚附	脚附	D	I	Q-58	SD1574	125	69	42	①	にいわ青	にいわ青	大奥2 黄櫻戸附	41	56
613	脚附	脚附	D	I	M-58	SD1588, T58地	84	46	30	①	にいわ青	にいわ青	古酒井後背附	41	56
614	脚附	脚附	D	I	K-52	SD1584	103	26	46	①	黒	黒	大奥2	41	56
615	脚附	脚附	D	I	J-58	SD1574	58	-	-	①	脚附	脚附	鳥居鉢立	41	56
616	脚附	脚附	D	I	T-56	砂土	26	37	36	①	黒	黒	系切口 底	41	56
617	脚附	脚附	D	I	R-53	砂上	26	20	34	①	にいわ青	にいわ青	足切口 備付	41	56
618	脚附	脚附	D	I	R-56	砂土	116	-	-	①	透青	透青	大奥	41	56
619	脚附	脚附	D	I	R-52	黄土	116	-	-	①	透青	透青	大奥2	41	56
620	脚附	脚附	D	I	Q-51	SK1892	120	29	60	①	底白	底白	大奥1 仰御文	41	57
621	脚附	脚附	D	I	L-54	SD1584	114	27	60	①	底白	底白	大奥1 仰御文	41	57
622	脚附	脚附	D	I	Q-58	SD1574	90	26	46	①	透青	透青	ターリア	41	57
623	脚附	脚附	D	I	K-54	砂土	89	22	52	①	底白	底白	大奥2 段々アラジ	41	57
624	脚附	脚附	D	I	S-50, M-54	SK1628地	166	36	84	①	透青	透青	大奥1 鳥居鉢立	41	57
625	脚附	脚附	D	I	P-56	砂土	91	26	42	①	透青	透青	大奥2 印花文	41	57
626	脚附	脚附	D	I	J-58	SD1574	55	14	30	①	底白	底白	人字2	41	57
627	脚附	脚附	D	I	L-54	SD1584	54	13	28	①	底白	底白	大奥2	41	57
628	脚附	脚附	D	I	R-57	砂土, 水摩	122	26	50	①	透青	透青	大奥1 印花文 鳥居鉢立	41	57
629	脚附	脚附	D	I	U-56, S-57	砂土, 砂	120	27	54	①	透青	透青	大奥1 印花文 鳥居鉢立	41	57
630	脚附	脚附	D	I	T-56	砂土	128	27	62	①	透青	透青	大奥1 印花文 鳥居鉢立	41	57
631	瓦質	瓦質	D	I	J-56	砂土	129	-	122	②	黒	黒	透青アシダブ文	41	57
632	瓦質	瓦質	D	I	R-52	-	144	-	125	②	黒	黒	透青アシダブ文	41	57
633	瓦質	瓦質	D	I	K-53	砂土	103	49	99	①	黒	黒	透青アシダブ文	41	57
634	中国	青筋織	D	I	S-51	SK1795	106	-	-	④	明神灰	明神灰	鶴矢作瓦B4型	41	58
635	中国	青筋織	D	I	L-54	SD1584	97	-	-	①	アラビア	アラビア	鶴矢作瓦B4型	41	58
636	中国	青筋織	D	I	K-51地	SK1594, 青土色	123	54	55	①	底白	底白	鶴矢作瓦B4型	41	57
637	中国	方筋織	D	I	M-51	SK1628	116	-	-	①	透青	透青	鶴矢作瓦B4型	41	58
638	中国	方筋織	D	I	S-1, U-58地	SD1574, 砂上	135	33	58	①	透青	透青	透青アシダブ文	41	58
639	中国	青筋織	D	I	S-53, T-52	砂上, 砂土	128	33	73	①	アラビア	アラビア	鶴矢作瓦に重ね焼きの塗装	41	57

№	種類	区域	面	地区	層/遺構	高さ(cm)	地質		土	色調	備考	図	PL
							口径	断面					
640	中国	古墳群	D	E	S51. T - R52號	黄土、粘土、砂土	136	32	72	① 黄白	灰白色	42	58
641	中国	古墳群	D	E	Q51. R - S52	粘土、土	152	32	74	① 黄白	灰白色	42	57
642	中国	古墳群	D	E	R52. S - T51號	粘土、烧土、壳灰	98	30	43	①	浅黄	42	57
643	中国	古墳群	D	E	K52	烧土、粘土、壳灰	101	32	48	①	灰白	42	57
644	中国	古墳群	D	E	R52 - S8. T70	烧土、砂土、SD52號	98	32	43	①	浅黄	42	57
645	中国	古墳群	D	E	J56	粘土	120	-	-	①	灰白	42	58
646	中国	古墳群	D	E	R52. S51	SX1764、黄土地	96	20	44	①	灰白	42	58
647	中国	古墳群	D	E	S31	SX1764	93	19	41	①	灰白	42	58
648	中国	古墳群	D	E	K52. S51	黄土、粘土	90	18	44	①	灰白	42	58
649	中国	古墳群	D	E	M51	烧土、SK1628	88	19	44	①	灰白	42	58
650	中国	古墳群	D	E	Q51. R52. P52	黄土、SK1832	112	31	64	①	灰白	42	58
651	中国	古墳群	D	E	R52	烧土	173	32	102	①	灰白	42	58
652	中国	古墳群	D	E	S51	SX1764	130	-	-	①	灰白	42	58
653	中国	古墳群	D	E	Q - S51	黄土、SK1765	114	30	62	①	灰白	43	58
654	中国	古墳群	D	E	R58	SQ1574	122	26	64	①	灰白	43	58
655	中国	古墳群	D	E	K51 - S52. S51	黄土、SK1764地	133	29	80	①	灰白	43	58
656	中国	古墳群	D	E	M51	SK1628	76	-	-	①	灰白	43	58
657	中国	古墳群	D	E	R58	粘土	65	31	23	②	灰白	43	58
658	中国	古墳群	D	E	M51	SK1628	-	-	-	③	灰白	43	58
659	中国	古付屋	D	E	U58	SD4574	54	62	58	①	明瞭灰	43	59
660	中国	古付屋	D	E	S51	SK1765	36	58	40	①	明瞭灰	43	59
661	中国	古付屋	D	E	S51	SK1764	60	59	55	①	明瞭灰	43	59
662	中国	古付屋	D	E	R58	SD1574	30	48	48	①	明瞭灰	43	59
663	中国	古付屋	D	E	Q50. S58號	SD1574地	91	22	50	①	灰白	43	58
664	中国	古付屋	D	E	R52 - S2. S51	SK1764地	94	24	20	①	灰白	43	58
665	中国	古付屋	D	E	Q - S51. R50 - S2	SK1764地	99	27	36	①	明瞭灰	43	58
666	中国	古付屋	D	E	R52. S51	SK1764	103	30	32	①	明瞭灰	43	58
667	中国	古付屋	D	E	S51	SK1764地	106	29	27	①	明瞭灰	43	58
668	中国	古付屋	D	E	Q - S51. R51 - S2	SK1764地	95	30	30	①	明瞭灰	43	58
669	中国	古付屋	D	E	R52. S51	SK1764	101	30	28	①	明瞭灰	43	59
670	中国	古付屋	D	E	R52 - S2. S50 - S2	SK1764地	100	30	29	①	灰白	43	58
671	中国	古付屋	D	E	R52. S5 - 66號	SK1764	104	26	31	②	浅黄	43	59
672	中国	古付屋	D	E	T - R53	烧土	230	68	119	①	灰白	44	59
673	中国	古付屋	D	E	Q51	SK1832	233	-	-	①	灰	44	59
711	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	65	15	3	①	明瞭灰	45	61
712	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	69	15	32	①	にぬる	45	61
713	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	67	15	32	①	明瞭灰	45	61
714	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	68	15	36	①	灰白	45	61
715	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	76	18	34	①	にぬる	45	61
716	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	86	20	45	①	にぬる	45	61
717	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	87	8	50	①	灰白	45	61
718	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	93	20	44	①	にぬる	45	61
719	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	90	9	43	①	にぬる	45	61
720	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	90	28	49	①	灰白	45	61
721	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	93	21	59	①	にぬる	45	61
722	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	88	20	46	①	にぬる	45	61
723	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	91	26	46	①	灰白	45	61
724	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	92	28	50	①	灰白	45	61
725	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	99	20	49	①	灰白	45	61
726	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	91	21	44	①	灰白	45	61
727	土壤質	瓦	E	I	I51	SP1617	99	21	44	①	にぬる	45	61
728	中国	青龍窟	E	I	I50	セイリョウク	132	32	52	①	灰白	45	61
729	中国	青龍窟	E	I	I50	SP1613	-	-	-	①	灰白	45	61
730	中国	青龍窟	E	I	I50	SP1616	-	-	-	①	灰白	45	61
731	中国	青付屋	E	I	I50	燒土	136	46	89	①	明瞭灰	45	61
732	中国	青付屋	E	I	I50	SD1616	142	-	-	①	灰白	45	61
733	中国	中	E	I	I50	SP1616	145	32	73	①	灰白	45	61
734	廐戸 - 道場	瓦	E	I	R - S49	燒土	124	61	37	①	黑灰	45	62
743	廐戸 - 道場	瓦	E	I	R49	燒土	116	29	58	①	灰白	45	62
744	廐戸 - 水道	瓦	E	I	R49	燒土	112	27	64	①	灰白	45	62
745	中国	古墳群	D	E	R - S49	燒土	92	22	35	①	灰白	45	62
746	朝鮮	古墳群	D	E	R49	燒土	143	-	-	②	明瞭灰	45	62
749	朝鮮	人蔵	B/C/D	I	Q59	SS1566	-	-	-	③	暗黒	45	63
750	朝鮮	人蔵	B/D	I	N56 - 57	SD1574	164	-	-	①	灰白	45	63
751	朝鮮	人蔵	B/D	I	O56	SD1574	38	-	-	②	灰白	45	63
752	土壤質	瓦	C/D	I	U56	SD2601	61	16	28	①	灰白	45	63
753	土壤質	瓦	C/D	I	Q56	SD1574	59	16	25	①	灰白	45	63
754	土壤質	瓦	C/D	I	U56	SD2601	72	26	30	①	灰白	45	63
755	土壤質	瓦	C/D	I	K57	SD1574	84	20	45	①	にぬる	45	63
756	土壤質	瓦	C/D	I	M57	SD1574	85	22	40	①	にぬる	45	63
757	土壤質	瓦	C/D	I	U58	SD1574	85	18	42	①	浅黄灰	45	63
758	土壤質	瓦	C/D	I	U58	SD1574	89	25	44	①	にぬる	45	63
759	土壤質	瓦	C/D	I	U58	SD1574	105	28	54	①	にぬる	45	63
760	土壤質	瓦	C/D	I	U58	SD1574	103	24	56	①	にぬる	45	63
761	土壤質	瓦	C/D	I	K57	SD1574	66	-	-	②	浅黄灰	45	63
762	土壤質	瓦	C/D	I	U58	SD1574	170	-	-	①	にぬる	45	63
763	土壤質	瓦	C/D	I	U58	SD1574	203	20	45	①	にぬる	45	63
764	土壤質	瓦	C/D	I	J57	SD1574	1928	1476	-	②	青	45	63
765	土壤質	瓦	C/D	I	J57	SD1574	1928	1479	-	②	青	45	63
766	土壤質	瓦	C/D	I	J57	SD1574	1926	1479	-	②	青	45	63
767	土壤質	瓦	C/D	I	M56	SD1574	129	37	43	①	灰白	45	63

年	種類	区域	面	地区	周/選択	底長(cm)	底幅 底深	底土	色調		備考	回	PL	
									口径	高さ	外觀	内觀		
668	魚・美濃	飛騨木曾	ル/フ	I	K57	SD1574	11.0	22	64	① 黒墨	黒場	大底2	トキン・輪ドク野	59.63
669	海螺・美濃	飛騨木曾	ル/フ	I	Q57	SD1574	8.2	19	44	① 深灰	浅灰	大底2	印花	59.63
770	海螺・美濃	越後佐原	ル/フ	I	M59・69	SD1572・1695	-	-	60	② 灰白	灰白	印花	輪ドク野	59.63
771	海螺・美濃	越後佐原	ル/フ	I	M59	SD1574	-	-	55	② 灰白	灰白	灰白	系切り灰	59.63
772	海螺・美濃	越後佐原	ル/フ	I	B54	SD1591	7.8	68	69	① 灰	灰	大底3	須賀質	59.63
773	海螺・美濃	魚	ル/フ	I	K.59・L.57	SD1574	-	-	55	① 〇	黑墨	黒場	輪ドク	59.63
774	中尾	吉田屋	ル/フ	I	K・L.57	SD1574	11.6	30	51	① オリーブ	オリーブ	オリーブ	内面成波文、蛇の目柄割	59.63
775	中尾	吉田屋	ル/フ	I	A.58	SD1601	-	-	52	② 〇	黒墨	黒場	輪ドク	59.64
776	中尾	吉田屋	ル/フ	I	P.73・R.69・O.66-67等	SD1564・粘土地	-	-	11.8	①	黒墨	黒場	輪ドク	59.64
777	中尾	吉田屋	ル/フ	I	P.69	SD1572	13.8	59	55	① 底白	底白	底白	牡丹文、白台質結付	59.64
778	中尾	吉田屋	ル/フ	I	Q.57	SD1574	10.8	28	56	① オリーブ	黒墨	黒墨	59.64	
779	中尾	吉田屋	ル/フ	I	B.54	SD1593・出土	9.8	22	32	② 底白	底白	底白	外表面下部露胎	59.64
780	中尾	吉田屋	ル/フ	I	P.56	SD1574	6.4	40	39	① 底白	底白	底白	見込みの露胎剥	59.64
781	中尾	吉田屋	ル/フ	I	P.62	SD1574・T.68・G.69	土佐	-	-	① 底白	底白	水星文	押しの草花文風模	59.64
782	中尾	吉田屋	ル/フ	I	N.55・D.57・Q.56-58等	SD1574・1563等	29.7	60	172	① オリーブ	オリーブ	牡丹文	白台質結付	59.64
783	中尾	吉田屋	ル/フ	I	N.56	SD1574	14.5	-	-	① 底白	底白	底白	59.64	
784	中尾	吉田屋	ル/フ	I	P.56	SD1572・1574等	8.0	32	76	① 底白	底白	底白	59.64	
785	中尾	吉田屋	ル/フ	I	P.61・62等	SD1572・庆子	-2.6	12	74	① 底白	底白	底白	59.64	
786	中尾	吉田屋	ル/フ	I	O.56	SD1574	-0.5	3	47	① 底白	底白	底白	C柄・裏両系	59.64
787	中尾	吉田屋	ル/フ	I	T.74・T.70・U.64	SD1578・施土	-2.2	-	-	① 明暦款	明暦款	明暦款	59.64	
788	奈良	跡	ル/フ	I	O.56・S.58等	SD1574・1575・庄土	28.2	-	-	① 黒墨	黒墨	黒墨	口締模	59.64
789	奈良	跡	ル/フ	I	M.57	SD1574	31.4	-	-	① 黒墨	黒墨	黒墨	口締模	59.64
790	奈良	跡	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.2	-	-	① 黑墨	黒墨	黒墨	身代利	59.64
791	奈良質	跡	ル/フ	I	U.58・A.51	SD1590・SD1591	11.0	-	-	① オリーブ	オリーブ	オリーブ	脚部に輪墨1条	59.64
792	益山	大要	ル/フ	I	O.51・Q.53	SD1590	-	-	-	③ 黑墨	黒墨	黒墨	59.65	
793	益山	大要	ル/フ	I	Q.56	SD1574	15.6	64	11.3	②	山川	山川	山川	59.65
800	雄鳥	跡	ル/フ	I	Q.56	SD1574	-	-	-	③ 黑墨	黒墨	黒墨	59.65	
801	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	1.2	12	34	① 深灰	深灰	深灰	59.65	
802	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	5.1	13	28	① 底白	底白	底白	口輪	59.65
803	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	5.7	14	34	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
804	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.3	12	37	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
805	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.6	13	34	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
806	土師質	玉	ル/フ	I	P.61	SD1572	6.8	13	36	① 明暦款	明暦款	明暦款	口輪	59.65
807	土師質	玉	ル/フ	I	P.61	SD1572	6.6	18	20	① 底白	底白	底白	口輪	59.65
808	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.8	15	46	① 底白	底白	底白	口輪	59.65
809	土師質	玉	ル/フ	I	P.61	SD1574	7.1	16	30	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
810	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	7.5	7	41	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
811	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.6	17	39	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
812	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	8.1	20	50	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
813	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	8.4	5	49	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
814	土師質	玉	ル/フ	I	P.61	SD1572	8.6	20	44	① 底白	底白	底白	タ・ル底	59.65
815	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	8.6	22	47	① 深灰	深灰	深灰	タ・ル底	59.65
816	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	8.7	21	52	① 底白	底白	底白	タ・ル底	59.65
817	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	9.1	25	42	① 底白	底白	底白	タ・ル底	59.65
818	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	9.7	20	64	① 底白	底白	底白	タ・ル底	59.65
819	土師質	玉	ル/フ	I	P.61	SD1572	9.2	19	50	① 底白	底白	底白	タ・ル底	59.65
820	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	10.2	25	56	① 深灰	深灰	深灰	タ・ル底	59.65
821	土師質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	10.1	20	58	① 深灰	深灰	深灰	タ・ル底	59.65
822	中尾質	玉	ル/フ	I	P.61	SD1572	-0.9	23	48	① 底白	底白	底白	タ・ル底	59.65
823	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	9.6	24	40	① 深灰	深灰	深灰	タ・ル底	59.65
824	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	9.1	16	42	① 底白	底白	底白	口輪	59.65
825	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.4	14	30	① 深灰	深灰	深灰	外周部丸判久	59.65
826	中尾質	玉	ル/フ	I	J.57	SD1574	6.9	20	38	① 底白	底白	底白	外周部丸判久	59.65
827	土師質	玉	ル/フ	I	-	-	10.7	22	60	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
828	土師質	小形	ル/フ	I	J.57	SD1574	2.3	23	28	① 底白	底白	底白	口輪	59.65
829	土師質	小形	ル/フ	I	J.57	SD1574	10.9	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
830	土師質	小形	ル/フ	I	K.52	SD1574	10.6	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
831	土師質	小形	ル/フ	I	P.56	SD1574	10.6	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
832	土師質	小形	ル/フ	I	S.56	SD1574	10.6	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
833	土師質	小形	ル/フ	I	Q.57	SD1574	10.7	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
834	土師質	小形	ル/フ	I	K.57	SD1574	10.8	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
835	土師質	小形	ル/フ	I	J.57	SD1574	10.8	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
836	土師質	小形	ル/フ	I	P.56	SD1574	10.6	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
837	土師質	小形	ル/フ	I	Q.57	SD1574	10.6	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
838	土師質	小形	ル/フ	I	E.56	SD1574	10.6	-	-	① 深灰	深灰	深灰	口輪	59.65
839	海螺	穴吹	ル/フ	I	R.57	SD1574	11.5	60	44	① 底白	底白	底白	大底1	59.66
840	海螺	穴吹	ル/フ	I	L.57	SD1574	11.9	67	46	① 底白	底白	底白	大底2	59.66
841	海螺	穴吹	ル/フ	I	M.55・Q.56	SD1574他	11.9	60	42	① 底白	底白	底白	大底2	59.66
842	海螺	穴吹	ル/フ	I	Q.57	SD1574	11.6	63	44	① 底白	底白	底白	大底2	59.66
843	海螺	穴吹	ル/フ	I	P.56・Q.57	SD1574	11.5	68	41	① 底白	底白	底白	人字2	59.66
844	海螺	穴吹	ル/フ	I	J.57	SD1574	9.7	43	40	① 底白	底白	底白	大底1	59.66
845	海螺	穴吹	ル/フ	I	N.56	SD1574	9.0	34	39	① 底白	底白	底白	大底2	59.67
846	海螺	穴吹	ル/フ	I	P.56	SD1574	10.6	24	48	① 底白	底白	底白	大底2	59.67
847	海螺	穴吹	ル/フ	I	Q.56	SD1574	11.2	28	58	① 底白	底白	底白	大底2・3	59.67
848	海螺	穴吹	ル/フ	I	E.56・N.56・Q.57・R.57	SD1574・SF161	5.9	58	60	① 底白	底白	底白	大底2-3	59.67
849	海螺	穴吹	ル/フ	I	J.57	SD1674	-	-	-	① 底白	底白	底白	口輪	59.67
850	海螺	穴吹	ル/フ	I	C.57	SD1572	1.3	41	32	① 底白	底白	底白	口輪	59.67
851	海螺	穴吹	ル/フ	I	Q.56	SD1574	2.3	26	85	① 底白	底白	底白	系切り底	59.67
852	海螺	穴吹	ル/フ	I	E.57	SD1574	4.7	155	57	① 底白	底白	底白	系切り底	59.67
853	海螺	穴吹	ル/フ	I	M.56	SD1574	9.6	82	75	① 底白	底白	底白	人字2	59.67
854	海螺	穴吹	ル/フ	I	N.56・Q.56・R.56	SD1574他	12.2	42	38	① 底白	底白	底白	人字2	59.67
855	海螺	穴吹	ル/フ	I	N.57・P.56・S.58	SD1674	12.2	43	38	① オリーブ	オリーブ	オリーブ	大底2	59.67

No.	種類	区画	面	地区	幅/延焼	注釈(cm)	出土	色調		参考	面	PL.		
								口径	壁高	底径	外側	内面		
856	箱戸 - 電鉄	電鉄上	B/D	I	J57	SD1574	11.6	-	-	① 淡黄 深黄	人冢1	52	67	
857	箱戸 - 電鉄	電鉄上	B/D	I	K57	SD1575	11.6	-	-	① 淡黄 深黄	大塚1	52	67	
858	箱戸 - 電鉄	電鉄上	B/D	I	Q56	SD1574	9.3	22	5.0	① 淡黄 深黄	口輪に褐色付青物	52	67	
859	箱戸 - 電鉄	電鉄上	B/D	I	P56, Q57	SD1575	10.6	26	6.0	① 淡黄 深黄	印伝 輪 ドラ勝	52	67	
860	箱戸 - 電鉄	電鉄上	B/D	I	L57	SD1574	11.0	25	6.0	① 淡黄 深黄	大塚1 白地 輪 ドラ勝	52	67	
861	箱戸 - 電鉄	電鉄上	B/D	I	O56	SD1574	9.1	27	4.8	① 淡黄 深黄	人冢1 白地 輪 ドラ勝	52	67	
862	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	S56	SS-567	9.0	25	4.4	① 淡黄 深黄	大塚1 白地 ドラ勝	52	67	
863	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	K57	SD1574	8.6	23	4.2	① 淡黄 深黄	人冢1 白地 ドラ勝	52	67	
864	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	N56, M56, N56	SD1570 - 574	10.9	25	6.4	① 淡黄 深黄	大塚2 内面ソギ 輪 ドラ勝	52	67	
865	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	N57, S58	SD1574 - 738	11.4	26	6.2	① 淡黄 深黄	大塚2 白地 輮 ドラ勝	52	67	
866	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	N57, O56, S56, T59	SD1572 - 574	11.3	29	4.6	① 淡黄 深黄	大塚2 白地 輮 ドラ勝	52	67	
867	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	K57	SD1574	11.7	30	4.8	① 淡黄 深黄	大塚2 白地 輮 ドラ勝	52	67	
868	箱戸 - 電鉄	大蔵配出足	B/D	I	S57	SD1574	5.9	15	3.0	① 淡黄 深黄	大塚2 白地 ドラ勝	52	67	
869	丸窓	骨灰	B/D	I	L - N57, O56	SD1571 - 1737-1738	7.8	50	6.8	① 当	風	赤	52	68
870	丸窓	骨灰	B/D	I	P56	SD1574	9.5	47	6.2	① 当	風	門前スタンプ文	52	68
871	丸窓	骨灰	B/D	I	N56, Q57	SD1574	11.2	-	10.0	② 黒	風	口部スタンプ文	52	68
872	丸窓	骨灰	B/D	I	-	SD1734	5.4	31	3.8	① 淡黄 深黄	口部に風紋	52	68	
873	車輪	骨灰	B/D	I	-	K57	SD1574	-	-	② 黒	風	車輪	53	68
874	中塗	青磁鐵	B/D	I	-	SD1574	10.0	-	-	④ フリード	青糸無地縫合口縁	53	68	
875	中塗	青磁鐵	B/D	I	L57, M56, F56	SD1571	12.2	47	4.6	④ フリード	青糸無地縫合口縁	53	68	
876	中塗	青磁鐵	B/D	I	-	SD1574	11.8	32	5.8	④ フリード	青糸無地縫合口縁	53	68	
877	中塗	白磁鐵	B/D	I	-	K57	SD1574	17.8	36	10.2	① 淡黄 深黄	墨付周囲墨跡	53	68
878	中塗	白磁鐵	B/D	I	-	SD1574	12.0	34	5.4	① 淡黄 深黄	骨灰	53	68	
879	中塗	白磁鐵	B/D	I	K57	SD1574	9.6	26	4.8	① 淡黄 深黄	骨灰	53	68	
880	中塗	白磁鐵	B/D	I	J57	SD1574	8.6	19	5.0	① 淡黄 深黄	骨灰	53	68	
881	中塗	白磁鐵	B/D	I	-	SD1574	12.4	25	7.0	① 淡黄 深黄	面部内外に薄青	53	68	
882	中塗	象嵌	B/D	I	Q56	SD1574	13.8	61	1.8	④ 制御紋	明治紋 D 紋	53	68	
883	中塗	朱付	C/D	I	R63, T58	SD1574, 通 I	13.8	50	4.2	③ 明治紋	明治紋 C 紋	53	68	
884	中塗	朱付	C/D	I	P56	SD1574	-	-	4.4	② 淡黄 深黄	墨付	53	68	
885	中塗	朱付	H/C	I	U62 - A64	SD501, 陶屋	9.6	27	3.6	② 淡黄 深黄	墨付	C 紋 南風	53	68
886	網被	網被	B/D	I	Q57	SD1574	14.1	-	-	② 淡黄 深黄	墨付	53	68	
887	網被	白磁鐵	B/D	I	Q59	SD1574	-	-	5.9	① 淡黄 深黄	口付・骨付に目録各 4	53	68	
910	丸窓	-	A56	レンチ	NS438 F 扇	-	-	-	④ 暗赤 暗赤	口付	56	70		
911	土師質	墨	C	I	A59	SD3051	6.3	17	3.0	③ 变形紋	皮袋紋 C 紋 タール紋	55	70	
912	土師質	墨	C	I	A59	SD3051	5.9	17	3.0	③ 变形紋	皮袋紋 C 紋 タール紋	55	70	
913	土師質	墨	B	I	P59	-	-	6.2	15	3.1	③ 变形紋	皮袋紋 C 紋	55	70
914	土師質	墨	B	I	P59	-	-	6.7	15	3.0	① 淡黄 深黄	口付	55	70
915	土師質	墨	D	I	Q59	SD1574	7.3	17	3.8	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
916	土師質	墨	D	I	Q59	SD1574	7.2	19	3.8	③ 变形紋	口付	55	70	
917	土師質	墨	D	I	Q59	SD1574	7.2	17	3.2	③ 变形紋	口付	55	70	
918	土師質	墨	C	I	A62	SD201	8.6	20	4.4	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
919	土師質	墨	C/D	I	A58	SD201	8.7	26	4.4	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
920	土師質	墨	C/D	I	A58	SD201	8.6	28	4.4	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
921	土師質	墨	D	I	Q59	SD1574	8.9	17	5.6	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
922	土師質	墨	D	I	Q59	SD1574	10.8	24	5.4	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
923	土師質	墨	C/D	I	A58	SD201	10.8	25	6.0	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
924	土師質	土	B/D	I	Q59	SD1574	9.6	-	-	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
925	土師質	土	B/D	I	Q59	SD1574	-	-	-	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
926	土師質	土	C	I	A59	SD201	-	-	-	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
927	土師質	土	C	I	S56	SD1574	12.0	30	5.9	① 淡黄 深黄	口付	55	70	
928	中國	青磁鐵	C/D	I	A58, Q59	SD3051, E574	13.2	81	4.6	④ 淡黄 深黄	明治紋 明治紋系4種類	55	70	
929	青磁	青磁鐵	D	I	S56, T - U53	SD1574	6.5	32	12.5	④ 淡黄 深黄	明治紋 明治紋系4種類	55	70	
946	青磁	青磁鐵	-	-	18 - 28X	SD1574	14.9	194	14.0	② 淡黄 深黄	口付	56	71	
947	青磁	青磁鐵	-	-	15 - 16X	SD1574	-	-	6.0	② 淡黄 深黄	口付 ハタ沿寺	56	71	
948	青磁	青磁鐵	-	-	18 - 28X	SD1574	-	-	6.8	② 淡黄 深黄	口付	56	71	
949	青磁	青磁鐵	-	-	-	SD1574	6.2	-	-	② 淡黄 深黄	青磁	57	72	
950	青磁	青磁鐵	-	-	-	SD1574	4.3	-	-	② 淡黄 深黄	青磁	57	72	
951	青磁	青磁鐵	-	-	18 - 28X	SD1574	13.6	37	6.3	② 淡黄 深黄	明治紋 明治紋系4種類	57	72	
952	山邊	白磁鐵	-	-	-	SD1574	13.6	-	-	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
953	中国土	白磁鐵	-	-	19区	SD1574	12.0	-	-	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
954	中国土	白磁鐵	-	-	22区	SD1574	-	-	4.8	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
955	中国土	白磁鐵	-	-	9 - 14区	SD1574	-	-	4.5	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
956	中国土	白磁鐵	-	-	-	SD1574	11.4	-	-	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
957	中国土	白磁鐵	-	-	-	SD1574	9.0	20	4.2	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
958	中国土	白磁鐵	-	-	18 - 28X	SD1574	11.2	26	6.8	① 淡黄 深黄	口付	57	72	
959	中国土	白磁鐵	-	-	25区	SD1574	9.0	20	4.0	① 淡黄 深黄	口付 口縁装飾見込に日新	57	72	
960	中国土	白磁鐵	-	-	24区	SD1574	-	-	9.4	① 淡黄 深黄	高台内口縁装飾見込に日新	57	72	
961	中国土	白磁鐵	-	-	-	SD1574	-	-	6.5	① 淡黄 深黄	口縁装飾	57	72	
962	中国土	白磁鐵	-	-	12区	SD1574	-	-	4.3	① 淡黄 深黄	口縁装飾	57	72	
963	納掛	白磁鐵	-	-	18 - 28X	SD1574	-	-	4.5	① 淡黄 深黄	口縁装飾	57	72	

表4 金属製品観察表(鉄貨を除く)

(注1) : 274 ~ 276, 429, 678, 880の括弧内に「長」が「口紐」、「幅」が「幕面」、「厚」が「底径」を示す。

(注2) : 括弧内の数字は既存値を示す。

(注3) : 材質については既存から個別に明記したものであり、科学分析を経た結果ではない。

No.	種類	材質	区画	面	地区	層/遺物	往生(cm)			備考	回	PL
							長	幅	厚			
34	小柄	青銅	A	I	R21	粘土	-	1.2	0.4	刀身欠	12	26
131	匙先	銅	B	I	R68	粘土	19.6	1.39	1.5		17	32
132	匙	銅	B	I	L71	粘土					17	32
133	匙	銅	B	I	M67		6.8	1.2	1.0	長径4.2cm	17	32
134	匙	銅	B	I	N70	機械埋土	3.9	1.1	0.9	直長1.7cm 先端鋸刃状	17	32
135	泡形	銅	B	I	A66	S250					17	32
266	門金具	銅	B	II	S65	灰層	13.5	1.32	0.65	先端約4cm程度が細くなる	25	39
267	鍍金	銅	B	II	L57	粘土	9.8	1.9	1.0		25	39
268	鍍	銅	B	II	S57	粘土	10.2	4.0	0.8		25	39
269	鏡面	銅	B	II	T64	粘土	6.5	(2.2)	0.6		25	39
270	鏡	銅	B	II	Q67	SD1790	15.8	0.64		鏡形側面角	25	39
271	鏡	銅	B	II	T68	灰層	20.2	3.6	0.6		25	39
272	鏡	銅	B	II	S61	褐色地土	15.5	4.4	0.8	大鏡の柄付で出土	25	39
273	手斧	銅	B	I	O58	SD1576	17.0	3.5	2.8	銅上部に銅製の柄が残存	25	39
274	水漁	青銅	B	II	H71	黃褐色土	0.9	2.9	3.0		25	39
275	六鑓	銅	B	II	T66	灰層	4.2	1.8	2.0		25	39
276	南風	古銅	B	II	U64	粘土	5.1	2.5	1.8	赤色の表面	25	39
277	井	青銅	B	II	S59	粘土	(18.3)	1.2	0.2	先端へ耳かき欠 化形支脚 亂形 /	25	39
278	小柄	古銅	B	II	T68	灰層	10.0	1.6	0.8	刀身欠 頂部に縫隙孔	25	39
279	小柄	銅	B	II	Q69	青色帶地土層	(9.4)	1.4	0.4		25	39
280	柄頭	古銅	B	II	T64	SK1755	4.0	3.5	1.5	把頭	25	39
281	猿手金具	青銅	B	II	T64	SK1755	2.5	2.0	0.6	280年代裏	25	39
282	馬頭	銅	B	II	N57	SD1738	3.1	0.9	0.3		25	39
283	斧	古銅	B	II	O57	褐色地土	(1.0)			下平のみ	25	39
367	筆	青銅	C	I	P63	SD1608	18.0	0.63		断面V形孔 上端部に鋸み	29	43
368	筆	青銅	C	I	A59	SD501	23.6	(0.5)		斜面円形 山端は丸みを帯びる 滑走跡	29	43
425	目釦	銅	C	II	A59	SD501	5.8	2.4	0.6	小舟竹製物あり	31	47
426	舟金具	真鍮	C	II	T61	-	(12.0)	1.0	0.1	文様の痕跡あり	31	47
427	釘頭	銅	C	II	R61	粘土	8.3	7.0	0.6	六葉 中央部に藍色漆が残存	31	47
428	鉤	銅	C	II	S59	SD1572	(16.0)	1.2	0.3		31	47
429	崩壊	青銅	C	II	U62	灰層	5.3	2.4	2.1		31	47
430	川金物	青銅	C	II	T62	-	4.2	21	0.6	側面は魚子地に黒色瓦と 履合部すれ	32	47
431	口金物	青銅	C	II	Q60	灰層	3.5	1.4	2.8	扇	32	47
432	刀	銅	C	II	S62	灰層	(27.7)	21	0.4	刃部なし	32	47
433	小柄	真鍮	C	II	T61	-	9.6	1.5	0.3	法輪紋柄部のみ	32	47
434	小柄	真鍮	C	II	S61	灰層	9.5	1.4	0.5	辯慶紋柄部のみ 純通し花あり	32	47
556	劍	銅	D	I	L51	SD167	61.1	31	0.5		33	54
557	箒	青銅	D	T	N54	粘土	31.7	1.0	0.8	木柄を取り扱う基あり 基に漆付	33	54
558	環手狀	銅	D	I	S54	SD167	13.9	(6.0)	9.8	2孔	33	54
559	羽根	銅	D	I	L51	SD167	8.3	0.45	0.15		33	54
560	香炉	銅	D	I	Z58	SD1574	-			直徑11.8cm 既削外側に挫削2条	36	54
561	瓶	銅	D	I	K53	鳥	(7.5)	1.1	1.0		36	54
562	瓶	銅	D	I	K55	鳥	(8.5)	1.2	1.1		36	54
563	匁	銅	D	I	O51	鳥					36	54
564	小柄	古銅	D	I	S56	灰層	(9.0)	1.4	0.6	刀身欠 線始椎標	36	54
565	鈴	青銅	D	I	T64	鳥	6.3	1.9	0.5		36	54
566	丁字形	青銅	D	T	H55	灰土層	6.6	3.3	0.6	断面円形	36	54
567	剪刀状	青銅	D	I	Z56	SD1574	(6.9)	(3.2)	(3.2)	仏具(花冠) a	36	54
674	釘	銅	E	S56	地上	-	17.7	2.6	2.1	先端に棘られ 上半に木質の痕跡	46	59
925	帶	青銅	E	T54	鐵鏈土	-	20.3	0.5			46	59
676	劍	銅	E	L54	SD1941	(18.5)	4.2	4.2	辯慶上半鋸切 線寄一青銅張り	46	59	
677	芯	銅	E	T56	燒土	-	26.2	4.8	0.6	刀部部 木質付	46	59
678	帶	青銅	E	L52	粘土	-	5.0	2.0	2.1	赤色漆物	46	59
679	舟金具	青銅	E	Q51	SX1832	5.8	1.7	0.1	八段物 漆金	46	59	
680	舟金具	青銅	E	T56	燒土	-	4.2	(2.0)	0.3	2孔	46	59
792	盃	青銅	E/C	I	P62	SD1572	17.8	0.63		断面V形孔 上端部に鋸み	50	64
888	鏡	銅	B/D	II	S56	SD1574	5.8	29	0.3		51	68
889	引手金具	青銅	E	-	-	-	34	0.8		青銅後土 裏面捺付	53	68
890	舟金具	真鍮	B/C	II	P61	泥	8.0	0.9	0.5		53	68
891	刀子	銅	B/D	II	M57	SD1574	(21.5)	1.4	0.2		53	68
892	鬼子把子	青銅	B/D	II	M57	SD1574	7.5	3.2	0.5		53	68
893	舟蓋	青銅	B/D	I	J57	SD1574	4.2	1.4	1.5	鍍金	53	68
894	变形製品	青銅	B/D	II	N56	SD1574	4.23	2.3			53	68
895	万物狀	銅	B/D	II	K57	S2-374	22.1	5.8	0.8	鉄鍊	53	68
900	鑿	銅	B/D	II	Q57	高桂土	(23.7)	2.5	1.8		56	71
931	青銅狀	銅	B	II	T58	黒色有機質	(12.0)	(7.0)	(3.5)	2孔 口金道存	56	71
932	舟金具	青銅	C/D	II	A58	SD503	9.9	0.7	0.8	断面U字 目打穴 内側に漆付	56	71
933	小柄	青銅	D	II	S56	青色地土	9.6	1.4	0.5	刀身欠	56	71
934	内鍵	青銅	C	II	S62	灰層	22.5	1.0			56	71
964	劍	銅	-	-	-	劍:	8.1	23	-		57	72
965	引手金具	青銅	-	-	-	-	9.7	49	0.7	舟形の網上 蓋金 基座進行名	57	72
966	切出	青銅	-	-	-	劍:	4.3	24	0.2	周面に削み 表面・側面に黑色漆	57	72

表 5 漆塗板・皿観察表

注1: 本表は(南1987)の熱帯木板とともに作成した。

注2: 法規の( )内は覆元と定めを示す。

注3: 品種は(跡木・能郷1991)による。

No.	種類	区画	面	地区	層/邊材	法量(cm)			内面	外観	備考	面	PL
						口径	底面	高台面					
284	板	B	E	K57	-	15.4	(8.2)	(7.7)	(26)	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-
285	板	B	E	A66 SD601	13.3	4.2	7.0	0.8	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
286	板	B	E	L57 純上	13.9	4.4	7.0	0.8	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
287	板	B	E	L58 純上	-	-	8.2	0.7	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
288	板	B	E	L58 純上	-	-	11.5	1.0	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
289	板	B	E	L59 純上	14.3	-	-	-	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
290	板	B	E	L59 純上	9.0	(2.5)	(6.8)	(0.8)	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
291	板	B	E	Q58 烟合樹皮質	9.2	(2.4)	(5.9)	(0.7)	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
292	板	B	E	Q58 烟合樹皮質	-	-	-	-	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
293	板	C	E	Q53 純上	(15.6)	(7.2)	-	-	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
294	板	C	E	Q53 純上	(15.6)	(12.1)	8.7	2.9	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
295	板	C	E	P61 純枝上	(15.4)	-	-	-	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
296	板	C	E	Q61 油漆	(15.6)	(5.6)	(7.6)	(0.8)	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
297	板	C	E	S53 純上	-	-	5.9	0.7	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
298	板	C	E	S53 純上	-	-	7.3	2.1	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
299	板	C	E	R62 SD175	-	-	8.0	-	周 内凹文	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
300	板	C	E	Q61 油漆	13.5	6.7	7.3	1.1	赤 色	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
301	板	C	E	N56 SD1372	9.8	3.6	6.8	0.8	赤 色	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
302	板	C	E	T54 油漆	-	-	5.7	0.9	赤 色	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
303	板	C	E	T54 油漆	12.3	(4.7)	7.0	0.7	赤 色	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
304	板	D	E	Q51 油漆	-	-	(7.7)	(2.0)	黒 木頭	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40	
305	板	D	E	J56 油漆	8.4	27	6.0	0.6	赤 色	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	
306	板	D	E	Q57 油漆	8.7	27	5.6	0.6	黒 木頭	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	-	

表 6 小木製品観察表(漆塗椀・皿を除く)

注1: 485, 685の注記について(見)414(1)種・(2)器皿名・(3)厚手(薄手)を示す。

注2: 法規の( )内は残存年数を示す。

注3: 補充は(跡木・能郷1991・1992)による。

No.	種類	区画	面	地区	層/邊材	法量(cm)			備考	面	PL	
						底	蓋	厚				
72	豆下駄	A	E	Q70 SF741	15.6	7.2	1.8	1.8	つま先部分の漆剥落観	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	4	28
290	漆塗漆器	B	E	T64 SK1756	-	-	-	12.0	全面無地	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40
294	漆塗漆器	B	E	L64 油漆	-	-	-	-	全面無地	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40
295	漆塗漆器	B	E	L58 油漆	-	-	-	-	全面無地	トチノキ 暗飛影 漆痕が発現しない	26	40
296	漆塗板	B	E	T65 油漆	(25.7)	(9.0)	1.3	1.3	漆ざらせの部材	漆合板に2箇所の合漆穴	26	40
297	箸	B	E	L57 純上	(21.2)	0.8	0.7	0.7	付	付出し	26	40
298	椀	B	E	L58 純上	(20.1)	1.1	0.9	-	-	-	26	40
299	椀	B	E	L58 純上	(17.2)	1.2	1.0	-	-	-	26	40
300	桶	B	E	L58 純上	20.3	1.3	1.3	-	-	-	26	40
301	漆塗豆下駄	B	E	K57	(24.0)	10.1	1.7	1.7	漆合板のみ	針突起	26	40
302	漆下駄	B	E	S66 武器	20.6	8.1	1.8	1.8	全面無地	漆合板のみ	26	40
346	漆	C	E	R61 武器	3.8	4.0	3.9	3.9	ナツババキ	ハンドルノブ 暗飛影 漆痕が発現しない	32	47
346	漆塗豆下駄	D	E	T54 武器	(13.6)	(3.1)	0.3	0.3	ナツババキ	漆合板 宮台久-2次加工上 内凹部無地	33	58
347	漆塗豆下駄	D	E	J56 武器	16.5	3.4	(0.5)	(0.5)	ナツババキ	漆合板 宮台久-2次加工上 内凹部無地	33	58
348	刀柄	B	E	S61 武器	17.2	2.4	1.6	-	-	ナツババキ 外側は少し赤褐色がかる(裏面は漆合板)	33	58
349	刀柄	C	E	S61 武器	29.1	(18.8)	2.2	2.2	対向する縫隙に合歯が花ぶ	ナツババキ 外側は少し赤褐色がかる(裏面は漆合板)	33	48
350	漆底豆下駄	C	E	S61 武器	(25.1)	5.7	1.2	1.2	漆合板の部材	漆合板に合歯穴	33	48
351	漆底豆下駄	C	E	S61 武器	(37.0)	11.5	1.2	1.2	漆合板の部材	漆合板は脂油で平滑に削る 合歯穴・木軸	33	48
352	漆底豆下駄	C	E	S62 武器	(24.7)	4.6	1.4	1.4	漆合板の部材	漆合板は脂油で平滑に削る 合歯穴・木軸	33	48
353	漆底豆下駄	C	E	S61 武器	(21.3)	6.8	0.8	0.8	漆合板各角部、脇あり	ナツババキ 外側は少し赤褐色がかる(裏面は漆合板)	33	48
354	漆底豆下駄	C	E	S62 武器	(16.6)	6.8	0.8	0.8	漆合板各角部、脇あり	ナツババキ 外側は少し赤褐色がかる(裏面は漆合板)	33	48
355	漆底豆下駄	C	E	S61 武器	(13.6)	6.7	0.7	0.7	漆合板各角部、脇あり	ナツババキ 外側は少し赤褐色がかる(裏面は漆合板)	33	48
356	漆底豆下駄	C	E	S62 武器	22.1	4.9	1.5	1.5	ナツババキ	合歯20cm	33	48
357	漆桶	C	E	Q63 油漆	21.2	4.6	0.6	0.6	漆桶	漆桶を5cm/合歯16cm	33	48
358	漆切下駄	C	E	Q63 油漆	16.1	13.1	0.1	0.1	漆合板	漆桶内丸穴	34	48
359	漆切下駄	C	E	S62 油漆	15.0	7.5	3.4	3.4	漆合板	漆桶穴に複数穴	34	48
360	漆切下駄	C	E	Q63 SK1796 - 1797	16.5	(9.2)	3.5	3.5	漆合板	漆桶穴に複数穴	34	48
361	青下駄	C	E	E61 武器	21.1	(8.2)	1.5	1.5	漆合板	漆桶穴に複数穴	34	48
362	青下駄	C	E	E61 武器	20.5	8.4	-	-	漆合板	漆桶穴に複数穴	34	48
363	青下駄	C	E	T62 武器	19.7	8.1	-	-	漆合板	漆桶穴に複数穴	34	48
364	青下駄	C	E	U60 むしろぬ	18.9	7.8	2.0	2.0	漆桶	漆桶内丸穴	34	48
365	青下駄	C	E	E61 武器	(16.8)	8.6	1.3	1.3	漆桶	漆桶内丸穴	34	48
366	青下駄	C	E	E61 武器	(20.5)	8.0	2.0	2.0	漆桶	漆桶内丸穴	34	48
367	青下駄	C	E	F61 武器	17.5	7.4	2.0	2.0	漆桶	漆桶内丸穴	34	48
368	青下駄	C	E	S60 油漆	16.6	7.8	2.0	2.0	漆桶	漆桶内丸穴	34	48
369	青下駄	C	E	S60 油漆	16.3	7.1	1.2	1.2	漆桶	漆桶内丸穴	34	48
370	青下駄	C	E	S62 油漆	16.3	6.8	1.2	1.2	漆桶	漆桶内丸穴	34	48

№	種類	区画	面	地区	層/構成	法線(cm)	長	幅	厚	調査		PL
										表面	裏	
471	雪下駄	C	II	T60	長型	-156 (70)	15	表面傾斜に、直線傾、中央部無地に抉り、横張痕	35	59		
472	雪下駄	C	I	L60	板型	-150 (68)	0.9	針葉樹、松Ⅱ	35	49		
473	雪下駄	C	E	R61	短型	-144 (70)	1.5	針葉樹、混生Ⅲ	35	49		
474	雪下駄	C	I	L60	わらじ型	-151 (71)	1.6	縦穴内無地、抜いた断続的な凹凸と直線、横張痕	35	49		
475	雪下駄	C	B	J60	わらじ型	-140 (71)	1.5	横張による厚壁	35	49		
476	車輪駆駆	C	I	Q63	丸型	-195 (62)	2.8	縦穴内無地、上部一部遺存、裏の下に植物繊維	35	49		
477	舟形	C	I	U62	波型	-130 (27)	2.2	ヒノキ、板目	35	49		
478	棒大根材	C	I	A59	S501	-237 (22)	2.1	表面半円形、3~4cm間隔で設計した径3~5mmの孔に隨い導管を差し込む	35	49		
479	雪下駄	D	I	T57	SX1675#	-210 (84)	2.4	表面半円形に、舟形の織物、板目、裏、底面後方の半切留痕	35	49		
500	縄子	D	I	P54	-	(92) (57)	0.7	表面半円形	35	54		
484	舟	D	B	L55	丸型	-53 (48)	1.9	コラムマキ	41	59		
485	舟物	D	B	L53	SU1584	-52 (29)	5.8	スギ	41	59		
486	札目	D	B	L54	SU1584	-151 (21)	2.0	「中門」、「近附十六室」	41	60		
487	吹き口ロコ	D	B	M52	織土	-662 (2)	2.5	モクラン属	41	59		
488	座敷足駄	D	I	R51	SK1764	-68 (37)	1.7	スギ 全周黒縫織り 板目	41	59		
489	刀子箱	D	I	M56	S501	-326 (16)	2.3	接合しないため長さは確定、片側に縫を表現した加工あり	41	59		
490	羽子板	D	I	U57	SX1675#	-193 (53)	0.7	前縫六角形	41	59		
491	美	D	I	L53	S501	-149 (45)	0.5	前縫六角形	41	59		
492	筆	D	I	L53	SU1584	-130 (39)	0.9	先端部の折割り円形	41	60		
493	竹刷毛材	D	I	L54	SU1584	-144 (44)	1.1	前縫六角形 2方向に舟形(穴)	41	60		
494	舟形鉢	D	I	L51	SX1675#	-23 (22)	2.2	「[ ]」、「金」	41	60		
495	舟の瓶	D	I	S55	青縫實土	-	-	斜底のみ、斜面直壁	45	62		
496	舟の瓶	D	I	S55	古黄色土	-	-	斜底および直底、斜底直壁、斜底として斜面用されたもののかけ	45	62		
497	縄子手	D	I	L53	S501	-584 (224)	6.2	12 縄子部分に無地から縄子が剥離	45	62		
498	舟	D	I	S54	板型	-20 (9)	2.3	3.2 黑糸は「くろ糸」と書く。裏縫全体も縦縫 7mmと大きさ・形状次似	45	62		
499	道下駄	D	I	T54	短型	-189 (82)	2.7	2.7 片側、舟形は「くろ糸」と書く。裏縫全体も縦縫 7mmと大きさ・形状次似	45	62		
500	道下駄	D	I	S53	板型	-219 (82)	3.1	3.1 黑糸は「くろ糸」と書く。裏縫全体も縦縫 7mmと大きさ・形状次似	45	62		
501	雪下駄	D	I	S55	青縫實土	-207 (82)	1.8	1.8 斜縫、舟形部分に舟形、舟形を幾何化した斜縫文様、横張による厚壁	45	60		
502	雪下駄	D	I	N56	青縫實土	-185 (76)	1.6	1.6 表面縫に舟形、斜底直壁、斜底による厚壁	45	60		
503	雪下駄	D	I	T54	板型	-179 (87)	1.9	1.9 斜縫文、表裏縫に舟形斜縫文	45	60		
504	雪下駄	D	I	T53	紺色	-178 (71)	2.0	2.0 側縫、傾斜の部分は「L」型の跡となる。裏縫斜部の中央付近が斜縫	45	60		
505	雪下駄	D	I	J56	青縫實土	-140 (68)	1.8	1.8 改訂1 個穴式、裏縫の舟形・斜縫、横張による厚壁	45	60		
506	雪下駄	D	I	J55	青縫實土	-142 (66)	1.3	1.3 改訂1 個穴式、裏縫の舟形・斜縫、横張による厚壁	45	60		
507	縄縫	E	I	S51	SF1675#	-139 (69)	0.7	0.7 (6個穴) (斜縫)	45	62		
508	舟形鉢	E	I	S51	SF1675#	-34 (28)	2.8	計量縫 「瓶水(舟)」 先端幅0.2cm、底面幅0.8cm	45	62		
509	金鏡	F	I	S51	SF1675#	-31 (206)	2.5	2.5 クリ 円形の縫合口、全体的に斜縫	45	62		
510	透頭直筒	F	I	S51	SF1675#	-366 (97)	6.2	6.2 平底厚壁、斜縫が斜張風に変換、底縫を斜張で複数、切込丸み・斜張底縫	45	62		
511	露頭直筒	F	I	S50	SF1675#	-203 (83)	4.5	4.5 平底厚壁、切込2cm・底部・底縫	45	62		
512	雪下駄	F	I	N50	SF1675#	-202 (79)	2.9	2.9 表面縫は斜縫に切り替わり、裏縫および表面後部は化粧 亂面は全体に斜縫	45	62		
513	雪下駄	F	I	L49	S2146	-216 (87)	3.7	3.7 斜縫	45	62		
514	雪下駄	F	I	K50	S501	-188 (80)	2.0	2.0 表面斜縫に斜縫および他の舟形斜縫、斜底直壁、横張による厚壁	45	62		
515	綱縫	G	I	S50	S501	-65 (87)	1.4	1.4	45	62		
516	透底直筒	G	I	M56	S501	-143 (74)	0.9	4.7 平底1.5cm、吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
517	透底直筒	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
518	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
519	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
520	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
521	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
522	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
523	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
524	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
525	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
526	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
527	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
528	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
529	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
530	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
531	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
532	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
533	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
534	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
535	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
536	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
537	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
538	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
539	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
540	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
541	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
542	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
543	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
544	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
545	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
546	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
547	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
548	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
549	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
550	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
551	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
552	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
553	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
554	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
555	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
556	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
557	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
558	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
559	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
560	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
561	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
562	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
563	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
564	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
565	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
566	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
567	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
568	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
569	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
570	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
571	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
572	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
573	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
574	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
575	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
576	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
577	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)	0.9	4.7 平底1.5cm 吉田式化粧 亂面へ向斜縫して斜縫	50	55		
578	摩縫	G	I	O56	S501	-146 (73)</						

表3 石、骨、角、墨、ガラス製品調査表

表ノ右ノ月・日・カノ入表加賀奈良

注1：内、575、医療、978、介護の徴収について同表)が付録、「報酬割合表」、「報酬割合表2：徴収の( )内数値は現行値を示す。

統3：林業は農業漁業（一箇室外開墾地使用）によるもので、科学分析を経た結果ではない。

No.	種類	材質	規格	地区	周/溝端	法量(cm)	備考	回	Pt
35	鐵	鍛鉄板	A	I	T72, A70, 18-285	SP1604, SD501, 鐵土	159 85 19 長方板	12	26
36	鐵	鍛鉄板	A	I	T70	SD1505	143 85 15 長方板	12	26
37	鐵	鍛鉄板	A	I	T70	SD1505	85 35 07 長方板	12	26
38	鐵	鍛鐵	A	I	T70	SD1505	97 40 07 背凹板	12	26
39	パンダゴム	錫箔五	A	I	T72	右端	(125) 729 19 平面側刃羽、中央部に長方部の窪	13	26
40	カル	錫箔五	A	I	A7:	右端	128 38 59 下斜切	13	26
73	カル	錫箔五	A	I	P72	決擲	98 34 14 小口	14	26
24	錫箔	錫箔五	A	I	P73	決擲	86 34 12 小口	14	26
25	パンダゴム	錫箔五	A	I	Q72	決擲	161 196 36 直切口	14	26
26	錫箔	錫箔五	A	I	R72	決擲	247 44 直切口	14	26

No.	群種	材質	汎用	固	地区	層/遺跡	法長(cm)			備考	国	
							高	幅	厚			
36	鐵石	凝灰岩	B	I	0.66	SD1570	14.0	34	1.7	柱上端、小口と側面に凹痕	17	32
37	石臼	安山岩	B	I	0.57	SD1576	10.20	118	1.8	臼口、耳分隔、底部を削った柱状支撑	17	32
38	茶口	安山岩	B	I	0.69	SD1585	15.4	84	1.3	臼口と8分隔、腰帶の合座支撑	18	32
39	バンドコ身	砂岩	B	I	0.67	-	17.1	232	2.6	平面扇円形・3脚とセット	18	32
40	バンドコ身	砂岩	B	I	0.67	-	18.7	252	3.6	平面扇円形・3脚とセット 陶器容器	18	32
41	花瓶	磨研石	B	I	0.69	-	7.5	130	7.4	-	18	32
42	石仏	磨研石	B	I	3.68	SD301	10.9	(128)	(6.0)	I-一面磨き、背当、赤・黒色顔料(漆?)付	18	32
43	台座状	磨研石	B	I	1.69	-	30.8	336	8.2	底面にシル状凸高の新しい人像	18	32
44	盤	粘土	B	I	1.64	-	152	89	2.8	揚方式	27	41
45	盤	凝灰岩	B	I	1.68	皮膚	10.6	48	(1.6)	揚方式 墓付帯	27	41
46	盤	凝灰岩	B	I	1.71	黃褐色土	3.99	69	1.6	長刀型、銅刀(複数)	27	41
47	瓶	凝灰岩	B	I	1.59	粘土	10.7	32	1.4	木質および漆様の付着物 薄い削材	27	41
48	瓶	粘土	B	I	1.66	粘土	8.2	34	1.4	文字刻記 刻眞	27	41
49	瓶	粘土	B	I	1.68	皮膚	4.5	(7.8)	0.8	-	27	41
50	丸形	磨研石	B	I	1.68	皮膚	57	2	2.1	-	27	41
51	丸形	磨研石	B	I	1.68	粘土	4.8	34	6.4	頭部から深さ2.2cmの孔、反対側は平坦	27	41
52	球状	磨研石	B	I	1.71	黃褐色土	16.0	50	4.6	頭部から深さ1.7cmの孔、反対側は下凹	27	41
53	球状	磨研石	B	I	1.71	黃褐色土	16.0	50	4.6	頭部から深さ1.7cmの孔、反対側は下凹	27	41
54	球	磨研石	B	I	1.69	皮膚	14.3	304	3.04	I-臼と8分隔 寺しくく壺形	27	41
55	球	磨研石	B	I	1.68	皮膚	12.5	68	-	-	27	41
56	乳頭	磨研石	B	I	1.63	皮膚	20.0	50	0.5	頭部の即位式施設をしくは付地により墨色	27	41
57	球	磨研石	C	I	1.60	SD301	45.0	57	0.5	頭部から深さ2.3cmの孔、反対側はやや平坦	29	-
58	バンドコ身	磨研石	C	I	1.60	SD1572	17.0	216	3.6	平面扇円形	29	43
59	瓶	磨研石	C	I	1.62	皮膚	15.0	97	1.5	輪状器、頭部中央部でくびれし丸がくみ 素淡	36	35
60	盤	磨研石	C	I	1.61	皮膚	(15.1)	(24.2)	3.6	I-時代付半牟尼11.10十八日敬止 内側	35	30
61	盤	磨研石	C	I	1.62	皮膚	13.4	172	2.7	丁番D形 全回転化	35	30
62	バンドコ身	磨研石	C	I	1.60	皮膚	15.2	228	3.0	半周側面開口 透かし巻了偏 台付鏡裏舟	35	30
63	皮膚	骨	C	I	1.62	皮膚	透.9	98	0.6	頭部、腰帶に擦耗	35	30
64	盤	磨研石	C	I	1.61	皮膚	19	26	3.0	ノゾム式茶器架	35	30
65	墨	磨研石	C	I	1.62	SD1558神土園	3.0	18	0	絵文支拂、I字型縫合 鋼刀寺二律協持	36	31
66	墨	磨研石	C	I	1.62	SD1558神土園	16.7	77	6.4	墨	36	31
67	墨	磨研石	D	I	1.61	-	17.0	65	6.0	墨	36	31
68	墨	磨研石	D	I	1.62	-	16.4	51	3.3	墨の孔を近く4面を鋭用 小口に墨底	36	34
69	墨	磨研石	D	I	1.64	皮膚	7.2	33	0.5	墨を私用 文字识别「人田日」	36	34
70	墨	磨研石	D	I	1.64	皮膚	8.4	19	4.8	カリウス跡跡ガラス製 染色	36	34
71	印	磨研石	D	I	1.62	SK1627	37.1	623	4.2	I-時代付駕籠形窓加工底面機子	46	66
72	印	磨研石	D	I	1.62	皮膚	13.0	(14.5)	2.7	丁番D形 全回転化	47	66
73	バンドコ身	磨研石	D	I	1.61	SD1832	20.6	211	4.2	平面扇円形	47	67
74	バンドコ身	磨研石	D	I	1.61	皮膚	18.2	(17.8)	3.5	SD1832 平面扇形に近いD形	47	67
75	印	磨研石	D	I	1.61	SD1572	11.0	47	3.5	西教寺墨 小口と筋くら底便用 南口に側削痕	50	61
76	印	磨研石	B/C	I	1.62	SD1574	11.7	(10.5)	3.6	平底D形 中央部に匠氏の底が等ぶ	50	64
77	印	磨研石	B/D	I	1.57	SD1574	17.8	49	4.9	中央に門型、周囲に波状、ツバ状加工質	50	66
78	印	磨研石	B/D	I	1.61	SS493a	19.5	50	5.0	西教寺墨 小口と筋く4脚用 地溝分割底	50	69
79	印	磨研石	B/C	I	1.61	SD1572	32.2	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
80	墨	磨研石	B/D	I	1.61	SD1574	34.4	126	30.0	半周内彌形 三足見込中央部・口縁に側削痕	56	73
81	墨	粘土	B	I	1.57	有體膏土	60	32	11	-	56	71
82	墨	粘土	B	I	0.59	黑色イコウ墨	60	35	0.8	小口・側面は未使用で削りあり	56	71
83	墨	粘土	B	I	0.59	-	19	19	0.5	墨	58	73
84	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
85	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
86	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
87	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
88	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
89	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
90	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
91	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
92	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
93	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
94	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
95	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
96	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
97	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
98	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
99	墨	粘土	B	I	-	-	15	19	0.4	墨	58	73
100	墨	粘土	B/D	I	1.56	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
101	墨	粘土	B/D	I	1.56	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
102	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
103	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
104	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
105	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
106	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
107	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
108	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
109	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
110	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
111	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
112	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
113	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
114	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
115	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
116	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
117	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
118	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
119	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
120	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
121	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
122	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
123	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
124	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
125	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
126	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
127	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
128	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
129	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
130	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
131	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
132	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
133	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
134	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
135	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
136	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
137	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
138	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
139	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
140	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
141	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
142	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
143	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
144	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
145	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
146	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被熱化	55	69
147	墨	粘土	B/D	I	1.57	SD156	322	111	29.0	半周内彌形 被		

表 8 线货观察表

No.	线货名	区间	面	地区	场/进样	厚度( $\mu$ )			卷体	初勘年	偏号	图	PL
						样	原	重					
985	黑云油页岩	A	I	A70	SD561	24.0	14	3.	(瓦当)	磨	621	60	74
986	黑云油页岩	A	I	T72	SV1522	237	10	23	(瓦当)	磨	621	60	74
987	黑云油页岩	A	I	T72	SX1835	214	1	23	(瓦当)	磨	1038	60	74
988	黑云油页岩	A	I	T70	SX1728	26.0	0.9	18	(瓦当)	磨	621	60	74
989	黑云油页岩	A	I	P73	SD561	235	15	16	(瓦当)	磨	621	60	74
990	天长页岩	A	I	Q71	-	219	14	45	(瓦当)	磨	1023	60	74
991	泰山油页岩	A	I	O72	SD561	233	11	30	(瓦当)	磨	1056	60	74
992	泰山页岩	A	I	P70	-	236	7	17	(瓦当)	磨	1068	60	74
993	泰山油页岩	A	I	O72	SD561	232	12	22	(瓦当)	磨	1078	60	74
994	泰山油页岩	A	I	P71	-	239	5.9	19	(瓦当)	磨	1086	60	74
995	泰山页岩	A	I	T71	SD561	241	11	25	(瓦当)	磨	1190 贝壳	60	74
996	泰山油页岩	B	I	N68	-	243	11	25	(瓦当)	磨	621	60	74
997	泰山油页岩	B	I	P62	SD1572	249	5.8	23	(瓦当)	磨	621	60	74
998	泰山页岩	B	I	A68	SD561	243	10	22	(瓦当)	磨	925	60	74
999	泰山页岩	B	I	N66	SD1595	264	11	31	(瓦当)	磨	996	60	74
1000	泰山油页岩	B	I	O66	-	248	10	26	(瓦当)	磨	1078	60	74
1001	泰山页岩	B	I	U64	-	229	16	32	(瓦当)	磨	1038	60	74
1002	泰山页岩	B	I	S66	-	237	0.8	19	(瓦当)	磨	1054	60	74
1003	泰山油页岩	B	I	N68	SD561	243	11	33	(瓦当)	磨	1056	60	74
1004	泰山页岩	B	I	U68	-	239	11	26	(瓦当)	磨	1061	60	74
1005	岱东页岩	B	I	P62	SD1572	245	11	32	(瓦当)	磨	1038	60	74
1006	岱东油页岩	B	I	O57	-	243	0	32	(瓦当)	磨	1078	60	74
1007	岱东油页岩	B	I	N70	块状	241	13	38	(瓦当)	磨	1078	60	74
1008	岱东油页岩	B	I	P62	SD1572	237	0	31	(瓦当)	磨	1086	60	74
1009	岱东页岩	B	I	O71	-	235	0.6	15	(瓦当)	磨	1107	60	74
1010	岱东页岩	B	I	P62	SD1572	238	10	31	(瓦当)	磨	1111	60	75
1011	岱东油页岩	B	I	S69	SU1666	239	0	27	(瓦当)	磨	1208	60	75
1012	岱东页岩	B	I	L64	SD1572	241	0.9	26	(瓦当)	磨	621	60	74
1013	岱东油页岩	B	I	M66	-	236	11	31	(瓦当)	磨	621	60	74
1014	岱东页岩	B	I	M66	SD561	243	10	29	(瓦当)	磨	621	60	74
1015	岱东页岩	B	I	P67	-	229	0	24	(瓦当)	磨	621	60	74
1016	岱东油页岩	B	I	S66	SD561	235	0.8	23	(瓦当)	磨	621	60	74
1017	岱东油页岩	B	I	U63	-	233	0.8	21	(瓦当)	磨	621	60	74
1018	岱东油页岩	B	I	L58	-	217	0.9	27	(瓦当)	磨	621	60	74
1019	岱东油页岩	B	I	T67	-	241	0.9	23	(瓦当)	磨	621	60	74
1020	岱东页岩	B	I	S64	SD1572	241	10	27	(瓦当)	磨	976	60	74
1021	岱东页岩	B	I	S57	SD1238	247	10	39	(瓦当)	磨	976	60	74
1022	岱东页岩	B	I	M67	-	246	11	30	(瓦当)	磨	976	60	74
1023	岱东页岩	B	I	M66	SD1570	245	12	34	(瓦当)	磨	996	60	74
1024	岱东页岩	B	I	O68	-	243	11	34	(瓦当)	磨	1000	60	74
1025	岱东页岩	B	I	O68	-	243	10	26	(瓦当)	磨	996	60	74
1026	岱东页岩	B	I	P57	-	243	10	30	(瓦当)	磨	990	60	74
1027	岱东页岩	B	I	O68	-	247	11	35	(瓦当)	磨	996	60	74
1028	岱东页岩	B	I	L59	-	242	11	34	(瓦当)	磨	998	60	74
1029	岱东页岩	B	I	S64	SK1755	244	11	31	(瓦当)	磨	1004	60	74
1030	岱东页岩	B	I	L64	SD1572	242	12	32	(瓦当)	磨	1004	60	74
1031	岱东页岩	B	I	K72	-	236	11	30	(瓦当)	磨	1004	60	74
1032	岱东页岩	B	I	O68	-	251	13	38	(瓦当)	磨	1008	60	74
1033	岱东油页岩	B	I	L64	SD1572	251	10	33	(瓦当)	磨	1008	60	74
1034	岱东油页岩	B	I	L58	-	251	11	34	(瓦当)	磨	1008	60	74
1035	岱东油页岩	B	I	N70	-	235	11	30	(瓦当)	磨	1008	60	74
1036	岱东油页岩	B	I	P57	-	244	10	29	(瓦当)	磨	1008	60	74
1037	岱东页岩	B	I	L64	SD1572	240	11	27	(瓦当)	磨	1023	60	74
1038	岱东页岩	B	I	S66	-	247	6.9	34	(瓦当)	磨	1023	60	74
1039	岱东页岩	B	I	T68	-	242	11	27	(瓦当)	磨	1023	60	74
1040	岱东页岩	B	I	S66	-	247	10	29	(瓦当)	磨	1023	60	74
1041	岱东页岩	B	I	T67	-	243	11	31	(瓦当)	磨	1023	60	74
1042	岱东页岩	B	I	S67	-	247	11	30	(瓦当)	磨	1023	60	74
1043	岱东页岩	B	I	S65	-	247	11	38	(瓦当)	磨	1023	60	74
1044	岱东页岩	B	I	N67	-	246	0.9	28	(瓦当)	磨	1023	60	74
1045	岱东页岩	B	I	R68	SX1652	248	10	28	(瓦当)	磨	1023	60	74
1046	岱东页岩	B	I	S66	SD561	246	11	34	(瓦当)	磨	1023	60	74
1047	岱东页岩	B	I	S66	-	249	11	33	(瓦当)	磨	1023	60	74
1048	岱东页岩	B	I	S66	-	262	10	32	(瓦当)	磨	1023	60	74
1049	岱东页岩	B	I	L64	SD561	248	0.9	30	(瓦当)	磨	1024	60	74
1050	岱东油页岩	B	I	L64	SD1572	245	10	29	(瓦当)	磨	1028	60	74
1051	岱东油页岩	B	I	S66	-	243	11	39	(瓦当)	磨	1028	60	74
1052	岱东页岩	B	I	T67	-	247	0.8	21	(瓦当)	磨	1028	60	74
1053	岱东油页岩	B	I	O68	-	241	1.0	32	(瓦当)	磨	1028	60	74
1054	岱东页岩	B	I	L59	-	250	0.9	31	(瓦当)	磨	1028	60	74
1055	岱东页岩	B	I	L59	-	245	1.2	39	(瓦当)	磨	1028	60	74
1056	岱东油页岩	B	I	L64	SD1572	241	0.9	29	(瓦当)	磨	1028	60	74
1057	岱东油页岩	B	I	M66	-	238	10	32	(瓦当)	磨	1028	60	75
1058	岱东油页岩	B	I	P57	-	243	0.9	25	(瓦当)	磨	1028	60	75
1059	岱东油页岩	B	I	L64	SD1572	231	11	28	(瓦当)	磨	1028	60	75
1060	岱东油页岩	B	I	O68	-	241	1.0	32	(瓦当)	磨	1028	60	75
1061	岱东油页岩	B	I	T68	-	243	1.0	29	(瓦当)	磨	1028	60	75
1062	岱东油页岩	B	I	M64	-	243	1.1	34	(瓦当)	磨	1028	60	75
1063	岱东油页岩	B	I	L64	SD1572	239	0.9	26	(瓦当)	磨	1028	60	75
1064	岱东油页岩	B	I	T68	-	241	0.9	24	(瓦当)	磨	1028	60	75
1065	岱东油页岩	B	I	T68	-	241	0.5	14	(瓦当)	磨	1028	60	75
1066	岱东油页岩	B	I	O66	-	240	0.9	27	(瓦当)	磨	1028	60	75
1067	岱东油页岩	B	I	T64	-	246	0.9	26	(瓦当)	磨	1028	60	75
1068	岱东油页岩	B	I	T67	-	239	1.1	32	(瓦当)	磨	1028	60	75
1069	岱东油页岩	B	I	T69	-	241	1.0	31	(瓦当)	磨	1028	60	75
1070	岱东油页岩	B	I	T69	-	241	1.0	31	(瓦当)	磨	1028	60	75
1071	岱东油页岩	B	I	A68	SD561	231	12	21	(瓦当)	磨	1028	60	75

№	綽號名	区域	面	地区	屬/邊境	法規 (cm)			體形	初齶年	備考	屬	PL.
						長	寬	厚					
1072	偷牛貪財	B	L	T66	虎頭	26.0	1.6	3.5	威靈	北宋	1062	62	75
1073	偷山竊巖	B	L	T66	虎頭	26.0	1.2	3.5	威靈	北宋	1062	62	75
1074	偷牛元謀	B	L	T59	扒土	22.8	1.1	3.1	威靈	北宋	1064	62	75
1075	偷牛元謀	B	L	T67	扒土	22.1	1.3	3.3	威靈	北宋	1064	62	75
1076	偷牛元謀	B	L	N57	SD1728	23.8	0.8	2.7	威靈	北宋	1068	62	75
1077	偷牛元謀	B	L	T59	扒土	26.0	1.7	3.7	威靈	北宋	1068	62	75
1078	偷牛元謀	B	L	L64	暗鰐魚土	26.2	1.7	3.4	威靈	北宋	1068	62	75
1079	偷牛元謀	B	L	T58	扒土	26.8	1.0	3.5	威靈	北宋	1068	62	75
1080	偷牛元謀	B	L	L64	暗鰐魚土	26.0	1.3	3.9	威靈	北宋	1068	62	75
1081	偷牛元謀	B	L	O-98	地上	24.1	1.2	2.9	威靈	北宋	1068	62	75
1082	偷牛元謀	B	L	O-99	愛國	24.7	1.0	3.2	威靈	北宋	1068	62	75
1083	偷牛元謀	B	L	P-68	-	24.0	1.1	2.6	威靈	北宋	1068	62	75
1084	元謀貪財	B	L	L59	扒土	24.1	1.0	3.2	行商	北宋	1078	62	75
1085	元謀貪財	B	L	I-59	扒土	24.1	0.9	2.9	行商	北宋	1078	62	75
1086	元謀貪財	B	L	S-66	扒土	23.8	1.0	3.5	行商	北宋	1078	62	75
1087	元謀貪財	B	L	S-66	扒土	23.8	0.9	2.6	行商	北宋	1078	62	75
1088	元謀貪財	B	L	S-66	暗鰐魚土	24.3	1.4	3.6	行商	北宋	1078	62	75
1089	元謀貪財	B	L	U-66	扒土	25.0	1.1	3.1	行商	北宋	1078	62	75
1090	元謀貪財	B	L	U-67	扒土	24.8	1.0	2.9	行商	北宋	1078	62	75
1091	元謀貪財	B	L	L-58	扒土	23.7	1.2	3.8	威靈	北宋	1078	62	75
1092	元謀貪財	B	L	I-59	扒土	24.7	1.1	3.8	威靈	北宋	1078	62	75
1093	元謀貪財	B	L	I-59	扒土	23.1	1.2	3.8	威靈	北宋	1078	62	75
1094	九思道賊	B	L	N57	SD1728	21.7	1.1	3.9	威靈	北宋	1078	62	75
1095	九思道賊	B	L	I-59	扒土	24.0	1.1	3.6	威靈	北宋	1078	62	75
1096	九思道賊	B	L	T-68	扒土	24.0	0.9	2.4	威靈	北宋	1078	62	75
1097	九思道賊	B	L	I-66	扒土	24.4	1.1	3.7	威靈	北宋	1078	62	75
1098	九思道賊	B	L	T-64	SK1755	23.9	1.0	3.3	行商	北宋	1068	62	75
1099	九思道賊	B	L	I-59	扒土	23.9	1.1	3.6	行商	北宋	1068	62	75
1100	元能貪財	B	L	L-61	暗鰐魚土	24.9	1.2	3.9	行商	北宋	1068	62	75
1101	元能貪財	B	L	O-68	扒土	23.0	1.0	2.2	行商	北宋	1068	62	75
1102	元能貪財	B	L	P-37	扒土	24.6	1.1	3.3	行商	北宋	1068	62	1/5
1103	火燒元寶	B	L	O-68	扒土	24.5	0.9	2.6	行商	北宋	1068	62	75
1104	火燒元寶	B	L	T-68	扒土	24.0	1.1	3.1	行商	北宋	1068	62	75
1105	火燒元寶	B	L	I-63	-	23.3	1.0	2.3	行商	北宋	1068	62	75
1106	火燒元寶	B	L	O-68	扒土	23.2	0.8	1.9	行商	北宋	1068	62	75
1107	火燒元寶	B	L	I-59	扒土	24.1	1.1	3.6	威靈	北宋	1068	62	75
1108	火燒元寶	B	L	I-64	暗鰐魚土	24.4	1.2	3.0	威靈	北宋	1068	62	75
1109	火燒元寶	B	L	I-64	暗鰐魚土	23.8	1.1	3.1	威靈	北宋	1068	62	75
1110	火燒元寶	B	L	O-68	扒土	24.3	1.0	2.8	威靈	北宋	1068	62	75
1111	九思道賊	B	L	T-68	扒土	24.1	1.0	3.0	威靈	北宋	1068	62	75
1112	元能貪財	B	L	N-67	黃土	23.5	1.0	3.0	威靈	北宋	1068	62	75
1113	元能貪財	B	L	T-66	暗鰐魚土	21.5	0.8	2.3	威靈	北宋	1068	62	75
1114	元能貪財	B	L	O-68	扒土	23.9	0.9	2.5	威靈	北宋	1068	62	75
1115	加九八萬	B	L	L-64	暗鰐魚土	24.0	0.9	2.1	威靈	北宋	1068	62	75
1116	新朝元貪	B	L	O-69	泥滑	23.9	0.8	2.4	威靈	北宋	1068	62	75
1117	鬼崇元貪	B	L	S-66	扒土	23.6	1.2	3.5	行商	北宋	1-01	62	75
1118	鬼崇元貪	B	L	I-66	扒土	23.9	1.2	3.3	行商	北宋	1-01	62	75
1119	鬼崇元貪	B	L	I-64	暗鰐魚土	23.1	1.2	3.3	(威靈)	北宋	1-01	62	75
1120	鬼崇元貪	B	L	I-67	扒土	24.2	0.9	2.6	公孫	北宋	1-11	62	75
1121	鬼崇元貪	B	L	I-59	扒土	24.6	1.2	3.4	威靈	北宋	1-11	62	75
1122	鬼崇元貪	B	L	P-27	扒土	25.1	1.1	2.9	威靈	北宋	1-11	62	75
1123	鬼崇元貪	B	L	T-64	暗鰐魚土	24.1	0.7	2.5	(威靈)	北宋	1283 貢凶四	62	75
1124	鬼崇元貪	B	L	T-68	刈刈	23.3	1.3	3.5	(威靈)	元	1310	62	75
1125	鬼崇元貪	B	L	I-67	SD1574	24.1	1.2	3.1	(威靈)	明	1368 雜北半坐	62	75
1126	鬼崇元貪	B	L	N-70	-	23.9	1.2	3.0	(山馬)	明	1368 雜三川通·廣浙	62	75
1127	鬼崇元貪	B	L	S-66	扒土	23.2	1.2	3.0	(威靈)	明	1368	62	75
1128	鬼崇元貪	B	L	T-68	扒土	21.6	0.8	2.5	(威靈)	明	1368	62	75
1129	水雲元寶	B	L	I-62	SX1780	26.7	1.1	2.9	(威靈)	明	1408	62	75
1130	水雲元寶	B	L	I-57	扒土	25.9	1.5	3.4	(威靈)	明	1408	62	75
1131	水雲元寶	B	L	I-64	暗鰐魚土	25.7	1.2	3.2	(威靈)	明	1408	62	75
1132	水雲元寶	B	L	I-64	暗鰐魚土	25.0	1.1	3.2	(威靈)	明	1408	62	75
1133	水雲元寶	B	L	I-68	扒土	24.4	0.9	1.9	(威靈)	明	1408	62	75
1134	水雲元寶	B	L	T-65	扒土	24.5	1.2	3.1	(威靈)	明	1408	62	75
1135	官能貪財	S	L	I-57	扒土	25.4	1.1	2.6	(威靈)	明	1433	62	75
1136	宜能貪財	S	L	T-67	扒土	25.9	1.2	3.1	(威靈)	明	1433	62	75
1137	己未元貪	C	L	N-57	SD1728	24.9	1.1	3.1	威靈	北宋	1068	62	75
1138	己未元貪	C	L	I-58	暗色攀枝土	23.9	1.1	3.7	威靈	北宋	1078	62	75
1139	小明	C	S	S-67	暗色攀枝土	24.0	0.5	1.3	-	-	-	62	75
1140	十四元貪	C	S	S-67	暗色攀枝土	24.0	0.9	2.3	(威靈)	唐	62	75	
1141	十四元貪	C	S	I-61	SD1729	24.1	1.2	2.7	(威靈)	唐	62	75	
1142	十四元貪	C	S	I-62	暗色攀枝土	24.0	1.0	2.4	威靈	北宋	1078	62	75
1143	十四元貪	C	S	S-59	扒土	24.4	1.1	2.7	威靈	北宋	1066	62	75
1144	十四元貪	C	S	I-62	扒土	24.6	1.1	3.7	行商	北宋	1066	62	75
1145	戎能元寶	C	L	I-61	扒土	24.0	1.0	2.5	威靈	北宋	1111	62	75
1146	大和元貪	C	L	O-61	SX1799	24.0	1.2	3.6	(威靈)	唐後	1413	62	75
1147	僧能元寶	C	L	A-60	SD604	24.3	1.1	2.7	(威靈)	唐	62	75	
1148	僧能元寶	C	L	I-62	威靈	24.4	0.9	3.1	(威靈)	唐	62	75	
1149	宋能元寶	C	L	S-62	暗鰐魚土	24.6	0.7	1.8	(威靈)	唐	62	75	
1150	宋能元寶	C	L	S-62	暗鰐魚土	24.6	1.2	2.4	(威靈)	唐	62	75	
1151	開元元貪	C	L	T-60	-	24.6	1.0	2.9	(威靈)	唐	62	75	
1152	淳化元貪	C	L	T-62	-	24.4	1.0	2.9	行商	北宋	990	62	75
1153	咸平元貪	C	L	U-62	威靈	23.7	1.0	3.1	威靈	北宋	998	62	75
1154	淳化元貪	C	L	I-60	威靈	24.8	0.9	2.9	威靈	北宋	1008	62	75
1155	祥符元貪	C	L	I-66	SD1735	23.1	0.7	2.1	威靈	北宋	1008	62	75
1156	祥符元貪	C	L	I-62	威靈	23.8	0.8	2.7	威靈	北宋	1008	62	75
1157	祥符元貪	C	L	I-62	威靈	23.9	0.9	2.8	威靈	北宋	1008	62	75
1158	祥符元貪	C	L	I-62	威靈	24.6	1.0	2.6	威靈	北宋	1008	62	75
1159	祥符元貪	C	L	R-60	威靈	23.8	1.2	2.3	威靈	北宋	1008	62	75
1160	天禧元貪	C	L	S-60	SD1752	25.0	1.0	3.0	威靈	北宋	1017	62	75

No	錢貨名	區	面	地區	版/鑄機	估量(g)	稱	書体	初鑄年	備考	
1161	天祐寶元	C	II	R61	仄彎	24.9	.5	直	北宋	1017	
1162	天祐寶元	C	II	S61	直背	24.8	.5	直	北宋	1020	
1163	天祐寶元	C	II	U62	仄彎	25.0	.1	直	北宋	1023	
1164	天祐寶元	C	II	Q61	仄彎	23.1	.0	23	直	北宋	1023
1165	天祐寶元	C	II	A59	SD1501	24.8	.0	33	直	北宋	1034
1166	天祐寶元	C	II	268	出土	25.0	.9	18	直	北宋	1034
1167	天祐寶元	C	II	T62	出土	23.7	.0	30	直	北宋	1034
1168	天祐寶元	C	II	S61	SD1735	24.6	.0	30	直	北宋	1038
1169	天祐寶元	C	II	R62	SD1735	24.2	.1	37	直	北宋	1038
1170	天祐寶元	C	II	U62	仄彎	24.2	.1	33	直	北宋	1038
1171	天祐寶元	C	II	Q61	民善	25.5	.0	24	直	北宋	1038
1172	天祐寶元	C	II	U62	仄彎	23.8	.1	36	直	北宋	1044
1173	天祐寶元	C	II	S62	SD1735	24.8	.0	41	直	北宋	1056
1174	天祐寶元	C	II	Q62	仄彎	26.0	.1	29	直	北宋	1056
1175	天祐寶元	C	II	U62	仄彎	24.8	.0	30	直	北宋	1056
1176	天祐寶元	C	II	G60	仄彎	23.3	.1	28	直	北宋	1056
1177	天祐寶元	C	II	267	出土	24.7	.0	37	直	北宋	1056
1178	天祐寶元	C	II	S60	仄彎	24.1	.1	36	直	北宋	1056
1179	天祐寶元	C	II	R62	SD1735	24.1	.1	32	直	北宋	1056
1180	天祐寶元	C	II	T60	仄彎	24.0	.1	35	直	北宋	1056
1181	天祐寶元	C	II	S60	仄彎	24.7	.0	30	直	北宋	1056
1182	天祐寶元	C	II	E63	撫善	23.8	.1	37	直	北宋	1056
1183	天祐寶元	C	II	T60	撫善	23.4	.2	28	直	北宋	1056
1184	天祐寶元	C	II	R61	撫善	24.2	.0	33	直	北宋	1056
1185	天祐寶元	C	II	R61	撫善	24.1	.1	44	直	北宋	1056
1186	天祐寶元	C	II	T50	-	24.4	.1	45	直	北宋	1056
1187	天祐寶元	C	II	R61	撫善	23.6	.0	32	直	北宋	1056
1188	天祐寶元	C	II	U62	仄彎	24.0	.1	33	直	北宋	1056
1189	天祐寶元	C	II	Q62	天祐	23.7	.0	25	行	北宋	1078
1190	天祐寶元	C	II	U62	天祐	25.0	.0	28	行	北宋	1078
1191	天祐寶元	C	II	S62	天祐	24.3	.1	31	行	北宋	1078
1192	天祐寶元	C	II	Q61	天祐	25.9	.1	34	行	北宋	1078
1193	天祐寶元	C	II	A59	SD1501	24.5	.1	44	直	北宋	1078
1194	天祐寶元	C	II	S62	天祐	24.1	.1	28	直	北宋	1078
1195	天祐寶元	C	II	R61	天祐	23.5	.2	36	行	北宋	1086
1196	天祐寶元	C	II	U62	-	24.0	.1	34	直	北宋	1086
1197	天祐寶元	C	II	Q60	SD1572	23.7	.1	24	直	北宋	1086
1198	天祐寶元	C	II	Q61	天祐	24.1	.0	25	直	北宋	1086
1199	天祐寶元	C	II	T61	天祐	23.6	.0	27	行	北宋	1094
1200	天祐寶元	C	II	R62	SD1735	23.8	.1	35	直	北宋	1094
1201	天祐寶元	C	II	R61	天祐	23.8	.0	30	直	北宋	1094
1202	天祐寶元	C	II	U62	天祐	23.8	.0	29	直	北宋	1094
1203	天祐寶元	C	II	S62	天祐	24.5	.0	35	行	北宋	1110
1204	天祐寶元	C	II	Q61	天祐	25.3	.1	31	行	北宋	1110
1205	天祐寶元	C	II	U62	天祐	24.9	.1	40	直	北宋	1110
1206	天祐寶元	C	II	S62	SD1572	24.1	.1	36	直	北宋	1110
1207	天祐寶元	C	II	Q62	天祐	24.6	.1	27	直	北宋	1110
1208	天祐寶元	C	II	R62	天祐	24.7	.1	33	分篆	北宋	1110
1209	天祐寶元	C	II	Q60	天祐	24.5	.1	23	直	北宋	1111
1210	天祐寶元	C	II	S61	天祐	23.8	.0	30	直	北宋	1111
1211	天祐寶元	C	II	U62	天祐	23.8	.0	29	直	北宋	1111
1212	天祐寶元	C	II	Q62	天祐	23.7	.1	36	行	北宋	1110
1213	天祐寶元	C	II	U60	天祐	21.9	.1	37	直	南宋	1174-1175
1214	天祐寶元	C	II	Q61	天祐	23.2	.0	27	(直)	明	1368
1215	天祐寶元	C	II	S61	有背直土	20.5	.1	26	(直)	明	1368
1216	天祐寶元	C	II	Q62	SD1735	20.3	.0	17	(直)	明	1368
1217	天祐寶元	C	II	A59	SD1501	26.5	.1	43	(直)	明	1408
1218	永通萬國	C	II	Q52	仄彎	25.3	.1	33	(直)	明	1408
1219	永通萬國	C	II	267	-	24.9	.1	28	直	北宋	1111
1220	永通萬國	C	II	Q61	直背	23.3	.0	24	直	北宋	1110
1221	永通萬國	C	II	U62	天祐	23.7	.1	31	直	南宋	1174
1222	永通萬國	C	II	U60	天祐	21.9	.1	37	直	南宋	1174
1223	永通萬國	C	II	Q61	天祐	23.2	.0	27	(直)	明	1368
1224	永通萬國	D	I	Q53	SD1596	23.7	.0	30	直	宋	621
1225	永通萬國	D	I	U52	天祐	24.0	.1	30	(直)	宋	621
1226	永通萬國	D	I	M54	撫善	26.1	.1	32	(直)	宋	621
1227	永通萬國	D	I	M54	撫善	24.9	.1	25	(直)	宋	621
1228	永通萬國	D	I	U52	天祐	24.9	.1	26	(直)	宋	621
1229	永通萬國	D	I	S58	SD1572	23.6	.1	27	(直)	宋	621
1230	永通萬國	D	I	A55	SS1593	24.3	.1	24	直	北宋	998
1231	永通萬國	D	I	A52	SD1590	24.5	.0	30	直	北宋	998
1232	永通萬國	D	I	M54	撫善	26.3	.1	31	直	北宋	1004
1233	永通萬國	D	I	R52	SD1599/撫善	24.3	.1	23	直	北宋	1004
1234	永通萬國	D	I	S58	-	24.2	.1	23	直	北宋	1004
1235	永通萬國	D	I	A52	SD1590	24.1	.0	21	直	北宋	1008
1236	永通萬國	D	I	Q52	天祐	25.0	.1	38	直	北宋	1008
1237	永通萬國	D	I	R51	天祐	24.5	.0	21	直	北宋	1008
1238	永通萬國	D	I	A54	撫善	25.5	.1	32	直	北宋	1008
1239	永通萬國	D	I	M55	撫善	24.5	.1	32	直	北宋	1008
1240	永通萬國	D	I	M55	天祐	22.7	.1	29	直	北宋	1008
1241	永通萬國	D	I	M56	撫善	24.1	.1	31	直	北宋	1008
1242	永通萬國	D	I	O56	撫善	24.9	.1	32	直	北宋	1038
1243	永通萬國	D	I	T58	SD1572	24.6	.0	20	直	北宋	1038
1244	永通萬國	D	I	T54	撫善	24.7	.0	19	直	北宋	1038
1245	永通萬國	D	I	A52	SD1590	24.8	.0	25	直	北宋	1038
1246	永通萬國	D	I	T57	SX1676	24.0	.0	29	直	北宋	1038
1247	永通萬國	D	I	U56	-	24.5	.1	36	直	北宋	1038
1248	永通萬國	D	I	O56	撫善	24.9	.1	33	直	北宋	1038
1249	永通萬國	D	I	U52	天祐	24.7	.1	36	直	北宋	1038

No.	鉱資源名	区域	面	地区	層/透構	地質(mg)			岩体	初縫年	備考	No.	PL.	
						厚	重	種						
1250	烏山鉱資源	D	I	Q52	櫻土	23.3	1.0	26	真雲	北宋	1038		66	77
1251	烏山鉱資源	D	I	T52	櫻土	24.0	0.9	26	真雲	北宋	1038		66	77
1252	烏山鉱資源	D	I	M54	櫻土	24.4	1.1	29	真雲	北宋	1056		66	77
1253	烏山鉱資源	D	I	O56	櫻土	23.5	1.2	30	真雲	北宋	1066		66	77
1254	烏山鉱資源	D	I	A52	SD1590	23.4	1.3	29	真雲	北宋	1068		66	77
1255	烏山鉱資源	D	I	A35	SD1590	25.7	1.4	33	真雲	北宋	1068		66	77
1256	烏山鉱資源	D	I	-33	櫻土	23.4	1.3	30	真雲	北宋	1068		66	77
1257	烏山鉱資源	D	I	M54	櫻土	23.7	1.4	37	真雲	北宋	1068		66	77
1258	烏山鉱資源	D	I	-37	SD1595	1.2	3.1	34	真雲	北宋	1068		66	77
1259	烏山鉱資源	D	I	U54	櫻土	24.1	1.0	36	真雲	北宋	1068		66	77
1260	元山鉱資源	D	I	U55	SD1594	24.7	1.0	27	行雲	北宋	1078		66	77
1261	元山鉱資源	D	I	A35	SD1590	24.4	1.2	29	真雲	北宋	1079		66	77
1262	元山鉱資源	D	I	G32	櫻土	24.4	1.2	34	真雲	北宋	1095		66	77
1263	元山鉱資源	D	I	M36	SD1594	23.6	0.7	51	真雲	北宋	1096		66	77
1264	大山鉱資源	D	I	J52	灰屑	24.1	1.1	31	真雲	北宋	1096		66	77
1265	大山鉱資源	D	I	A52	SD1590	24.5	1.0	29	行雲	北宋	1096		66	77
1266	大山鉱資源	D	I	N55	-	24.6	0.8	20	行雲	北宋	1101		66	77
1267	泰山鉱資源	D	I	T58	SD1594	24.7	1.0	23	行雲	北宋	1101		66	77
1268	泰山鉱資源	D	I	M54	櫻土	24.0	0.9	27	行雲	北宋	1101		66	77
1269	泰山鉱資源	D	I	-38	-	24.1	1.2	26	真雲	北宋	1101		66	77
1270	泰山鉱資源	D	I	U53	SD1597	24.9	1.0	26	(真雲)	北宋	1107		66	77
1271	泰山鉱資源	D	I	T54	櫻土	24.1	1.4	33	分離	北宋	1111		66	77
1272	岱岳鉱資源	D	I	A57	-	23.8	1.0	30	真雲	北宋	1111		67	77
1273	泰山鉱資源	D	I	T54	櫻土	23.8	0.9	19	(真雲)	南宋	1157	第十一、一二、十三のいわゆる。	67	77
1274	泰山鉱資源	D	I	M54	櫻土	24.1	1.1	29	真雲	南宋	1174	第十一、一二、十三のいわゆる。	67	77
1275	泰山鉱資源	D	I	M54	櫻土	23.0	1.5	32	丘積	明	1368		67	77
1276	泰山鉱資源	D	I	O53	SD1579	22.6	1.1	27	(丘積)	明	1368		67	77
1277	泰山鉱資源	D	I	N55	SD1583	23.2	1.3	30	(真雲)	明	1368	水銀・卓点酒。	67	77
1278	泰山鉱資源	D	I	K55	真雲	25.0	1.3	34	真雲	明	1408		67	77
1279	泰山鉱資源	D	I	K55	真雲	25.6	1.2	27	(丘積)	明	1408		67	77
1280	泰山鉱資源	D	I	S52	灰屑	24.4	0.8	24	真雲	明	1408		67	77
1281	泰山鉱資源	D	I	S52	SD1574	24.1	1.1	29	真雲	明	1408		67	77
1282	泰山鉱資源	D	I	S52	SD1595	24.8	0.9	13	(丘積)	明	1433		67	77
1283	泰山鉱資源	D	I	E55	櫻土	23.5	1.1	27	(丘積)	明	1431		67	77
1284	泰山鉱資源	D	I	S58	-	23.0	0.9	23	真雲	明	1436		67	77
1285	泰山鉱資源	D	I	T54	櫻土	24.7	1.0	26	真雲	明	1436		67	77
1286	泰山鉱資源	D	I	U56	SD1574	24.6	0.9	33	行雲	北宋	1496		67	77
1287	泰山鉱資源	D	I	L54	櫻土	24.2	1.1	28	行雲	北宋	1496		67	77
1288	泰山鉱資源	D	I	N54	櫻土	24.0	1.0	26	真雲	北宋	1496		67	77
1289	泰山鉱資源	D	I	O56	陽城鷄土	23.1	0.9	22	真雲	北宋	1496		67	77
1290	泰山鉱資源	D	I	R52	櫻土	24.5	0.9	25	真雲	北宋	1498		67	77
1291	泰山鉱資源	D	I	T52	櫻土	24.9	0.8	21	丘積	北宋	1498		67	77
1292	泰山鉱資源	D	I	S56	櫻土	24.0	1.1	28	真雲	北宋	1517		67	77
1293	泰山鉱資源	D	I	T53	-	24.8	1.5	39	真雲	北宋	1523		67	77
1294	泰山鉱資源	D	I	H58	SD1574	22.1	0.9	26	真雲	北宋	1523		67	77
1295	泰山鉱資源	D	I	H56	櫻土	24.7	1.1	28	真雲	北宋	1532		67	77
1296	泰山鉱資源	D	I	T54	櫻土	22.3	0.9	24	真雲	北宋	1534		67	77
1297	泰山鉱資源	D	I	A54	SD1590	24.0	0.8	20	丘積	北宋	1538		67	77
1298	泰山鉱資源	D	I	R52	櫻土	25.9	1.0	25	真雲	北宋	1538		67	77
1299	泰山鉱資源	D	I	U56	SD1574	25.9	1.0	32	丘積	北宋	1538		67	77
1300	泰山鉱資源	D	I	E54	SD1584	24.5	1.0	20	丘積	北宋	1538		67	77
1301	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.6	1.2	33	真雲	北宋	1538		67	77
1302	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.5	1.0	30	真雲	北宋	1538		67	77
1303	泰山鉱資源	D	I	E54	SD1578	24.5	1.1	28	真雲	北宋	1538		67	77
1304	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.5	1.0	25	真雲	北宋	1538		67	77
1305	泰山鉱資源	D	I	E54	櫻土	24.5	1.0	28	真雲	北宋	1538		67	77
1306	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.7	1.1	32	真雲	北宋	1538		67	77
1307	泰山鉱資源	D	I	E54	櫻土	24.2	1.0	23	真雲	北宋	1544		67	78
1308	泰山鉱資源	D	I	G51	SK1832	23.1	1.7	27	真雲	北宋	1541		67	78
1309	泰山鉱資源	D	I	R52	櫻土	24.6	1.7	28	真雲	北宋	1546		67	78
1310	泰山鉱資源	D	I	G54	SK1829	23.1	1.0	23	真雲	北宋	1556		67	78
1311	泰山鉱資源	D	I	T56	SD1574	23.6	1.2	35	真雲	北宋	1564		67	78
1312	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.8	0.8	27	真雲	北宋	1568		67	78
1313	泰山鉱資源	D	I	G51	SK1832	24.6	1.1	31	真雲	北宋	1568		67	78
1314	泰山鉱資源	D	I	T52	真雲	24.1	1.0	27	真雲	北宋	1568		67	78
1315	泰山鉱資源	D	I	T56	櫻土	23.6	1.2	36	真雲	北宋	1569		67	78
1316	泰山鉱資源	D	I	R54	SK1829	24.0	1.2	36	真雲	北宋	1569		67	78
1317	泰山鉱資源	D	I	P51	SK1764	23.5	1.3	30	真雲	北宋	1568		67	78
1318	泰山鉱資源	D	I	G51	SK1832	24.2	1.1	29	真雲	北宋	1568		67	78
1319	泰山鉱資源	D	I	S51	SK1764	23.2	1.0	27	真雲	北宋	1568		67	78
1320	泰山鉱資源	D	I	S56	櫻土	24.1	1.2	36	行雲	北宋	1578		67	78
1321	泰山鉱資源	D	I	G51	-	23.8	1.2	31	真雲	北宋	1578		67	78
1322	泰山鉱資源	D	I	S56	櫻土	24.0	1.1	32	真雲	北宋	1578		67	78
1323	泰山鉱資源	D	I	R52	櫻土	23.9	0.8	24	行雲	北宋	1585		68	78
1324	泰山鉱資源	D	I	E56	SD1575	24.1	1.1	37	真雲	北宋	1586		68	78
1325	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.4	1.0	31	真雲	北宋	1586		68	78
1326	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	23.7	1.0	20	行雲	北宋	1586		68	78
1327	泰山鉱資源	D	I	S58	SD1575	24.2	1.0	33	真雲	北宋	1586		68	78
1328	泰山鉱資源	D	I	T52	櫻土	23.7	1.2	29	真雲	北宋	1591		68	78
1329	泰山鉱資源	D	I	R52	櫻土	23.7	1.1	28	真雲	北宋	1594		68	78
1330	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	23.6	1.1	27	真雲	北宋	1598		68	78
1331	泰山鉱資源	D	I	S51	真雲	24.3	1.4	37	行雲	北宋	1601		68	78
1332	泰山鉱資源	D	I	E56	櫻土	24.5	1.1	28	真雲	北宋	1611		68	78
1333	泰山鉱資源	D	I	U54	SK1758	24.7	1.0	26	真雲	北宋	1611		68	78
1334	泰山鉱資源	D	I	U58	SD1574	25.8	0.9	26	分離	北宋	1619		68	78
1335	泰山鉱資源	D	I	S58	SD1574	22.0	0.8	21	(丘積)	明	1368		68	78
1336	泰山鉱資源	D	I	S51	真雲	23.1	1.2	25	(丘積)	明	1368		68	78
1337	泰山鉱資源	D	I	O56	陽城鷄土	24.1	1.1	28	真雲	明	1408		68	78
1338	泰山鉱資源	D	I	T53	櫻土	24.3	1.1	28	真雲	明	1408		68	78

No.	鉱物名	区域	面	地区	層/礁層	厚度(m)			岩体	初期年	備考	西 PL	
						深	厚	富					
1339	原生銅	E	I	I-15	SD1587	24.5	11	30	(貞貴)	床	621	過下第 6	68.76
1340	人頭元寶	E	I	I-150	伊予市中	250	13	31	高貴	北東	1023		68.76
1341	無文元寶	E	I	I-151	SE1617	24.7	13	35	真貴	北東	1068		68.76
1342	黑光元寶	E	I	I-151	SE1617	24.8	10	31	高貴	北東	1268		68.76
1343	光透寶	E	I	I-151	SE1617	23.9	10	32	高貴	北東	1086		68.76
1345	人頭透寶	E	I	I-150	透二	24.0	12	24	高貴	北東	1103		68.76
1345	銀幣元寶	E	I	I-151	ガラ石巾	23.1	10	25	山貴	南東	1150	質問	68.76
1346	開元通寶	E	I	I-49	透一	23.5	10	24	高貴	北	621		68.76
1347	開元通寶	E	I	I-48	透上	26.6	6	34	高貴	北東	996		68.76
1348	開元通寶	E	I	I-49	透珠	24.2	11	31	高貴	北	1098		68.76
1349	開元通寶	E	I	I-50	透斜	24.3	15	24	高貴	北東	1021		68.76
1350	開元通寶	E	I	I-50	透斜	24.1	11	30	高貴	北東	1064		68.76
1351	人天通寶	(C)	I	A-61	SS493	24.0	11	24	(貞貴)	北東	976		69.78
1352	銀幣元寶	D/E	I	P-51	ガラ石中	24.8	08	21	高貴	北東	1008		69.78
1353	天寶瓦當	B/C	I	S-63	脱一	23.7	09	24	真貴	北東	1023		69.78
1354	大聖瓦當	B/C	I	S-61	SD1582	25.2	14	34	高貴	北東	023		69.78
1355	嘉祐初通寶	B/D	I	N-56	SD1574	23.0	11	32	真貴	北東	056		69.78
1356	嘉祐通寶	D/B	I	P-51	SD1582	23.8	15	39	真貴	北東	056		69.78
1357	嘉祐通寶	D/B	I	P-61	SD1582	24.0	08	20	高貴	北東	1056		69.78
1358	嘉祐元寶	C/D	-	A-58	SD501	23.3	12	35	真貴	北東	1058		69.78
1359	嘉祐通寶	D/V	I	P-61	SD1582	25.1	11	35	竹貴	北東	1078		69.78
1360	昭明元寶	D/Z	I	P-51	SD1582	23.7	12	27	竹貴	北東	1094		69.78
1361	聖宋元宝	C/D	I	U-58	SD501	24.1	10	32	竹貴	北東	1105		69.78
1362	聖宋元寶	D/B	I	P-51	SD1582	24.0	11	30	象貴	北東	1101		69.78
1363	聖宋元寶	D/E	I	R-50	SD1580	23.5	07	21	(金門)	南東	1260	質問、孟底過去	69.78
1364	洪武通寶	B/D	I	Q-56	SD1574	23.1	11	28	(真貴)	明	1368		69.78
1365	洪武通寶	C/D	I	J-58	SD501	24.1	09	21	(真貴)	明	1398		69.78
1366	洪武通寶	B/C	I	P-61	SD1572	25.1	15	34	(西貴)	明	621		69.78
1367	洪武通寶	B/C	I	P-56	SD1574	24.5	15	29	(金門)	明	621		69.78
1368	洪武通寶	B/C	I	P-56	SD1574	23.1	13	28	(真貴)	明	621		69.78
1369	洪武通寶	B/D	I	P-56	SD1574	22.2	11	26	(真貴)	明	621		69.78
1370	建炎通寶	D/E	I	P-51	SD380	23.5	11	24	(金門)	宋	621		69.78
1371	建炎通寶	B/D	I	J-57	SD1574	22.9	09	23	(真貴)	宋	621		69.78
1372	淳化元寶	B/D	I	K-57	SD1574	24.6	08	25	行貴	北宋	995		69.78
1373	淳化元寶	C/C	I	P-61	SD1572	25.0	12	38					69.78
1374	開元通寶	B/D	I	I-57	SD1574	25.0	10	32	高貴	北東	1028		69.78
1375	開元通寶	B/D	I	I-57	SD1574	24.0	13	37	高貴	北東	1038		69.78
1376	開元通寶	B/D	I	P-56	SD1574	24.5	11	30	高貴	北東	1054		69.78
1377	天祐通寶	B/D	I	O-56	SD1574	24.2	14	44	高貴	北	1068		69.78
1378	聖祐元寶	B/D	I	T-57	SD1574	24.4	11	33	高貴	北東	1017		69.78
1379	聖祐通寶	B/D	I	T-57	SD1574	24.3	12	32	真貴	北東	1034		69.78
1380	皇宋通寶	B/D	I	I-57	SD1574	24.2	10	32	高貴	北東	1038		69.78
1381	皇宋通寶	B/D	I	Q-56	SD1574	24.0	13	37	高貴	北東	1038		69.78
1382	宣和通寶	B/C	I	Q-57	SD1574	24.5	11	30	高貴	北東	1054		69.78
1383	聖宋元寶	B/C	I	Q-56	SD1574	24.2	14	44	高貴	北	1068		69.78
1384	元祐通寶	B/D	I	Q-57	SD1574	23.7	12	36	行貴	北宋	1078		69.78
1385	元祐通寶	B/D	I	K-57	SD1574	23.7	11	34	行貴	北宋	1078		69.78
1386	元祐通寶	B/D	I	K-57	SD1574	23.0	09	28	行貴	北宋	1078		69.78
1387	元祐通寶	3/D	I	I-57	SD1574	24.5	13	45	高貴	北宋	1086		69.78
1388	元祐通寶	3/D	I	I-57	SD1574	24.5	09	24	高貴	北宋	1086		69.78
1389	元祐通寶	D/Z	I	P-51	SD501	24.2	11	36	高貴	北宋	1096		69.78
1390	元祐通寶	D/Z	I	P-56	SD1574	23.9	12	36	高貴	北宋	1096		69.78
1391	元祐通寶	B/D	I	P-56	SD1574	23.9	11	36	行貴	北宋	1094		69.78
1392	元祐通寶	B/D	I	P-56	SD1574	23.9	11	36	行貴	北宋	1094		69.78
1393	元祐通寶	B/D	I	P-56	SD1574	23.9	11	36	行貴	北宋	1094		69.78
1394	元祐通寶	B/D	I	P-56	SD1574	24.4	12	36	高貴	北宋	1111		69.78
1395	元祐通寶	B/D	I	Q-57	SD1574	22.5	13	24	(貞貴)	明	1368		70.79
1396	祥符元宝	C/D	I	A(U-a)58	SD501	22.3	10	24	貞貴	北宋	1008		70.79
1397	皇宋通寶	B/D	I	Q-57	麻繩土	24.2	09	27	高貴	北宋	1038		70.79
1398	皇宋通寶	C/D	I	A(U-a)58	SD501	24.8	12	27	行貴	北宋	1078		70.79
1399	聖宋通寶	-	I	夷款	-	23.0	08	21	(貞貴)	唐	621		70.79
1400	開元通寶	-	I	夷款	-	24.1	10	28	(高貴)	唐	621		70.79
1401	威德元寶	-	I	-15-6区	床土	22.8	10	19	真貴	北東	998		70.79
1402	威德元寶	-	I	夷款	-	24.0	11	26	金貴	北東	998		70.79
1403	威德元寶	-	I	夷款	-	23.1	09	24	高貴	北東	998		70.79
1404	開元通寶	-	I	19区	床土	24.5	07	23	高貴	北東	1008		70.79
1405	天祐通寶	-	I	9-4区	床土	24.5	10	21	(真貴)	北東	1017		70.79
1406	天祐通寶	-	I	-	-	24.9	12	29	高貴	北東	1063		70.79
1407	天祐通寶	-	I	-	-	22.5	09	23	高貴	北東	1063		70.79
1408	聖宋通寶	-	I	-	-	24.1	10	31	高貴	北宋	1038		70.79
1409	聖宋通寶	-	I	2区	床土	23.8	09	24	高貴	北宋	1064		70.79
1410	聖宋通寶	-	I	2区	床土	23.8	09	24	高貴	北宋	1066		70.79
1411	聖宋通寶	-	I	2区	床土	23.8	09	24	高貴	北宋	1064		70.79
1412	開元通寶	-	I	15-16区	床土	24.0	10	22	高貴	北宋	1064		70.79
1413	開元通寶	-	I	8-11区	床土	24.2	13	18	高貴	北宋	1068		70.79
1414	開元通寶	-	I	外標	-	26.0	11	38	高貴	北宋	1068		70.79
1415	開元通寶	-	I	8-11区	床土	22.5	02	16	行貴	北	1078		70.79
1416	開元通寶	-	I	13-16区	床土	23.5	07	25	行貴	北	1078		70.79
1417	開元通寶	-	I	8-28区	床土	23.8	11	23	行貴	北	1078		70.79
1418	開元通寶	-	I	21区	床土	24.1	11	28	行貴	北	1086		70.79
1419	開元通寶	-	I	15-16区	床土	24.1	15	39	高貴	北	1086		70.79
1420	開元通寶	-	I	夷款	-	23.4	10	26	高貴	北	1094		70.79
1421	大觀通寶	-	I	8-11区	床土	23.1	13	19	(高貴)	北宋	1107		70.79
1422	大觀通寶	-	I	3区	床土	24.9	11	27	(高貴)	明	1408		70.79
1423	大觀通寶	-	I	18-28区	床土	24.7	13	39	(高貴)	明	1408		70.79
1424	大觀通寶	-	I	-	-	24.7	13	34	(高貴)	明	1408		70.79
1425	大觀通寶	-	I	-	-	24.7	11	36	(高貴)	明	1408		70.79
1426	大觀通寶	-	I	3区	床土	25.0	15	39	(高貴)	明	1408		70.79
1427	大觀通寶	-	I	6-11区	床土	23.8	10	22	(高貴)	明	1413		70.79

## V まとめ

第40次発掘調査区は、B区とした中央部の大規模な区画が第46次発掘調査区へ、E区とした小規模な区画群が第36次発掘調査区へと続いており、町割の区画単位としては完結していない。一方、赤羽・奥間野・吉野本地区として括られるこの一帯の調査成果については、一乗谷の都市計画を語るうえで欠かせないものとして、すでに多くの場所で総合的に紹介、論じられている(小野1997、小野・水藤編1990等)。ここでは、それらの内容にも触れつつ、若干のまとめを行う。

### 遺構面の時期について

本報告では検出した各遺構面を上層から下層へ向かってI～IV遺構面とした。これは当調査区における相対的な区分であって、一乗谷全体に敷衍できるものではない。一乗谷全体の時期区分としては小野正敏氏が、Ⅰ期：一乗谷が町になる前の14～15世紀前半、Ⅱ期：越前国の首都としての「一乗谷」が成立した15世紀後半、Ⅲa期：文明14年(1482)の大火後に再建された町、Ⅲb期：Ⅲa期とⅢc期の中間、Ⅲc期：天正元年(1573)に滅亡した時の町、といった具合に整理し、これまで発掘された町の面のはほとんどは同じ町割を踏襲したⅢ期のグループに含まれると述べている(小野前掲)。当調査区においても、東西道路SS493の下層で検出した遺構SX1824～1826が計画的な町割以前の遺構としてⅡ期に遡る可能性があるものの、I～IV遺構面はすべてⅢ期に対比できる。I遺構面をⅢc期、IV遺構面をⅢa期とするなど、20～30年に1回は土地の嵩上げと建て替えが行われたことになる。各遺構面に炭・灰・焼土層が形成されていることから、その契機の多くは火災によるものであろう。なお、II遺構面については、紀年銘のある石製盤(480)の出土から、天文20年(1551)以降と知ることができる。

### 町割の変遷について

挿図10は、各遺構面における遺構配置の模式図である。これによると、IV遺構面からI遺構面まで東西道路SS493を基軸に、南北方向の石組溝SD1568・1572・1574・1580、同じく通路SS1564・1565・1567は一部作り替えながらも位置を踏襲しており、A～E区とした大区画は維持されたといえよう。ただし、B区とD区の境界に比べて他はさほど明瞭なものではない。以下、各区画についてみる。

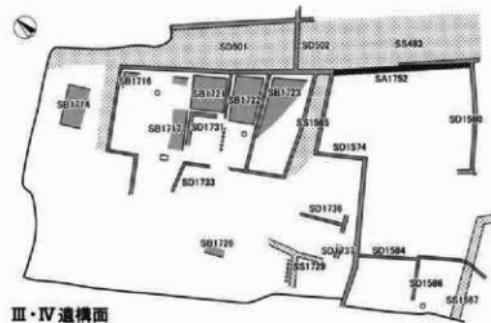
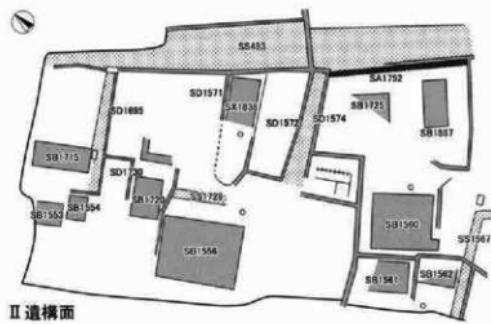
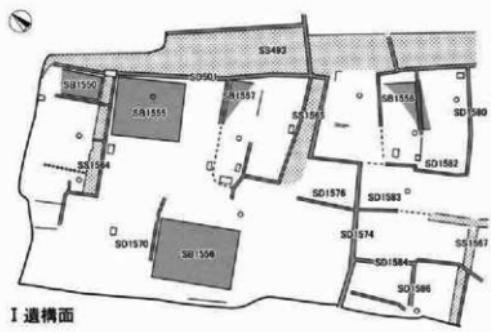
A区はII遺構面までは一つの大きな区画であったようだが、I遺構面の段階で小さな区画に分割される。ただし、B区との境界は一貫して明瞭さを欠く。

B区はII遺構面まではB1区とした北西部とB2区とした南部との間が溝でおおよそ分けられるが、I遺構面ではその境が認められなくなる。

C区はIV遺構面の段階から区割がなされ、I遺構面まで続いている。なお、C区はII遺構面まではむしろB1区と一体の区画であったようにもみえる。

D区はII遺構面まではD1区とした北側とD2区とした中央部が一つの大きな区画であったが、I遺構面の段階で分かれ、D1区は南北方向、D2区は東西方向に分割される。なお、南側のD3区との境界は一貫して存在する。

E区については、調査が各小区画の一部のみであり、他の区画のように区割の変遷を追うことはできない。残りの大部分を調査した第36次発掘調査においても、いくつかの小区画内で上下2面の遺構を検出しているが、区割の動向については不明である。



※概報 XIII・拵図 2~4 を一部改変

拵図10 造構面概念図

#### 第46次発掘調査区の性格について

本調査区の中心的な区画であるB区については、周辺部も含め一石五輪塔や石仏、墨青土器などが出土したこと、当初から寺院跡と推測されていた。その後、第46次発掘調査において、B区の南端にある場所(C地区)で墓地が検出され、それは確定的となった。本調査区についてみると、中央部に位置する礎石建物SB1556は本堂、そこから東西道路SS493へ向かって延びるSS1565は参道と理解されており、Ⅱ遺構面の段階にはすでに存在していたとみられる。なお、第46次調査区の墓地も下層で検出されたものである。また、本堂と日されるSB1556は、東側が広い空閑地となっていることや参道SS1565の取り付き状況からみて、東向きの建物であったと考えられる(南1999)。

次にD区について、Ⅱ遺構面までの広い区画は、東西道路SS493に面する土塁SA1752を有すること、区画内に比較的大きな建物が複数存在することなどから武家屋敷と推測されるが、Ⅰ遺構面の段階にはこれが小規模な区画に分割され、町屋群を形成したと考えられる。注目されるのは、これらの中に井戸や石積施設(便所)をもたず、独立性を欠くといえる区画が存在する点であり、さらに南側のD3区から第46次調査区にかけては両方をもたない小区画が群をなしている。街路に直接面しない路地裏空間にあるこの小区画群について小野正敏氏は、共同井戸・便所をもつ町屋群で「借家」と推定している。これはE区で一部を、主には第36次調査区で確認された町屋群が、南北の基幹道路に面し、各戸に井戸と便所を備えていることと対照的であり、そこには住人の社会的階層差も想定されている(小野前掲)。

同様の状況はA区においても認められる。分割される前の性格については明らかでないが、B区との境界が不明瞭であることから、その敷地の一部とも考えられる<sup>1)</sup>。また、分割された後の小区画群についても、同様の理解をするならば、B区つまり寺院に隸属する立場の居住者が想定されよう。

C区もA区と同じく元々B区の敷地であったところを切り取る形で造成されたと推測される。一方、早い段階に成立し何度も建て替えられていること、街路に面し、敷地も比較的広いことなどから、A区とはやや異なる立場の居住者を想定してもよいかもしれない。

#### 出土遺物について

土器・陶磁器については、寺院を彷彿させる墨書き土器(1431)や線刻土器(601)の他、白磁輪花鉢(23)や黒釉天目茶碗(123)、青磁蝶耳花瓶(532)、朝鮮半島製青磁水注(554)など、高級品とされる輸入陶磁器が目を引く。これらも寺院あるいは武家屋敷という当地区の性格を表しているといえよう。また、国産品でも一乗谷で出土例の少ない黄瀬戸釉を施す瀬戸・美濃製品(98・355・767・853~855)などがまとまって出土しており、住人の嗜好がうかがえる。

金属製品では建築金具の豊富さが特筆される。中でも目錠釘(425)については從来注目されておらず、一乗谷の建築を考える上で今後重要な資料となるだろう<sup>2)</sup>。その他、工具・武具類も多種多様で、石工具とみられる手斧(273)や紡錘(676)といった職人の存在をうかがわせる道具も出土している。

木製品で特筆すべきは北国船の模型(907)である。これについては、青森県西津軽郡円覺寺に奉納されている船駕馬に描かれた北国船と共通する点が多く、それと確定された(水野2001)。細部まで表現した精巧な作りであり、船大工の手によるものとも考えられる。船駕馬と同じく奉納されたものとすれば、寺院に関連する遺物といえる。その他、多数出土した漆塗椀・皿が注目される。ほとんどは黒地に赤色で漆絵を描いた普及品とみられるものだが、中には漆下地の上質品(442)も複数認められ、やはり寺院や武家屋敷に関係すると考えられる。また、石積施設を便所とする大きな根拠となった金隠(738)も重

要である。もちろん石積施設のすべてが便所というわけではなく、屋敷地内の位置や寄生虫卵分析などを踏まえて総合的に判断する必要があることはいうまでもない。さらに、金隠と特定された遺物は一乗谷のこれまでの調査で他になく、便所に必ずしも必要ない可能性、あるいは特徴のない板を取り付けた可能性も含めて検討する必要があるだろう。

石製品では石仏(142・979・980)や花瓶(141)、五輪塔(981～984)が寺院に関連する遺物として注目される。また、硯の出土量(破片数)が一乗谷の中で圧倒的に多く、第46次調査区で検出された大量の柿絞り筆塔婆を書くのに用いられた可能性が指摘されている(宮永2013)。

硯とともに用いられたのが油煙墨(568)である。一乗谷でこれまで2点出土している内の1点であり(もう1点は第44次調査出土)、いずれもその特徴から奈良の興福寺二諸坊製と判断される。奈良から一乗谷に墨がもたらされた経緯については『大乘院寺社雜事記』や『興福寺文書』など<sup>3)</sup>にみることができ、かなりの量が入ってきているようである(水野2002)。

その他、ガラス製容器としては他に朝倉館跡出土の1点しかないガラス皿(575)は、武家屋敷の主要建物SB1560に近接する土坑SK1627から出土しており、その居住者像を考える手掛かりになるだろう。また、双六の駒石(315・483・970・971)からは遊びに興じる人々の生き生きとした様子が伝わってくる。

以上、他にも取り上げるべき事柄は多々あるが、紙数の都合上、これで本書のまとめとする。寺院や町屋群の敷地は第46次調査区に統いており、不足の点は今後計画しているその正報告書に譲りたい。

注 1)調査担当者の一人である水野和雄氏は、建物SB1714とそれを両む石垣SX1835(目地が白粘土で詰められていたという)を「風呂屋」と考えている(水野2002)。

2)日鉄町は第46次調査区でも1点確認されている(熊谷2020)。

3)最近紹介された『明星院院朝倉義景書状』にも油煙墨に関する記述がある(古川2020)。

参考文献(本書全体) 奈一乗谷朝倉氏遺跡の概報・報告書・展示図録については主なもののみ記載

朝倉氏遺跡調査研究会1979「特別史跡一乗谷朝倉氏道跡発掘調査報告書」福井県教育委員会 真陽社

石川美英2020「平成30年度購入資料『明星院院朝倉義景書状』について」『一乗谷朝倉氏道跡資料館紀要2018』

岩田 隆1985「一乗谷出土の伊朝製陶磁器」「貿易陶磁研究」No.5 日本貿易陶磁研究会

岩田 隆1986「中世遺跡出土の下駄」「朝倉氏遺跡資料館紀要1985」

岩田 隆2002「一乗谷の消費と流通」「福井大名朝倉氏と一乗谷」高志書院

小野正敏1982「15、16世紀の染付碗・皿の分類とその年代」「貿易陶磁研究」No.2 日本貿易陶磁研究会

小野正敏1983「一乗谷及び豊原寺出土の元様式の染付」「貿易陶磁研究」No.3 日本貿易陶磁研究会

小野正敏・水戸麻理1990「『みがえる中世6 実像の戦国城下町』越前一乗谷」平凡社

小野正敏1997「戦国城下町の考古学」「一乗谷からのメッセージ」河出書房選書メテニ

猪谷 達2020「一乗谷朝倉氏道跡門ノ内地区出土の挽き板」「一乗谷朝倉氏道跡資料館紀要2018」

国立歴史民俗博物館1993「国立歴史民俗博物館資料叢書第4号 日本国出の貿易陶磁」

茶道資料館編1990「道跡出土の朝鮮王朝陶磁-碗と考古学-」「茶道資料館・関西近畿考古学研究会

鈴木三男・能成修・1991「越前朝倉氏道跡から出土した木製品の樹種」「朝倉氏道跡資料館紀要1990」

鈴木三男・能成修・1992「越前朝倉氏道跡から出土した木製品の樹種(2)」「朝倉氏道跡資料館紀要1991」

福井市史編纂委員会編1993「瀬戸市史 南砺史編 四愛知県福井市」

武田昭子・赤羽美里・上澤信高2008「一乗谷朝倉氏道跡山土塗器の地下調整に関する解析(1)」「一乗谷朝倉氏道跡資料館紀要2007」月輪 泰1990「朝倉氏道跡出土の銅鏡について」「朝倉氏道跡資料館紀要1989」

中井 泰2014「一乗谷朝倉氏道跡出土ガラスの分析」「第21回全国学術会議 戦国時代の金とガラス」福井県立・一乗谷朝倉氏道跡資料館

福井県教育委員会・朝倉氏遺跡調査研究会1981「特別史跡 一乗谷朝倉氏道跡 昭和55年度発掘調査実績事業概報-」

福井県教育委員会・福井県立朝倉氏道跡資料館1982「特別史跡 一乗谷朝倉氏道跡 昭和56年度発掘調査監修事業概報-」

福井県立朝倉氏道跡資料館1983「特別史跡 一乗谷朝倉氏道跡 須崎江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書」

福井県立朝倉氏道跡資料館1988「特別史跡 一乗谷朝倉氏道跡 発掘調査報告書 II 第10、11、第54次調査」

藤澤良祐2002「『瀬戸』・美濃大窯祭年の再検討」「研究紀要第10輯『財团法人瀬戸』市埋蔵文化財センター」

藤澤良祐2008「中世瀬戸『窯の研究』高志書院

水野和雄2001「特別展 戦国城下町研究の最前線」福井県立・一乗谷朝倉氏道跡資料館

水野和雄2002「一乗谷 大名朝倉氏と一乗谷」高志書院

水村伸行2002「一乗谷朝倉氏道跡出土骨灰についての一様相」「一乗谷朝倉氏道跡資料館紀要2002」

南洋一郎1987「漆塗、皿に関する二、三の問題」「朝倉氏道跡資料館紀要1986」

南洋一郎1999「40・46次調査区の寺院の発掘」「第10回企画展 一乗谷の宗教と信仰」福井県立・一乗谷朝倉氏道跡資料館

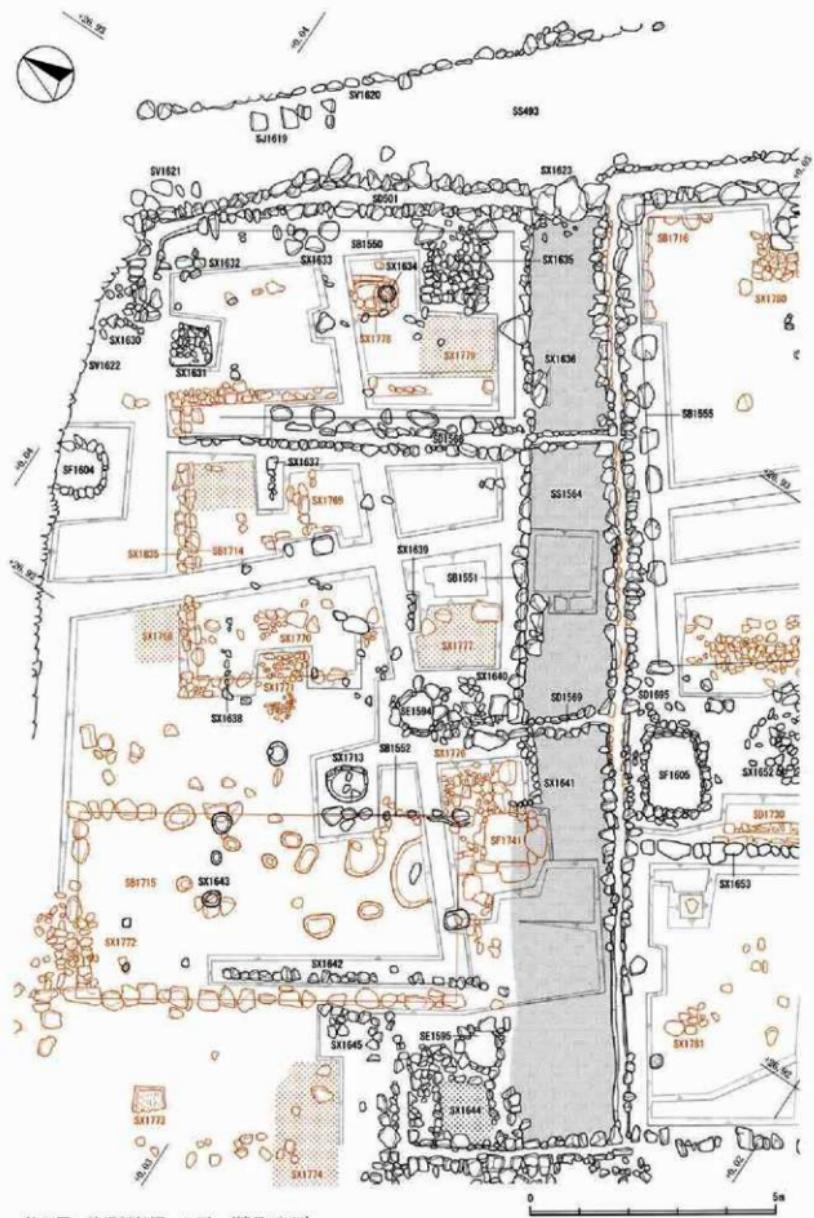
宮永・美2013「展示概説」「第20回企画展 戦国のまなびや」福井県立・一乗谷朝倉氏道跡資料館



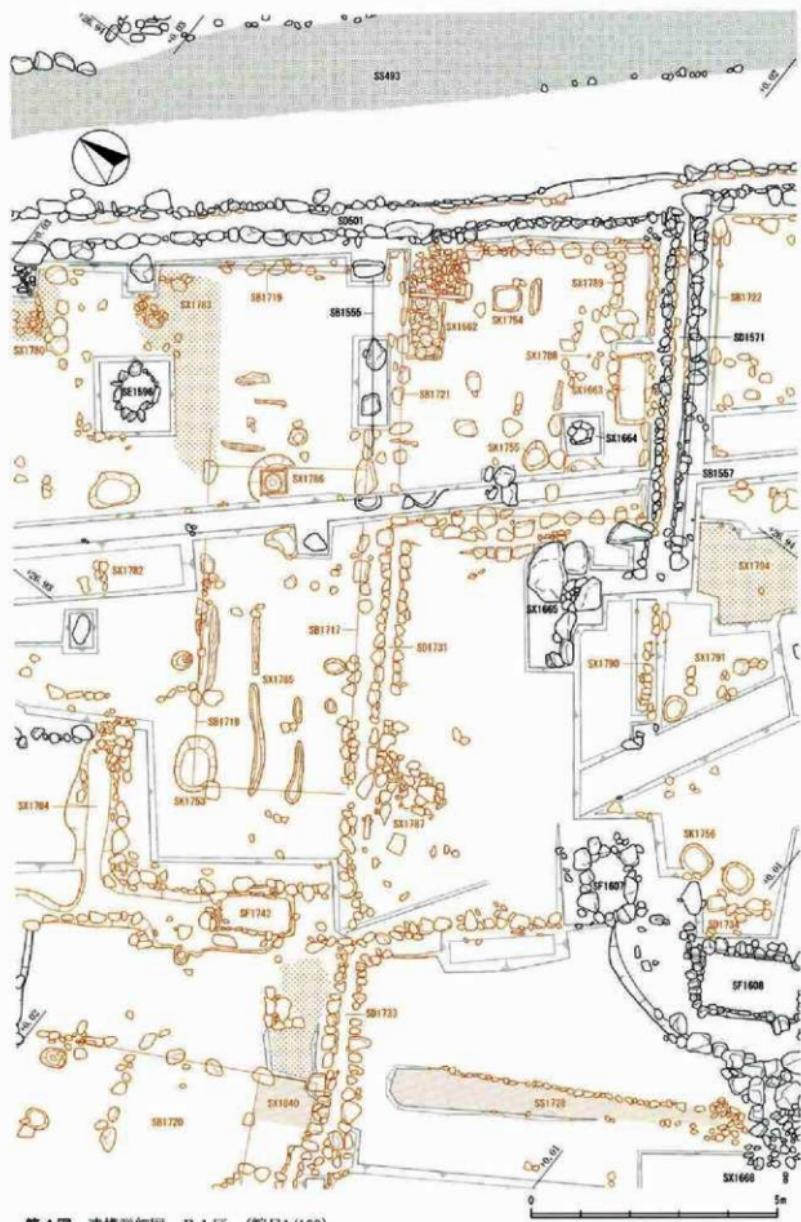
第1図 上層遺構面全体図 (縮尺1/200)



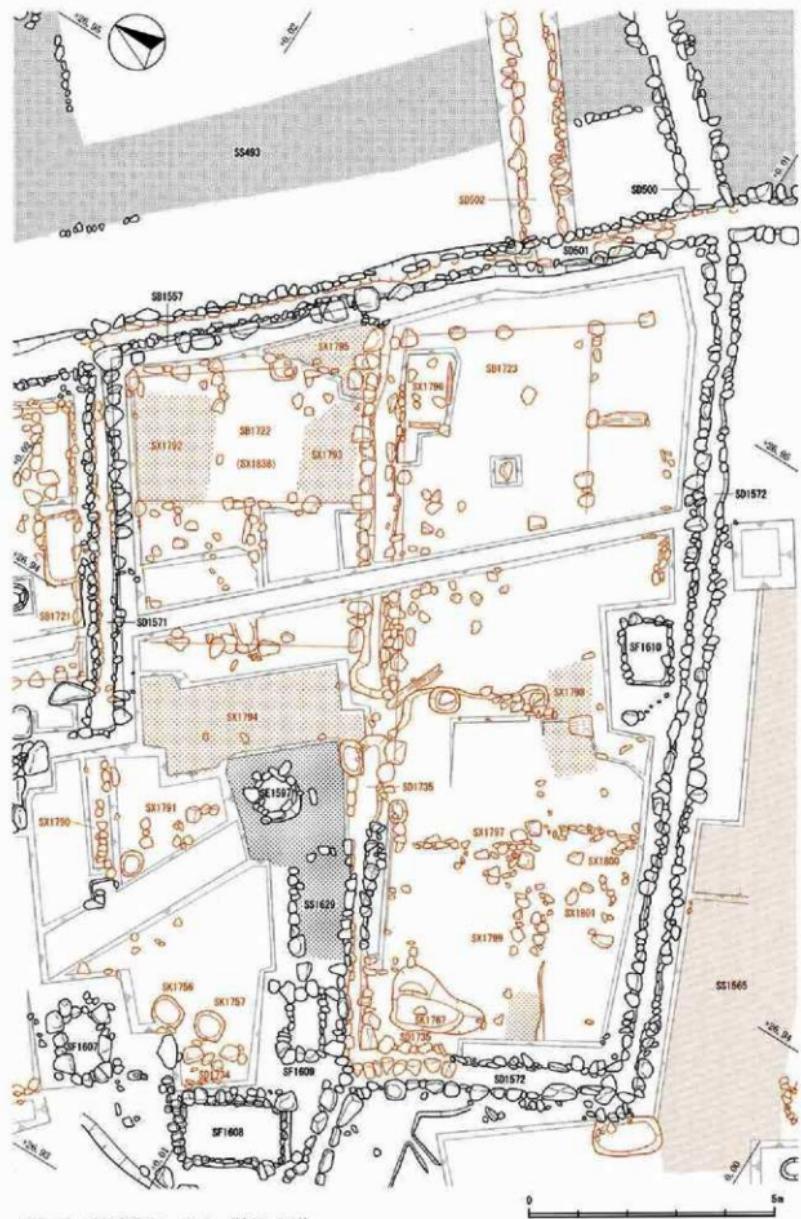
第2図 下層遺構面全体図 (縮尺1/200)



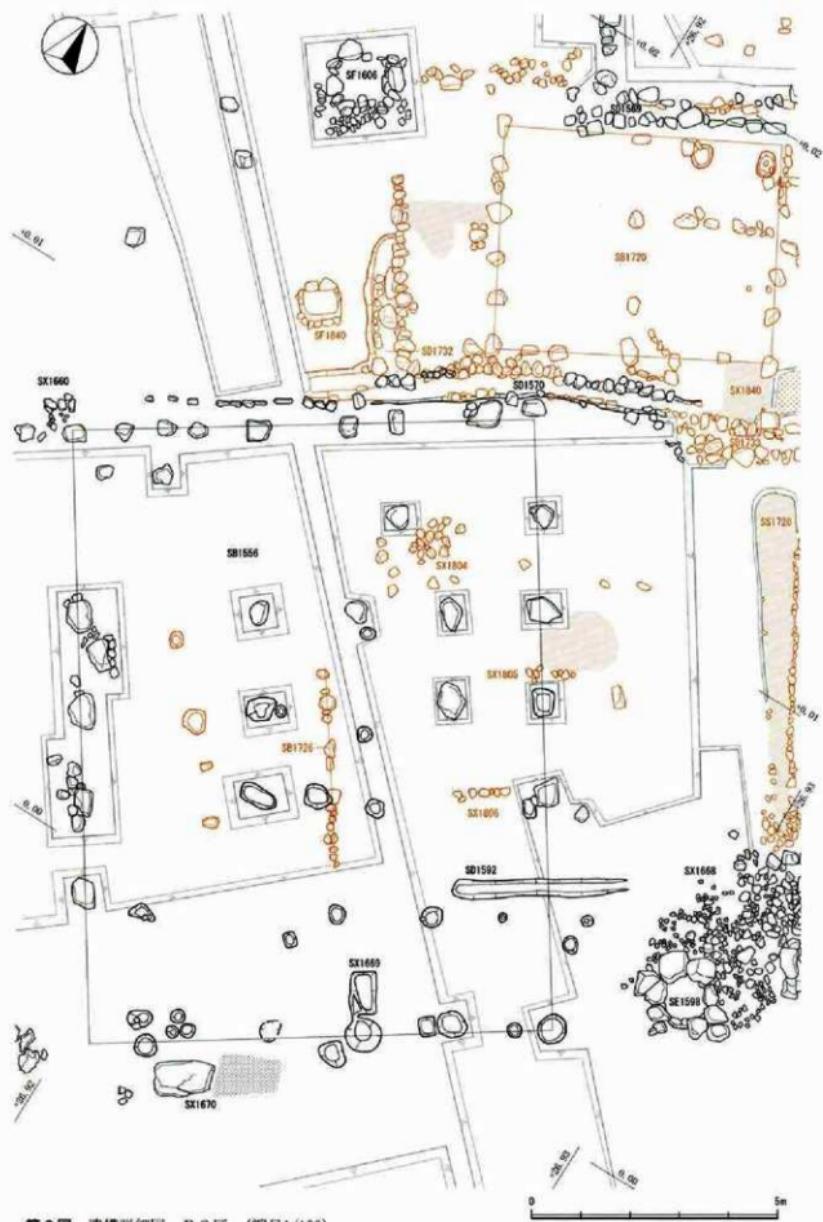
第3図 造構詳細図 A区 (縮尺1/100)



第4図 造構詳細図 B 1区 (縮尺1/100)



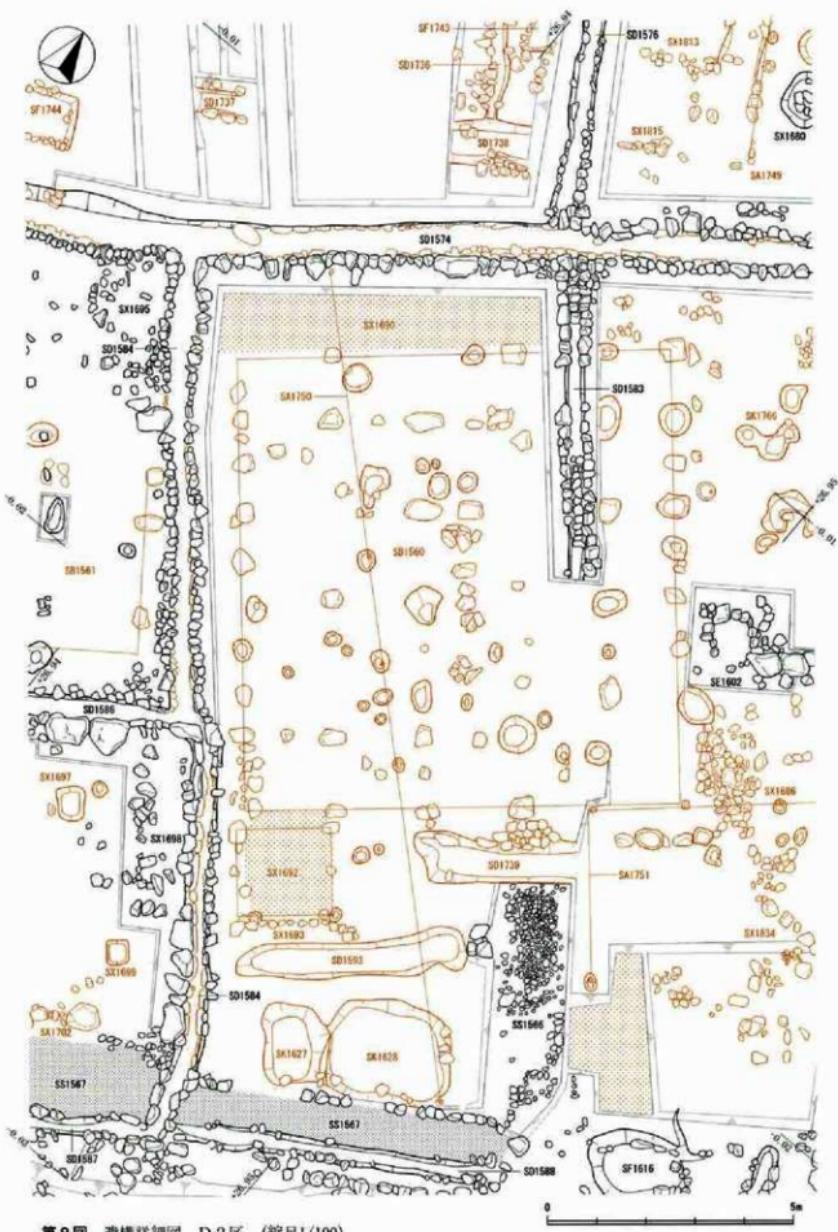
第5図 造構詳細図 C区 (縮尺1/100)



第6図 造構詳細図 B2区 (縮尺1/100)

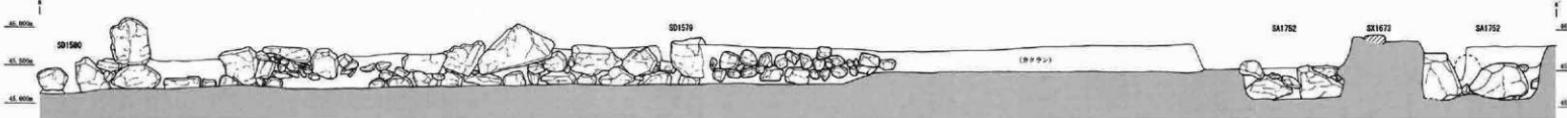


第7図 遺構詳細図 D1区 (縮尺1/100)



第8図 道構詳細図 D2区 (縮尺1/100)

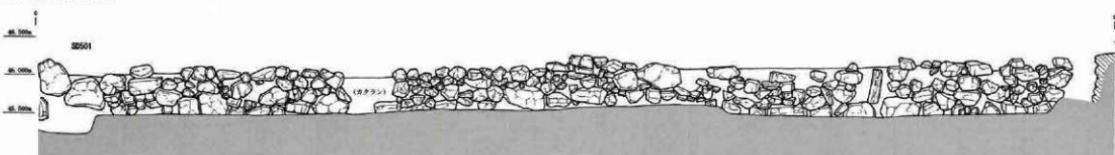
SD1590 南側石組立面図



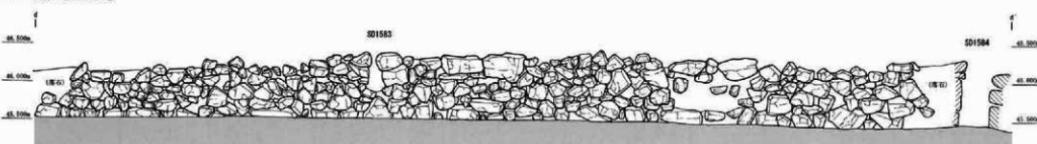
SD501 南側石組立面図



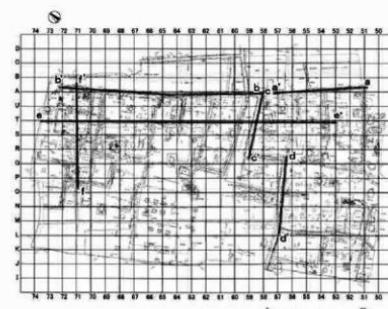
SD1574 東側石組立面図①



SD1574 東側石組立面図②

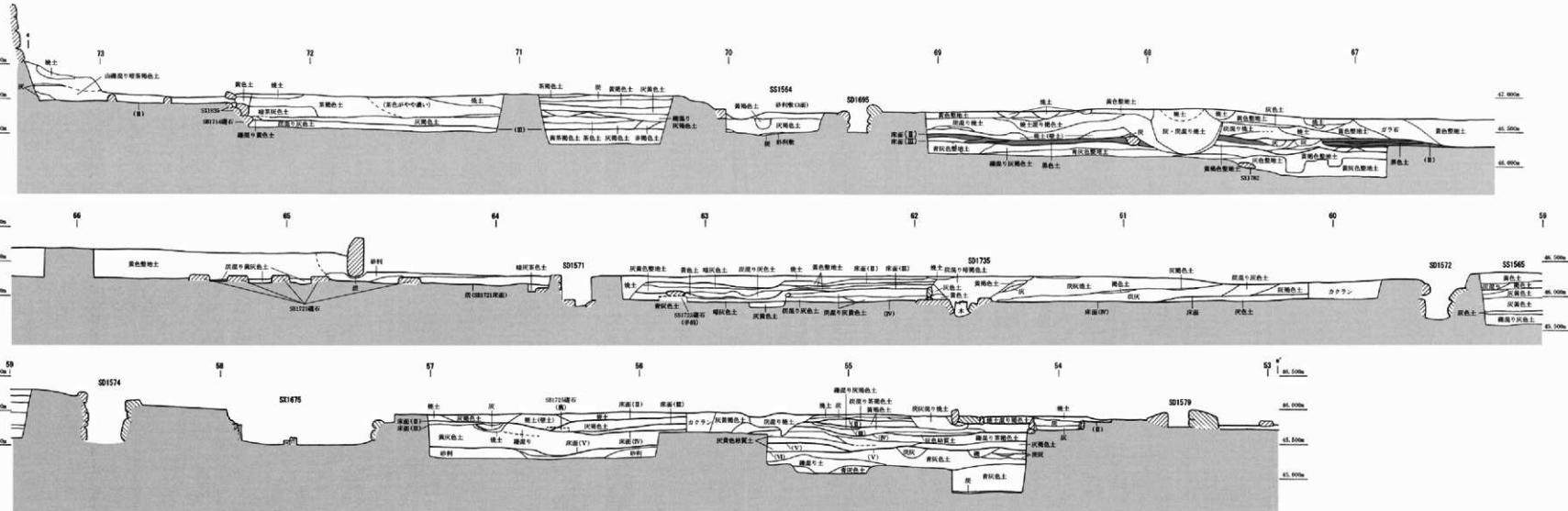


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24  
25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 70 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

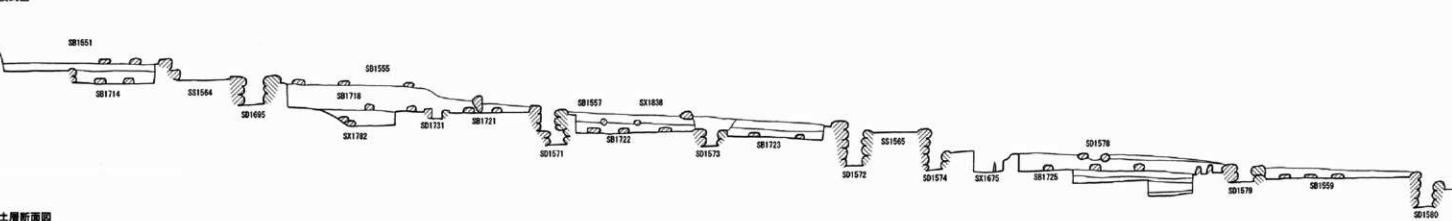


第9図 横石立面図 (縮尺1/50)

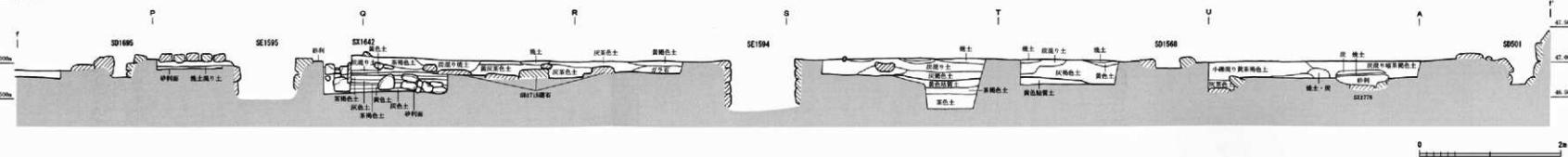
T ライン土層断面図



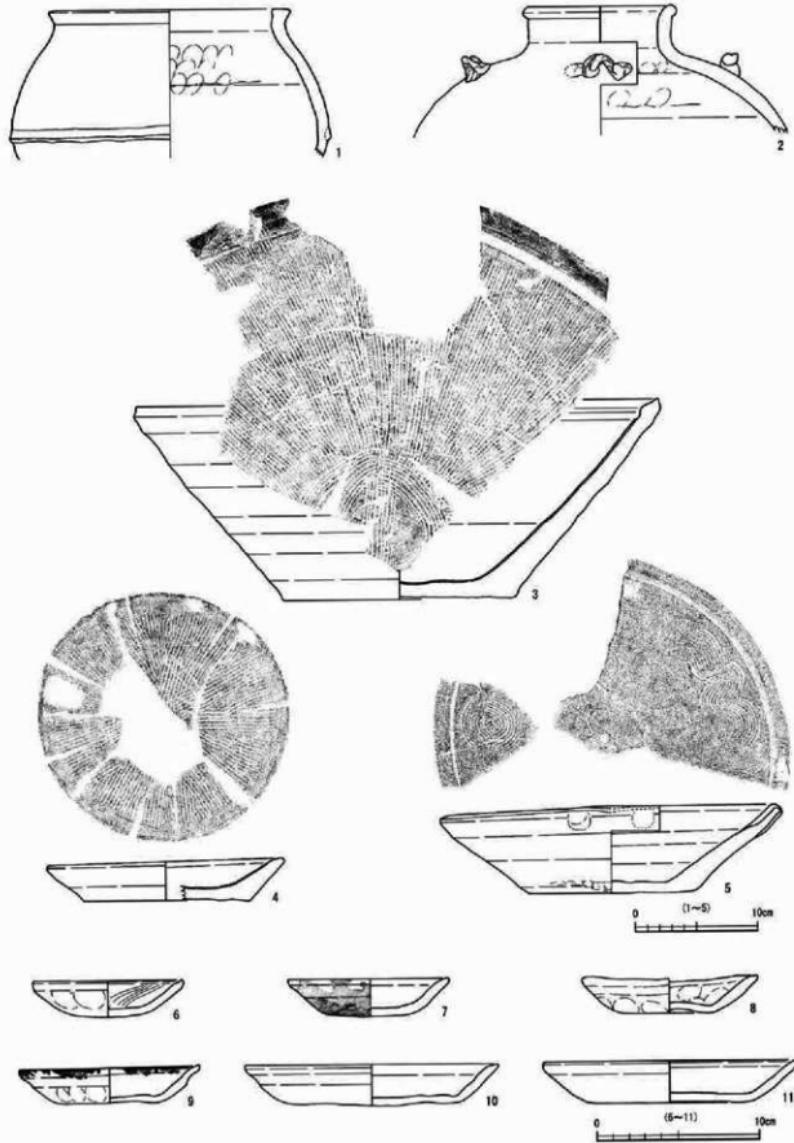
東西斷面模式圖



71ライン土層断面図

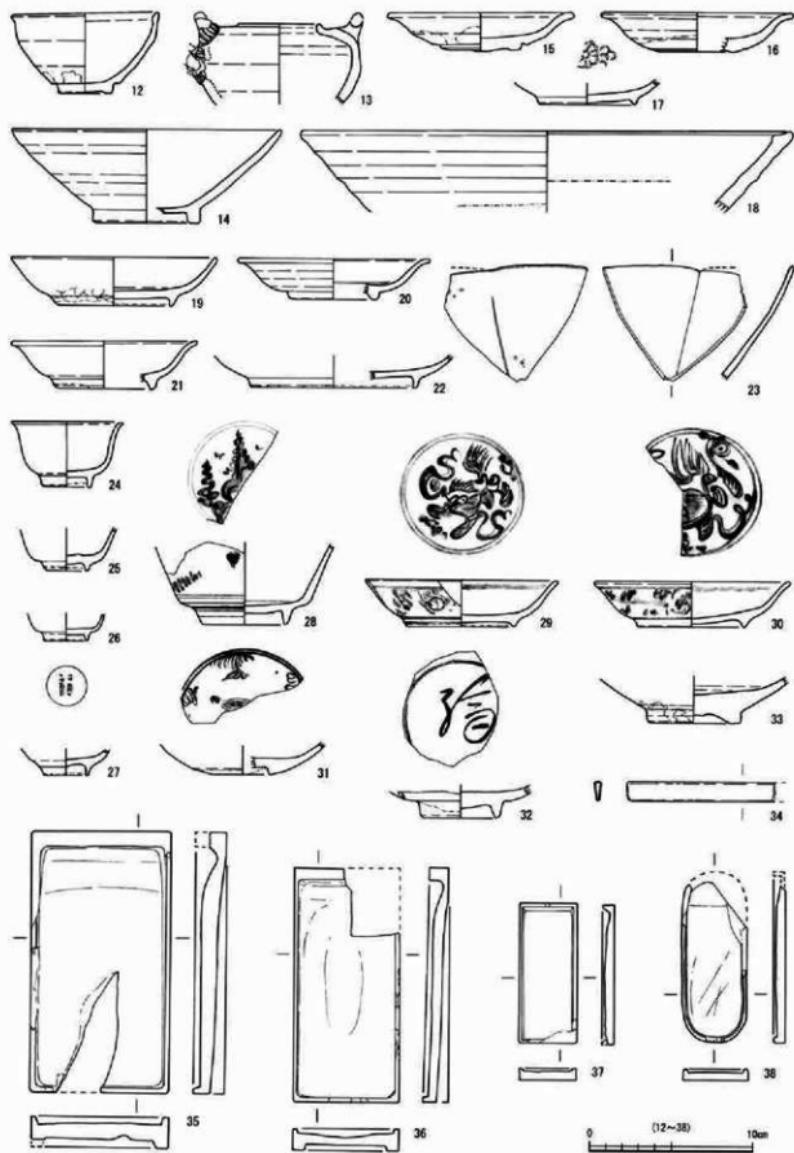


A区 I 造構面(1)



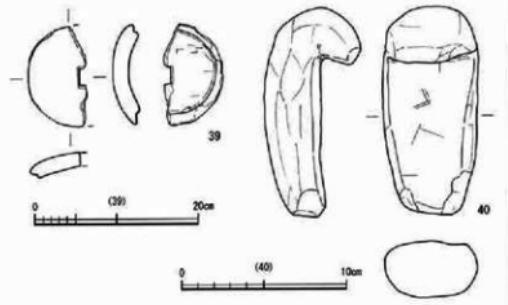
第11圖 出土遺物 A区 I 造構面(1)

A区 I 遺構面(2)

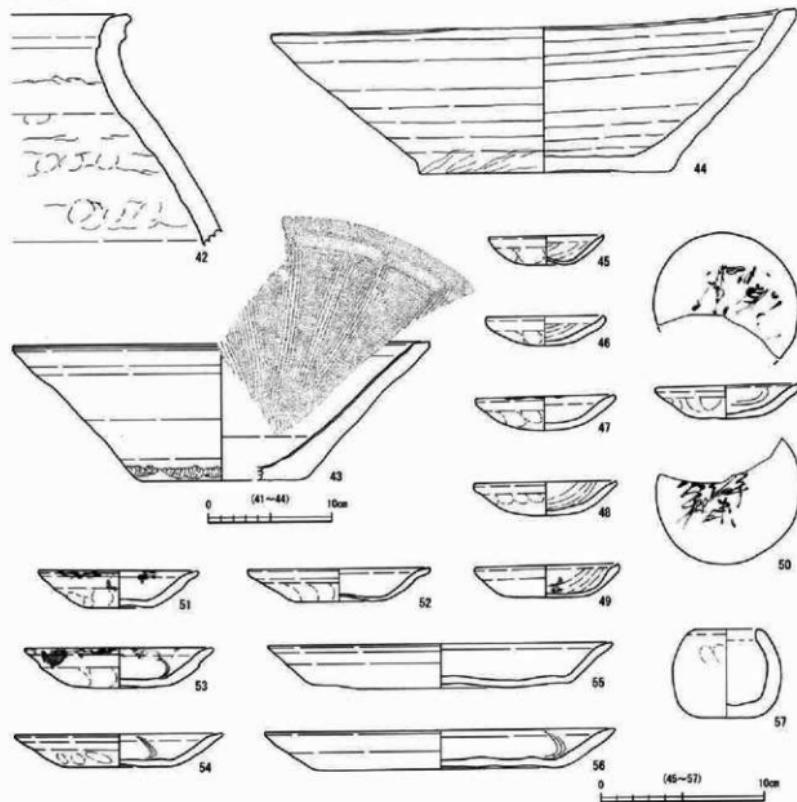


第12図 出土遺物 A区 I 遺構面(2)

A区 I 遺構面(3)

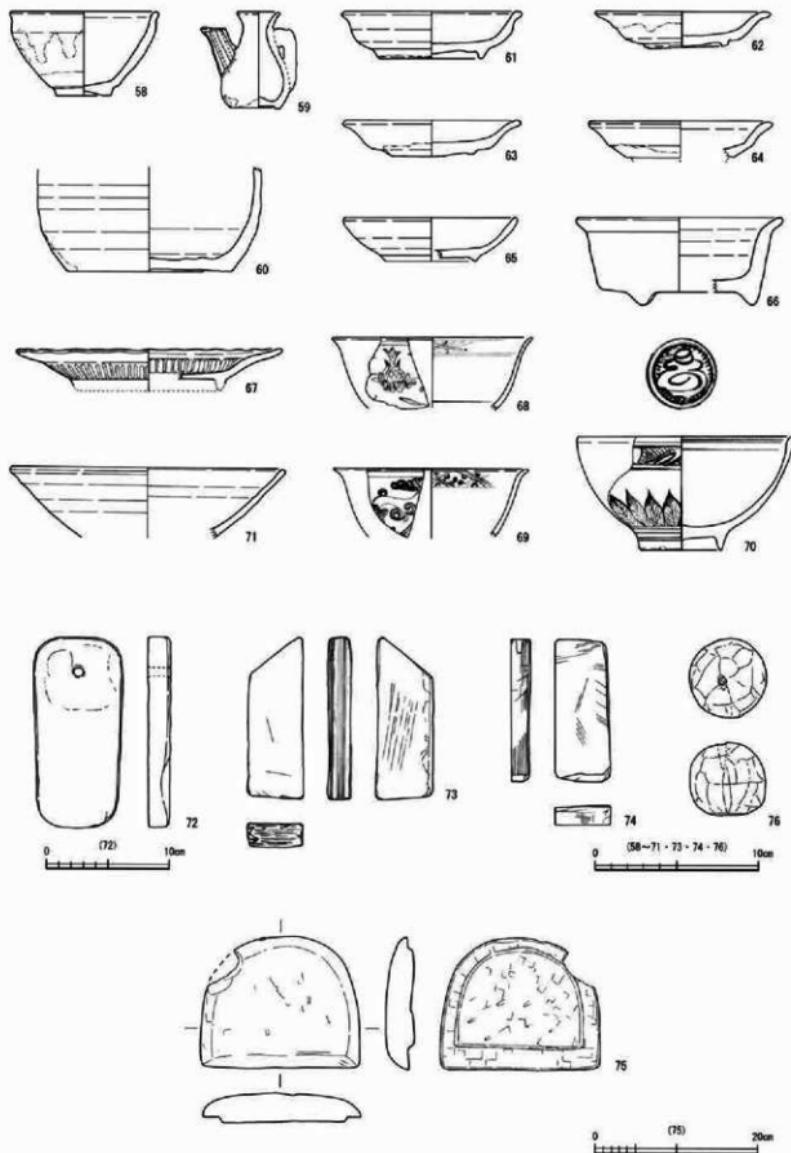


A区 II 遺構面(1)



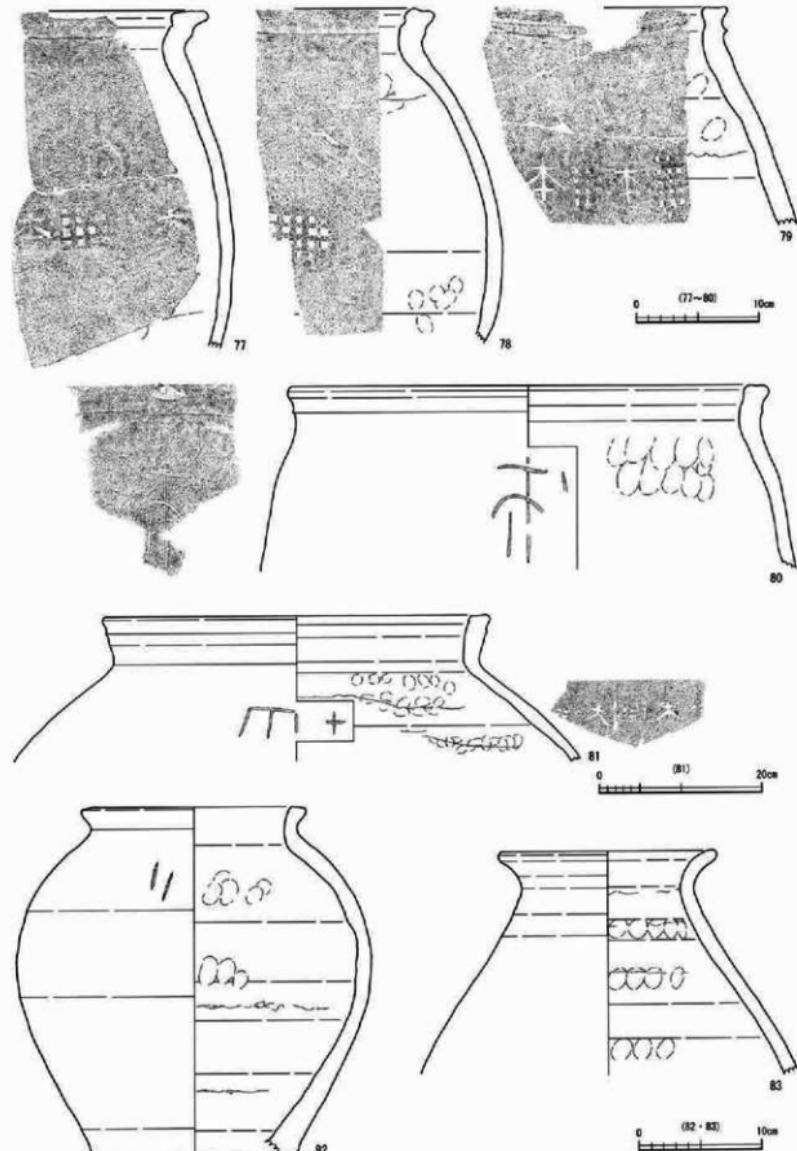
第13図 出土遺物 A区 I 遺構面(3)、A区 II 遺構面(1)

A区II遺構面(2)



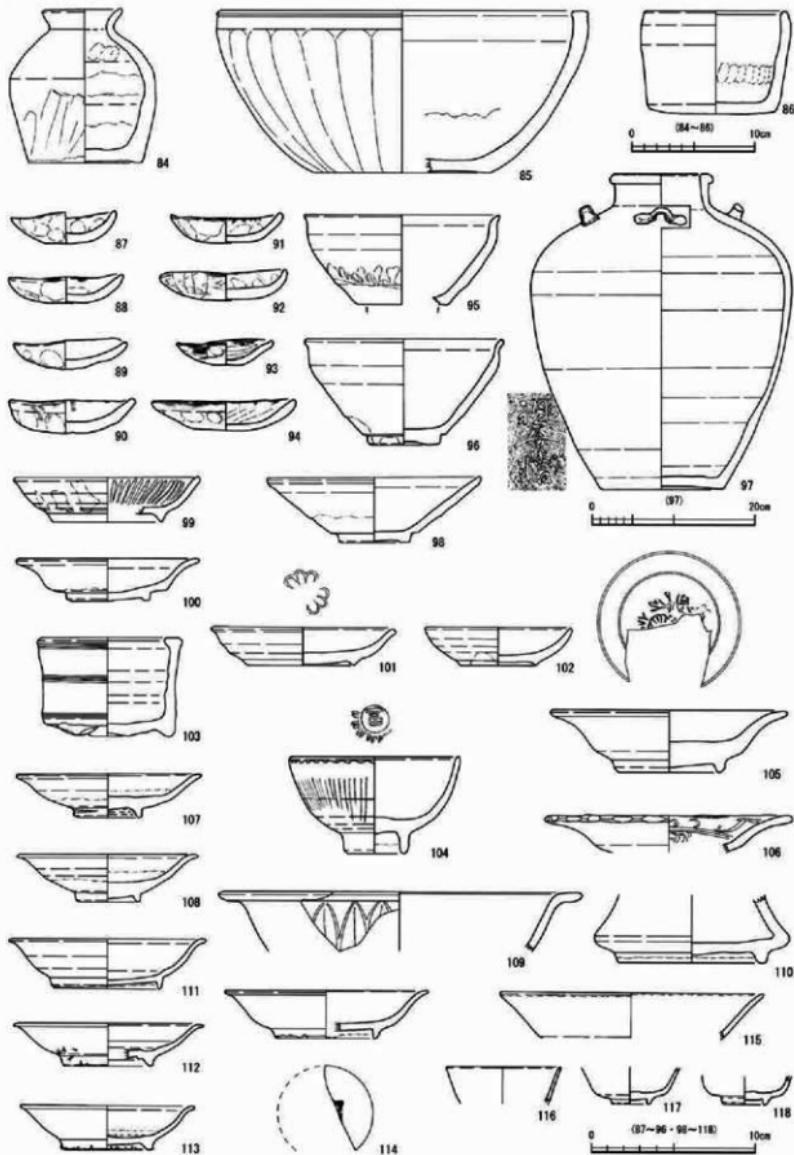
第14図 出土遺物 A区II遺構面(2)

B区 I 遺構面(1)



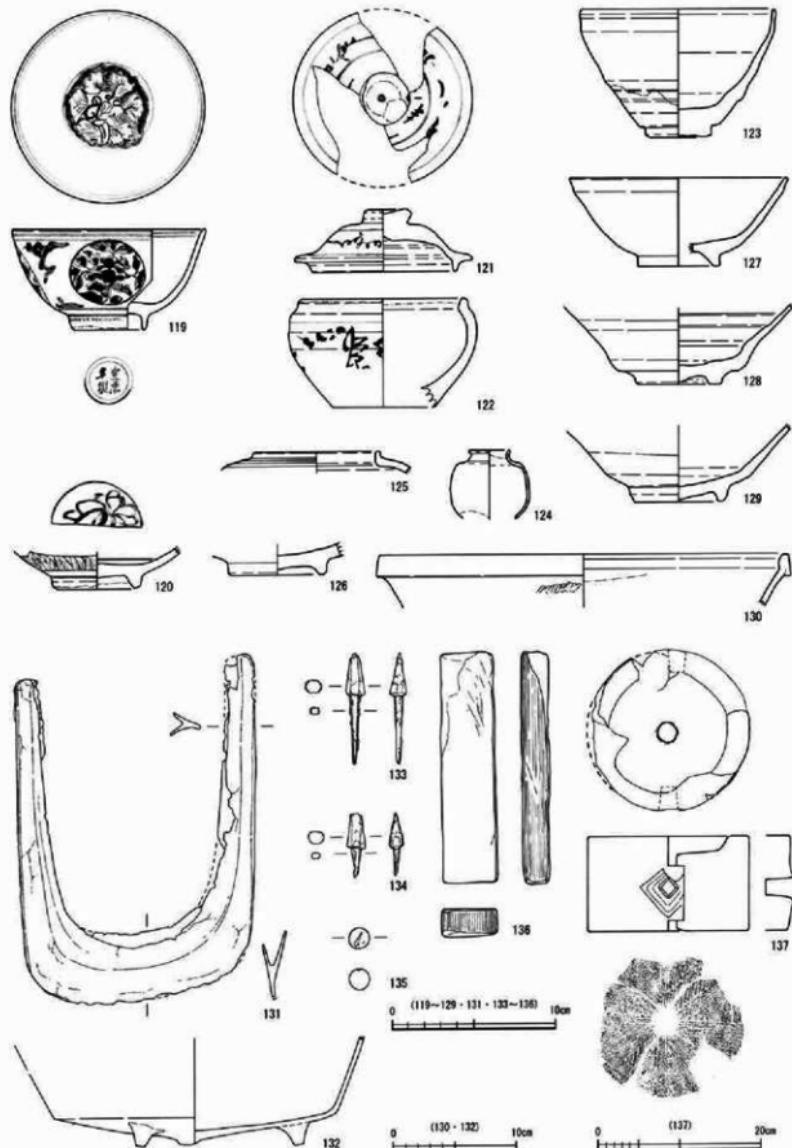
第15図 出土遺物 B区 I 遺構面(1)

B区 I 遺構面(2)



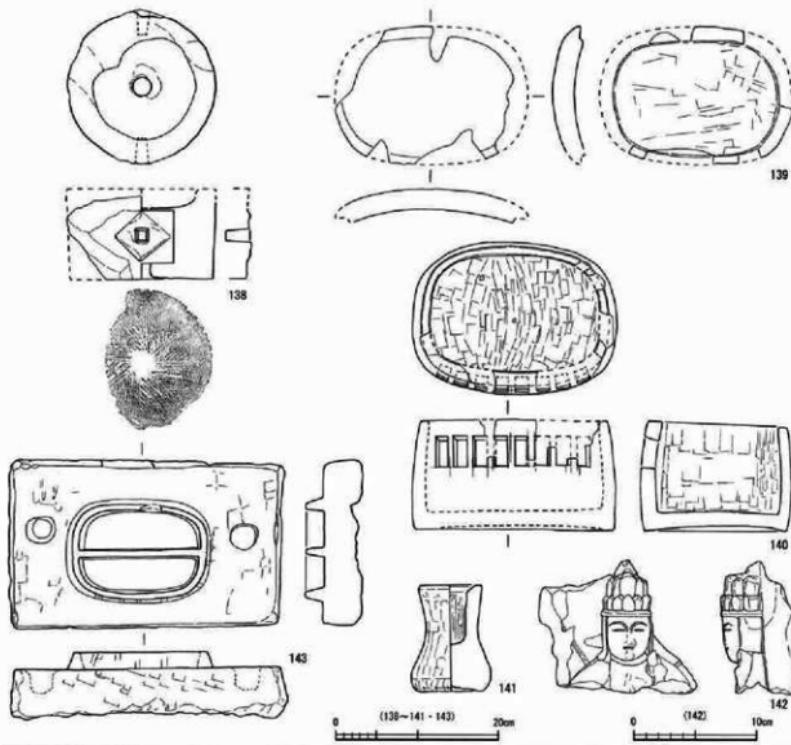
第16図 出土遺物 B区 I 遺構面(2)

B区 I 遺構面(3)

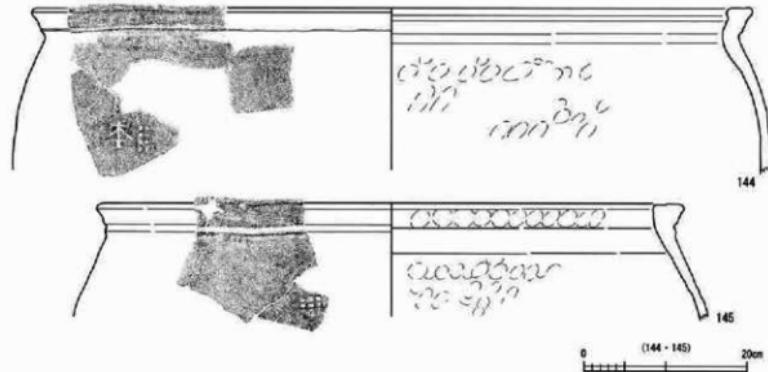


第17図 出土遺物 B区 I 遺構面(3)

B区 I 遺構面(4)

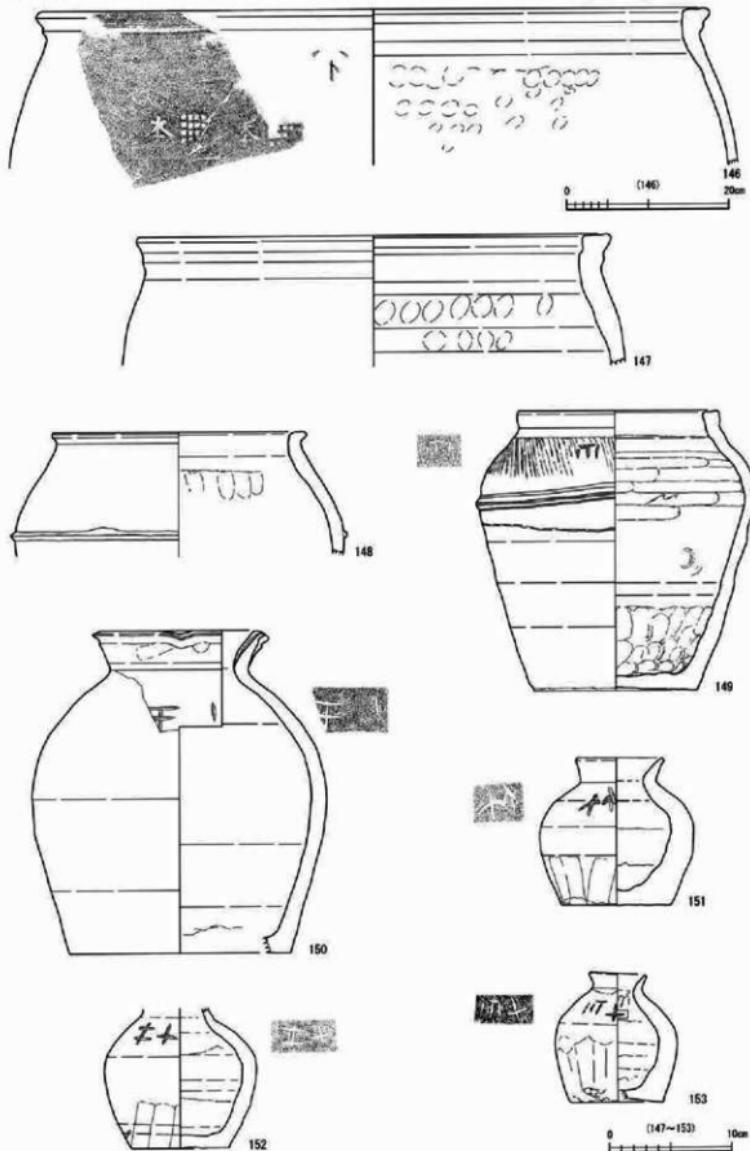


B区 II 遺構面(1)



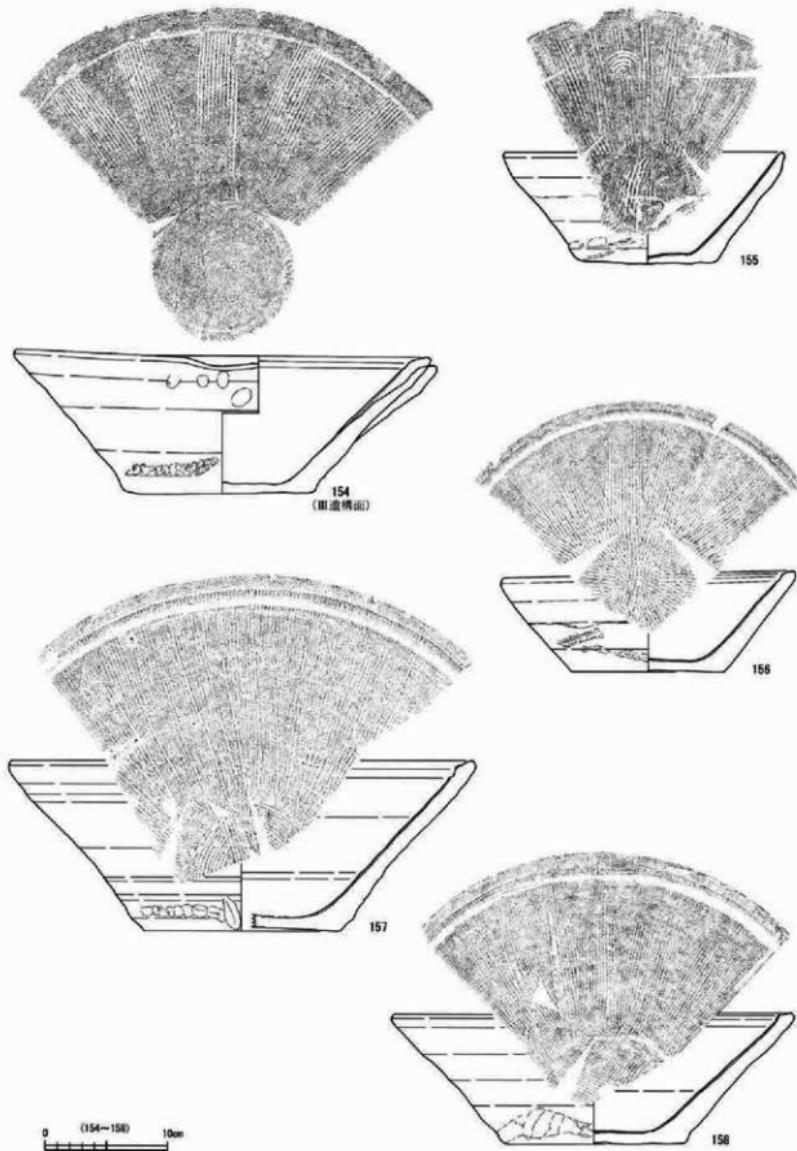
第18図 出土遺物 B区 I 遺構面(4)、B区 II 遺構面(1)

B区II遺構面(2)



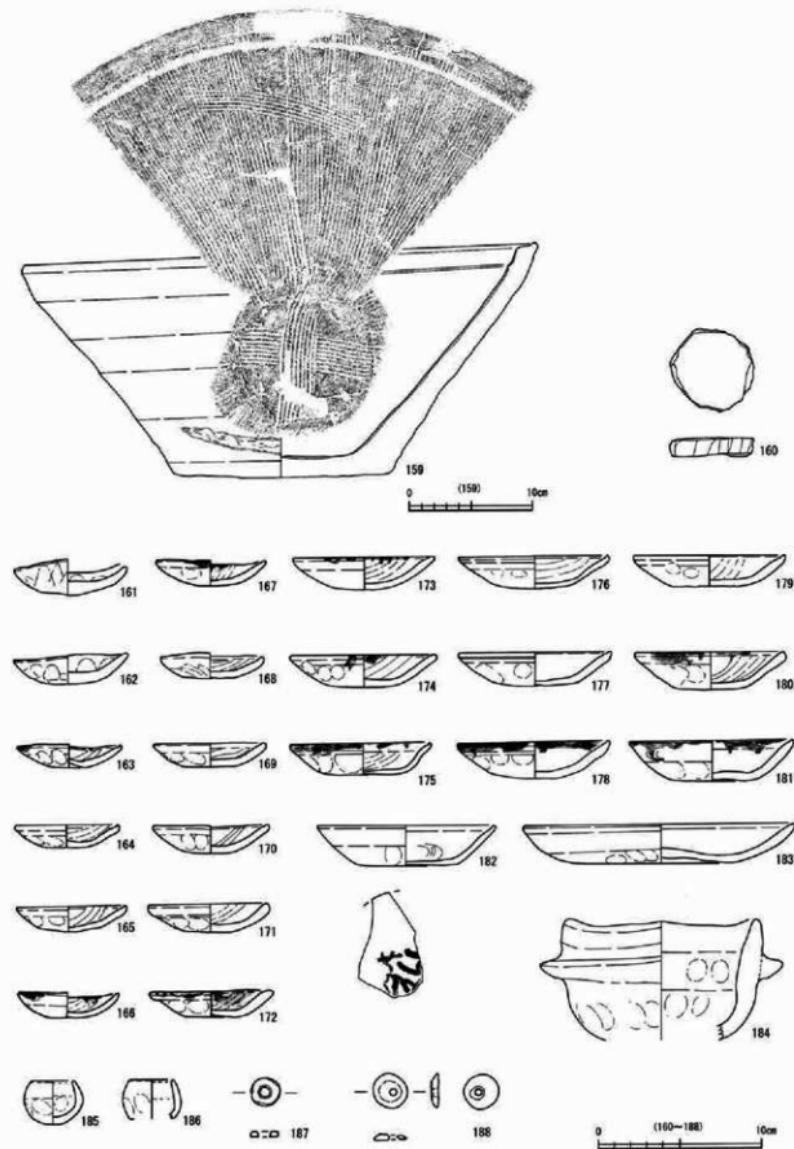
第19図 出土遺物 B区II遺構面(2)

B区 II 遺構面(3)



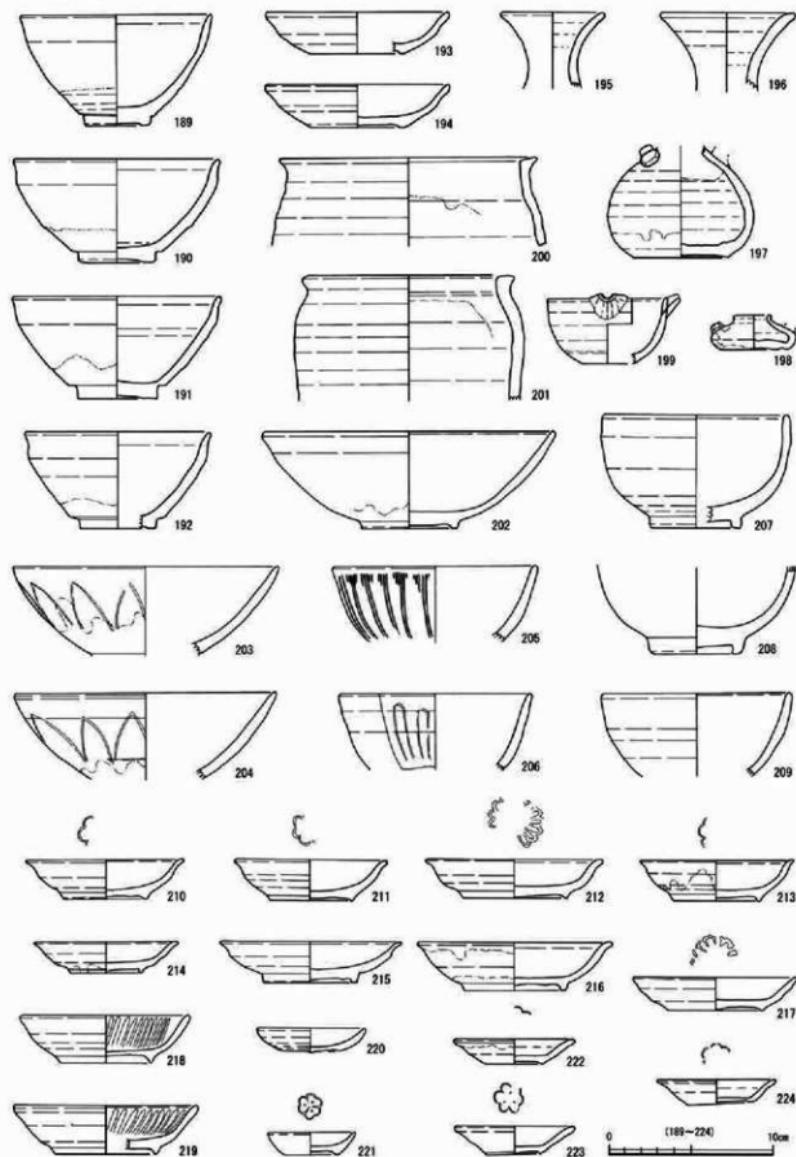
第20図 出土遺物 B区II 遺構面(3)

B区II遺構面(4)



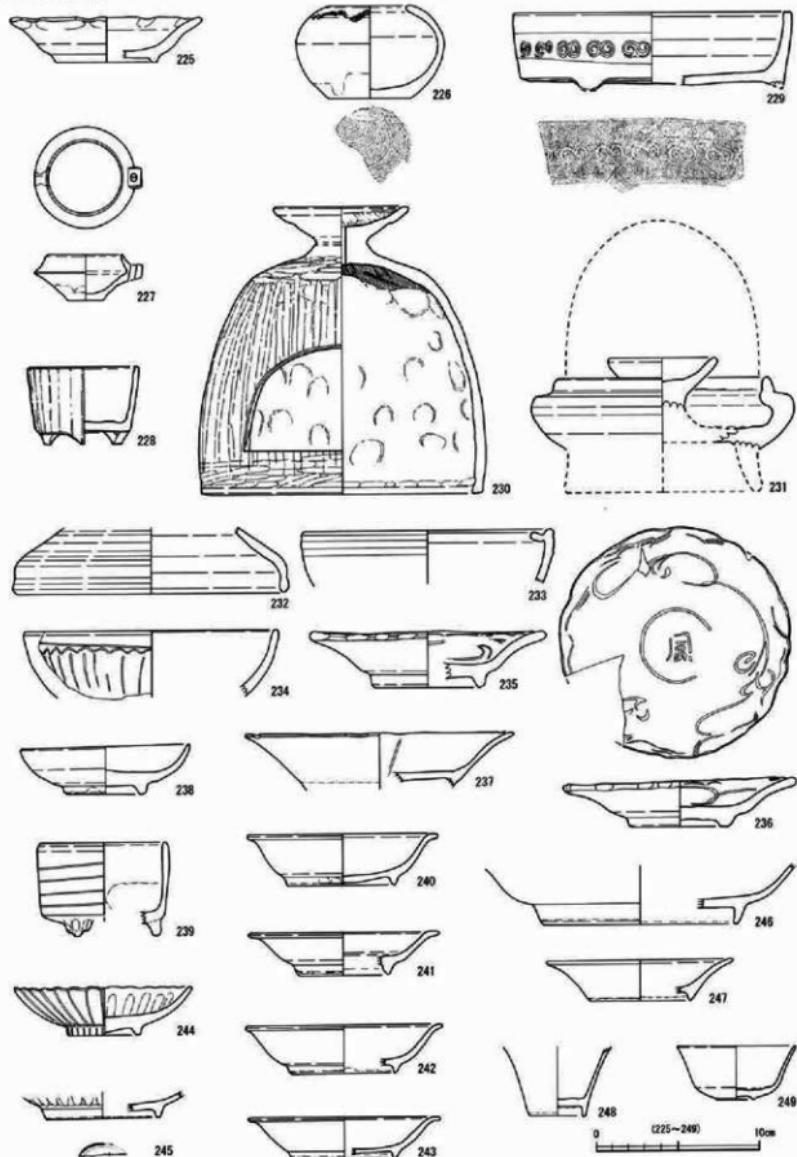
第21図 出土遺物 B区II遺構面(4)

B区 II 遺構面(5)



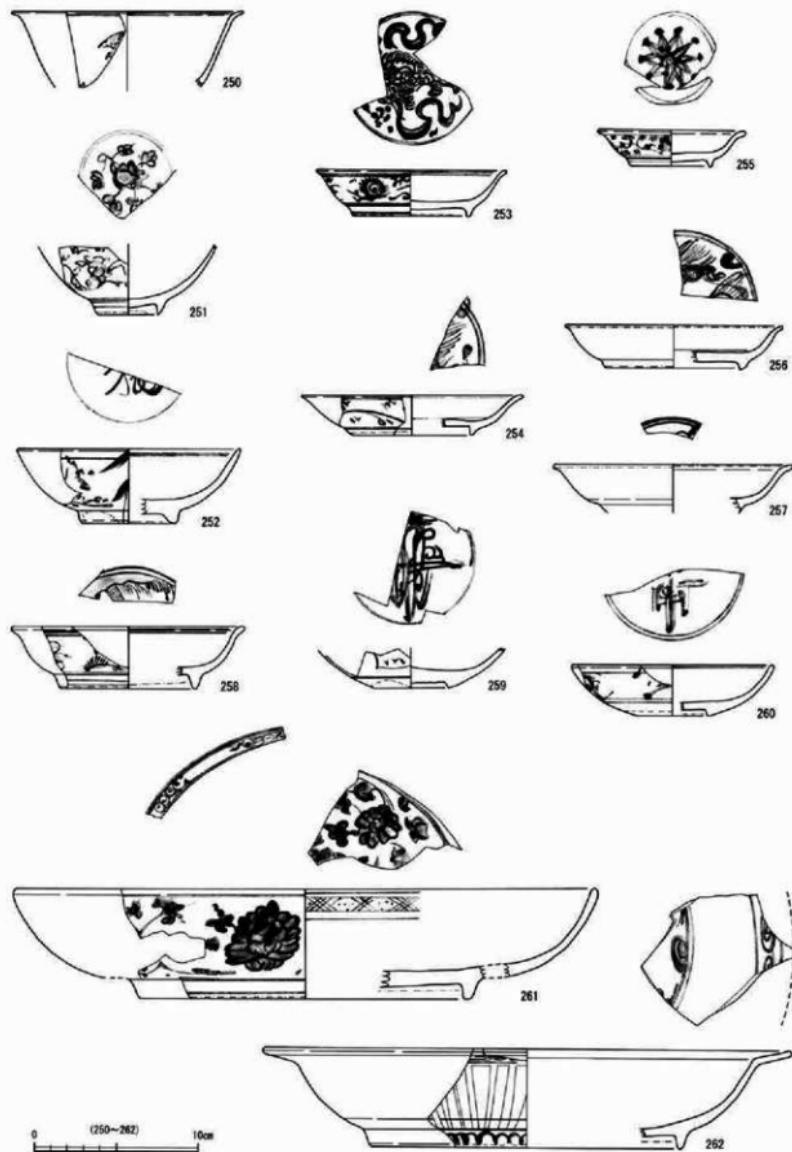
第22図 出土遺物 B区 II 遺構面(5)

B区 II 造構面(6)



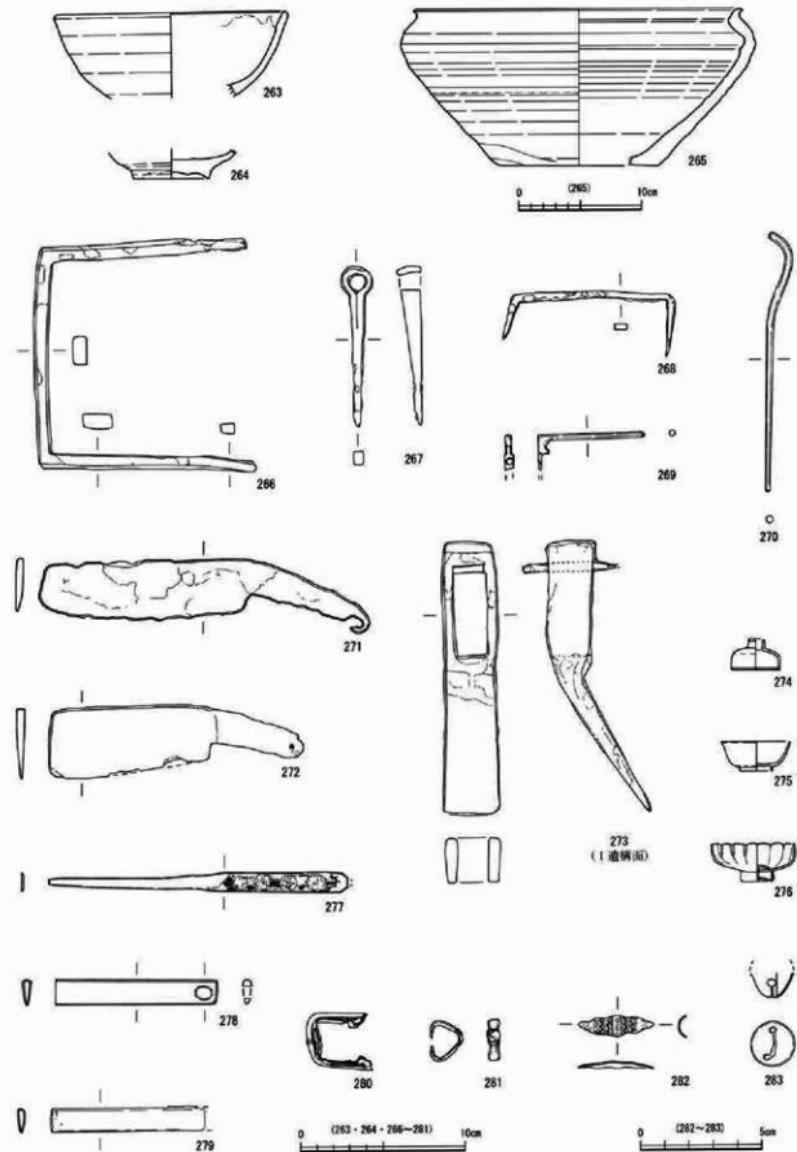
第23図 出土遺物 B区 II 造構面(6)

B区 II 遺構面(7)



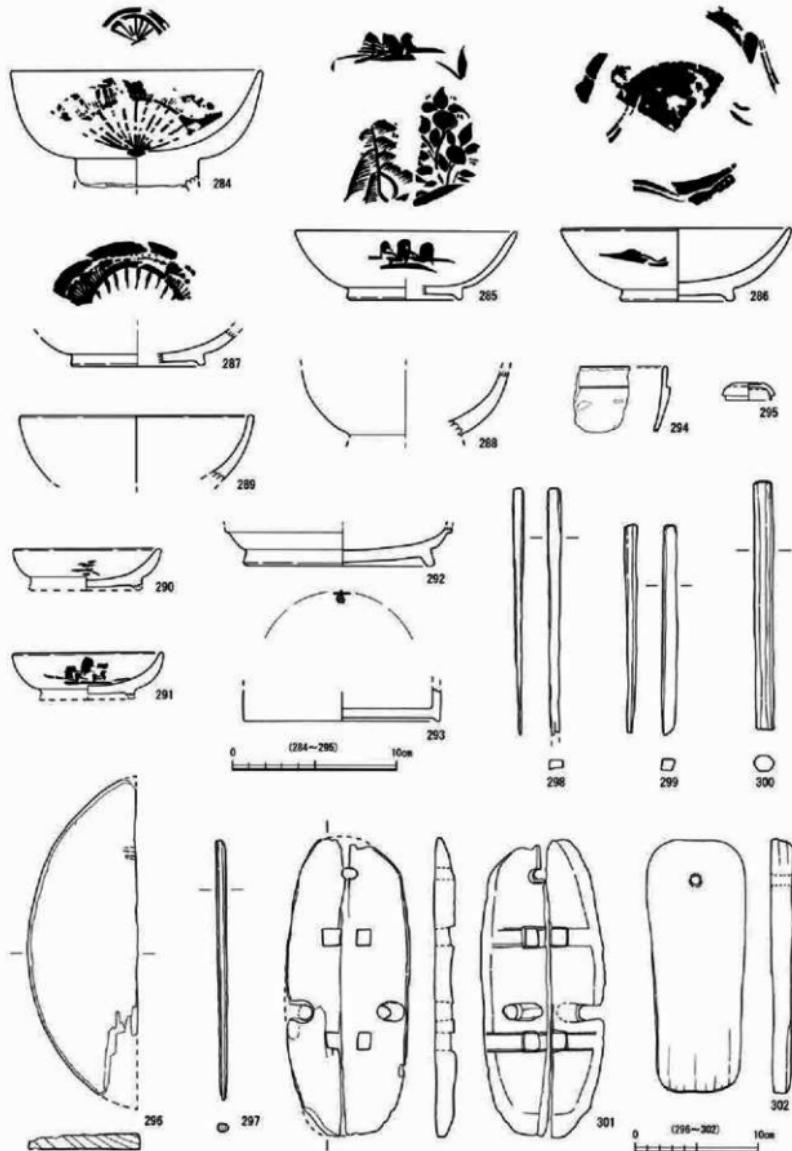
第24図 出土遺物 B区 II 遺構面(7)

B区II遺構面(8)



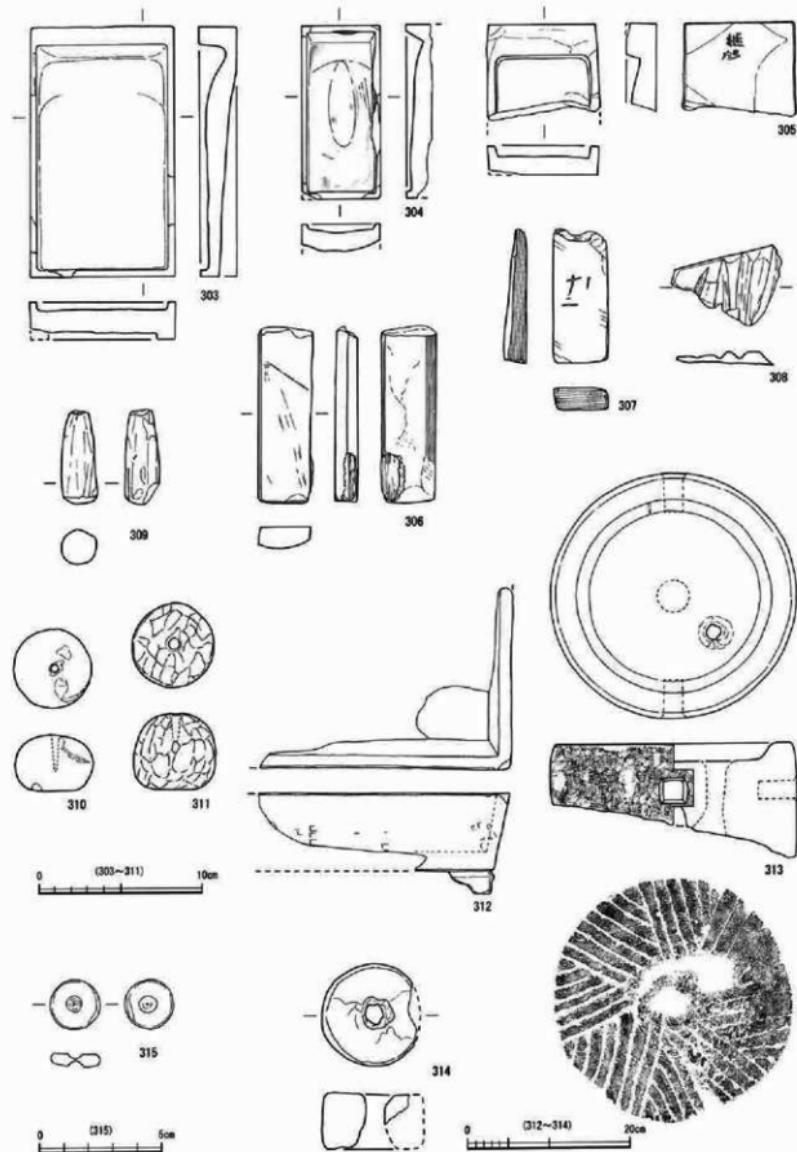
第25図 出土遺物 B区II遺構面(8)

B区 II 遺構面(9)



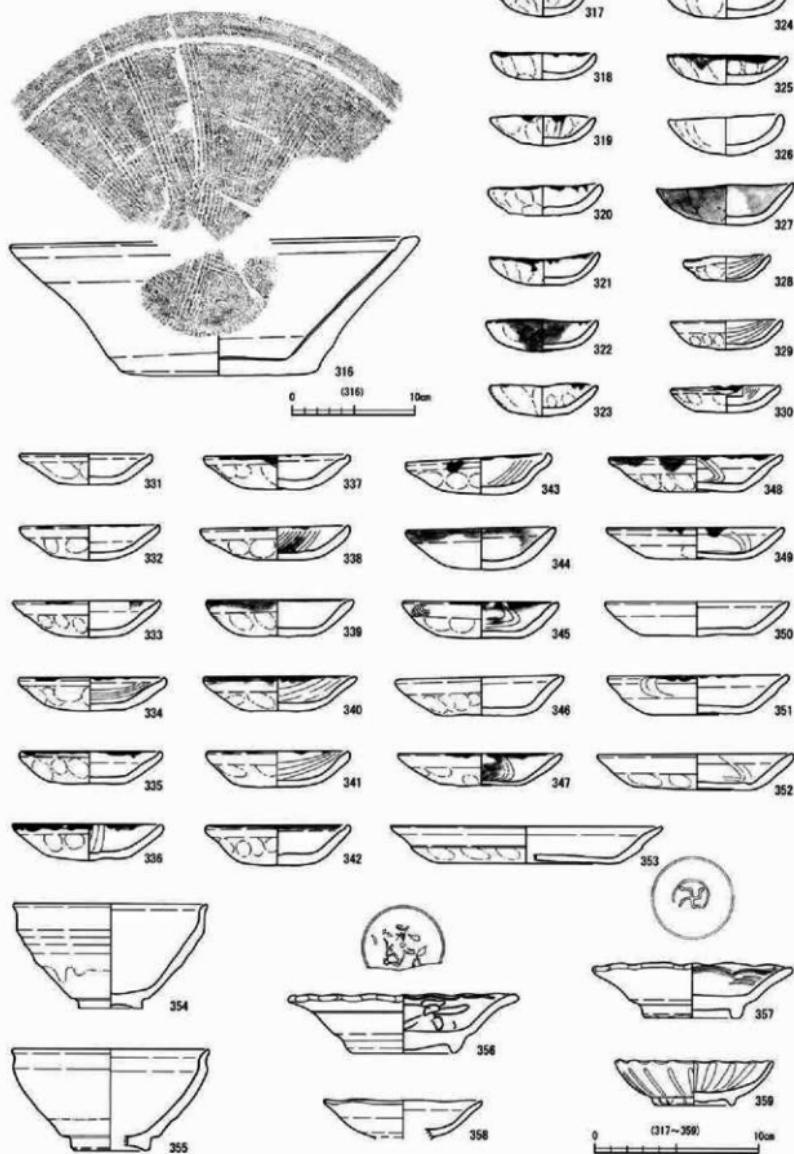
第26図 出土遺物 B区II 遺構面(9)

B区II遺構面(10)



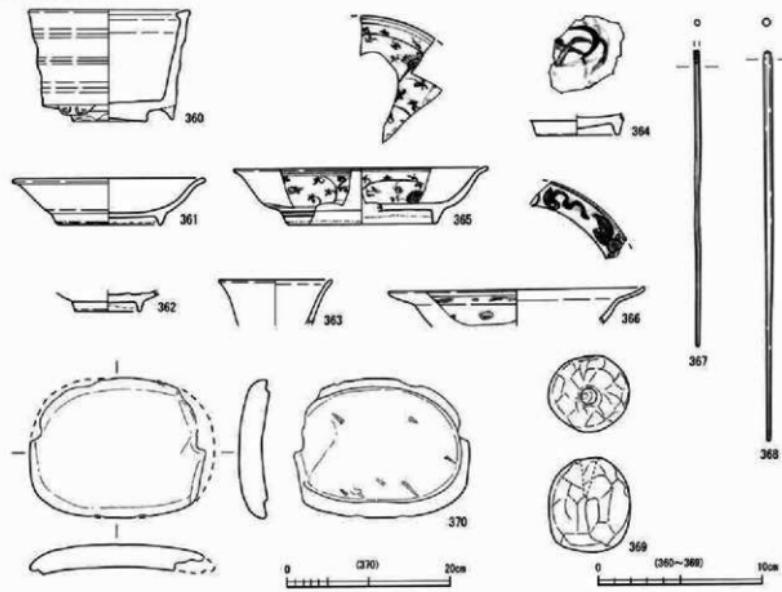
第27図 出土遺物 B区II遺構面(10)

C区 I 遺構面(1)

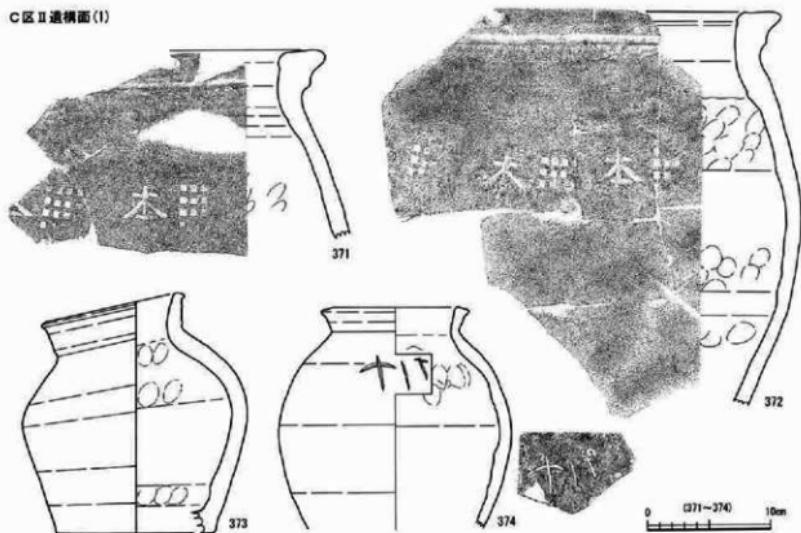


第28図 出土遺物 C区 I 遺構面(1)

C区 I 遺構面(2)

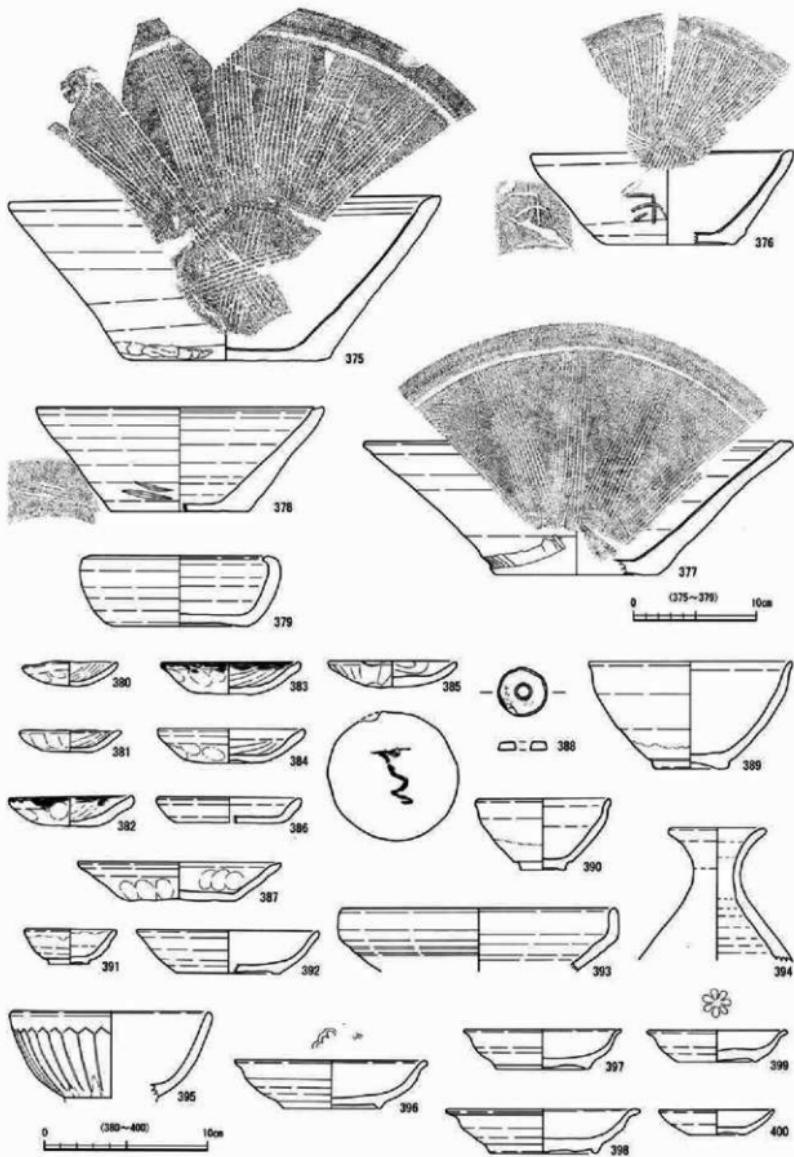


C区 II 遺構面(1)



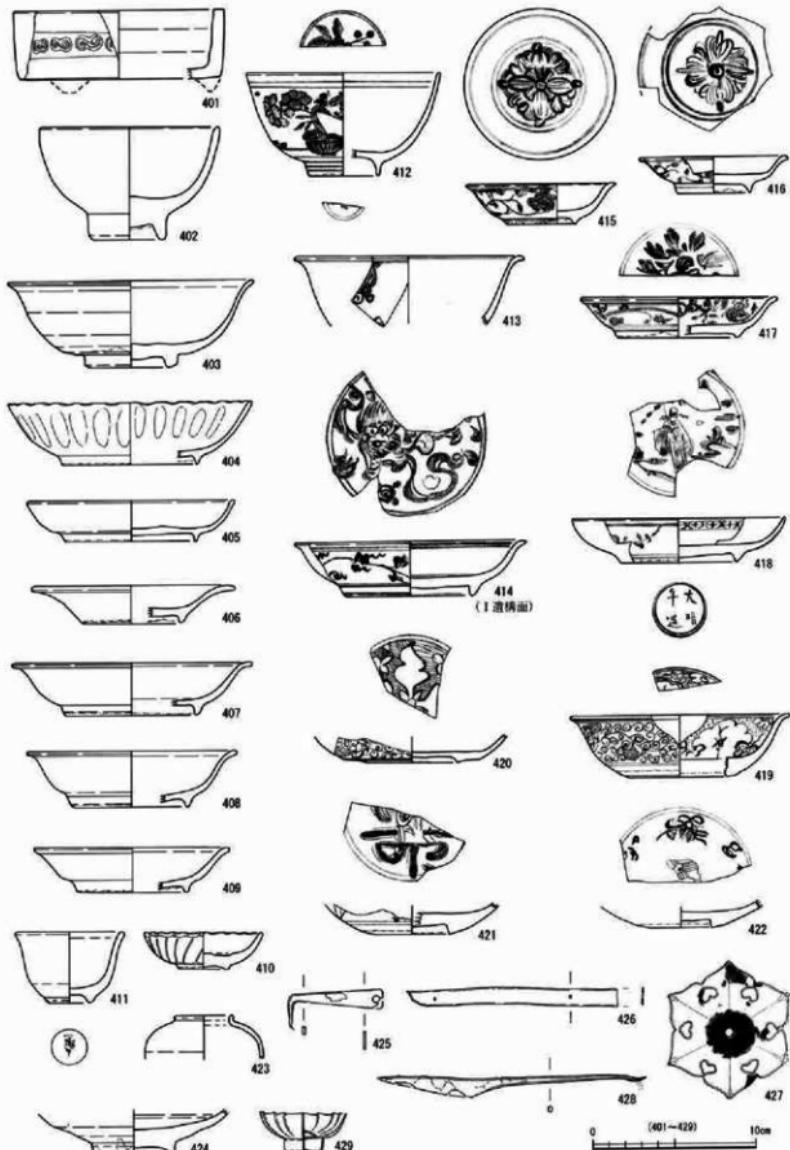
第29図 出土遺物 C区 I 遺構面(2)、C区 II 遺構面(1)

C区 II 造構面(2)



第30図 出土遺物 C区 II 造構面(2)

C区II遺構面(3)



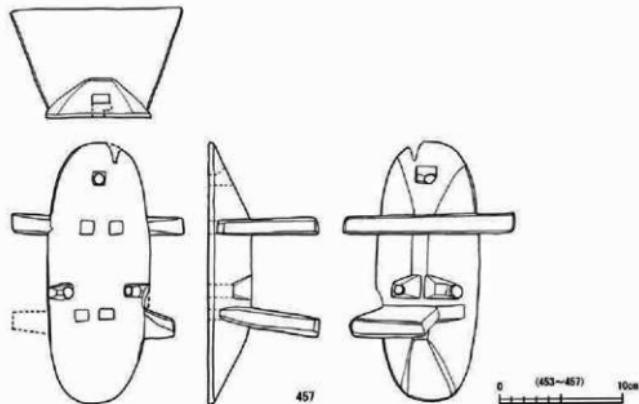
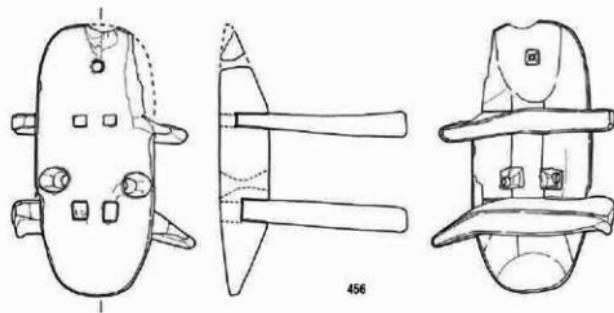
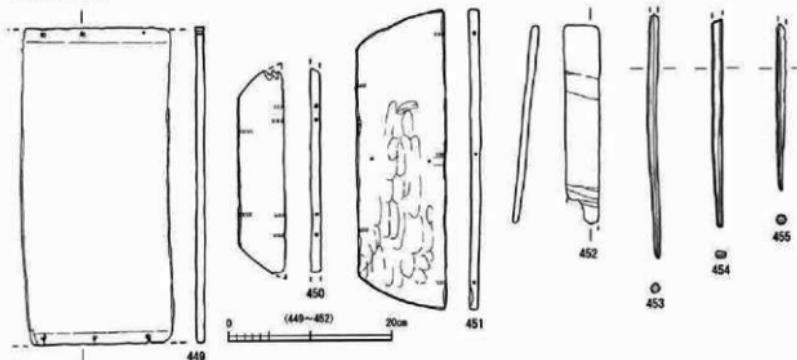
第31図 出土遺物 C区II遺構面(3)

C区 II 遺構面(4)



第32図 出土遺物 C区 II 遺構面(4)

C区 II 遺構面(5)



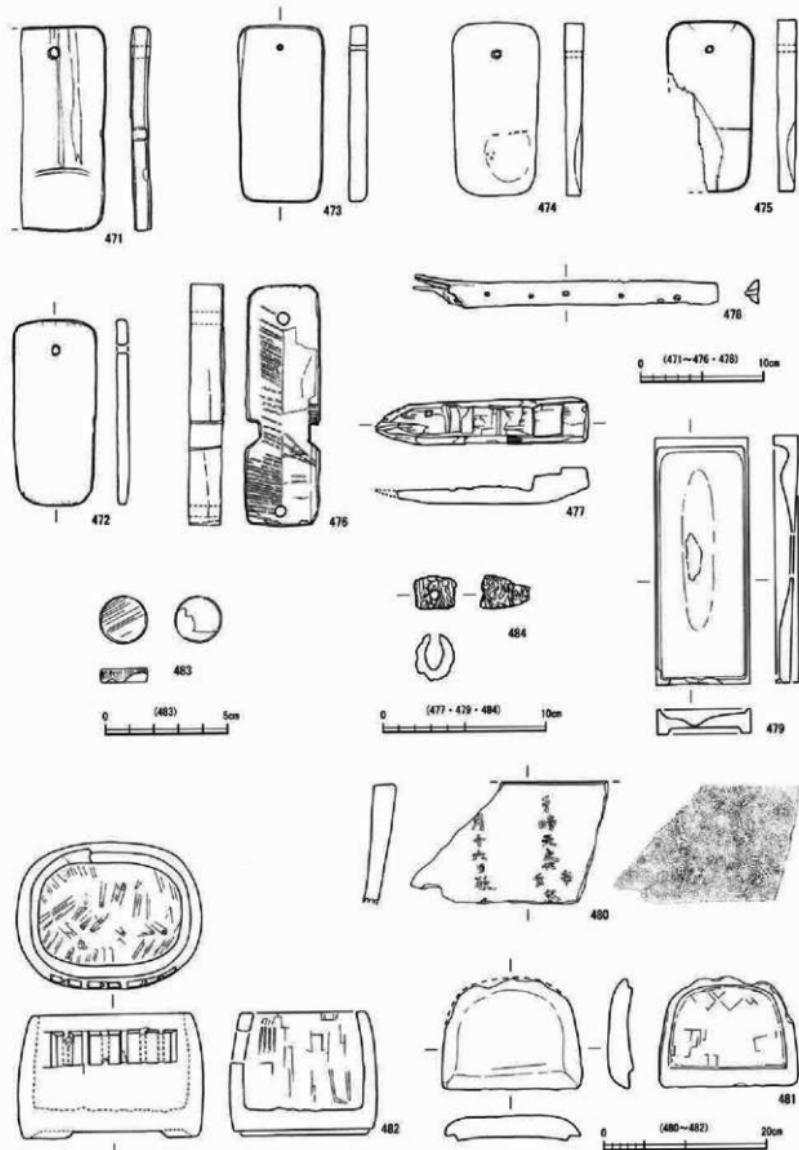
第33図 出土遺物 C区 II 遺構面(5)

C区 II 遺構面(6)



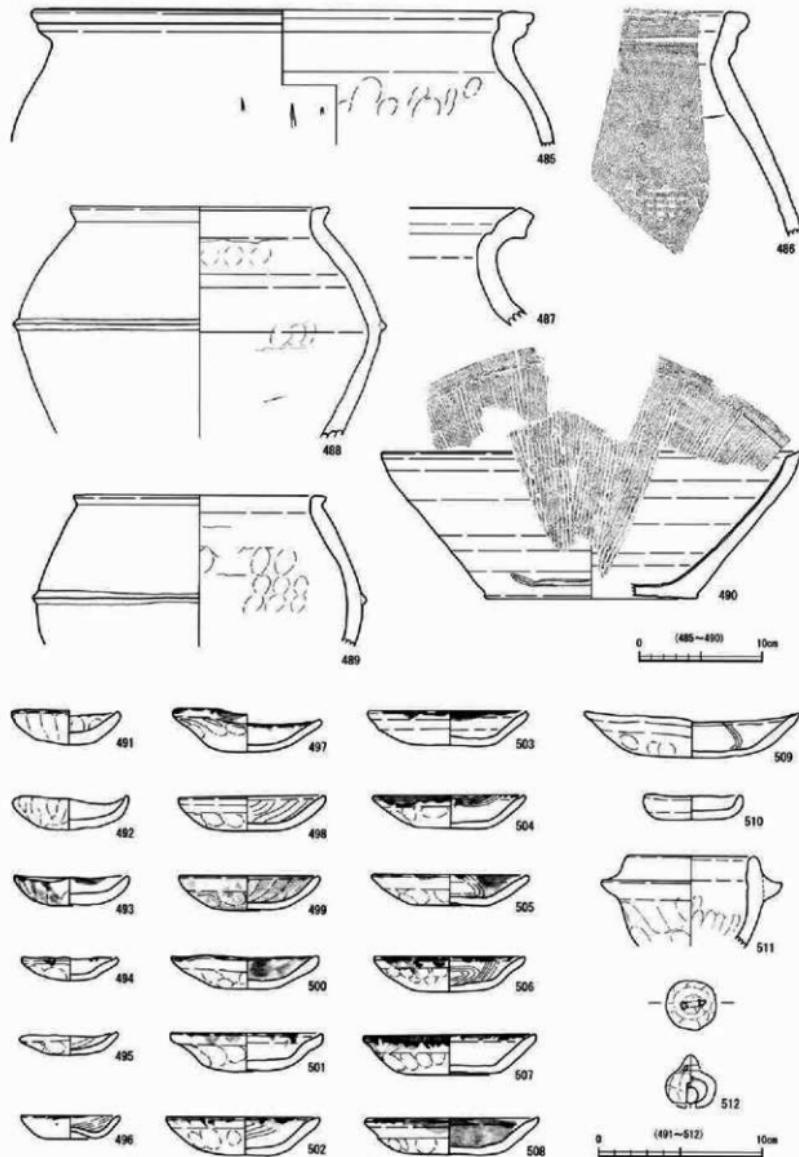
第34図 出土遺物 C区 II 遺構面(6)

C区 II 遺構面(7)



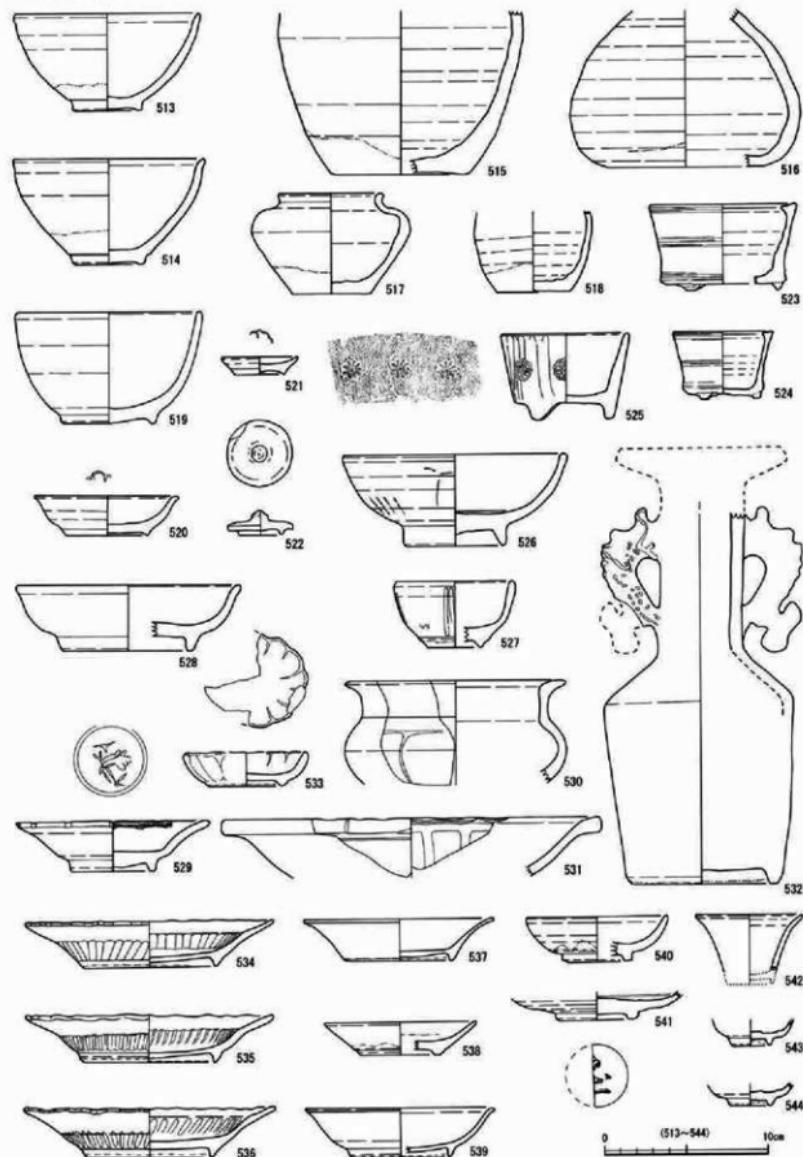
第35図 出土遺物 C区 II 遺構面(7)

D区 I 遺構面(1)



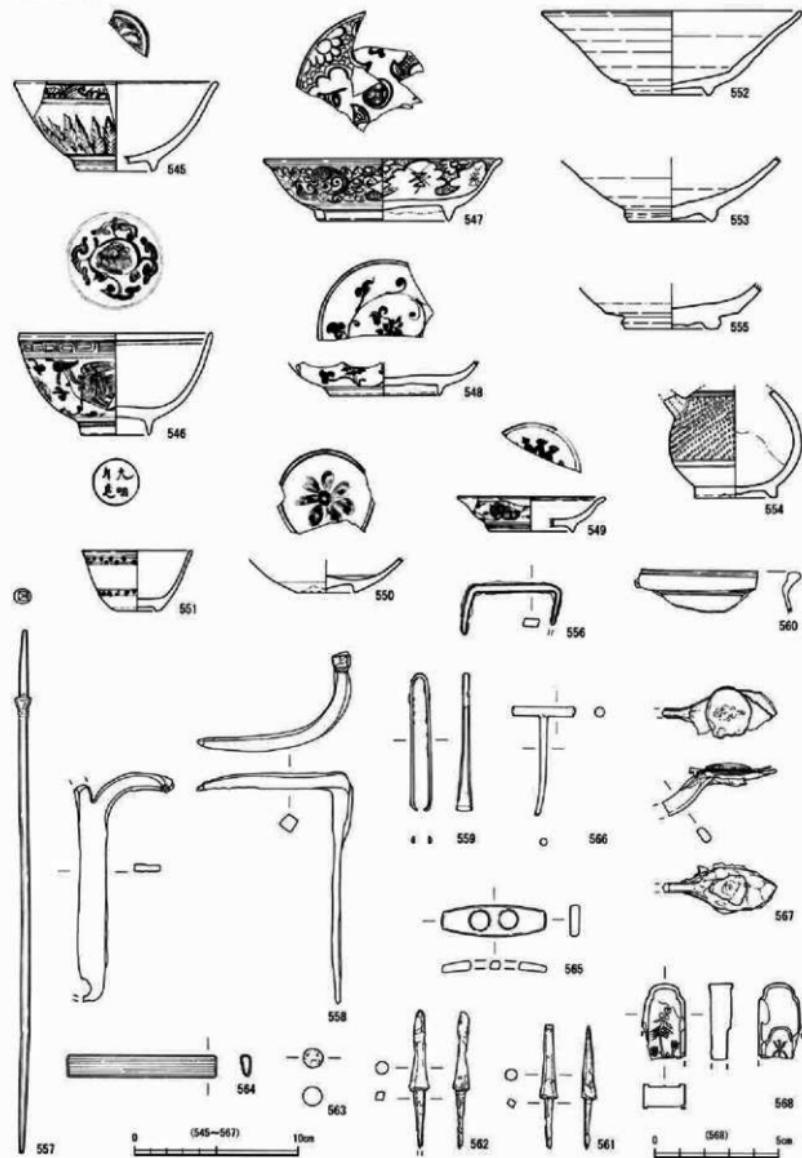
第36図 出土遺物 D区 I 遺構面(1)

D区 I 造構面(2)



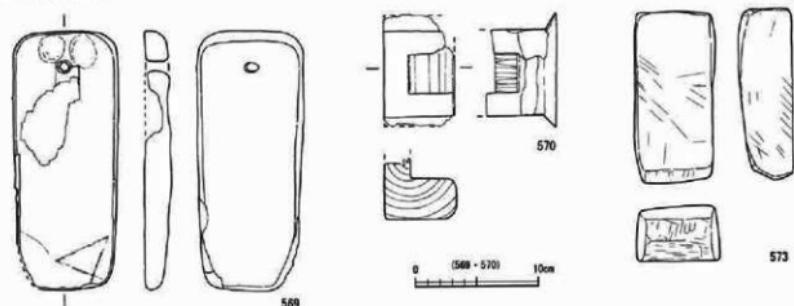
第37図 出土遺物 D区 I 造構面(2)

D区 I 造構面(3)

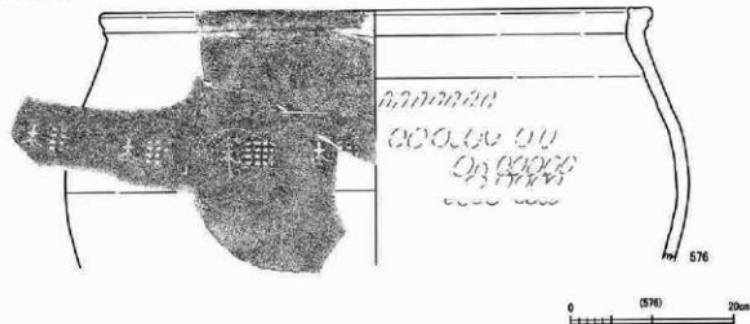


第38図 出土遺物 D区 I 造構面(3)

D区 I 造構面(4)

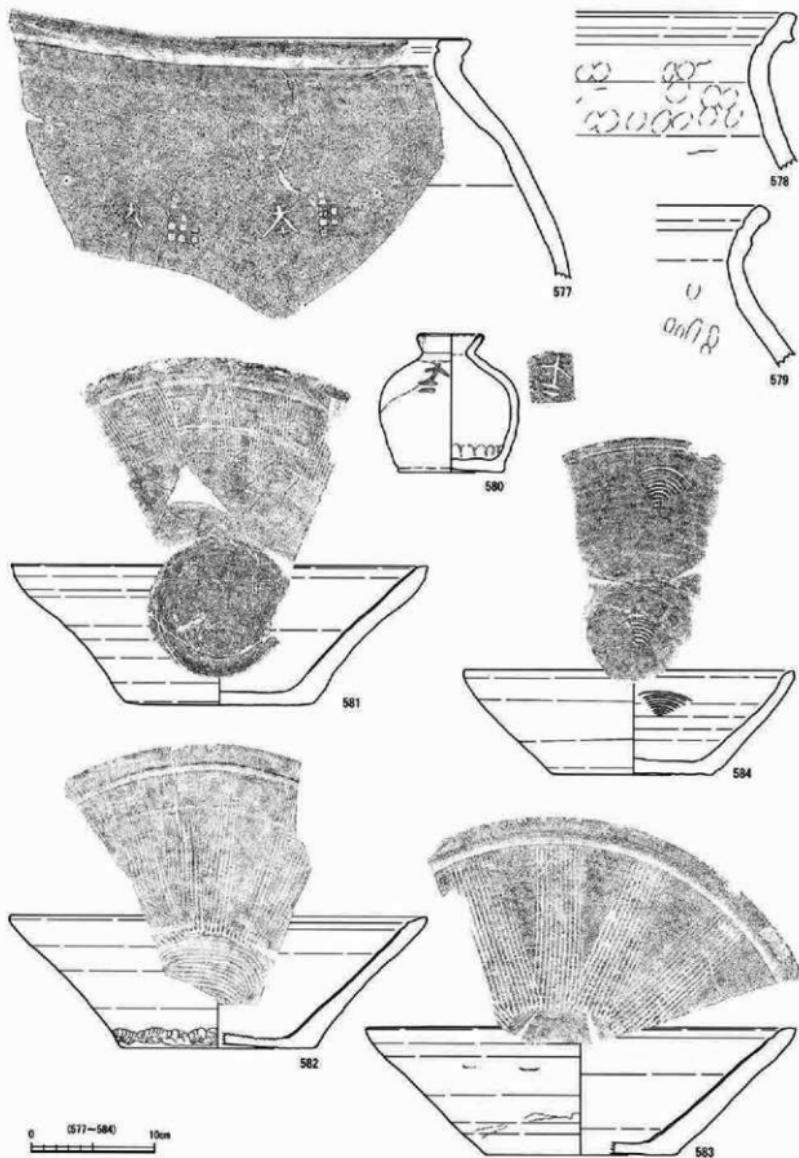


D区 II 造構面(1)



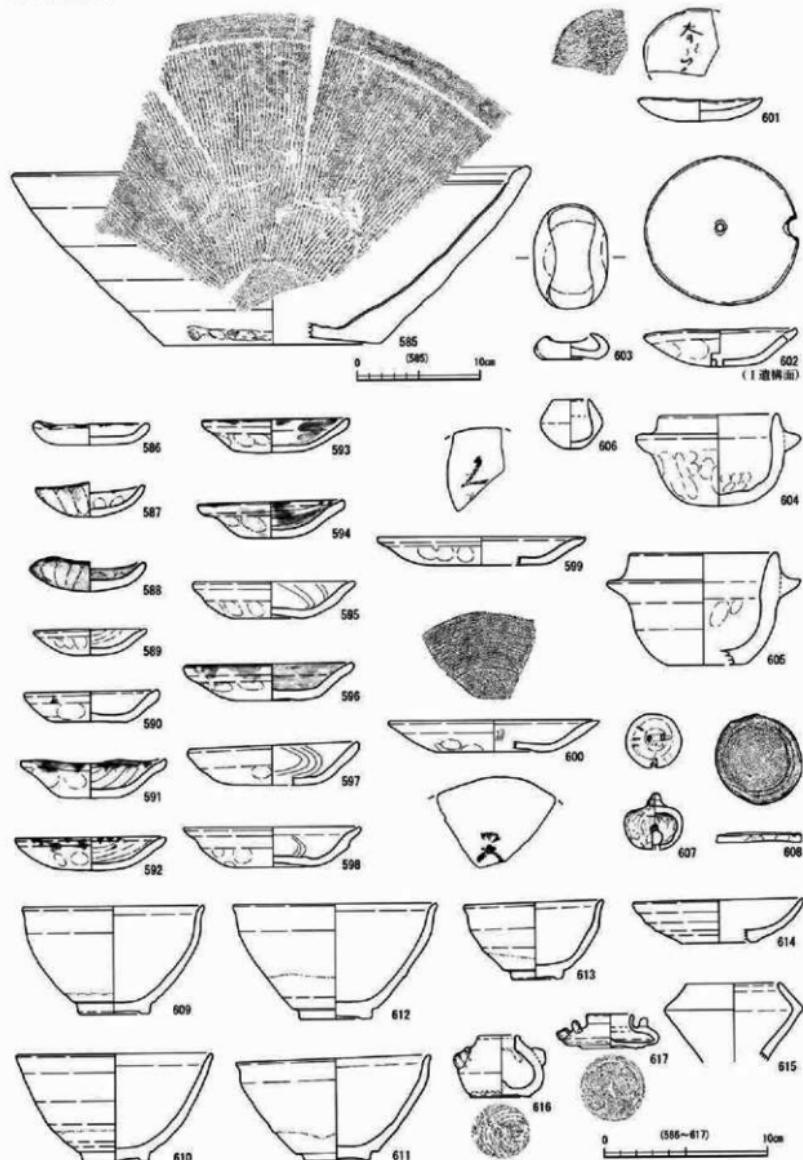
第39図 出土遺物 D区 I 造構面(4)、D区 II 造構面(1)

D区 II 遺構面(2)



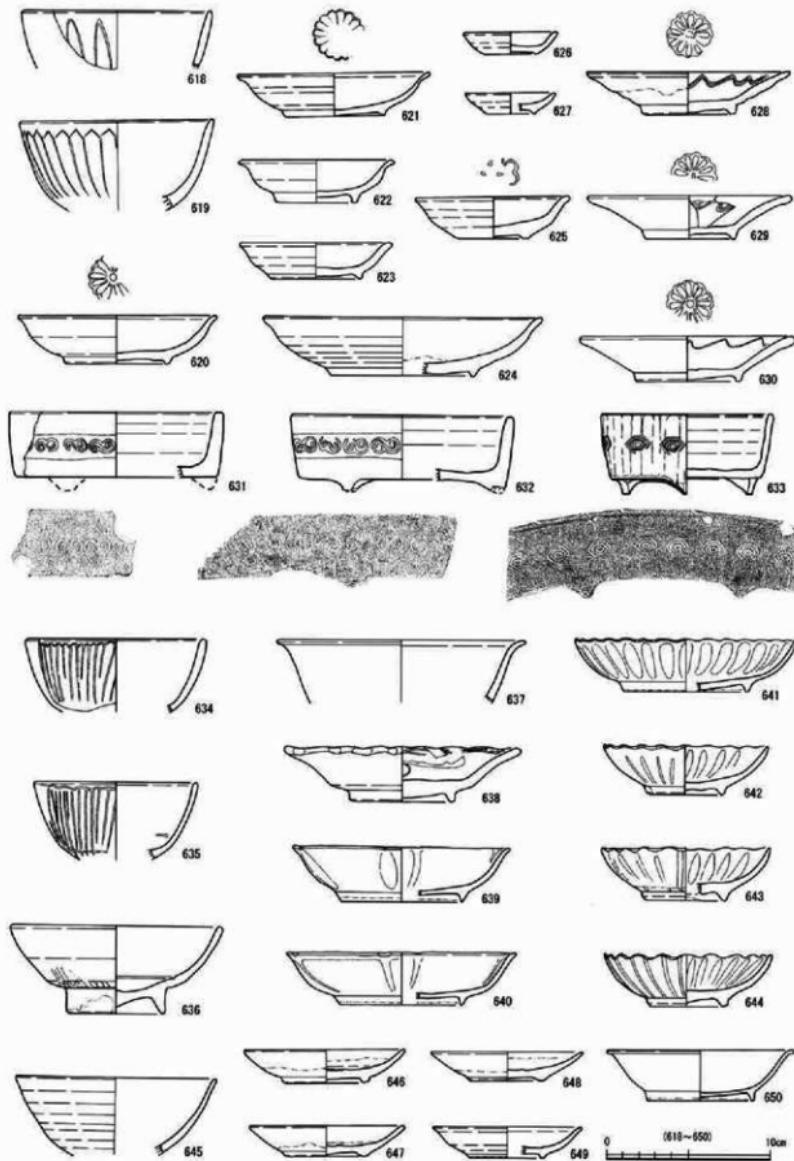
第40図 出土遺物 D区 II 遺構面(2)

D区II遺構面(3)



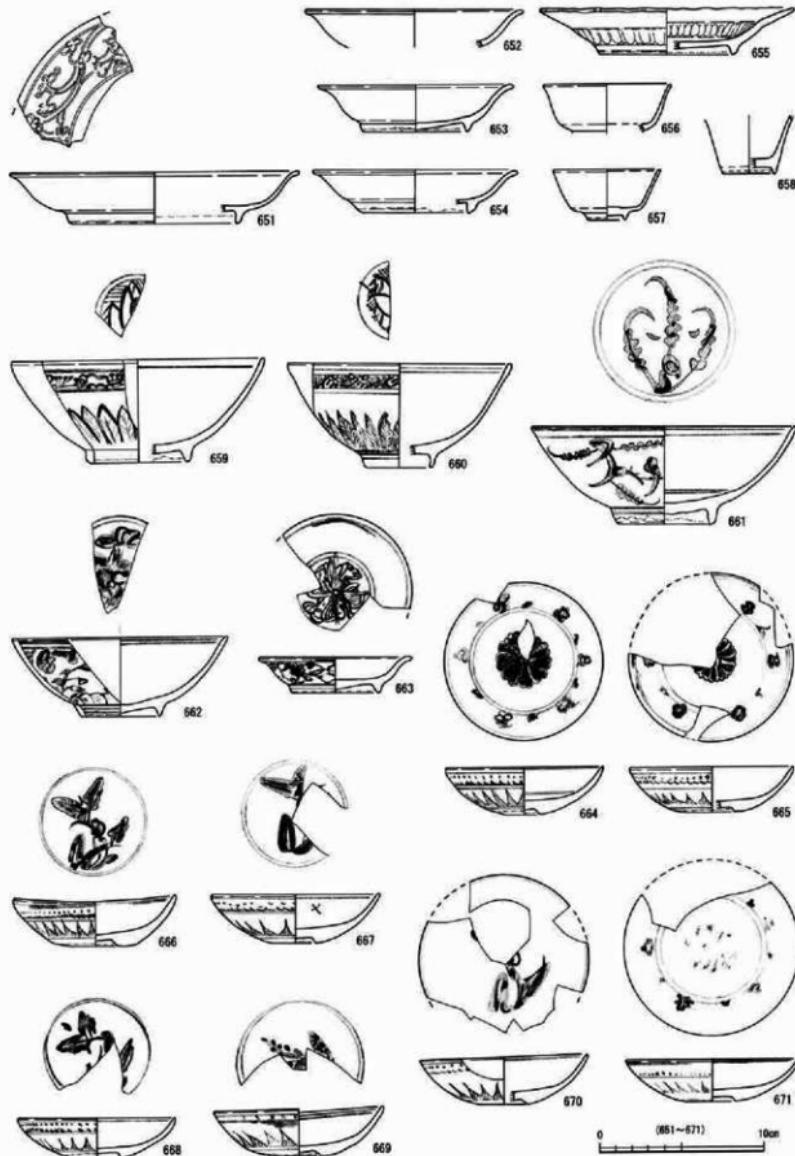
第41図 出土遺物 D区II遺構面(3)

D区 II 造構面(4)



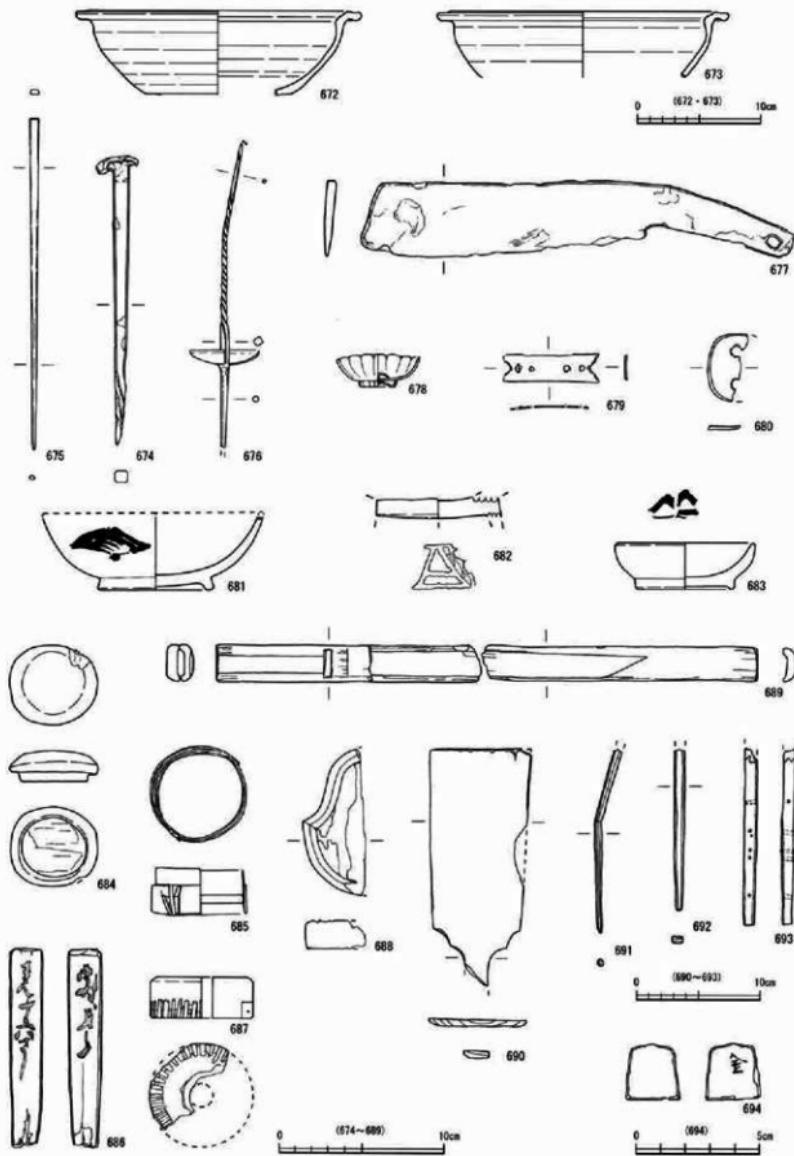
第42図 出土遺物 D区 II 造構面(4)

D区 II 遺構面(5)



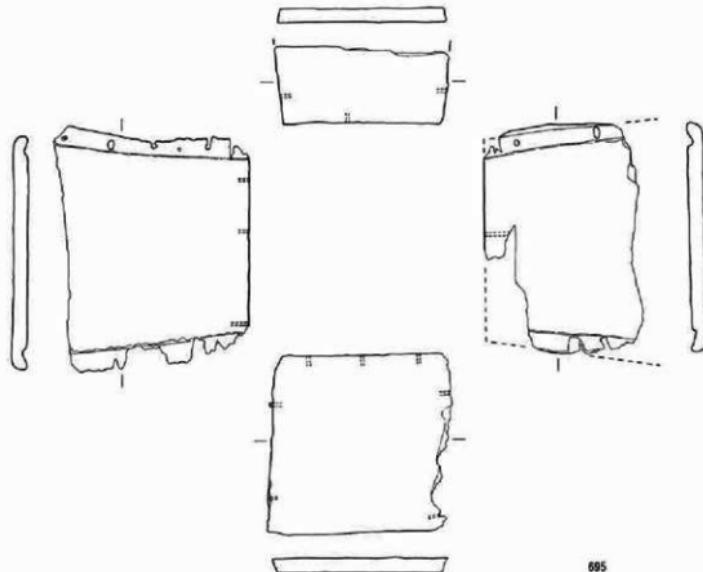
第43図 出土遺物 D区 II 遺構面(5)

D区II遺構面(6)

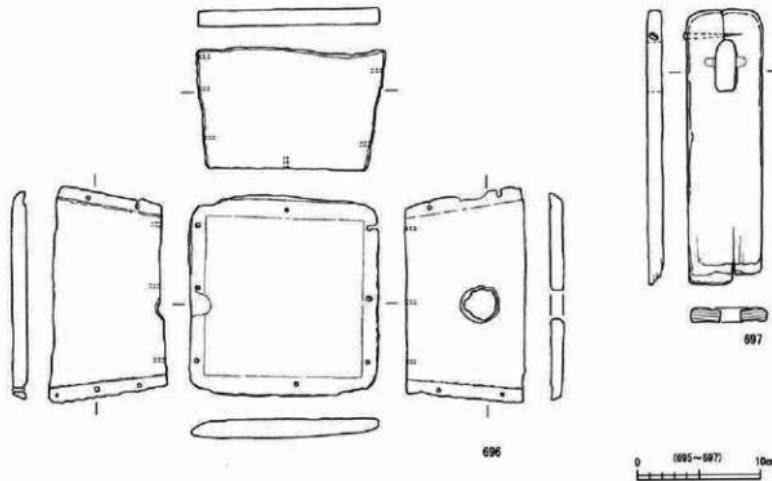


第44図 出土遺物 D区II遺構面(6)

D区II遺構面(7)



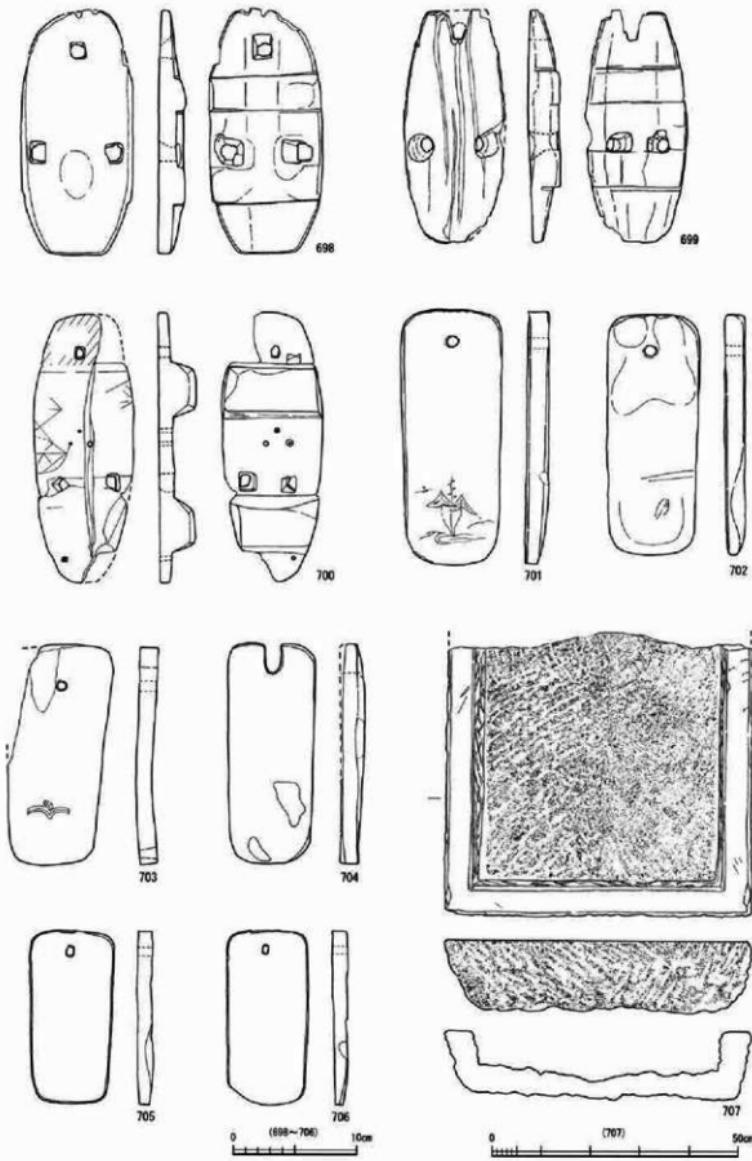
695



696 695~697 10cm  
697

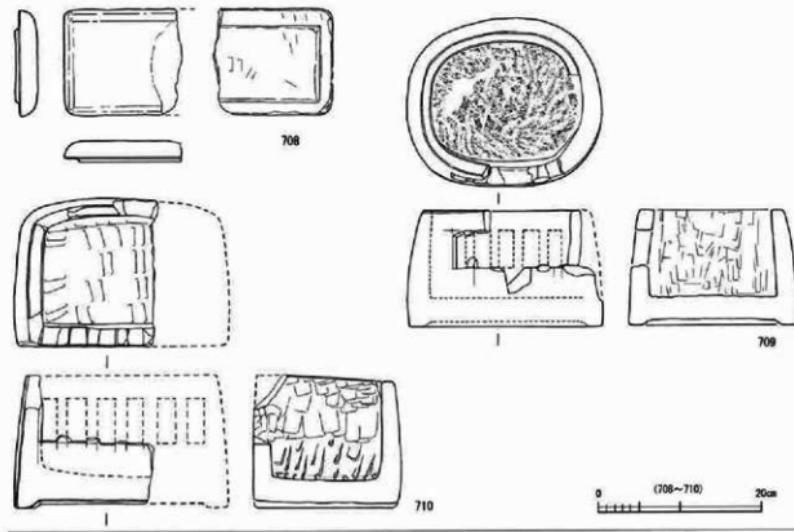
第45図 出土遺物 D区II遺構面(7)

D区II遺構面(8)

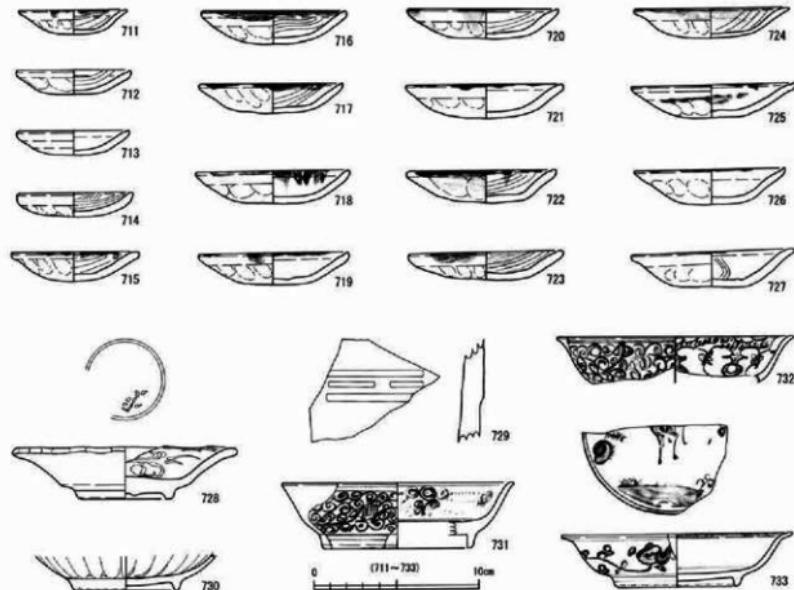


第46図 出土遺物 D区II遺構面(8)

D区II遺構面(9)

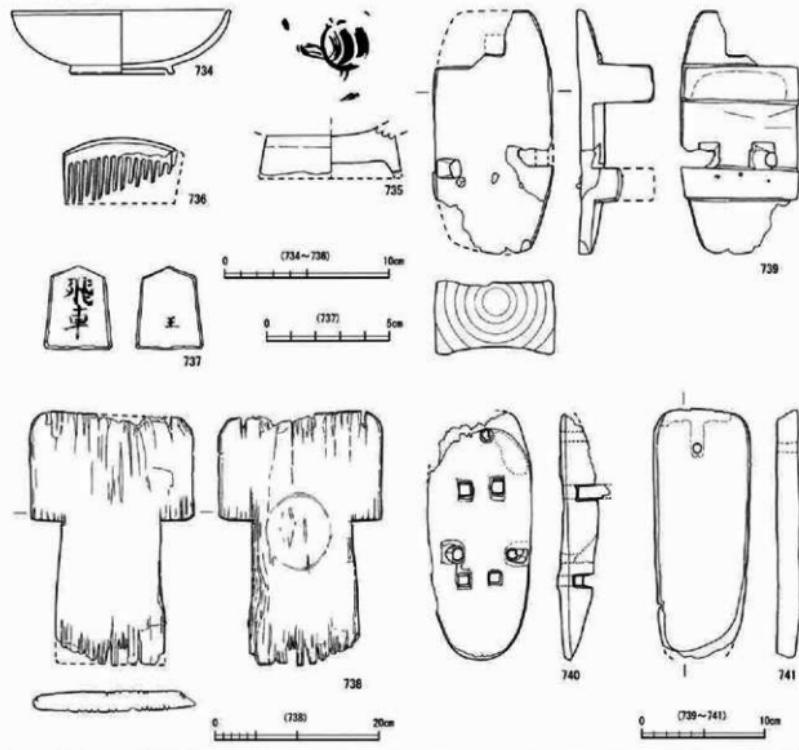


E区I遺構面(1)

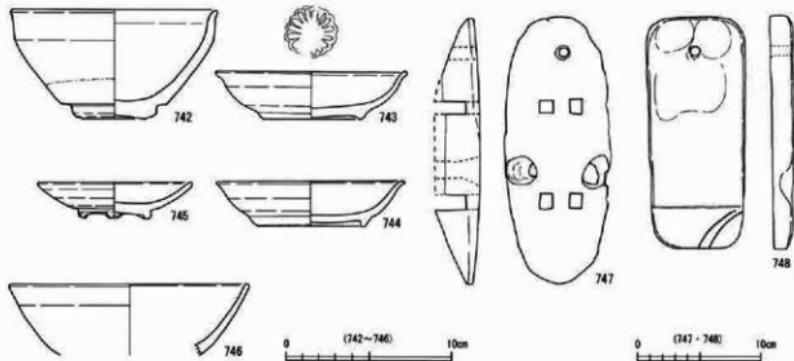


第47図 出土遺物 D区II遺構面(9)、E区I遺構面(1)

E区 I 遺構面(2)

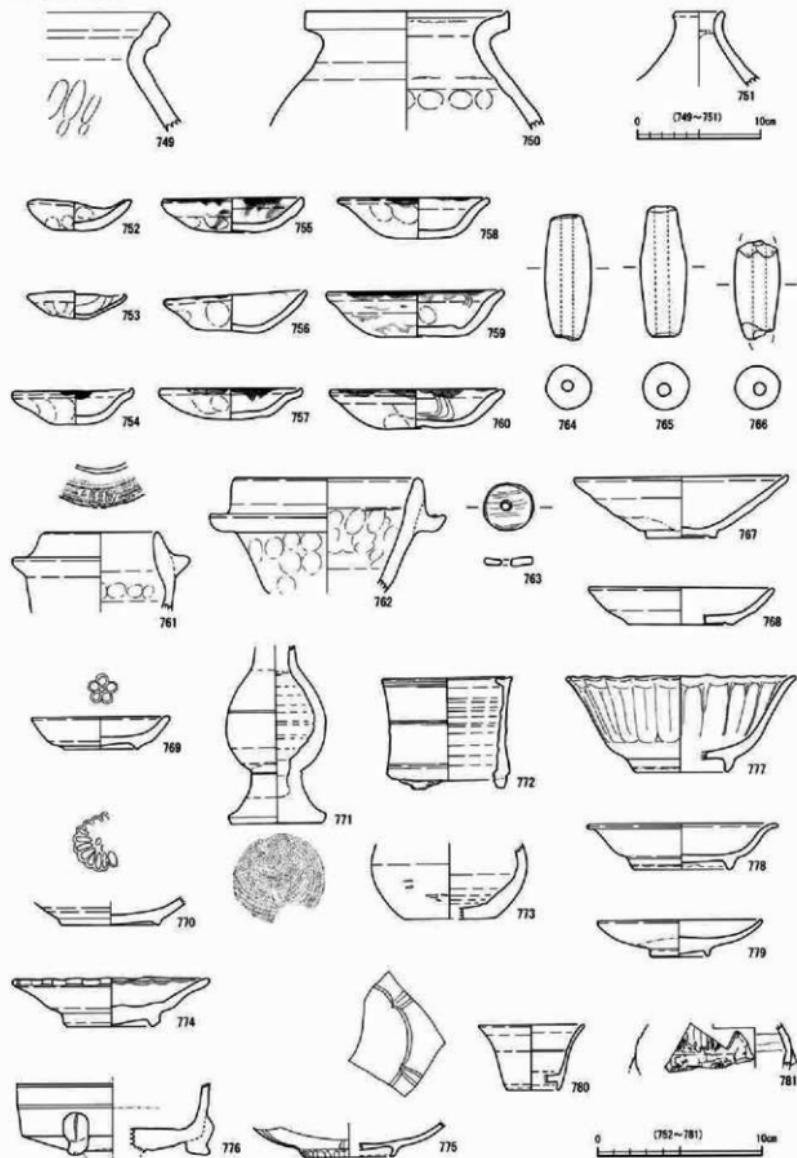


E区 II 遺構面



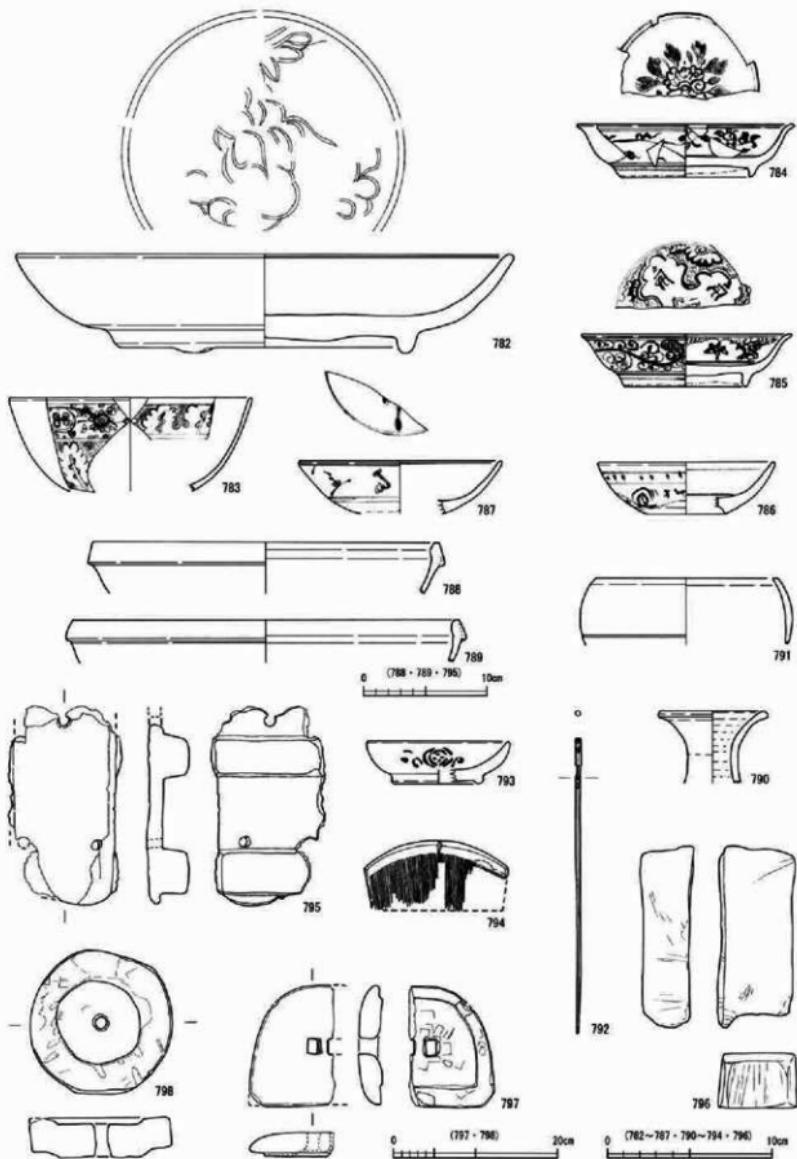
第48図 出土遺物 E区 I 遺構面(2)、E区 II 遺構面

その他 I 遺構面(1)



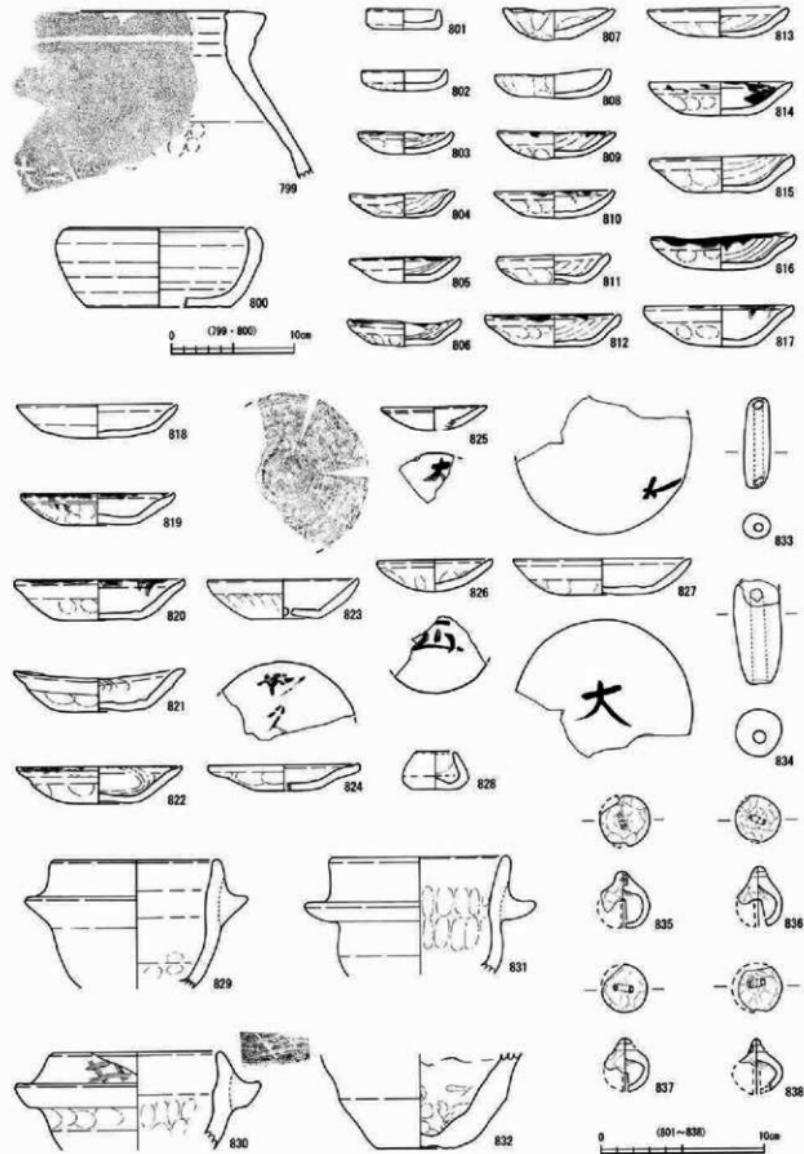
第49図 出土遺物 その他 I 遺構面(1)

その他Ⅰ遺構面(2)



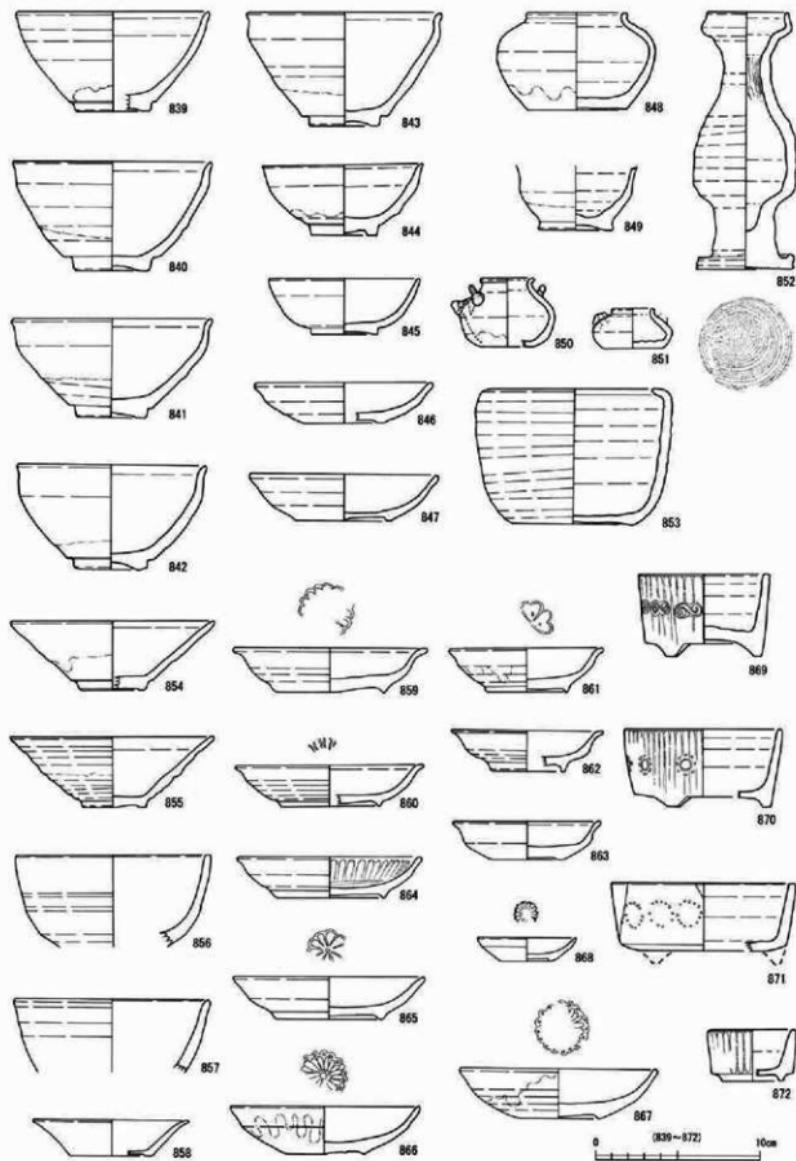
第50図 出土遺物 その他Ⅰ遺構面(2)

その他Ⅱ遺構面(1)



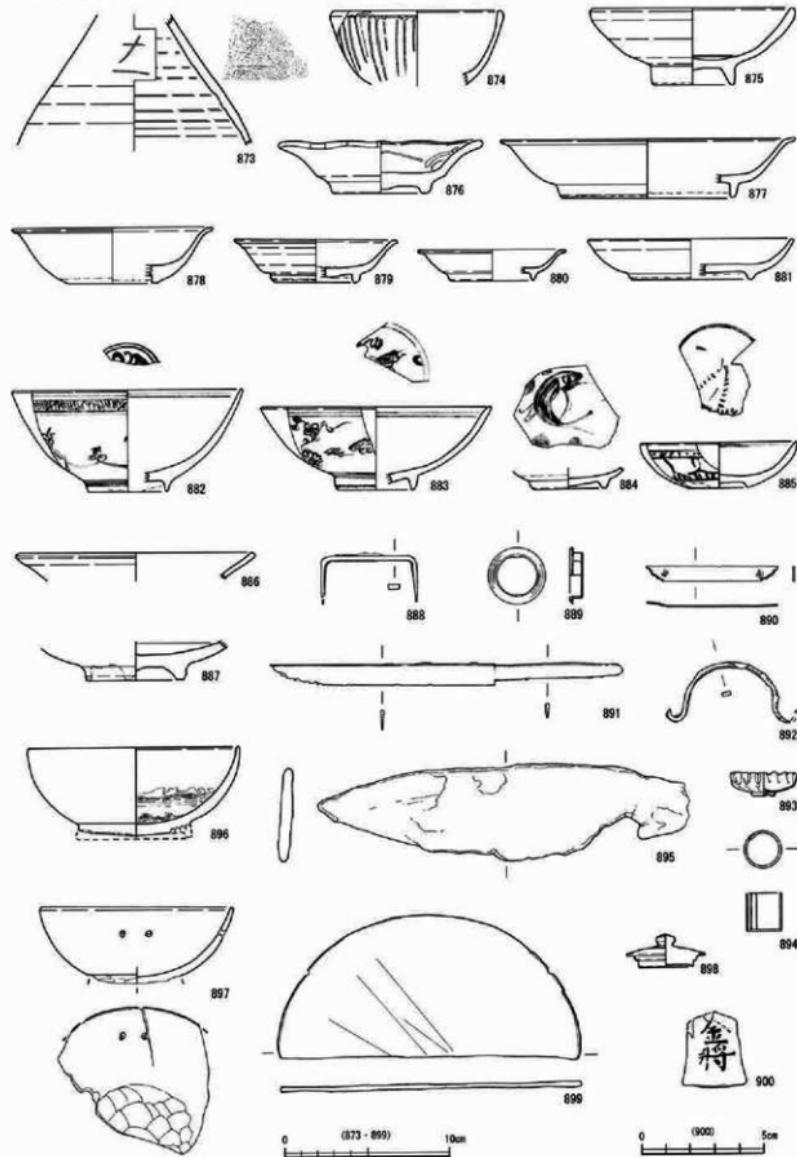
第51図 出土遺物 その他Ⅱ遺構面(1)

その他Ⅱ造構面(2)



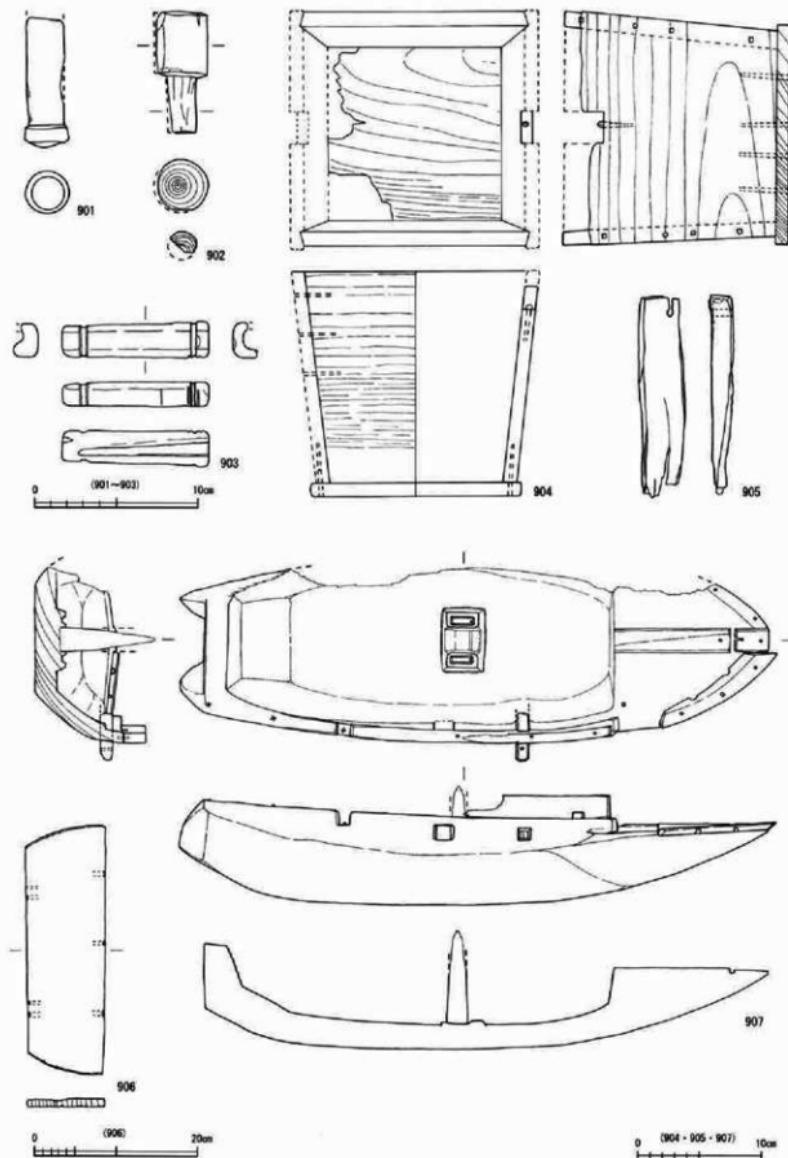
第52図 出土遺物 その他Ⅱ造構面(2)

その他Ⅱ造構面(3)



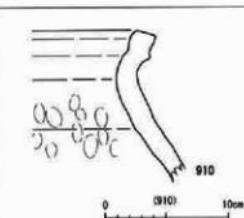
第53図 出土遺物 その他Ⅱ造構面(3)

その他Ⅱ造構面(4)

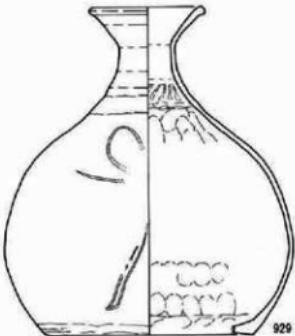
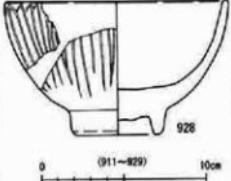
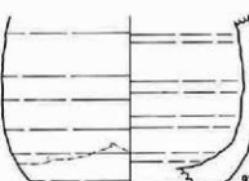
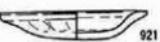


第54図 出土遺物 その他Ⅱ造構面(4)

その他 II 遺構面(5)

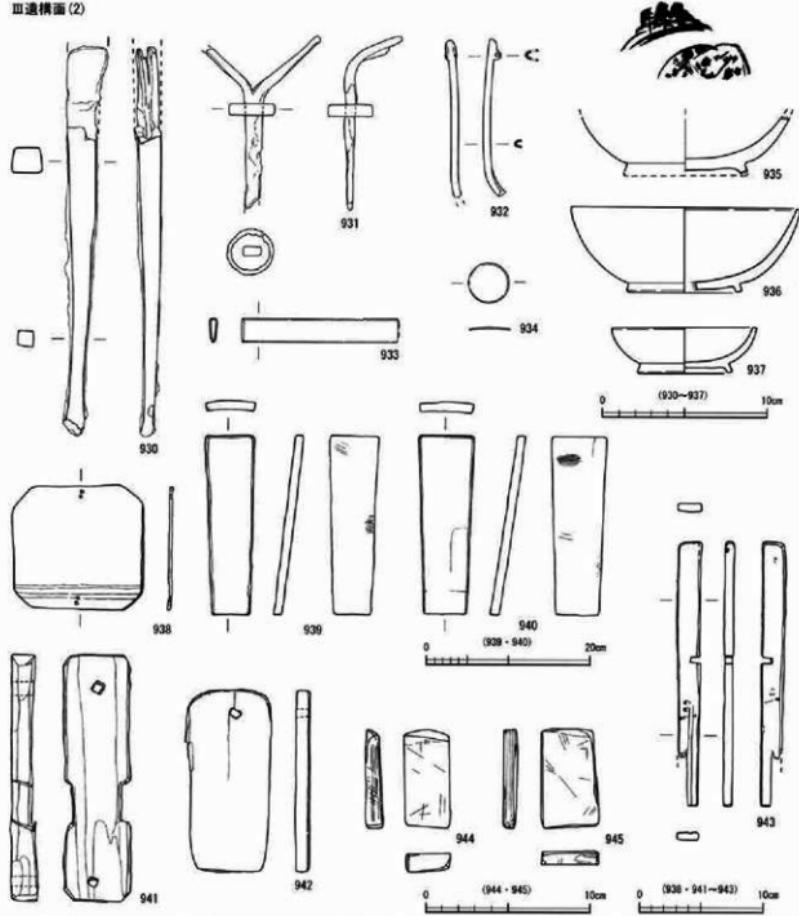


III 遺構面(1)

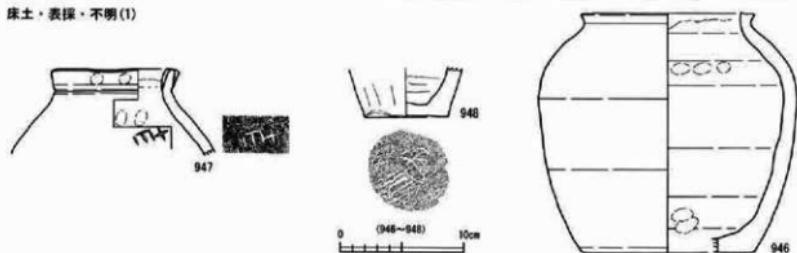


第55図 出土遺物 その他 II 遺構面(5)、III 遺構面(1)

III造横面(2)

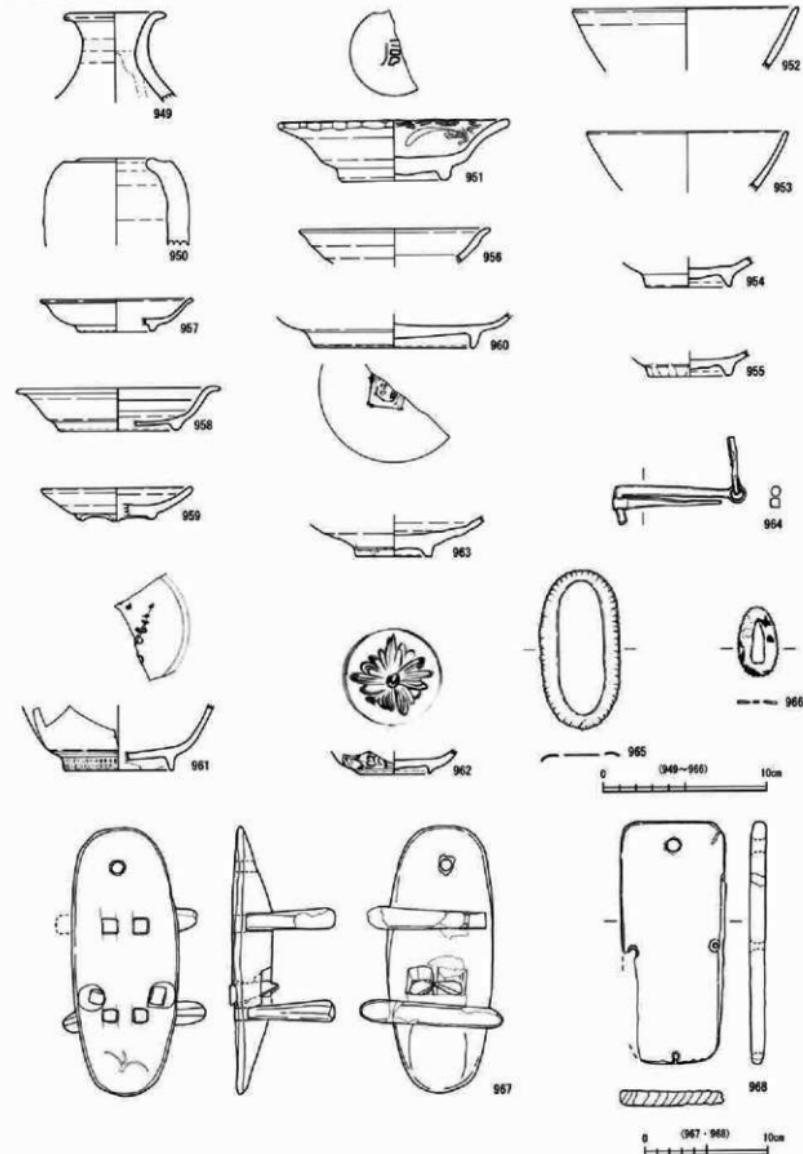


床土・表採・不明(1)



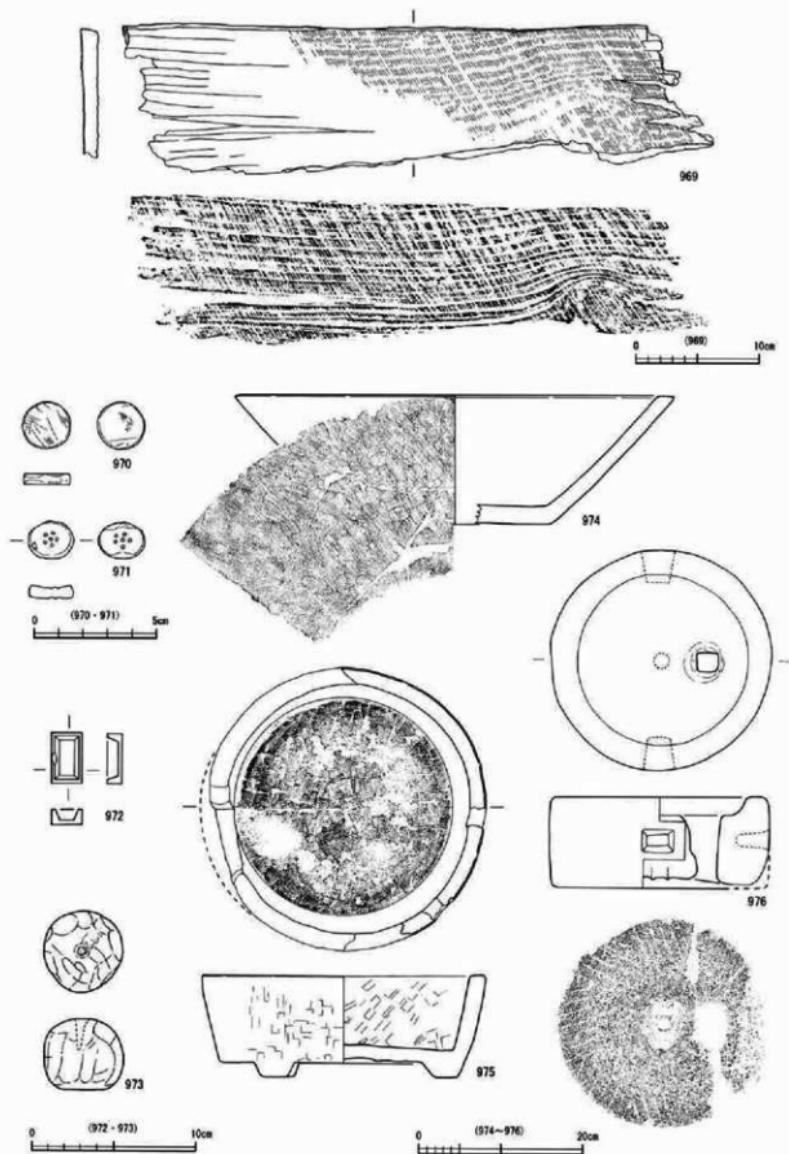
第56図 出土遺物 III造横面(2)、床土・表採・不明(1)

床土・表採・不明(2)



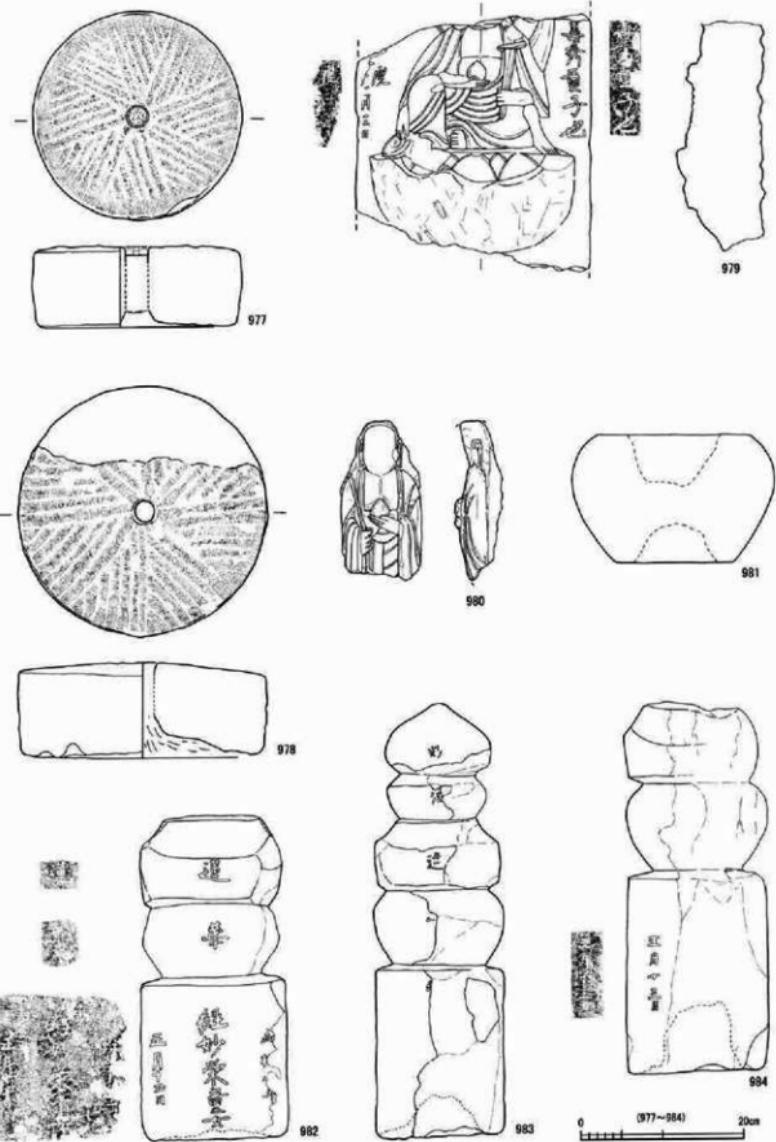
第57図 出土遺物 床土・表採・不明(2)

床土・表探・不明(3)



第58図 出土遺物 床土・表探・不明(3)

床土・表探・不明(4)

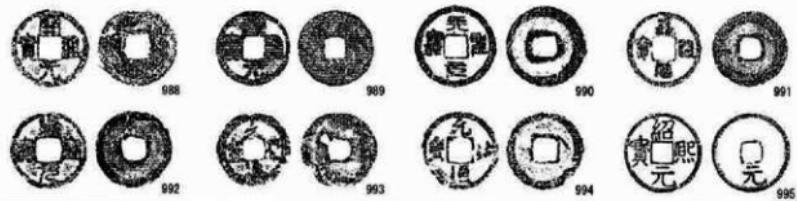


第59図 出土遺物 床土・表探・不明(4)

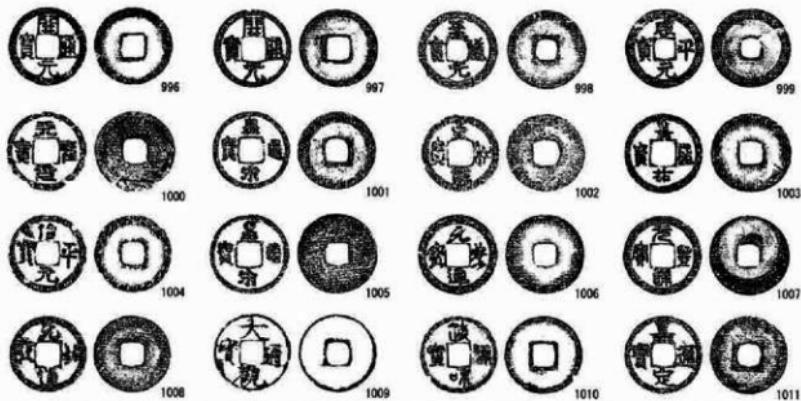
A区 I 遺構面



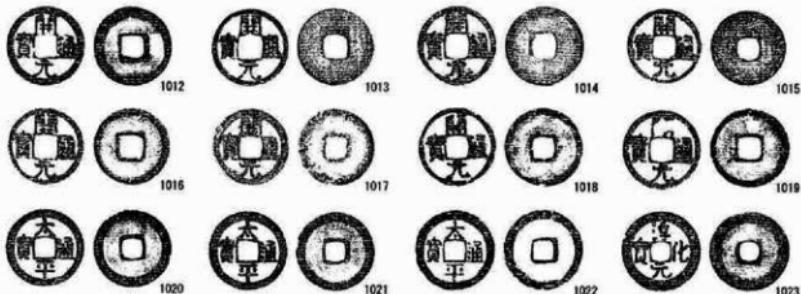
A区 II 遺構面



B区 I 遺構面



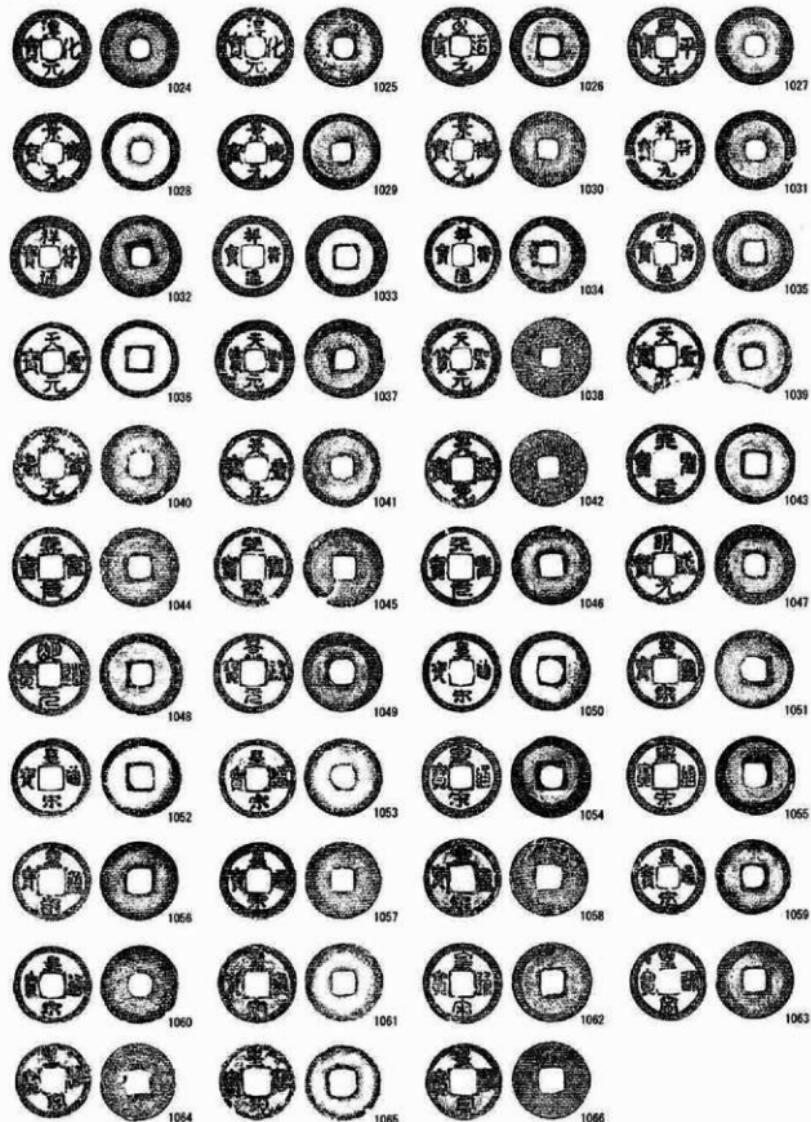
B区 II 遺構面(1)



0 2cm

第60圖 出土遺物 錢貨 A区 I 遺構面、A区 II 遺構面、B区 I 遺構面、B区 II 遺構面(1)

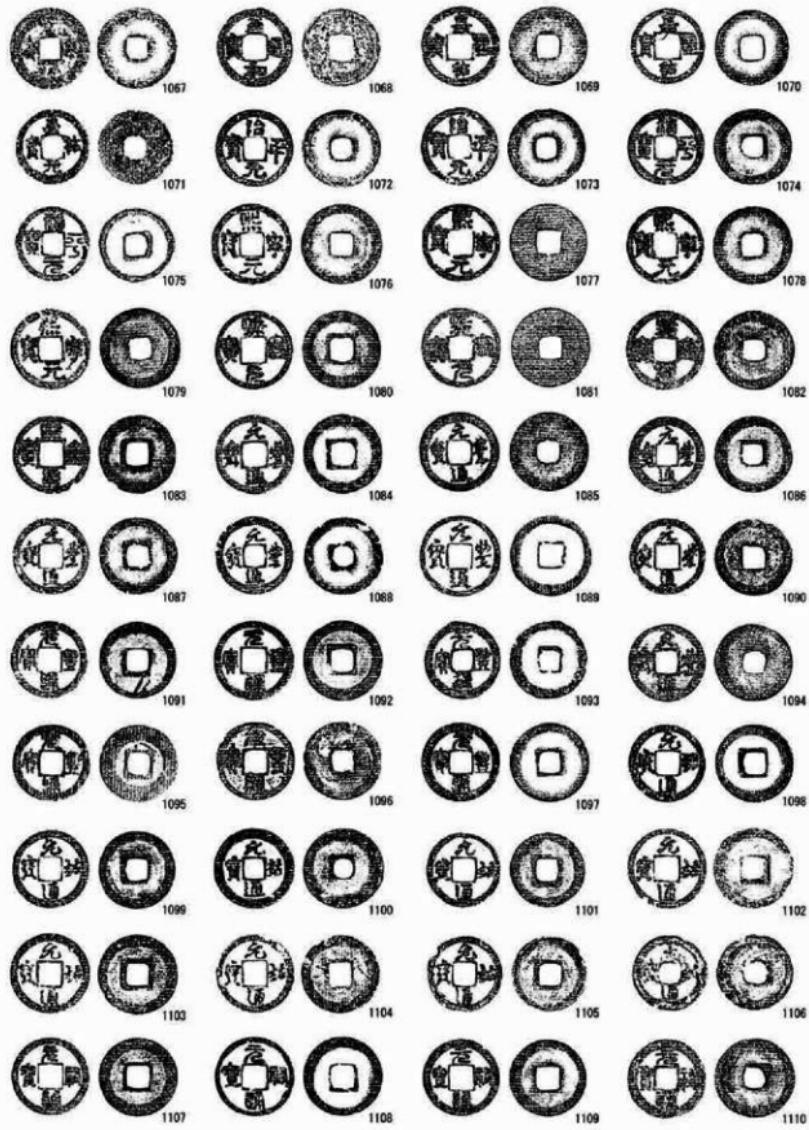
B区II造構面(2)



0 2cm

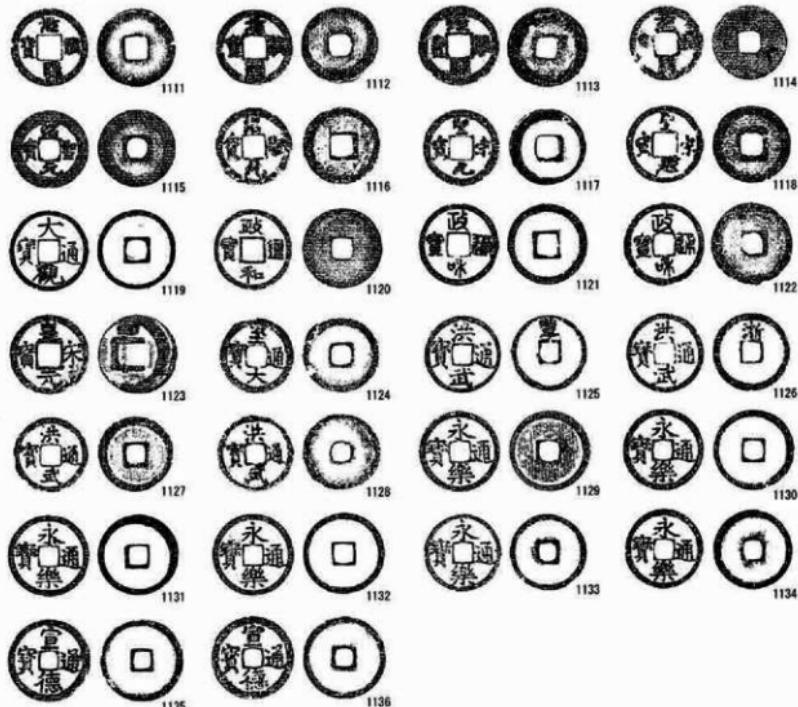
第61図 出土遺物 錢貨 B区II造構面(2)

B区II造構面(3)

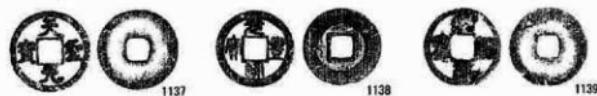


第62図 出土遺物 錢貨 B区II造構面(3)

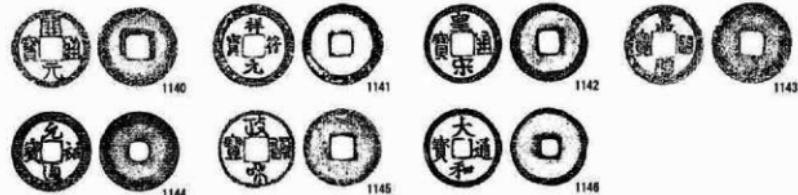
B区II造構面(4)



B区III造構面



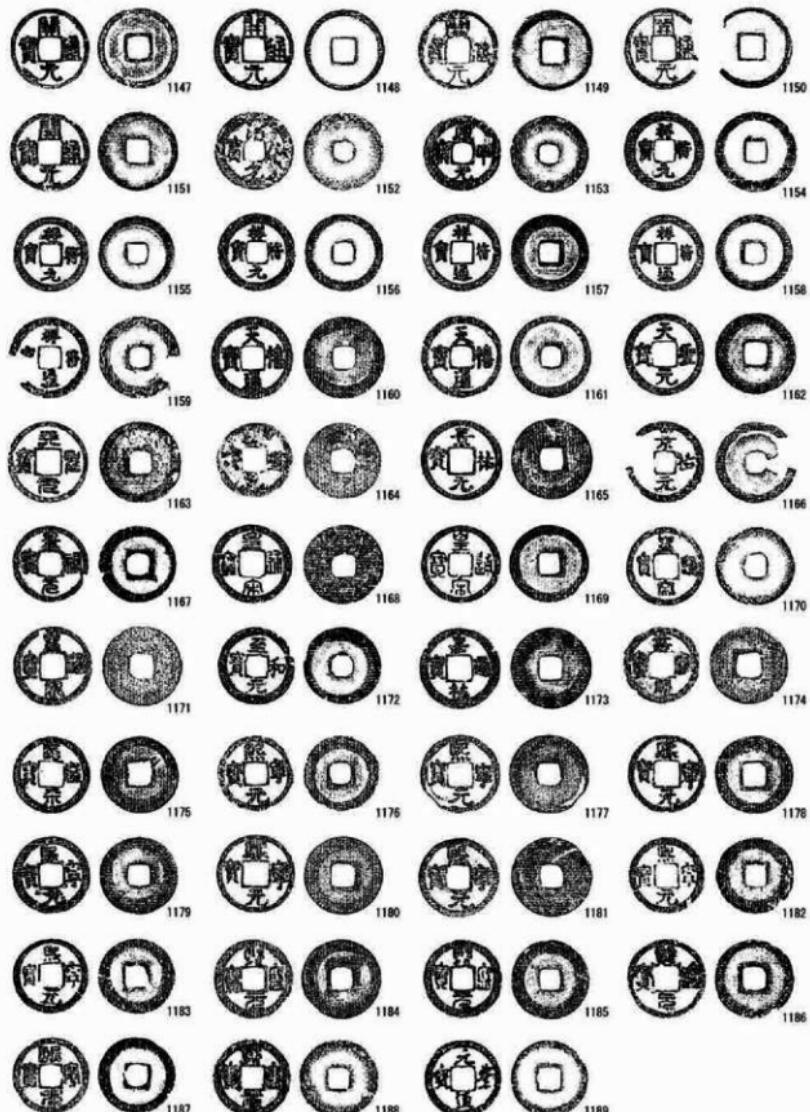
C区I造構面



0 2mm

第63図 出土遺物 錢貨 B区II造構面(4)、B区III造構面、C区I造構面

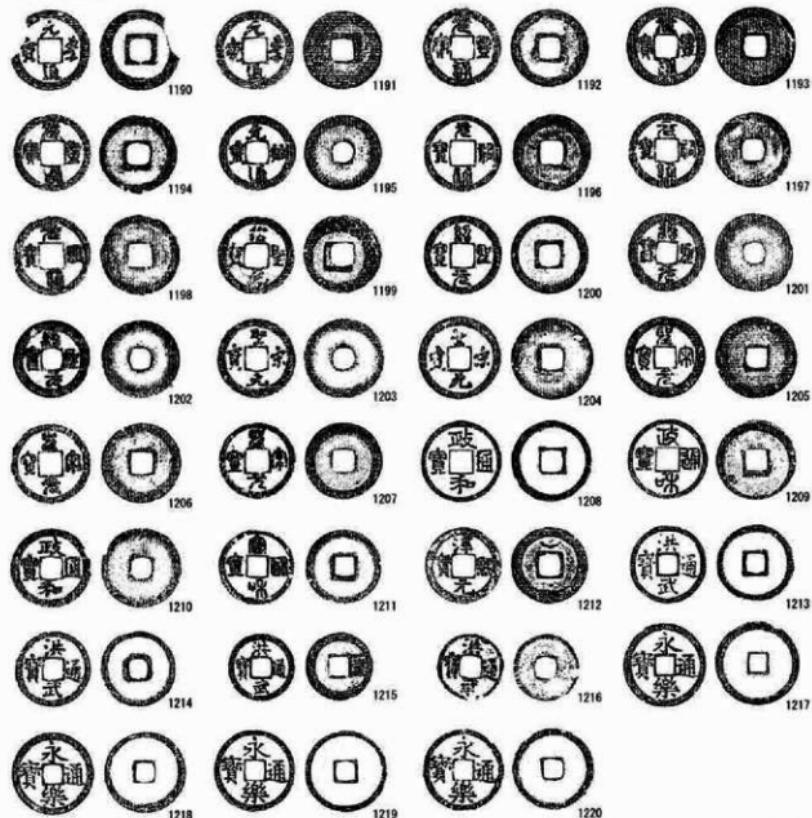
C区Ⅱ造構面(1)



0 2cm

第64図 出土遺物 錢貨 C区Ⅱ造構面(1)

C区II造構面(2)



C区III造構面



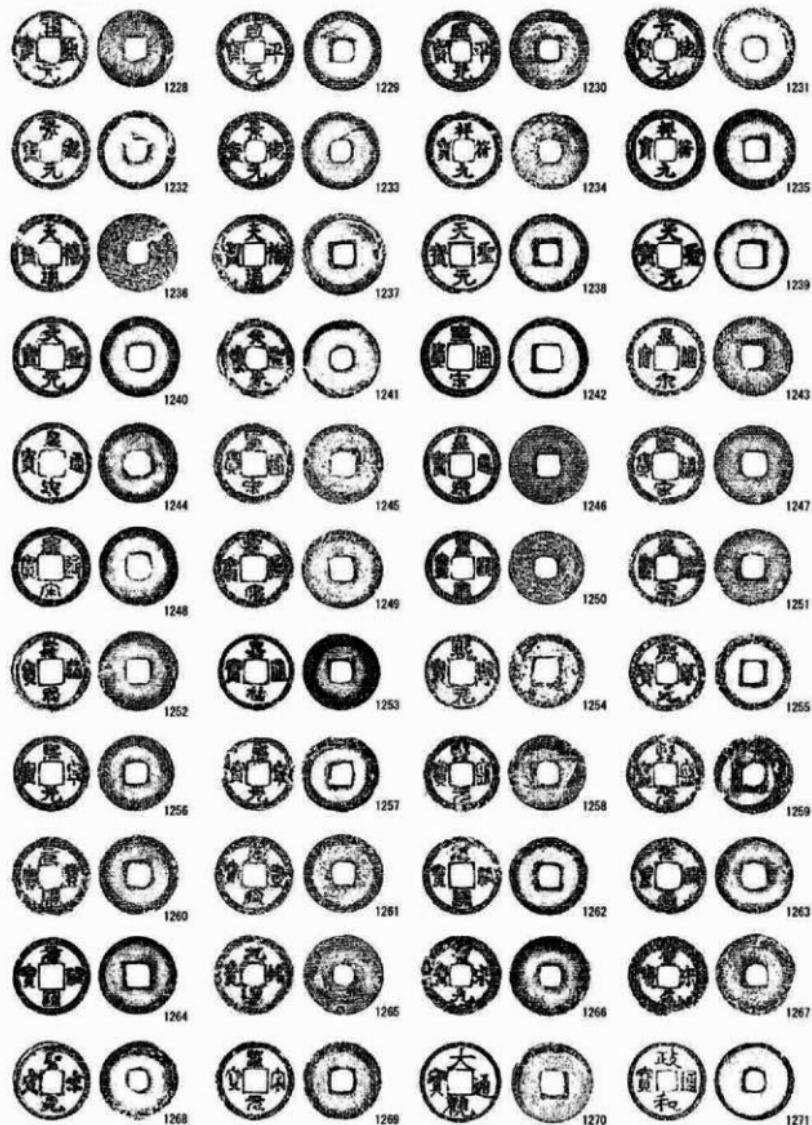
D区I造構面(1)



0 2mm

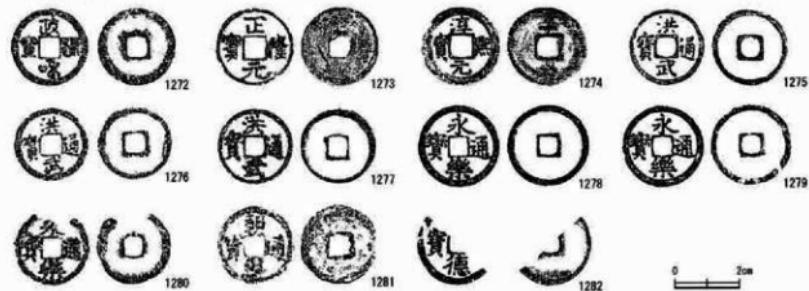
第65圖 出土遺物 线貨 C区II造構面(2)、C区III造構面、D区I造構面(1)

D区 I 遺構面(2)

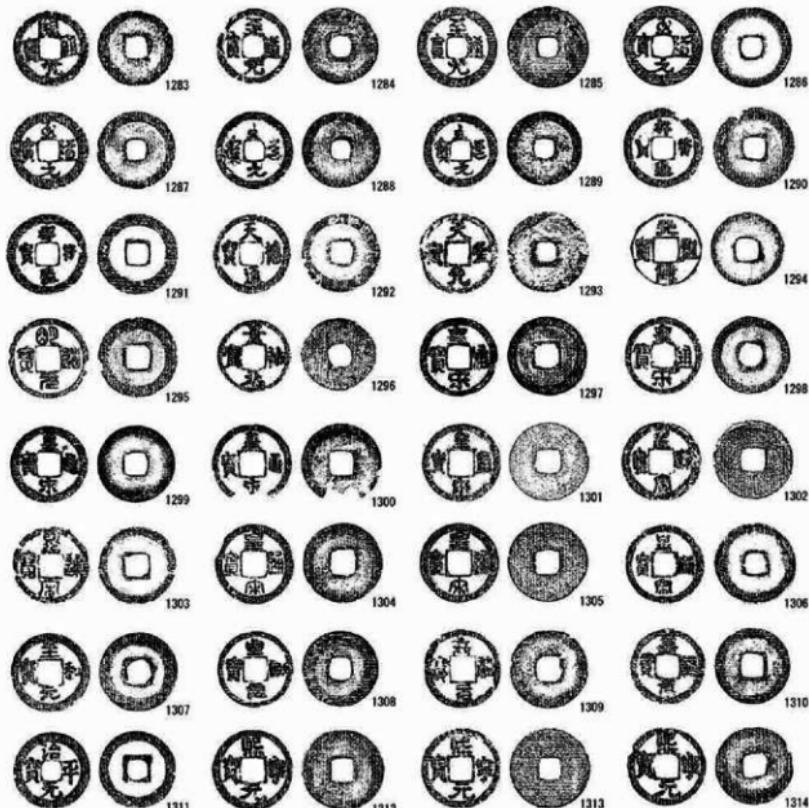


第66図 出土遺物 錢貨 D区 I 遺構面(2)

D区 I 造構面(3)

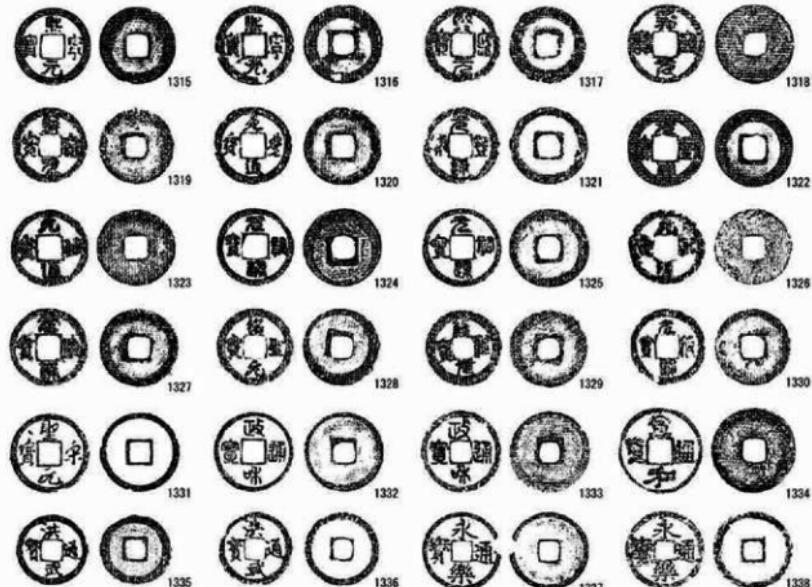


D区 II 造構面(1)

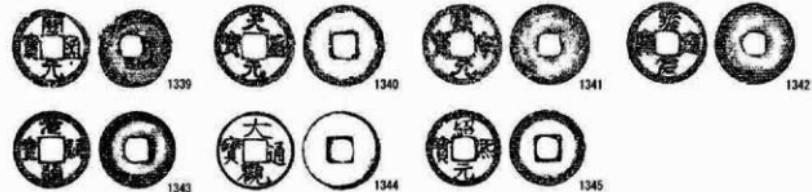


第67図 出土遺物 錢貨 D区 I 造構面(3)、D区 II 造構面(1)

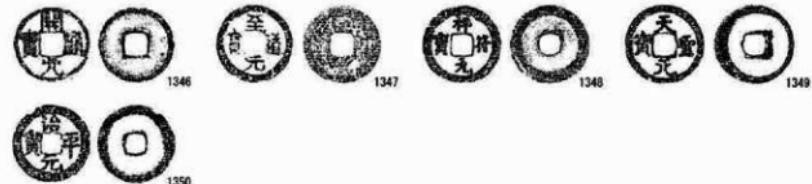
D区Ⅱ造構面(2)



E区Ⅰ造構面



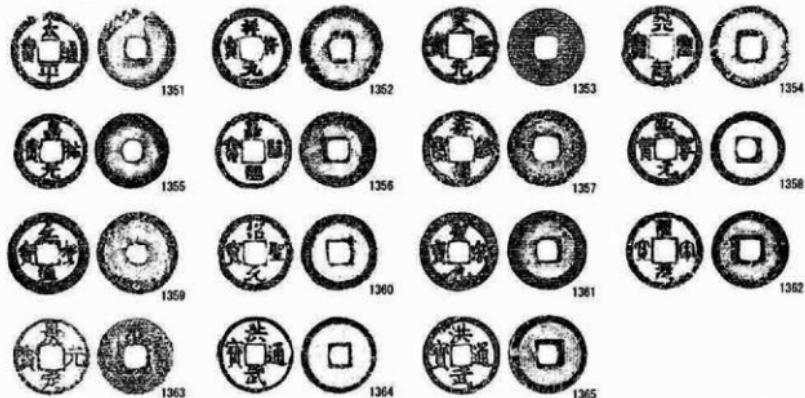
E区Ⅱ造構面



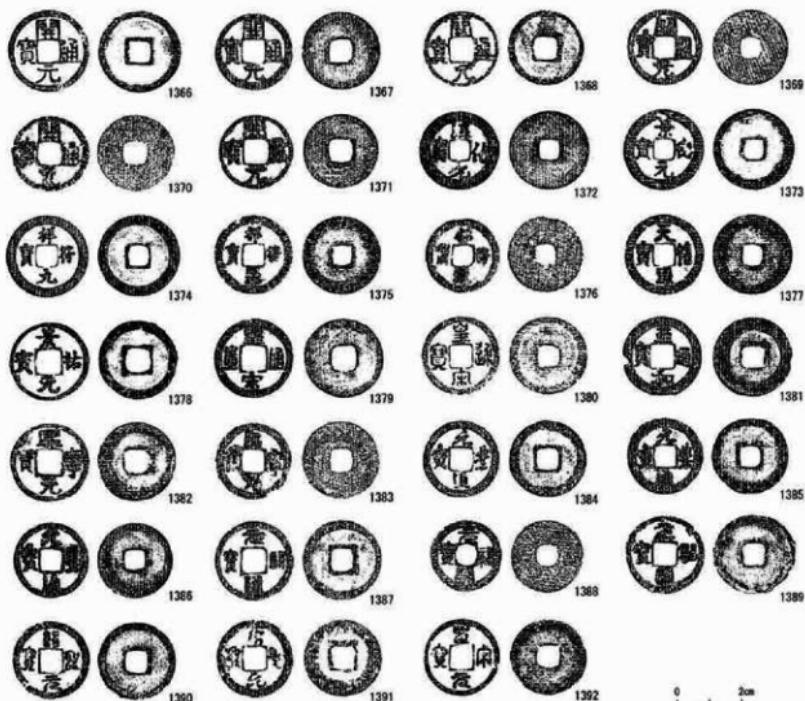
0 2cm

第68圖 出土遺物 錢貨 D区Ⅱ造構面(2)、E区Ⅰ造構面、E区Ⅱ造構面

その他の遣構面



その他 II 遣構面 (1)



0 2cm

第69回 出土遺物 銭貨 その他の遣構面、その他 II 遣構面(1)

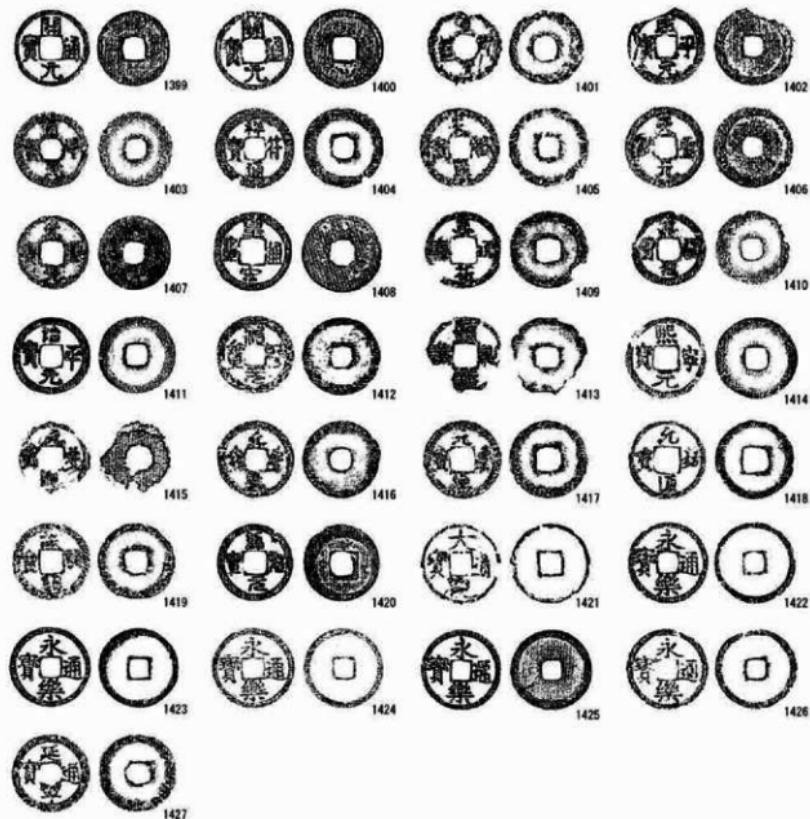
その他Ⅱ造構面(2)



その他Ⅲ造構面

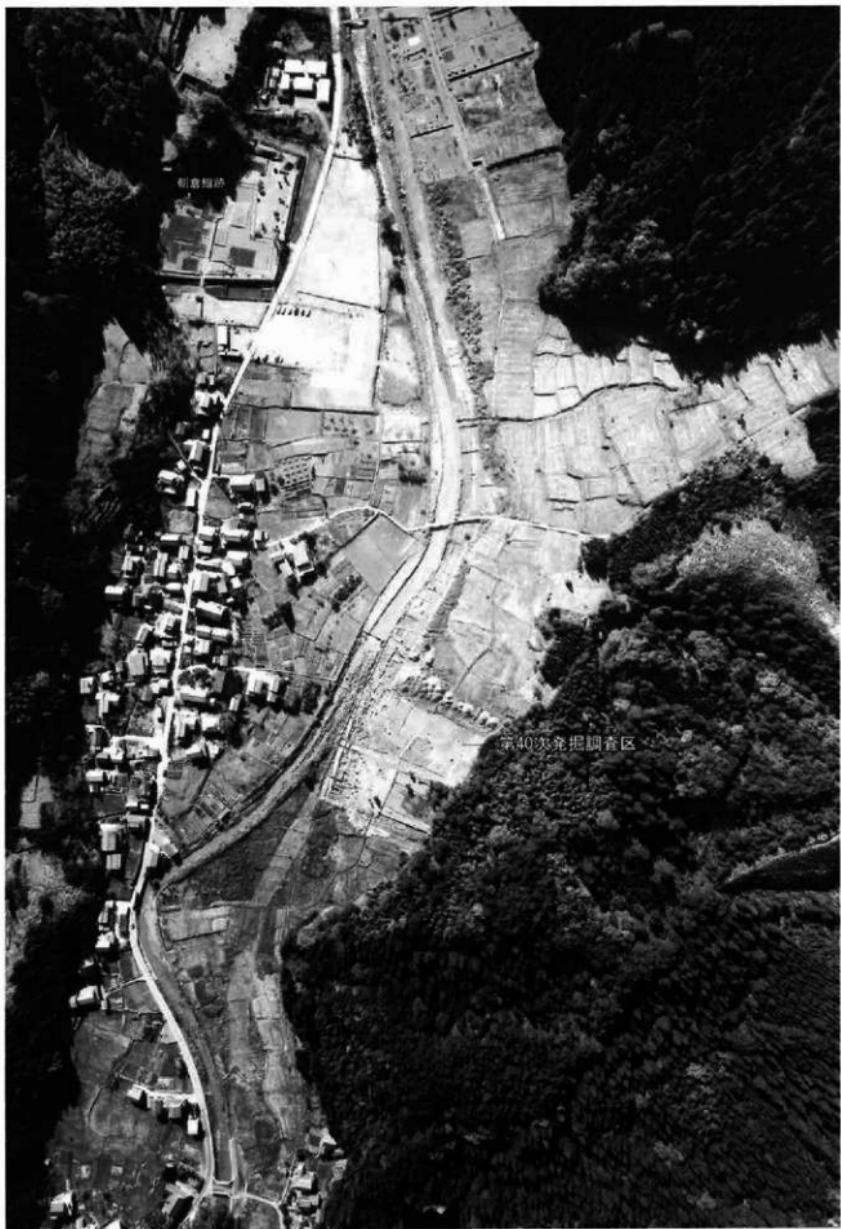


床土・表採・不明



0 2cm

第70図 出土遺物 銭貨 その他Ⅱ造構面(2)、その他Ⅲ造構面、床土・表採・不明



(1) 調査区遠景 (下が北)



(2) 上層造構面全景 (上が北)



(3) 下層造構面全景 (上が北)



(4) 上層遺構面近景 (南東より)



(5) 下層遺構面近景 (南東より)



(6) SS493 (東より)



(7) SS493・SJ1619 (西より)



(8) SS1564・SX1623 (北より)



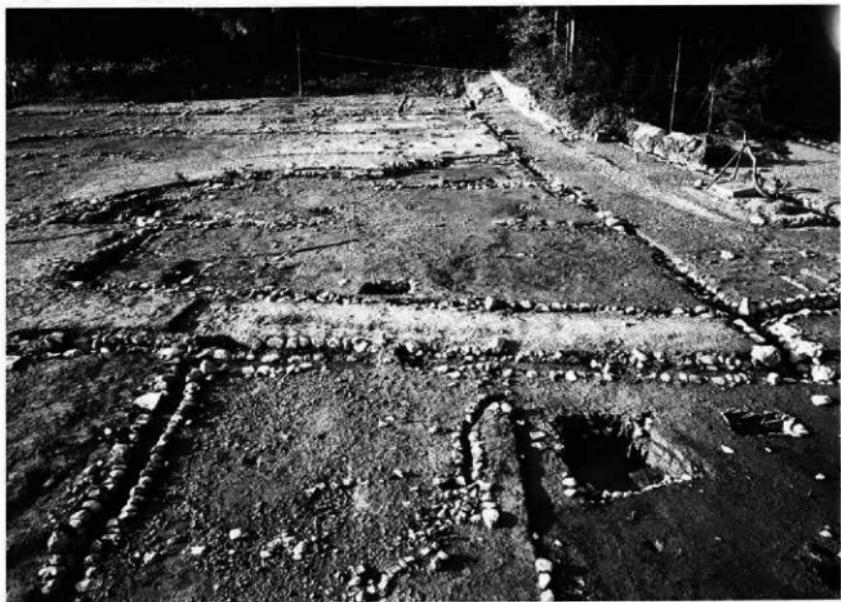
(9) SS1564 (南より)



(10) SS1565 (南より)



(11) SS1567 (南より)



(12) SS1565, SD501 + 1574北半 (東より)



(13) 上層遺構面北半 (東より)



(14) 上層遺構面南半 (東より)



(15) SB1550、SX1635、SD1568 (東より)



(16) SB1714・1715 (東より)



(17) SF1604 (東より)



(18) SE1594 (南より)



(19) SB1714 (東より)



(20) SF1741 (北より)



(21) SB1553・1554 (東より)



(22) SB1555 (南より)



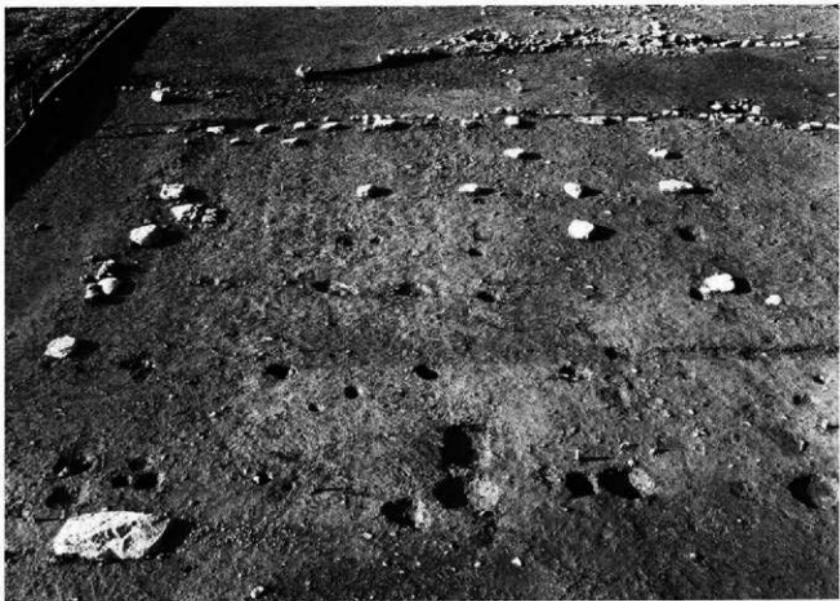
(23) SF1742, SX1784 - 1785 (南より)



(24) SB1721 (北より)



(25) SB1556、SF1606 (西より)



(26) SB1556 (東より)



(27) SB1720 (北より)



(28) SE1596 (南より)



(29) SF1605 (西より)



(30) 陶磁器を収めたバンドコ



(31) SF1607 (西より)



(32) SF1606 (南より)



(33) SE1598 (南より)



(34) SX1663・1664 (東より)



(35) SX1787 (東より)



(36) SX1662 (北より)



(38) SF1742 (南より)



(39) SX1840 (東より)



(37) SD1730 (東より)



(40) SS1728 (東より)



(41) SS1729、SA1748、SX1808・SX1809ほか（西より）



(42) SD1576・1736・1738、SF1743



(43) SD1737（南より）



(44) 上層遺構面 (北より)



(45) SX1838 (北より)



(46) SX1838根木（南より）



(47) SB1722・1723（東より）



(48) SB1722 (北より)



(49) SB1723 (北より)



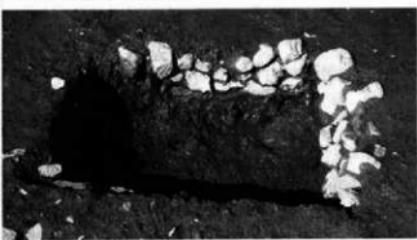
(50) SE1597 (南より)



(52) SF1609 (南より)



(51) SF1608 (南より)



(53) SF1610 (東より)



(54) 上層遺構面（東より）



(55) 下層遺構面（北より）



(56) SX1672～1675、SE1599（北より）



(57) SA1752、SB1725（北より）



(58) SB1558 (北より)



(59) SB1559 (北より)



(60) SE1599 (西より)



(61) SE1600 (南より)



(62) SE1601 (西より)



(63) SF1611 (南より)



(64) SF1612 (東より)



(65) SX1674 (東より)



(66) SX1822 (東より)



(67) SB1560 (西より)



(68) SB1562 (東より)



(69) SE1602 (南より)



(70) SE1603 (南より)



(71) SX1703 (東より)



(72) SD1584 + 1586 (西より)



(73) SF1617 (東より)



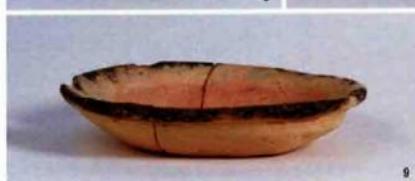
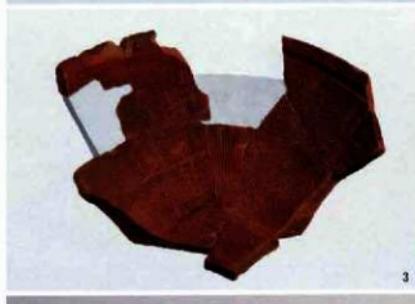
(74) SF1745 (東より)



(75) SF1746 (東より)

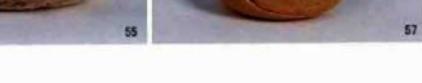
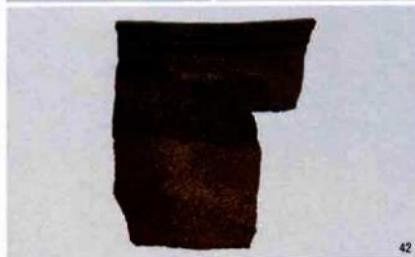
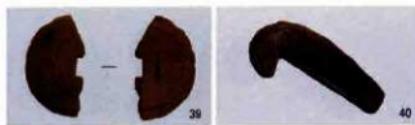


(76) SF1614 (北より)



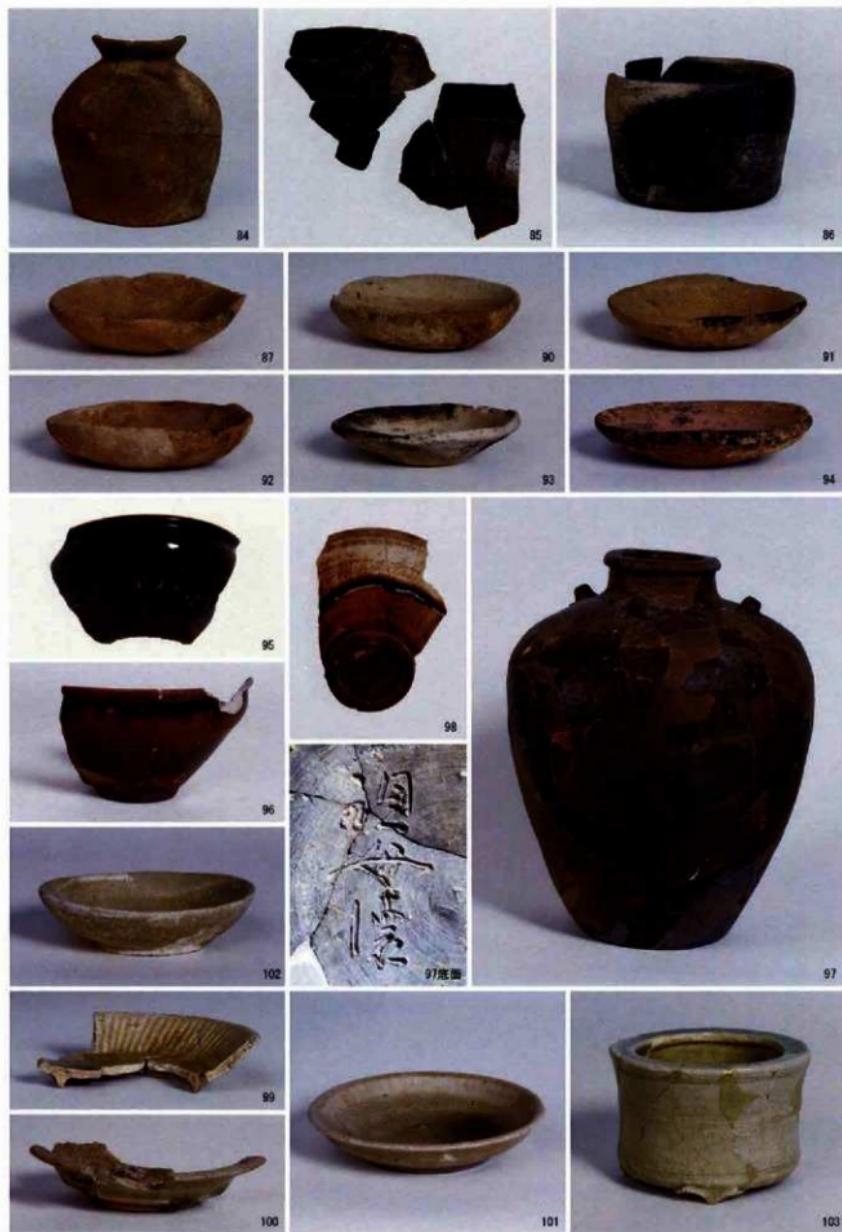
10













104



105



106



107



108



109



110



111



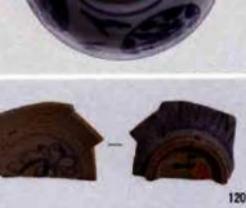
112



113



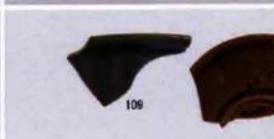
114



115



116



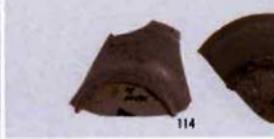
117



118



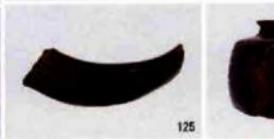
119



120



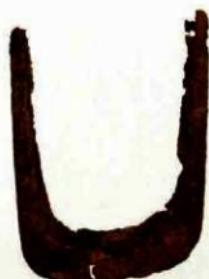
121



122



123



131



133



134



135



137



132



136



138



140



141



142



139

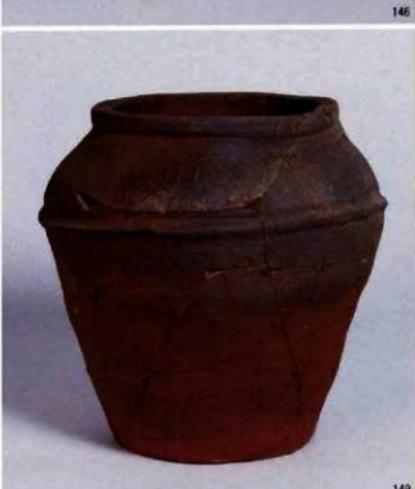
140



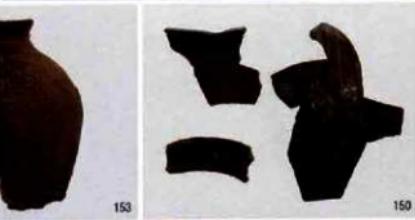
143



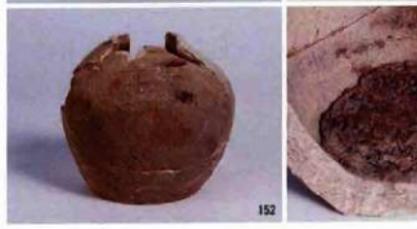
144



149



153



153 乙記号



(回遺構面)

154



155



156



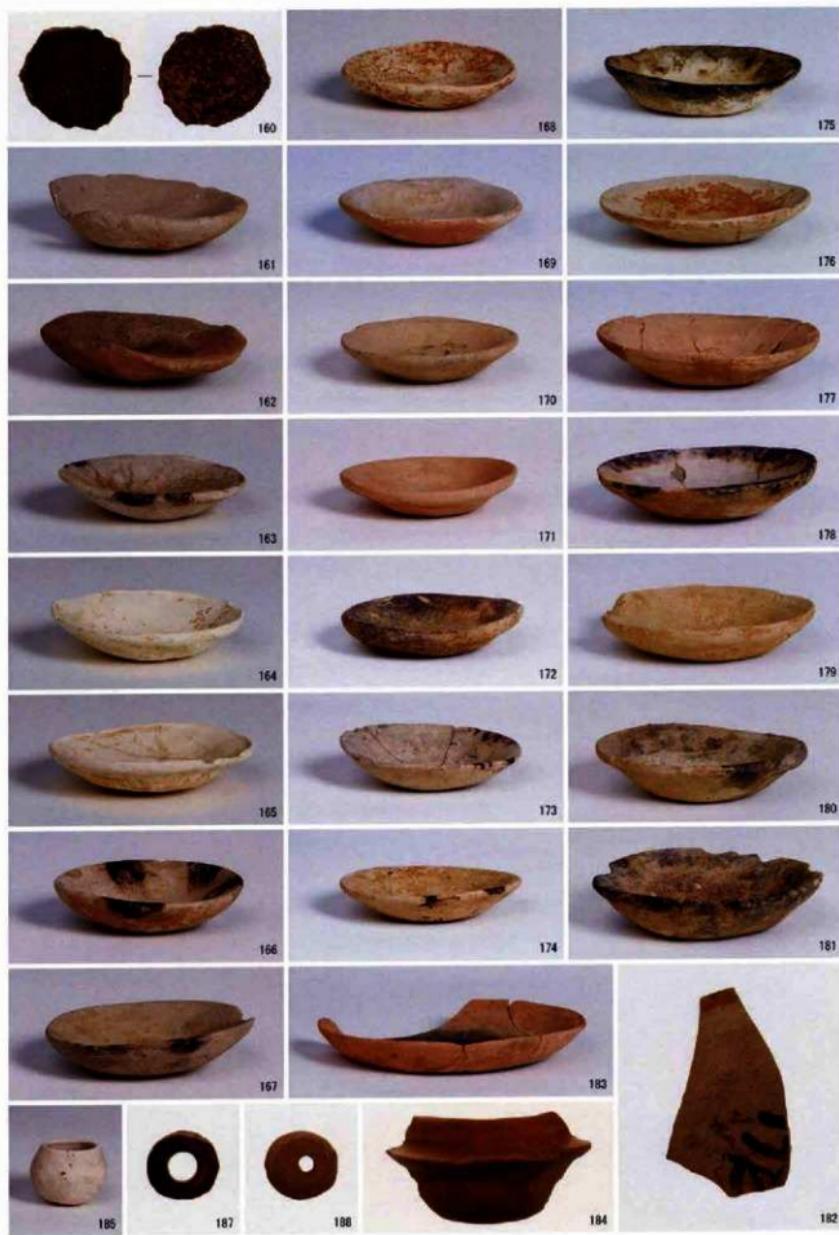
157



158

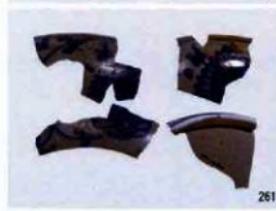
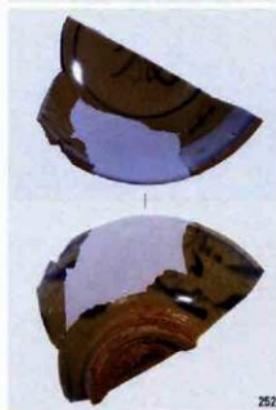
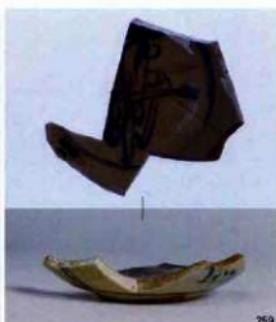


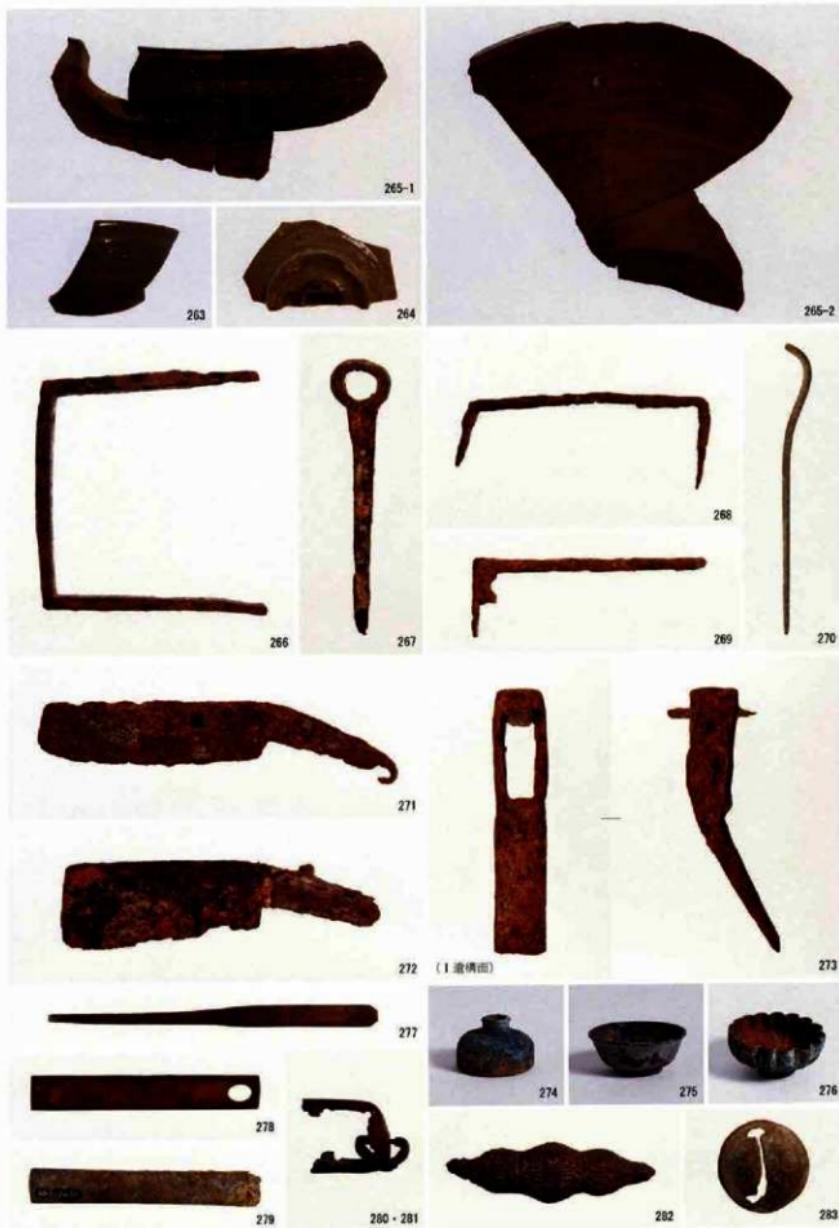
159

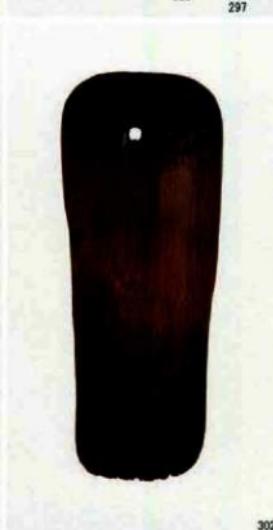
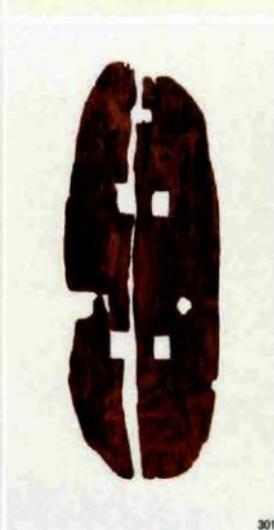
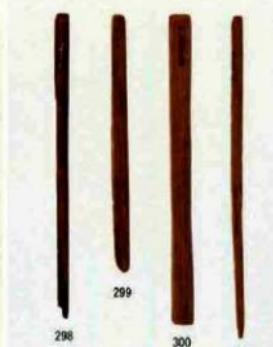
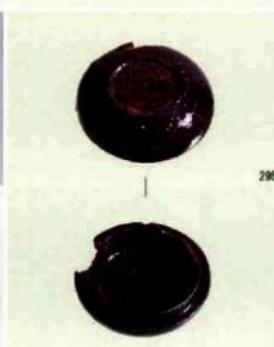
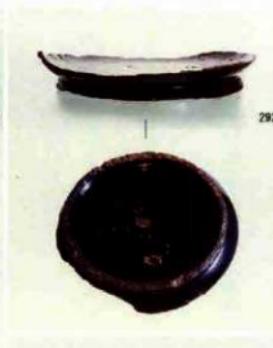














303



304



305



306



308



309



310



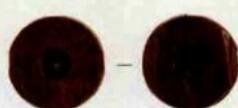
309



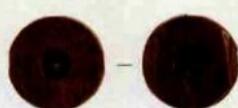
312



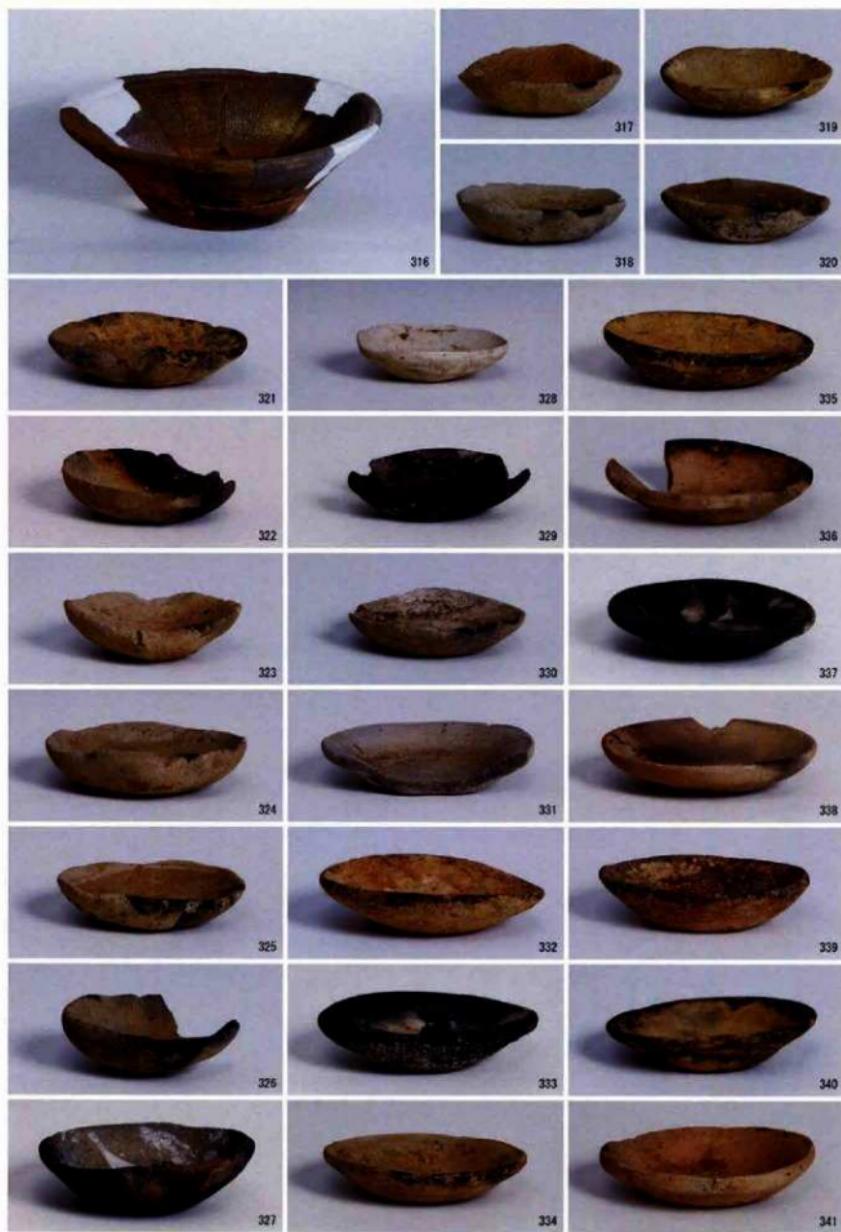
313



314



315







371



373



372



374



375



376



378



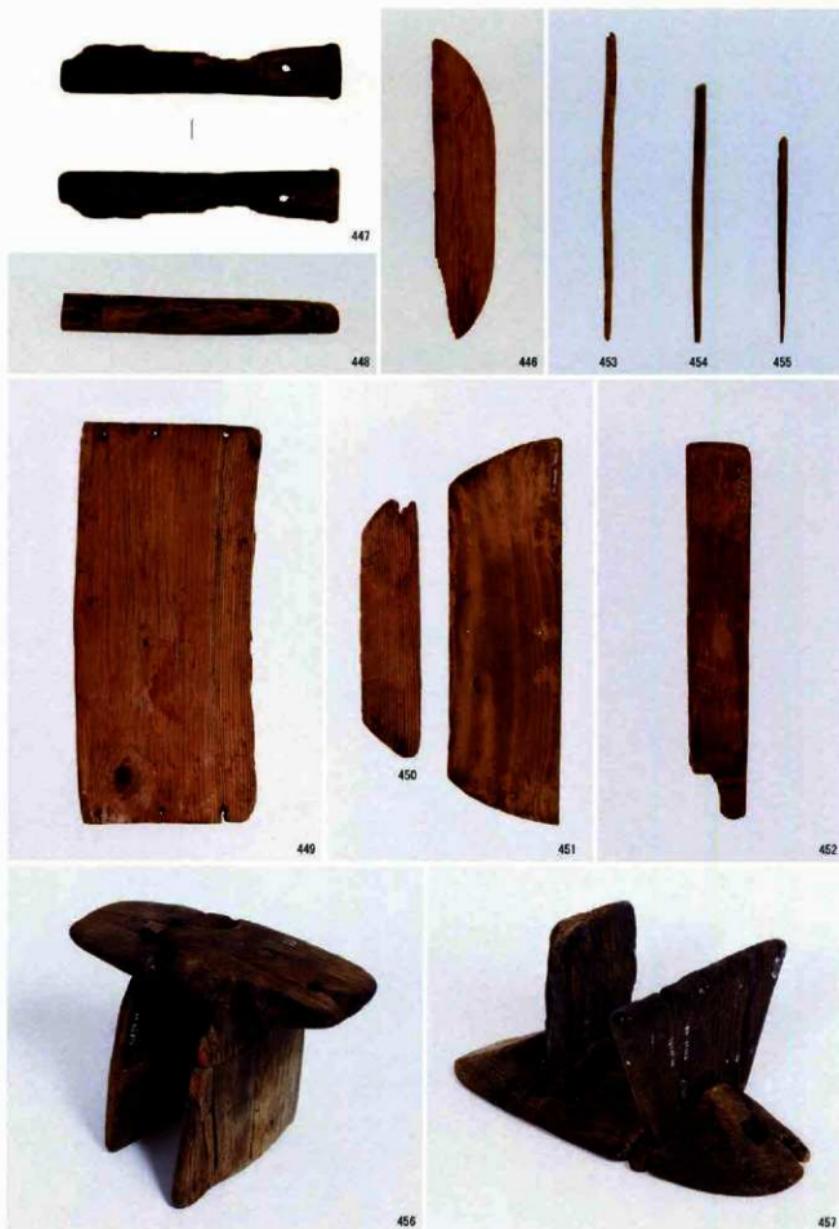
379

377



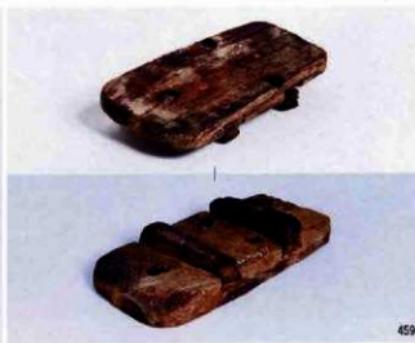








458



459



460



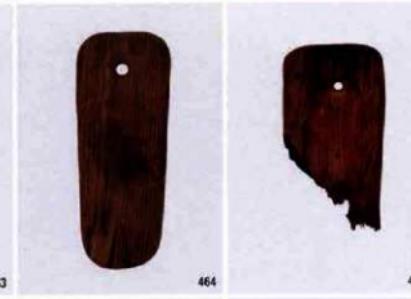
461



462



463



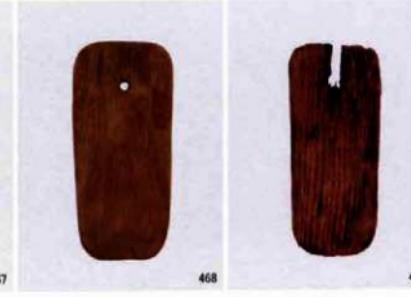
464



465



466



467

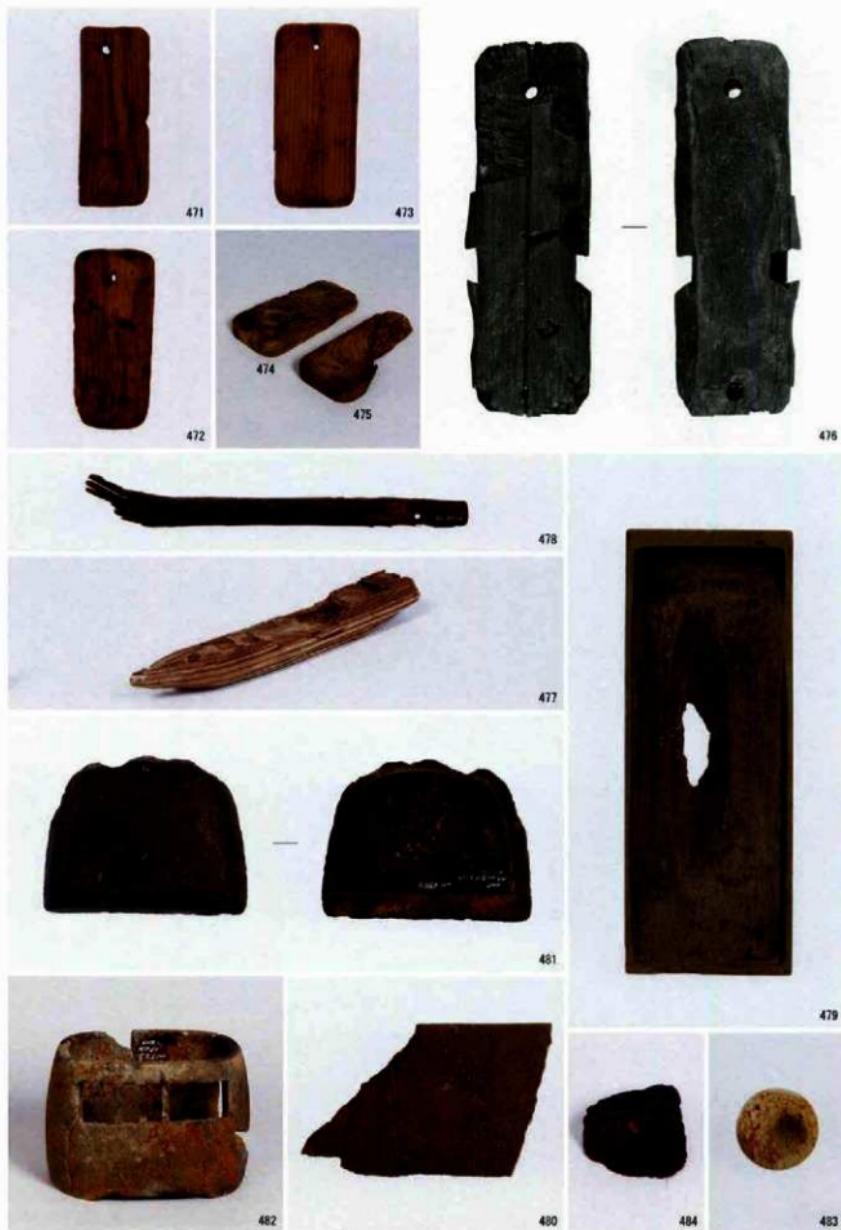


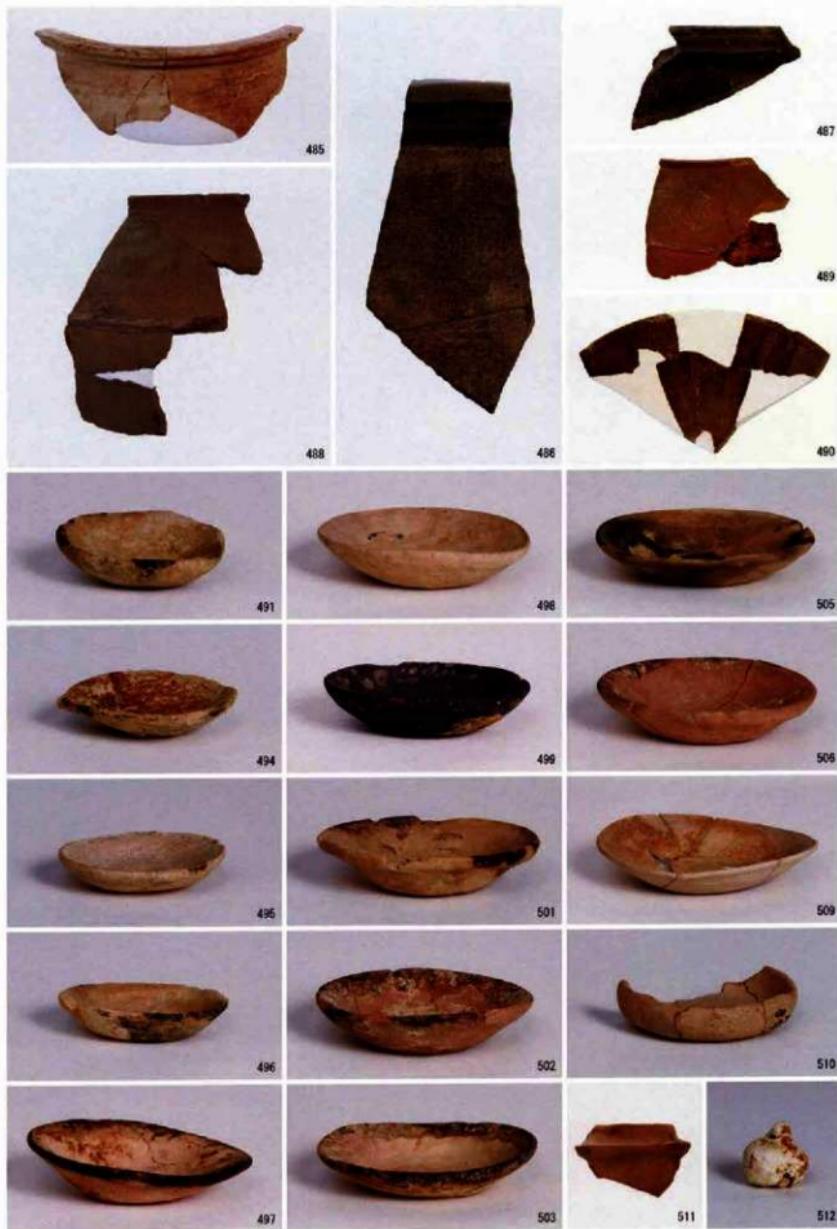
468



469

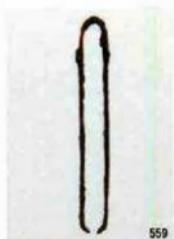
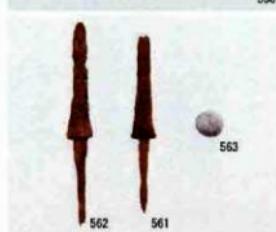
470









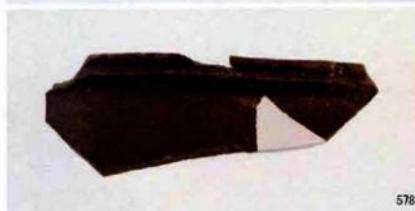




576



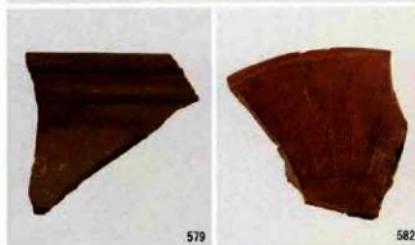
577



578



581



579



582



585



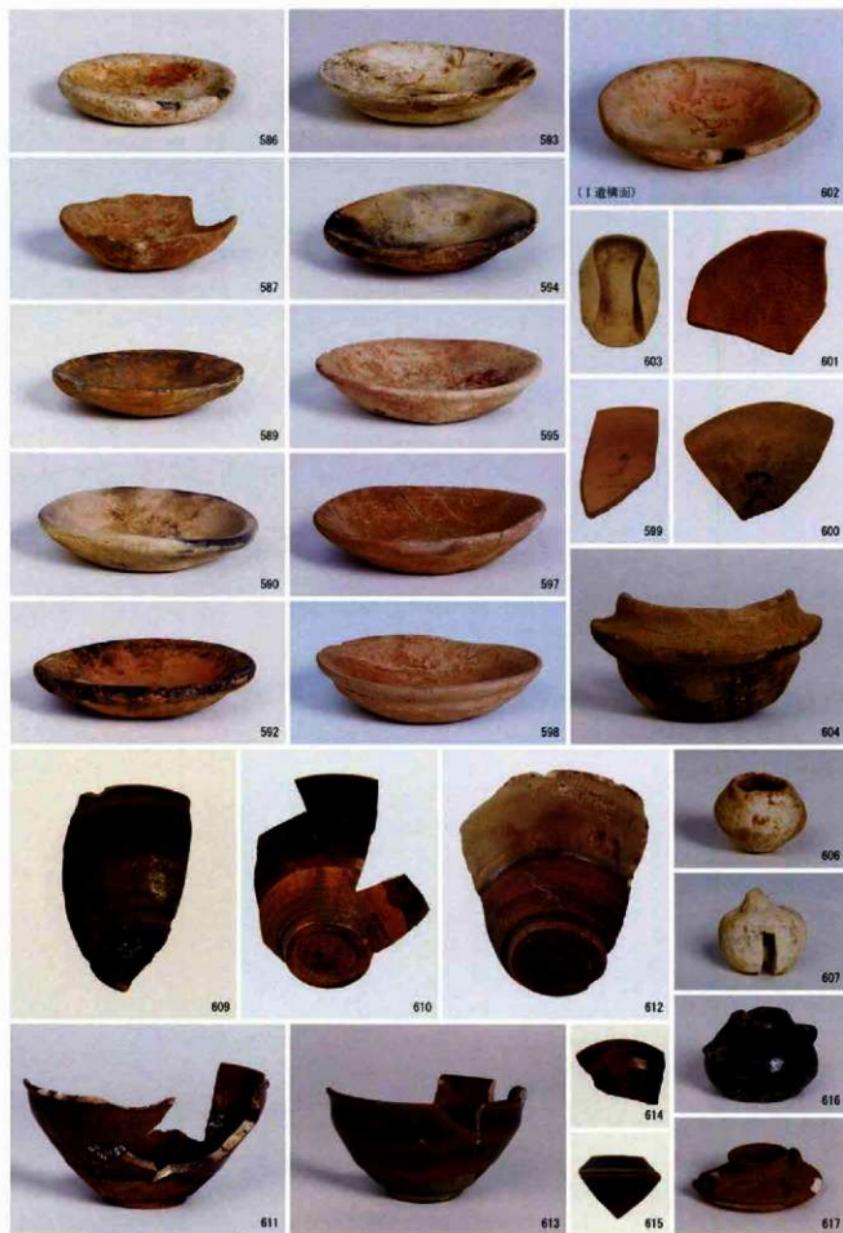
583



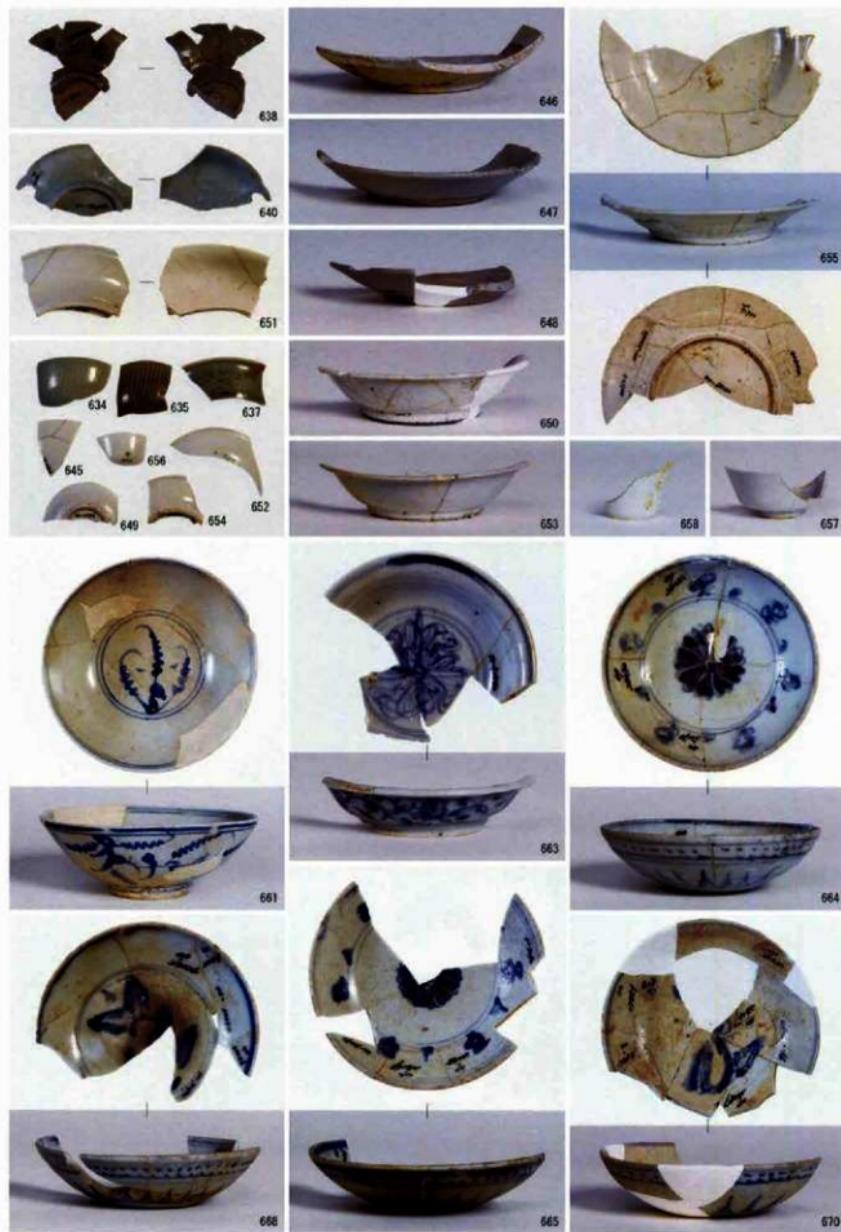
584

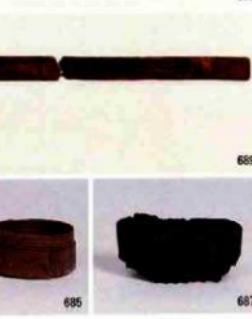
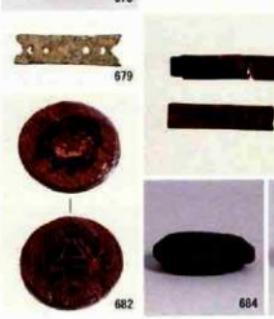
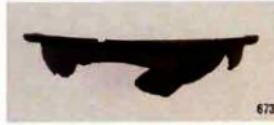
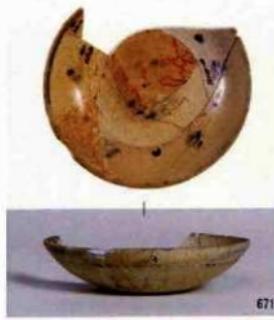


580



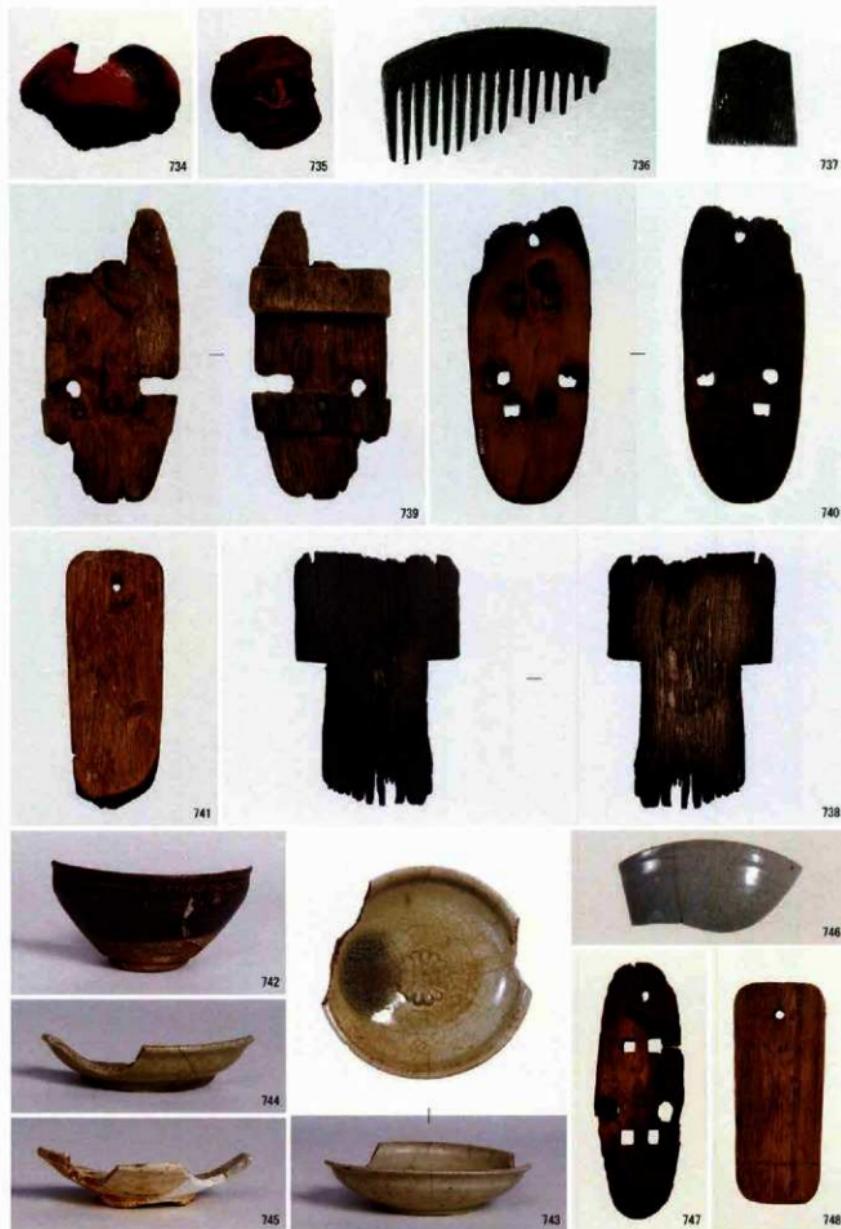




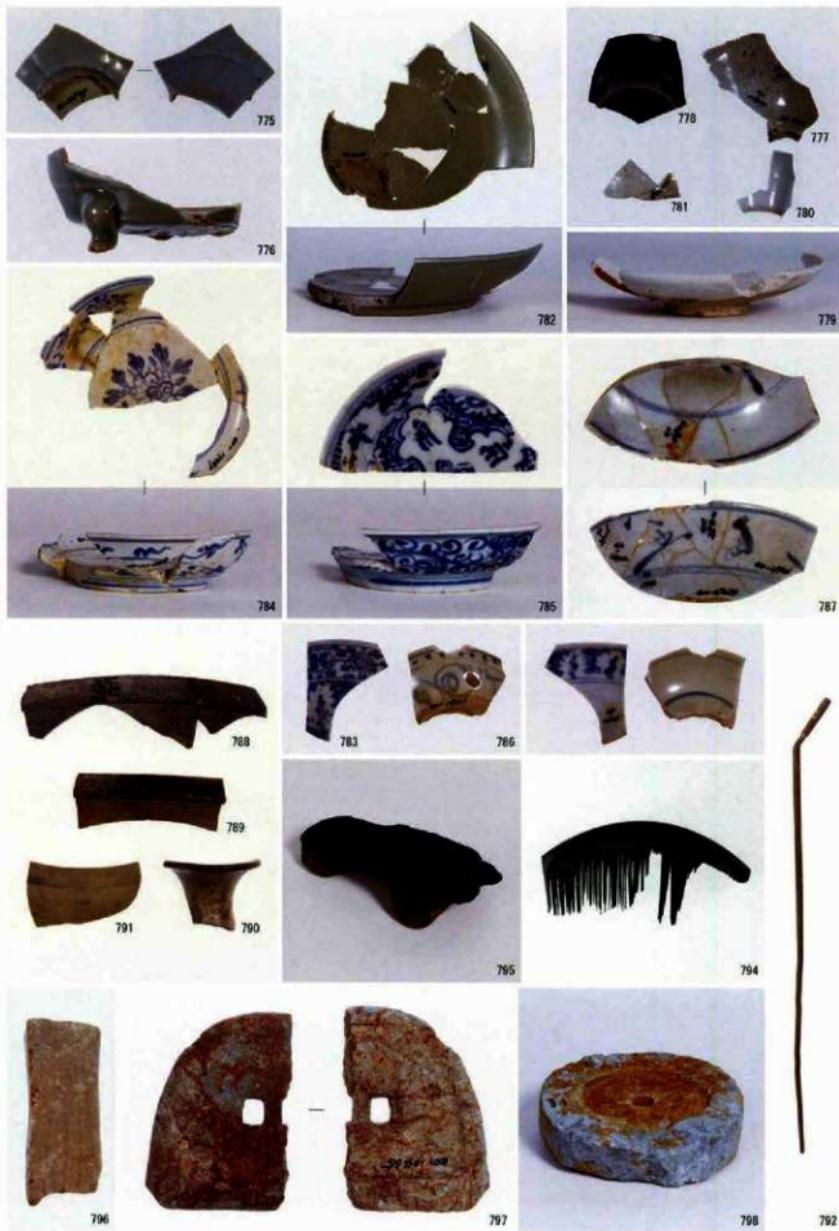














799



800



801



808



815



802



809



816



803



810



817



804



811



818



805



812



819



806



813



820



807



814



821









901



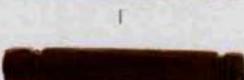
905



902



903



I



I



906



904-1



904-2



908



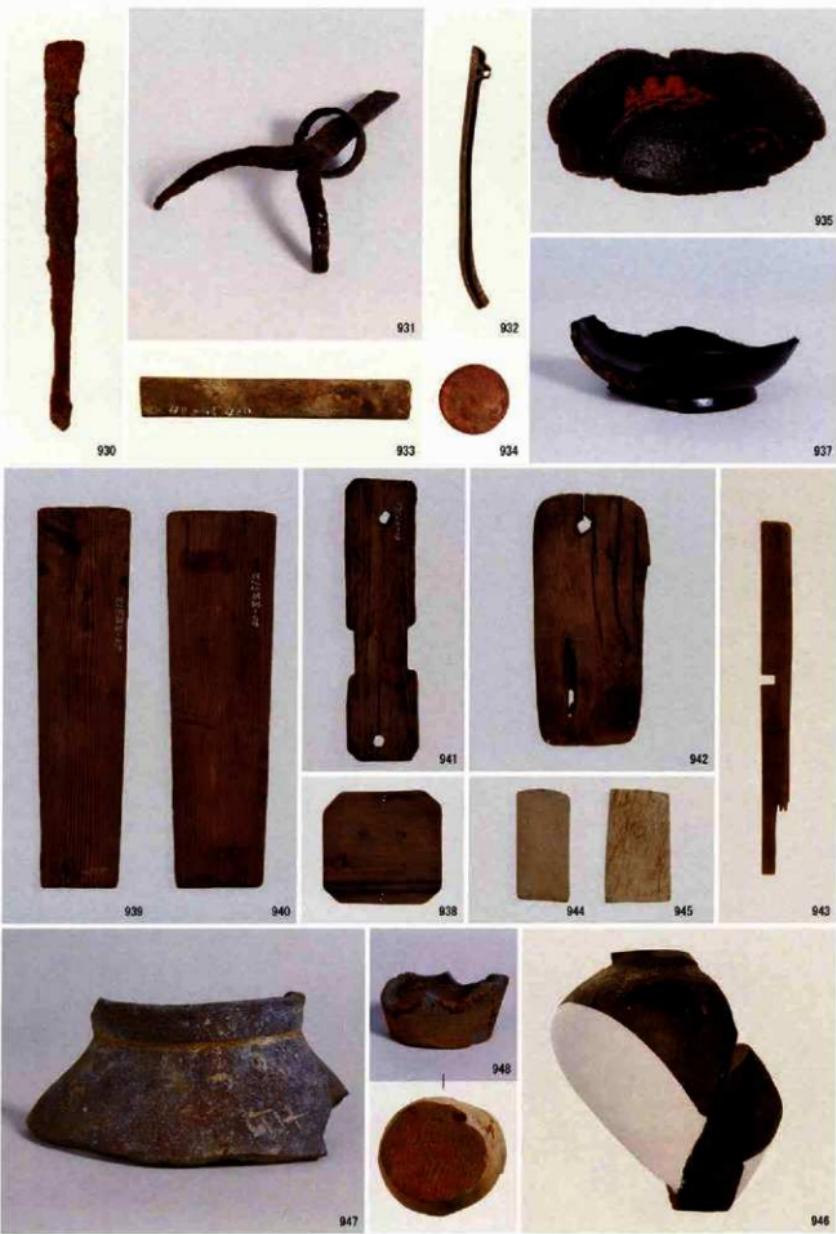
909



907

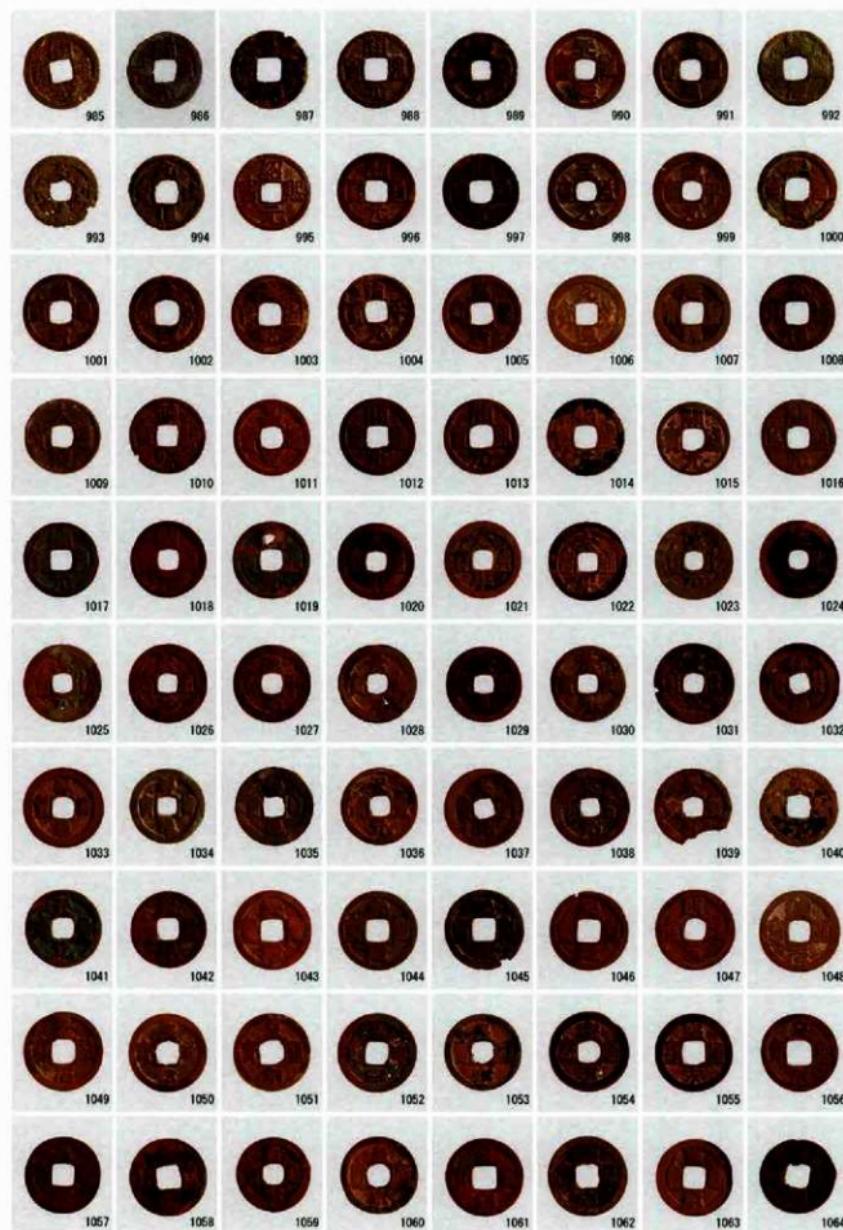


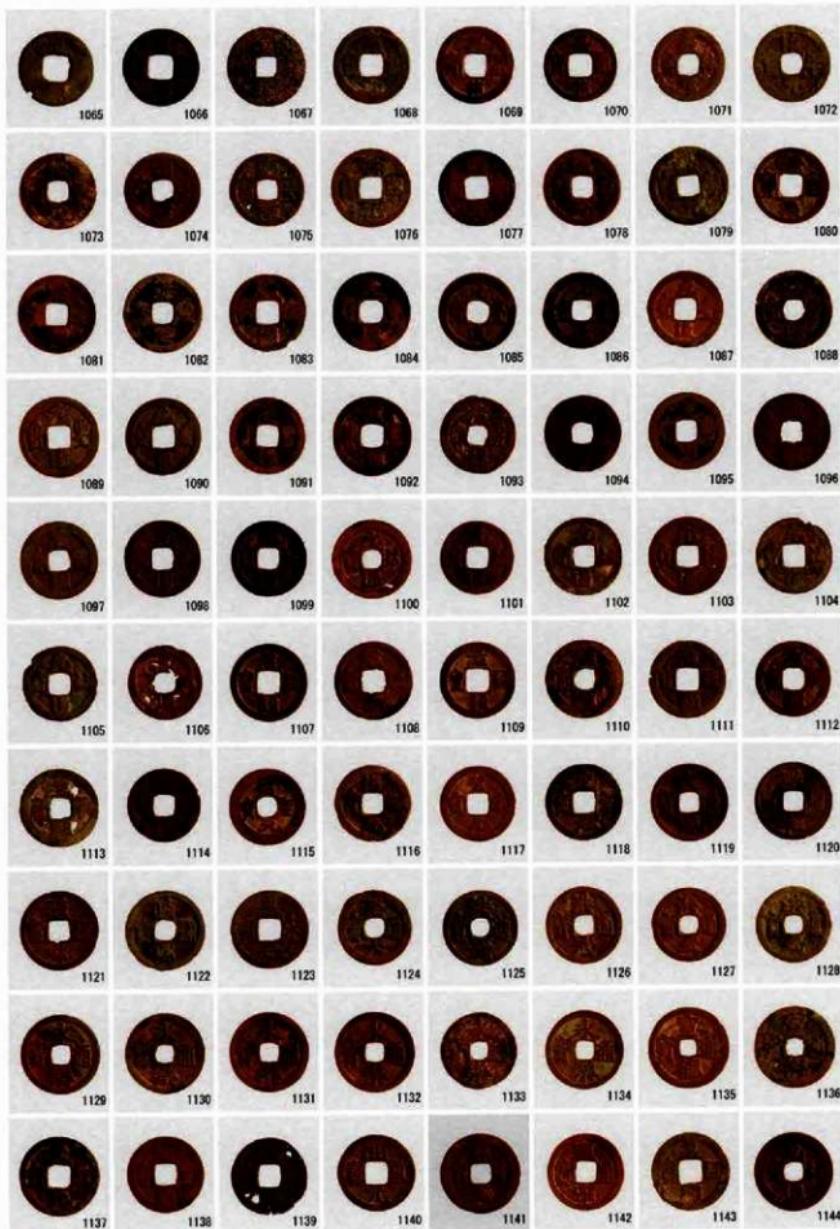


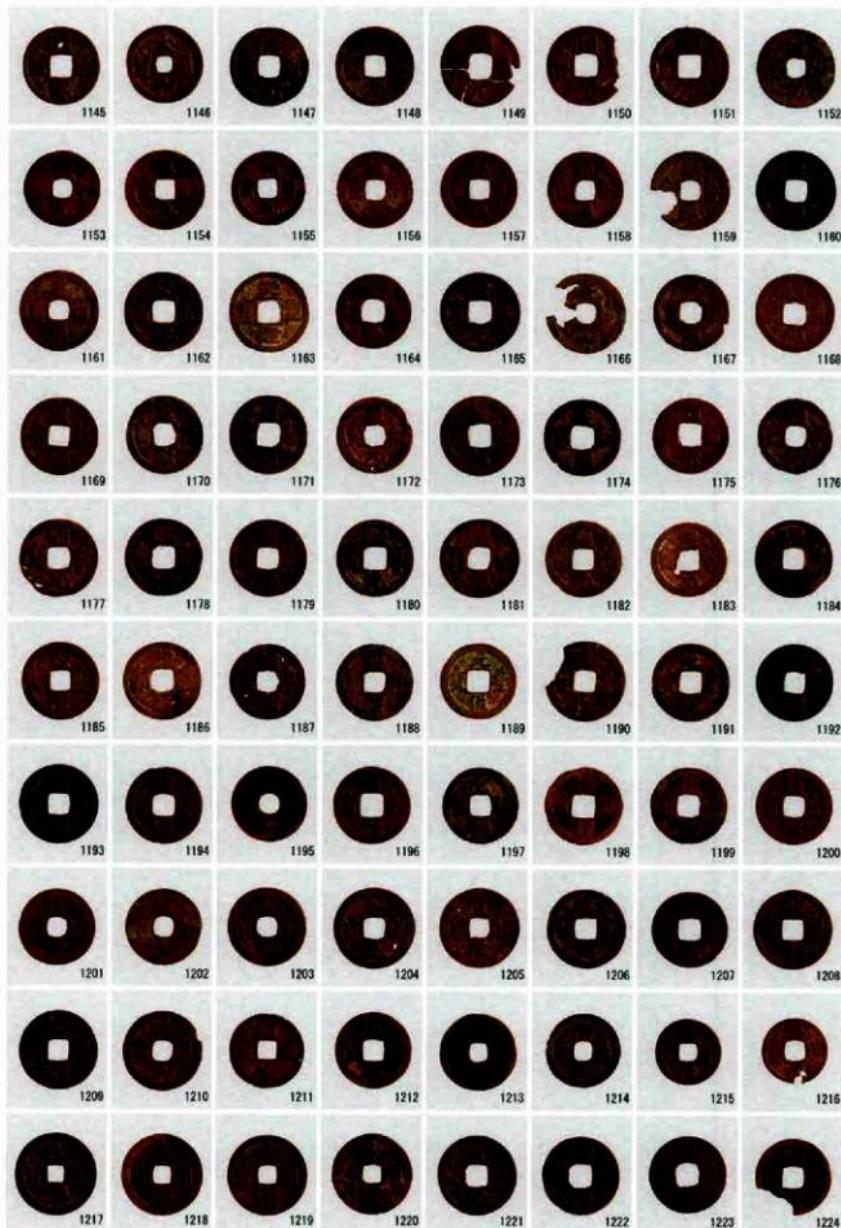


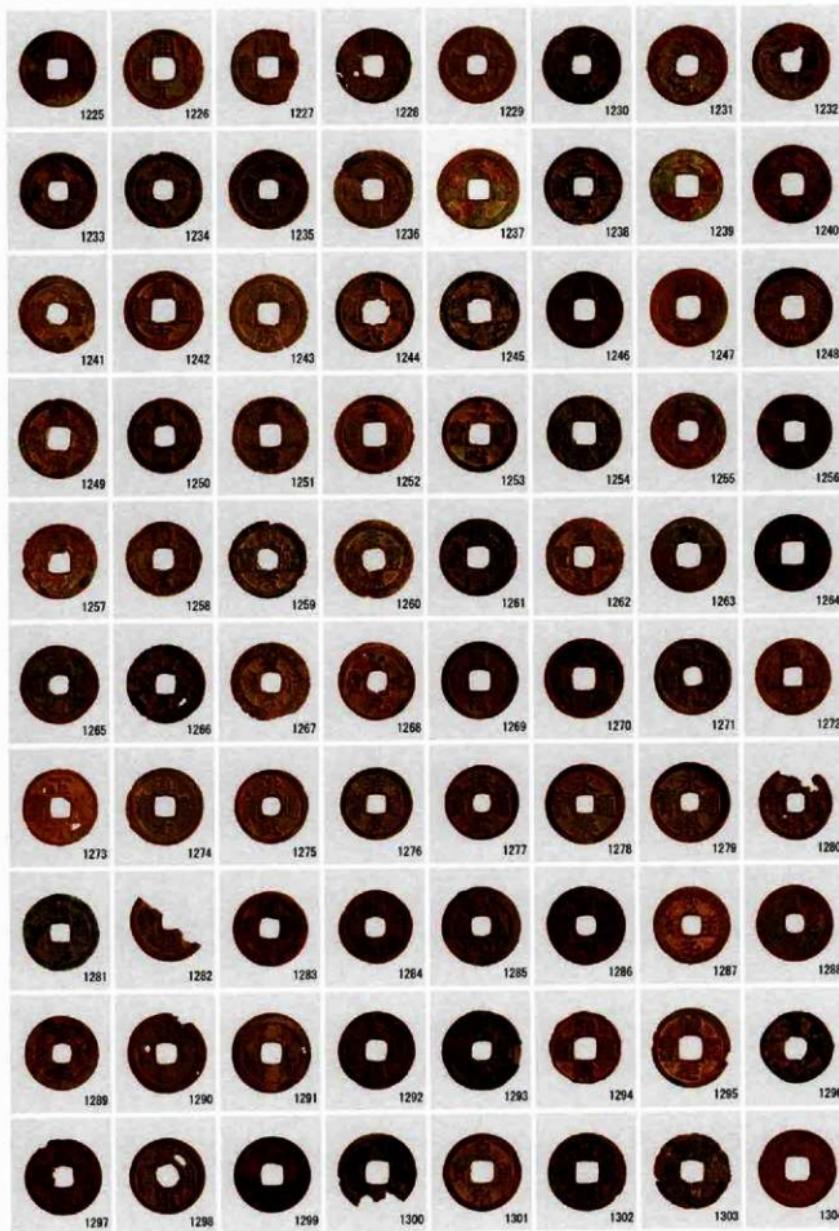


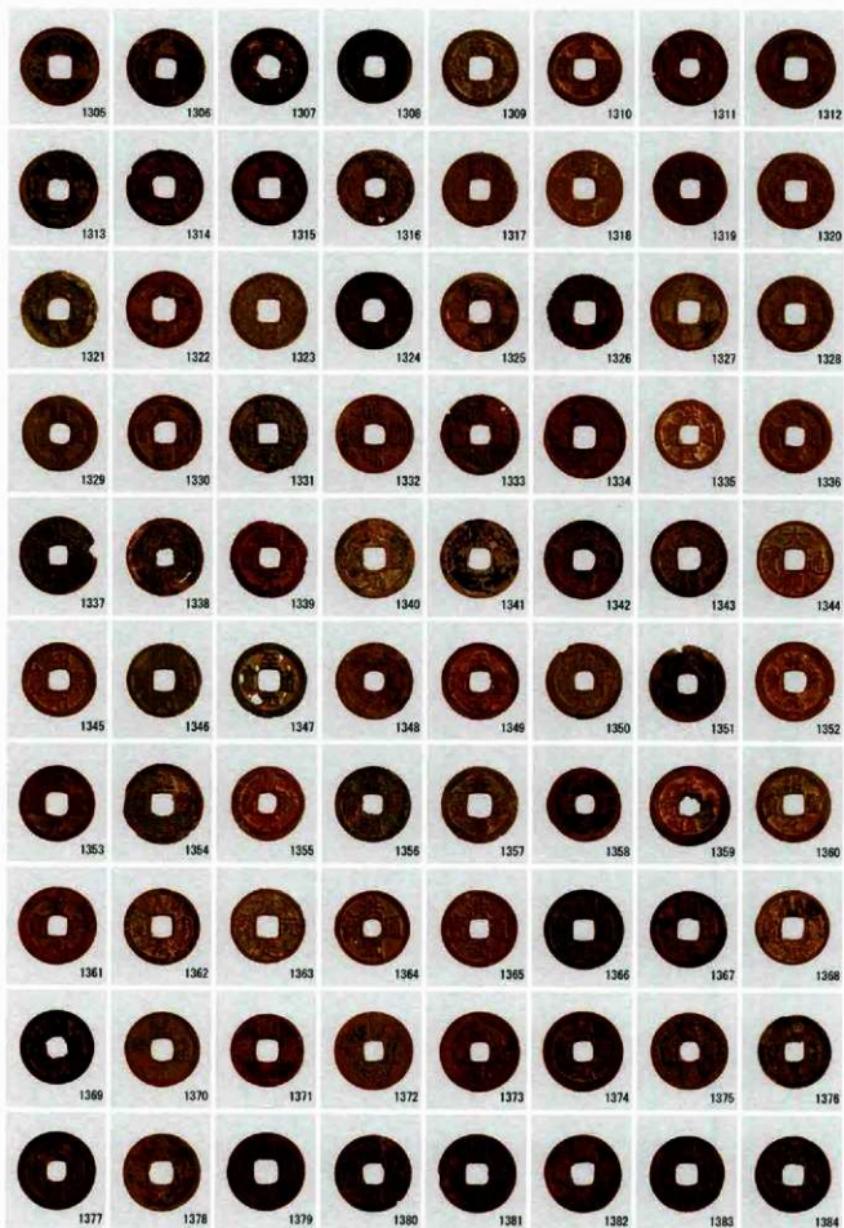














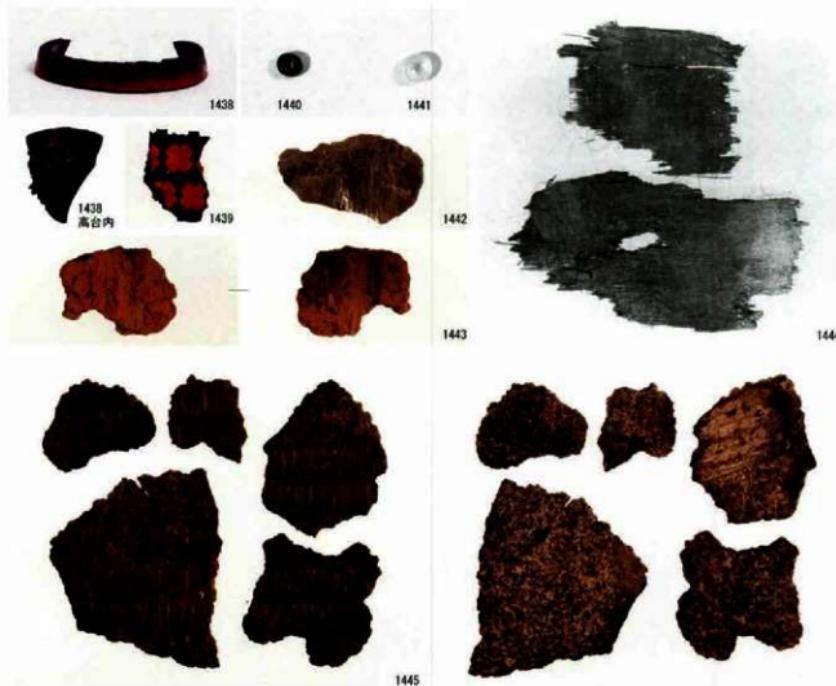


表9 遺物観察表補遺

No.	種類 大別/ 材種/素材	区画	面	地区	層/遺構	法量(cm)			備考	国	PL	
						長	幅	厚				
1428	土師質	道	B	II	L.68	粘土	-	-	口縁部 黒色	-	29	
1429	土師質	道	B	II	N.57	SD1736	-	-	底部 黑色「魚」	-	29	
1430	土師質	道	B/D	II	J.37	SD1574	-	-	底部 黑色「小鰐」	-	29	
1431	土師質	道	-	II	-	-	-	-	底部 黑色「小鰐」/「口縁」	-	29	
1432	土師質	道	B	II	L.68	粘土	-	-	口縁部 金箔押し	-	29	
1433	土師質	道	C	II	S.60	培塿灰土	-	-	体部 全面押し	-	29	
1434	土師質	道	D	II	S.56	粘土	-	-	口縁部 金箔押し	-	29	
1435	土師質	道	D	I	J.53	SD1586	-	-	体部 全面押し	-	29	
1436	中国 空付瓦	C	II	Q.61	瓦屋	櫛状約15 元様式 線在皿 内面唐草文帯 底面露筋	-	-	-	-	29	
1437	胡蝶柄	B	I	U.65, 18-22-26区	SD1555, 粘土	支承5.2 底部 見事、貴重に目撃各8	-	-	-	-	29	
1438	漆器	道	C	II	J.60	瓦屋	高台創11.72 高台碎片 内墨外赤 高台内青「十四」	-	-	-	-	29
1439	小札	革	B/D	II	L.57	SD1574	4.3	3.0	0.6 黒色漆地に豪華な表現した水波紋	-	80	
1440	微珠玉	ガラス	D	I	J.56	SD1585	-	-	藤色	-	80	
1441	微珠玉	水晶	C	I	T.60	瓦屋	-	-	-	-	80	
1442	雲母	-	-	-	-	-	4.9	3.1	0.2 香油貝カ	-	80	
1443	壁土	-	C	I	P.63	SD1608	7.1	8.4	4.5 火垂合丸 径約2cmの竹小野の石瓶	-	80	
1444	衣表	-	-	I	-	-	約26	約17	- 法量は下の1点 綵糸直存 通目糸	-	80	
1445	炭化稻	-	D	II	T.53	-	10.4	9.0	2.1 法量は左の1点 表面に黄色・ハニカム付着	-	80	

## 報告書抄録

ふりがな	とくべつしけきいちじょうだにあさくらしいせきはつくつちょうさほうこく
書名	特別史跡・乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告17
副書名	第40次調査
シリーズ番号	17
編著者名	田中祐二
編集機関	福井県立・乗谷朝倉氏遺跡資料館
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL.0776-41-2301
発行年月日	令和2年3月25日

調査地区	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道跡番号					
第40次 発掘調査	福井市城戸ノ内町字奥間野	18210	史-31	36° 00' 28'	136° 29' 60'	19800701 ~ 19811013	3,000m <sup>2</sup>	環境整備に伴う 発掘調査

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第40次 発掘調査	寺院 式家屋敷 町屋	室町・戦国	道路、溝、礫石建物、井戸、石積施設、炉	越前焼、土師質皿、漬戸・美濃焼、中国製陶磁器、金属製品・木製品・石製品、ガラス皿、油壺墨	石積施設から「金闇」が出土し、便所と確定。 北国船模型、ガラス皿、油壺墨などが出土。
要約					第40次発掘調査地は、福井市城戸ノ内町字奥間野地係に所在する。 当地区ならびに隣接する赤瀬・吉野本地區は式家屋敷・寺院・町屋等の遺構が良好に残り、全面的な発掘調査の結果、一乗谷の町並が最も解明された地区の一つとなっている。当調査以前には、西側の山裾に比較的大区画の寺院、東側の一乗谷川沿いに南北の幹線道路を基準に展開する小区域の屋敷群の存在が判明していた。これらの調査結果を受け、当調査では南北道路の行方や、町並と考えられる小規模な屋敷跡の構造ならびに町割の変遷の追跡に主眼を置いていた。 調査の結果、少なくとも4期にわたる遺構面を検出し、寺院や式家屋敷と考えられる比較的大規模な区画が町屋と考えられる小規模の区画に分割、蚕食されていく町割の変遷過程をとらえることができた。遺物では、石積施設から金環が出土し、それが便所であるとの確認に至った。その他の、油壺墨やガラス皿、北国船の模型など、それまで出土地のない、あるいは極めて少ない遺物が出たした。

令和2年3月18日 印刷  
令和2年3月25日 発行

特別史跡

一乘谷朝倉氏遺跡発掘調査報告17

第40次調査

編集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
発行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
〒910-2152 福井市安波賀町4-10  
印刷 株式会社竹下印刷所